

業績目録集

解剖学第一講座

〈研究業績〉

原著

1. Takamori Y, Tamura Y, Kataoka Y, Cui Y, Seo S, Kanazawa T, Kurokawa K and Yamada H (2007) Differential expression of nuclear lamin, the major component of nuclear lamina, during neurogenesis in two germinal regions of adult rat brain. *Eur J Neurosci* 25: 1653–1662
2. Tamura Y, Kataoka Y, Cui Y, Takamori Y, Watanabe Y and Yamada H (2007) Multi-directional differentiation of doublecortin- and NG2-immunopositive progenitor cells in the adult rat neocortex in vivo. *Eur J Neurosci* 25: 3489–3498
3. Ninkovic J, Mori T and Götz M (2007) Distinct modes of neuron addition in adult mouse neurogenesis. *J Neurosci* 27: 10906–10911
4. Ikeura T, Kataoka Y, Wakabayashi T, Mori T, Takamori Y, Takamido S, Okazaki K and Yamada H (2007) Effects of sensory denervation by neonatal capsaicin administration on experimental pancreatitis induced by dibutyltin dichloride. *Med Mol Morphol* 40: 141–149
5. Tamura Y, Kataoka Y, Cui Y, Takamori Y, Watanabe Y and Yamada H (2007) Intracellular translocation of glutathione S-transferase pi during oligodendrocyte differentiation in adult rat cerebral cortex in vivo. *Neuroscience* 148: 535–540

総説

1. 森 徹自, 若林毅俊, 高森康晴, 山田久夫 (2007) Cre-LoxP 遺伝子改変システムの応用. *脳* 21 10: 91–96

学会発表

1. 高森康晴, 森 徹自, 若林毅俊, 山田久夫 (2007) 成獣ラットの脳のグリア系細胞におけ

るラミン・サブタイプの構成パターンの解析. 第30回日本神経科学大会, 横浜

2. 若林毅俊, 森 徹自, 高森康晴, 小阪 淳, 三木友香里, 山田久夫 (2007) 神経特異的抗原 C38 は神経成熟を促進する. 第30回日本神経科学大会, 横浜
3. 小田-望月紀子, 楠野智幸, 山下晴史, 高森康晴, 山田久夫, 山田廣成 (2007) 温刺激に対する培養細胞の細胞内Ca⁺²応答. 第30回日本神経科学大会, 横浜
4. 仁平美果, 渡辺 淳, 山田久夫 (2007) 粗面小胞体の増生を観る一形態計測法を用いた小胞体膜とリボソームの動態解析. 第48回日本組織細胞化学会総会, 甲府
5. 高森康晴, 森 徹自, 若林毅俊, 田村泰久, 片岡洋祐, 山田久夫 (2007) 成獣ラットの脳のニューロン新生過程におけるラミンの構成変化. 第112回日本解剖学会総会・全国学術集会, 大阪
6. 若林毅俊, 森 徹自, 高森康晴, 小阪 淳, 三木友香里, 山田久夫 (2007) モノクローナル抗体 C38 が認識する抗原の網膜発生における発現の変化. 第112回日本解剖学会総会・全国学術集会, 大阪
7. 森 徹自, 田中光一, Annalisa Buffo, Wolfgang Wurst, Kuhn Ralf, 山田久夫, Magdalena Gotz (2007) アストロサイトの in vivo 機能解析のための新たなシステム. 第112回日本解剖学会総会・全国学術集会, 大阪
8. 仁平美果, 渡辺 淳, 山田久夫 (2007) Phenobarbital 投与ラット肝細胞における粗面小胞体の増生. 第112回日本解剖学会総会・全国学術集会, 大阪
9. 渡辺 淳, 山田久夫 (2007) デジタル組織画像の利点と欠点. 第112回日本解剖学会総会・全国学術集会, 大阪

解剖学第二講座

〈研究概要〉

橋核には他の小脳前核にみられない特徴として、コリン作動性入力が豊富なことを見出した。本研究では8～10週齢のddY雄性マウスを用いて、橋核におけるコリン作動性線維の局在を、小胞膜アセチルコリントランスポーター（VACHT）抗体を用いて免疫組織化学的に解析した。橋核では多数の瘤状線維がVACHT免疫陽性を示した。顕微鏡ならびに電顕観察を行い、三次元構築法を用いて詳細分布をマッピングした。つぎにこれらの瘤状線維を供給するVACHT免疫陽性ニューロンを脳内に特定した。実験には、片側の橋核にWGA-HRPを予め注入したマウスを用い、WGA-HRPで逆行性に標識されたVACHT免疫陽性ニューロンを検出した。橋核におけるVACHT免疫陽性線維の分布に関しては、吻側から尾側までを通して辺縁領域（特に内側、腹側）に高密度に認められた。電顕像ではVACHT免疫陽性産物はシナプス小胞のほか瘤状終末の内部の管腔状小器官に局在した。VACHT免疫陽性の軸索終末は pleomorphic synaptic vesicle を有し、樹状突起に対して symmetrical synapse を形成していた。橋核に線維を送るVACHT免疫陽性ニューロンは脚橋被蓋核と背外側被蓋核にいずれも両側性に分布した。以上より脚橋被蓋核と背外側被蓋核のニューロンが直接、皮質—橋—小脳路を介する運動経路を抑制的に制御することがはじめて形態学的に示された。橋核ニューロンには抑制性ムスカリン性受容体m2サブタイプが豊富に存在することから、今回見出したコリン入力は、橋小脳路を介する脳幹機能の発現と病態の調節に重要な影響を与えるものと考えられる。

〈研究業績〉

原著

1. Kase M, Houtani T, Sakuma S, Tsutsumi T and Sugimoto T (2007) Laser microdissection combined with immunohistochemistry on serial thin tissue sections: a method allowing efficient mRNA analysis. *Histochem Cell Biol* 127: 215–219
2. Tsutsumi T, Houtani T, Toida K, Kase M, Yamashita T, Ishimura K and Sugimoto T (2007) Vesicular acetylcholine transporter-immunoreactive axon terminals enriched in the pontine nuclei of the mouse. *Neuroscience* 146: 1869–1878

学会発表

1. Houtani T, Toida K, Tsutsumi T, Kase M, Yamashita T, Ishimura K and Sugimoto T (2007) Characterization of cholinergic terminal-like structures in the mouse pontine nuclei. 7th IBRO World Congress of Neuroscience, Melbourne
2. 宝谷剛志, 濱田聡子, トリフォノフ ステファン, 加瀬政彦, 杉本哲夫 (2007) 蝸牛除去マウス脳幹ニューロンのGAD2発現の増強. 第30

回日本神経科学大会, 横浜

3. 堤 俊之, 宝谷剛志, 加瀬政彦, 樋田一徳, 石村和敬, 杉本哲夫, 山下敏夫 (2007) 橋核へのコリン作動性ニューロンについて. 第108回日本耳鼻咽喉科学会総会学術講演会, 金沢
4. 水主知佳, 樋田一徳, 宝谷剛志, 山本登志子, 杉本哲夫, 石村和敬 (2007) 中隔におけるノシセプチン受容体の局在に関する細胞化学的解析. 第112回日本解剖学会総会全国学術集会, 大阪
5. 曾 爾彊, 大谷 修, 金澤英作, 佐々木宏, 正村静子, 杉本哲夫, 鳥越甲順, 松村譲児 (2007) 医学・歯学教育での人体解剖実習の必要性. 第112回日本解剖学会総会全国学術集会, 大阪
6. 堤 俊之, 宝谷剛志, 加瀬政彦, 樋田一徳, 石村和敬, 杉本哲夫 (2007) 橋核へのコリン作動性入力：皮質—橋—小脳路に対する抑制系としての役割. 第112回日本解剖学会総会全国学術集会, 大阪

著書

1. 塩田浩平, 瀬口春道, 大谷 浩, 杉本哲夫 (2007) グレイ解剖学, 第1版1–1082頁, エルゼビア・ジャパン, 東京
2. 杉本哲夫 (2007) プロメテウス 解剖学アト

ラス 解剖学総論／運動器系, 第1版1-541頁,
医学書院, 東京

テキストとアトラス, 初版1-469頁, 西村書
店, 東京

3. 杉本哲夫 (2007) マーティン 神経解剖学

生理学第一講座

〈研究概要〉

1) 内向き整流Kチャネルの整流特性発現の分子機構

内向き整流Kチャネルの整流特性はおもに細胞内ポリアミンとMgによる電位依存性ブロックによる。内向き整流Kチャネル(Kir2.1)の2番目の膜貫通部位(M2)のアスパラギン酸(D172)はこれらのブロッカーの結合部位である。私達の以前の研究(Oishi et al. J Physiol 510: 675-683, 1998)から, さらに外側にMgの結合部位が予測された。その候補の1つであるS165の変異体チャネル(S165L)を作成し, 単一チャネル電流を記録したが, コンダクタンスが10 pS前後と小さく, 単一チャネルレベルでの外向き電流の解析が困難であった。今までKir2.1に関する単一チャネル電流の検討は細胞外(電極内)K濃度150 mMで行ってきたが, K濃度を30 mMに減らして, 内因性開閉機構と細胞内ポリアミンによる抑制を検討している。

2) 海馬における抑制性シナプス伝達の修飾

急性スライス標品を用い, ラット海馬からパッチクランプ法で測定したGABA_A受容体電流の性質を, 蛍光色素を用いたカルシウム濃度計測を併用しながら解析している。最初に, 抑制性電流の細胞内Ca²⁺動員による修飾について追究し, GABA_A電流はATPその他のアゴニスト刺激後の細胞内Ca²⁺濃度上昇によっては影響されず, カフェイン投与のみにより細胞内Ca²⁺濃度上昇非依存的に抑制されることを見出した。その後, 電気的あるいは薬理的刺激が抑制性シナプス電流に及ぼす影響の観測を行っている。GABA_A自発電流は, シナプス後細胞の脱分極によっては一貫した増強・抑制を示さなかったが, テタヌス刺激後に増強した。また代謝型グルタミン酸受容体刺激によっても, 自発電流の増強がみられる。現在, これらの修飾の機序についてさらに研究を進めている。

3) 膵臓導管細胞における内向き整流性Kチャネルの局在

膵臓は重炭酸イオンに富む膵液を分泌し, 十二指腸に流入する胃酸を中和する。膵臓導管細胞のKチャネルは重炭酸イオン輸送の駆動力の維持に必須である。我々はラット膵臓導管細胞に内向き整流性Kチャネル(Kir)の機能発現を認めていた。Kir2.1, Kir2.2およびKir2.4蛋白は膵臓導管細胞の基底外側膜に, Kir1.1およびKir4.2は管腔側膜に局在することを蛍光抗体染色法により認めた。これらの分布はKirが重炭酸イオン上皮膜輸送に役割を果たすことを示唆する。

4) ミクロゾーム型アルデヒド脱水素酵素膜貫通部位の小胞体残留シグナル

C末端アンカー型膜タンパク質のミクロゾーム型アルデヒド脱水素酵素(ALDH)はC末端側の膜貫通部位(TMD, 17アミノ酸残基)と細胞質ドメインに小胞体残留シグナルを有する。前年度はTMD内の比較的疎水性の低いアミノ酸残基が小胞体残留に関与することを明らかにした。今回, 小胞体残留に関与するTMD内のアミノ酸残基の詳細な解析を緑色蛍光タンパク質(GFP)とALDHのTMDとのキメラを用いて試みた。TMD内の種々のアミノ酸残基をLeuに置換したGFPキメラ変異体をCHO細胞に発現させたところ, TMDの11または14の位置にあるAlaをLeuに置換した変異体はゴルジ体に局在することがわかった。以上の結果から, これらのAlaが小胞体残留に関与すると考えられる。

〈研究業績〉

原 著

1. Hayashi M and Matsuda H (2007) Negatively charged residues located near the external entrance are required for the Kir2.1 channel to function. *Pflugers Arch* 455: 455–464

学会発表

1. 富永-吉野恵子, 浦久保知圭, 岡田誠剛, 松田博子, 小倉明彦 (2007) LPT と長期可塑性現象RISEのさらなる相違点. 第30回日本神経科

学大会・第50回日本神経化学学会大会・第17回日本神経回路学会大会合同大会, 横浜

2. 武藤 恵, 松田博子 (2007) 海馬における代謝性グルタミン酸受容体による, 細胞内カルシウム動員および抑制性電流の修飾. 第84回日本生理学会大会, 大阪
3. 林美樹夫, 松田博子 (2007) 内向き整流Kチャネル (Kir2.1) 細胞外ループ陰性アミノ酸残基のチャネル活性への影響. 第84回日本生理学会大会, 大阪

生理学第二講座

〈研究概要〉

当教室では神経生理学的なアプローチにより運動, 認知機能の解明をめざしている. 主に (1) 神経変性疾患の病態の分子レベルでの解明と, それに伴って生じる異常脳波についての電気生理学的解析を行うこと (2) 行動課題を行うサルを用いて電気生理学的, 薬理行動学的実験を行い, 報酬探索行動の神経メカニズムと社会的関係の神経メカニズムを明らかにすることを目標としている.

〈研究業績〉

原 著

1. Kyuhou S and Gemba H (2007) Fast cortical oscillation after thalamic degeneration: pivotal role of NMDA receptor. *Biochem Biophys Res Commun* 356: 187–192
2. 玄番央恵, 中尾和子, 松崎竜一, 雨夜勇作 (2007) 長期間運動は高次脳機能の向上に役立つ. *日予防医学会誌* 2: 19–26

学会発表

1. Nakamura K (2007) Neuronal Activity of the Primate Dorsal Raphe Nucleus in the Biased Reward Saccade Tasks. 37th annual meeting of Society for Neuroscience, Atlanta
2. Nakamura K (2007) Differential reward coding by dorsal raphe neurons and dopamine neurons. Champalimaud Neuroscience Workshops at the Instituto Gulbenkian de Ciência, “Theoretical and Experimental Perspectives on Serotonin Function”, Portugal
3. Kyuhou S (2007) Preventive effects of phytoestrogens on the paraquat-induced toxicities in

the cellular model of Parkinson disease. 第30回日本神経科学大会, Yokohama

4. Gemba H, Nakao K, Matsuzaki R and Amaya Y (2007) Physical exercise elevates cognitive functions in monkeys. 第84回日本日本生理学会大会, Osaka
5. Ichikawa J and Gemba H (2007) The effect of P2Y2 receptor agonists on cell proliferation of rat bone marrow stromal cells. 第84回日本日本生理学会大会, Osaka
6. Kyuhou S and Gemba H (2007) Preventive effects of resveratrol, a wine derived polyphenol, on the rotenone-induced apoptosis in the cellular model of Parkinson disease. 第84回日本日本生理学会大会, Osaka
7. 中村加枝 (2007) セロトニンとドパミンによる報酬情報処理のメカニズム. 京都大学セミナー, 京都
8. 久寶真一 (2007) 視床神経変性マウスにおける脳高頻度振動波の発生機構の解明. 第37回日本臨床神経生理学会・学術大会, 宇都宮
9. 久寶真一 (2007) pcdマウスの視床神経変性に伴う大脳皮質の機能的変化. 第54回中部日本

生理学会・第100回近畿生理学談話会合同大会, 三重

10. 中村加枝 (2007) 大脳基底核における報酬情報による行動変化のメカニズム. 京都大学こころの未来フォーラム, 京都
11. 中村加枝 (2007) Activation and inactivation of dopaminergic input to primate caudate-What will happen to the reward-seeking behavior. ATR 研究会, 京都
12. 久寶真一 (2007) 赤ワイン成分レスベラトロールによる抗パーキンソン病効果について. 第7回日本抗加齢医学会総会, 京都
13. 中村加枝 (2007) 報酬獲得行動におけるDopamineとSerotoninニューロンの神経活動の比較. 生理学研究所「Motor Control 研究会」, 岡崎
14. 雨夜勇作, 玄番央恵, 中尾和子, 松崎竜一 (2007) 頸部水平回転運動における頭頂連合野

の予測制御. 第42回日本理学療法学会大会, 新潟

15. 玄番央恵 (2007) 認知機能の発現と制御. WPJグループディナー, 大阪
16. 中尾和子 (2007) サルにおける頭頂葉後部の運動機能. 第123回関西医科大学学内学術集談会, 守口
17. 玄番央恵 (2007) 認知機能の改善と運動. 第21回日本体力医学会近畿地方会総会, 枚方

著書

1. Gemba H (2007) Cortical field potentials and cognitive functions. Complex Medical Engineering (Wu-JL, Ito K, Tobimatsu S, Nishida T, Fukuyama H eds) Springer, Tokyo
2. 玄番央恵 (2007) 唾液分泌試験. 自律神経機能検査 第4版, 文光堂, 東京

医化学講座

〈研究業績〉

原著

1. Kaneko S, Okuda-Ashitaka E, Ando A, Nishimura K, Igarashi K, Maeda M, Furuta K, Suzuki M, Matsumura M and Ito S (2007) Polyamines upregulate the mRNA expression of cationic amino acid transporter-1 in human retinal pigment epithelial cells. *Am J Physiol Cell Physiol* 293: C729–C737
2. Yamazaki Y, Matsunaga H, Nishikawa M, Ando A, Kaneko S, Okuda K, Wada M, Ito S and Matsumura M (2007) Senescence in cultured trabecular meshwork cells. *Br J Ophthalmol* 91: 808–811
3. Yokoigawa N, Takeuchi N, Toda M, Inoue M, Kaibori M, Yanagida H, Inaba T, Tanaka H, Ogura T, Takada H, Okumura T, Kwon AH, Kamiyama Y and Nakada H (2007) Overproduction of PGE2 in peripheral blood monocytes of gastrointestinal cancer patients with mucins in their bloodstream. *Cancer Lett* 245: 149–155
4. Nishizawa M, Matsui K, Wakame K, Tanaka H,

Tokuhara K, Kamiyama Y and Okumura T (2007) Involvement of active hexose correlated compound in expression of inducible nitric oxide synthase gene and relating genes. *Clin Nutr* 2: 40

5. Soen M, Minami T, Tatsumi S, Mabuchi T, Furuta K, Maeda M, Suzuki M and Ito S (2007) A synthetic kainoid, (2S,3R,4R)-3-carboxymethyl-4-(phenylthio)pyrrolidine-2-carboxylic acid (PSPA-1) serves as a novel anti-allodynic agent for neuropathic pain. *Eur J Pharmacol* 575: 75–81
6. Kwon AH, Qiu Z, Tsuji K, Miyaso T and Okumura T (2007) Fibronectin prevents endotoxin shock after partial hepatectomy in rats via inhibition of nuclear factor-kappaB and apoptosis. *Exp Biol Med* 232: 895–903
7. Unezaki S, Horai R, Sudo K, Iwakura Y and Ito S (2007) Ovol2/Movo, a homologue of *Drosophila ovo*, is required for angiogenesis, heart formation and placental development in mice. *Genes Cells* 12: 773–785
8. Matsuzaki K, Murata M, Yoshida K, Sekimoto G,

- Uemura Y, Sakaida N, Kaibori M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Fujisawa J, Okazaki K and Seki T (2007) Chronic inflammation associated with hepatitis C virus infection perturbs hepatic transforming growth factor beta signaling, promoting cirrhosis and hepatocellular carcinoma. *Hepatology* 46: 48–57
9. Kaneko S, Ando A, Okuda-Ashitaka E, Maeda M, Furuta K, Suzuki M, Matsumura M and Ito S (2007) Ornithine transport via cationic amino acid transporter-1 is involved in ornithine cytotoxicity in retinal pigment epithelial cells. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 48: 464–471
 10. Kaneko S, Ueda-Yamada M, Ando A, Matsumura S, Okuda-Ashitaka E, Matsumura M, Uyama M and Ito S (2007) Cytotoxic effect of spermine on retinal pigment epithelial cells. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 48: 455–463
 11. Matsui K, Kawaguchi Y, Ozaki T, Tokuhara K, Tanaka H, Kaibori M, Matsui Y, Kamiyama Y, Wakame K, Miura T, Nishizawa M and Okumura T (2007) Effect of active hexose correlated compound on the production of nitric oxide in hepatocytes. *JPEN J Parenter Enteral Nutr* 31: 373–381
 12. Ozaki T, Kaibori M, Matsui K, Tokuhara K, Tanaka H, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2007) Effect of thiol-containing molecule cysteamine on the induction of inducible nitric oxide synthase in hepatocytes. *JPEN J Parenter Enteral Nutr* 31: 366–372
 13. Xu L, Okuda-Ashitaka E, Matsumura S, Mabuchi T, Okamoto S, Sakimura K, Mishina M and Ito S (2007) Signal pathways coupled to activation of neuronal nitric oxide synthase in the spinal cord by nociceptin/orphanin FQ. *Neuropharmacology* 52: 1318–1325
 14. Sasaki A, Mabuchi T, Serizawa K, Takasaki I, Andoh T, Shiraki K, Ito S and Kuraishi Y (2007) Different roles of nitric oxide synthase-1 and -2 between herpetic and postherpetic allodynia in mice. *Neuroscience* 150: 459–466
 15. Yamada M, Nishizawa M, Nakatake R, Habara K, Yoshida H, Ozaki T, Matsui K, Hamada Y, Kamiyama Y, Ito S and Okumura T (2007) Characterization of alternatively spliced isoforms of the type I interleukin-1 receptor on iNOS induction in rat hepatocytes. *Nitric Oxide* 17: 98–105
 16. Xu L, Mabuchi T, Katano T, Matsumura S, Okuda-Ashitaka E, Sakimura K, Mishina M and Ito S (2007) Nitric oxide (NO) serves as a retrograde messenger to activate neuronal NO synthase in the spinal cord via NMDA receptors. *Nitric Oxide* 17: 18–24
 17. Takagi K, Matsumura S, Okuda-Ashitaka E, Okuda K, Watanabe J, Takahashi H, Iwakura Y and Ito S (2007) Interleukin-1 is not essential for expression of inducible NOS in hepatocytes induced by lipopolysaccharide in vivo. *Nitric Oxide* 16: 433–441
 18. 伊藤誠二 (2007) 痛覚の発生機序の最前線. *Urol View* 5: 8–14
 19. 伊藤誠二 (2007) 慢性疼痛の発生維持機構について. *ペインクリニック* 28 (別冊春): S326–S328
 20. 南 敏明, 芦高恵美子, 伊藤誠二 (2007) プロスタグランジンとノシセプチン. *麻酔* 56: S172–S178
- 総 説
1. 伊藤誠二 (2007) 慢性疼痛研究の最近の進歩 機能的変化による慢性疼痛の維持機構. *ペインクリニック* 28: 199–207
 2. 片野泰代, 伊藤誠二 (2007) シナプス後肥厚部の NMDA 受容体のリン酸化と神経因性疼痛. *生体の科学* 58: 139–143
 3. 芦高恵美子, 阿部哲也, 松村伸治, 伊藤誠二 (2007) 脊髄後角における NMDA 受容体リン酸化と神経因性疼痛. *慢性疼痛* 26: 41–47
- 学会発表
1. Ito S, Xu L, Mabuchi T, Katano T, Matsumura S, Okuda-Ashitaka E, Sakimura K and Mishina M (2007) Nitric oxide is involved in activation of neuronal nitric oxide synthase as a retrograde messenger in the spinal cord. The 37th Annual Meeting of the Society for Neuroscience, San Diego

2. Matsumura S, Takagi K, Okuda-Ashitaka E, Yamaguchi M and Ito S (2007) Differentiation and migration of progenitor cells for maintenance of neuropathic pain in the model using nestin promoter-GFP transgenic mice. The 37th Annual Meeting of the Society for Neuroscience, San Diego
3. Ohnishi T, Okuda-Ashitaka E, Matsumura S, Katano T and Ito S (2007) Molecular mechanism for the translocation of nNOS to the plasma membrane by PACAP. The 37th Annual Meeting of the Society for Neuroscience, San Diego
4. Okuda-Ashitaka E, Xu L, Matsumura S, Mabuchi T, Okamoto S, Sakimura K, Mishina M and Ito S (2007) Signal pathways coupled to activation of neuronal nitric oxide synthase in the spinal cord by nociceptin/orphanin FQ. The 37th Annual Meeting of the Society for Neuroscience, San Diego
5. Nishizawa M, Matsui K, Wakame K, Tanaka H, Tokuhara K, Kamiyama Y and Okumura T (2007) Involvement of active hexose correlated compound in expression of inducible nitric oxide synthase gene and relating genes. The 29th ESPEN (European Society for Parenteral and Enteral Nutrition) Congress, Prague
6. Habara K, Nakai K, Kitagawa K, Hamada Y, Kamiyama Y, Nishizawa M and Okumura T (2007) The up-regulation of iNOS induction by pitavastatin in inflammatory cytokine-stimulated IEC-6. Xth International Small Bowel Transplant Symposium, Santa Monica
7. Habara K, Nakai K, Kitagawa K, Kamiyama Y, Nishizawa M and Okumura T (2007) Effect of pitavastatin on the production of nitric oxide in IEC-6. Xth International Small Bowel Transplant Symposium, Santa Monica
8. Ozaki T, Kaibori M, Matsui K, Tokuhara K, Tanaka H, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2007) Effect of thiol-containing molecule cysteamine on the induction of inducible nitric oxide synthase in hepatocytes. Clinical Nutrition Week 2007 (Annual Conference of American Society for Parenteral and Enteral Nutrition), Phoenix
9. Tanaka H, Kaibori M, Uchida Y, Matsui K, Ozaki T, Tokuhara K, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2007) Effect of sodium hydrogen exchanger inhibitor on the induction of inducible nitric oxide synthase and nitric oxide production in primary cultured hepatocytes. Clinical Nutrition Week 2007 (Annual Conference of American Society for Parenteral and Enteral Nutrition), Phoenix
10. Matsui K, Kawaguchi Y, Ozaki T, Tokuhara K, Tanaka H, Kaibori M, Matsui Y, Kamiyama Y, Wakame K, Miura T, Nishizawa M and Okumura T (2007) Effect of active hexose correlated compound on the production of nitric oxide in hepatocytes. Clinical Nutrition Week 2007 (Annual Conference of American Society for Parenteral and Enteral Nutrition), Phoenix
11. Tokuhara K, Hamada Y, Ozaki T, Matsui K, Tanaka H, Kaibori M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2007) Rebamipide, anti-gastric Ulcer drug, upregulates the induction of inducible nitric oxide synthase in interleukin-1b-stimulated hepatocytes. Clinical Nutrition Week 2007 (Annual Conference of American Society for Parenteral and Enteral Nutrition), Phoenix
12. Maeda M, Furuta K, Hirata Y, Shibata S, Kiuchi K, Suzaki M, Minami T, Ito S and Suzuki M (2007) Design and synthesis of novel small molecules that regulate neuronal functions. The 21th Century COE-RCMS International Conference on Elucidation and Creation of Molecular Functions, 名古屋
13. 西澤幹雄, 松井康輔, 木村富紀, 徳原克治, 田中宏典, 上山泰男, 伊藤誠二, 奥村忠芳 (2007) 炎症性遺伝子の発現誘導におけるアンチセンス転写物の関与. 第17回アンチセンスシンポジウム, 金沢
14. 奥村忠芳, 松井康輔, 若命浩二, 三浦健人, 尾崎 岳, 海堀昌樹, 松井陽一, 川口雄才, 上山泰男, 西澤幹雄 (2007) 肝細胞における Active Hexose Correlated Compound の iNOS 阻害メカニズム. 第80回日本生化学会大会・第30回日

本分子生物学会年会合同大会, 横浜

15. 西澤幹雄, 松井康輔, 木村富紀, 尾崎 岳, 上山泰男, 奥村忠芳 (2007) 肝細胞におけるアンチセンス転写物を介した誘導型一酸化窒素合成酵素 (iNOS) 遺伝子の発現調節機構. 第80回日本生化学会大会・第30回日本分子生物学会年会合同大会, 横浜
16. 片野泰代, 古江秀昌, 多賀谷光男, 芦高恵美子, 吉村 恵, 伊藤誠二 (2007) 炎症性疼痛に伴う AMPA 受容体再編成による中枢性感作機序の解明. 第80回日本生化学会大会・第30回日本分子生物学会年会合同大会, 横浜
17. 陸 景珊, 片野泰代, 南 敏明, 裏出良博, 伊藤誠二 (2007) プロテオミクスによる帯状疱疹後神経痛患者の脳脊髄液の解析. 第80回日本生化学会大会・第30回日本分子生物学会年会合同大会, 横浜
18. 大西隆之, 芦高恵美子, 松村伸治, 伊藤誠二 (2007) 1P-0889 PACAP シグナル伝達を介した nNOS の細胞膜への移動の分子機構. 第80回日本生化学会大会・第30回日本分子生物学会年会合同大会, 横浜
19. 伊藤誠二 (2007) 神経可塑性に伴う NMDA 受容体複合体の再編成と活性化に関与する機能分子の探索. 平成19年第4領域分子脳科学冬の班会議, 東京
20. 大西隆之, 芦高恵美子, 松村伸治, 伊藤誠二 (2007) PACAP シグナル伝達を介した一酸化窒素合成酵素 (nNOS) の機能調節の分子機構. 平成19年度生理研 筋・骨格系と内臓の痛み研究会, 岡崎
21. 伊藤誠二 (2007) NO を可視化できるか? 理化学研究所神戸研究所, 神戸
22. 伊藤誠二, 南 敏明 (2007) 難治性疼痛の発症機構と診断・治療のバイオマーカーの探索. 第44回日本臨床生理学会, 大阪
23. 松井康輔, 川口雄才, 尾崎 岳, 松井陽一, 海堀昌樹, 西澤幹雄, 奥村忠芳, 上山泰男 (2007) AHCC の肝細胞誘導型一酸化窒素合成酵素 (iNOS) 制御-iNOS 遺伝子のアンチセンス転写物を介した誘導阻害一. 第15回 AHCC 研究会, 札幌
24. 西澤幹雄, 松井康輔, 木村富紀, 尾崎 岳, 上山泰男, 奥村忠芳 (2007) 肝細胞におけるアンチセンス転写物を介した inducible nitric oxide synthase (iNOS) 遺伝子の発現調節機構. 第15回 AHCC 研究会, 札幌
25. 田中宏典, 徳原克治, 尾崎 岳, 松井康輔, 石崎守彦, 内田洋一郎, 海堀昌樹, 上山泰男, 西澤幹雄, 奥村忠芳 (2007) 肝細胞の I 型インターロイキン -1 レセプターの増幅シグナルと iNOS mRNA の安定化. 第14回肝細胞研究会, 鹿児島
26. 内田洋一郎, 海堀昌樹, 肱川 健, 石崎守彦, 田中宏典, 徳原克治, 尾崎 岳, 松井康輔, 奥村忠芳, 上山泰男 (2007) 障害肝における好中球エラスターゼ阻害剤の保護効果. 第14回肝細胞研究会, 鹿児島
27. 尾崎 岳, 川口雄才, 松井康輔, 徳原克治, 田中宏典, 上山泰男, 西澤幹雄, 奥村忠芳 (2007) 紫イペの肝 iNOS 誘導に対する抑制効果とそのメカニズム. 第14回肝細胞研究会, 鹿児島
28. 前田将秀, 古田亨史, 平田洋子, 柴田翔子, 木内一壽, 南 敏明, 伊藤誠二, 鈴木正昭 (2007) 神経機能を制御する低分子化合物の創製. 日本ケミカルバイオロジー研究会第2回年会, 大阪
29. 石崎守彦, 海堀昌樹, 内田洋一郎, 肱川 健, 尾崎 岳, 田中宏典, 権 雅憲, 奥村忠芳, 上山泰男 (2007) 肝虚血再灌流モデルにおける Na/H 交換輸送体阻害剤の生体保護効果の検討. 第107回日本外科学会定期学術集会, 大阪
30. 徳原克治, 浜田吉則, 尾崎 岳, 松井康輔, 田中宏典, 海堀昌樹, 西澤幹雄, 奥村忠芳, 上山泰男 (2007) Rebamipide による肝細胞の一酸化窒素産生の増強効果. 第107回日本外科学会定期学術集会, 大阪
31. 内田洋一郎, 海堀昌樹, 石崎守彦, 肱川 健, 尾崎 岳, 田中宏典, 松井康輔, 徳原克治, 権雅憲, 奥村忠芳, 上山泰男 (2007) ラット劇症肝不全モデルにおける Na⁺/H⁺ exchanger inhibitor (FR183998) の生体保護効果の検討. 第107回日本外科学会定期学術集会, 大阪
32. 伊藤誠二, 陸 景珊, 片野泰代, 南 敏明, 裏出良博 (2007) 神経因性疼痛治療の評価への生化学的アプローチ. 第80回日本薬理学会年会, 名古屋
33. 金澤将勝, 須崎真史, 前田将秀, 伊藤誠二, 南

敏明, 古田亨史, 鈴木正昭 (2007) アロディニア誘発活性を示す新規アクロメリン酸類緑体の合成. 日本化学会第87春季年会, 大阪

34. 伊藤誠二 (2007) 慢性疼痛研究の最近の進歩. 日本慢性疼痛学会, 京都

著書

1. Ando A, Kaneko S, Kiriya N, Unezaki S,

Okuda-Ashitaka E, Okumura T, Nishimura T, Matsumura M, Ito S (2007) Prevention of apoptosis by down-regulation of apoptosis related gene expression obtained by nipradilol via nitric oxide donative action. *New Developments in Eye Research* pp 55–69, Nova Science Publishers, New York

薬理学講座

〈研究業績〉

原著

- Ogata T, Ueyama T, Nomura T, Asada S, Tagawa M, Nakamura T, Takahashi T, Matsubara H and Oh H (2007) Osteopontin is a myosphere-derived secretory molecule that promotes angiogenic progenitor cell proliferation through the phosphoinositide 3-kinase/Akt pathway. *Biochem Biophys Res Commun* 359: 341–347
- Li T, Nakayama Y, Kitagawa K, Hattori N, Xiong Z-M and Inagaki C (2007) Down-regulation of Cl⁻ pump CIP55 subunit induced enhancement of glutamate neurotoxicity in cultured rat hippocampal neurons. *Brain Res* 1130: 235–238
- Nanjundan M, Nakayama Y, Kwai W-C, Lahad J, Liu J, Lu K, Kuo W-L, Smith-McCune K, Fishman D, Gray J-W and Mills G-B (2007) Amplification of MDS1/EVI1 and EVI1, located in the 3q26.2 amplicon, is associated with favorable patient prognosis in ovarian cancer. *Cancer Res* 67: 3074–3084
- Hirai M, Horiguchi M, Ohbayashi T, Kita T, Chien KR and Nakamura T (2007) Latent TGF-beta-binding protein 2 binds to DANCE/fibulin-5 and regulates elastic fiber assembly. *EMBO J* 26: 3283–3295
- Hattori N, Nakayama Y, Kitagawa K, Li T and Inagaki C (2007) Development of anti-PRL (prolactin) autoantibodies by homologous PRL in rats: a model for macroprolactinemia. *Endocrinology* 148: 2465–2470
- Ando S, Otani H, Yagi Y, Kawai K, Araki H,

Nakamura T, Fukuhara S and Inagaki C (2007) Protease-activated receptor 4-mediated Ca²⁺ signaling in mouse lung alveolar epithelial cells. *Life Sci* 81: 794–802

- Zhang NY, Kitagawa K, Hattori N, Nakayama Y, Xiong ZM, Wu B, Liu B and Inagaki C (2007) Soybean-derived phosphatidylinositol inhibits in vivo low concentrations of amyloid beta protein-induced degeneration of hippocampal neurons in V337M human tau-expressing mice. *Life Sci* 80: 1971–1976
- Xiong ZM, Kitagawa K, Nishiuchi Y, Kimura T and Inagaki C (2007) Protective effects of Abeta-derived tripeptide, Abeta₃₂₋₃₄, on Abeta₁₋₄₂-induced phosphatidylinositol 4-kinase inhibition and neurotoxicity. *Neurosci Lett* 419: 247–252
- Ando S, Otani H, Yagi Y, Kawai K, Araki H, Fukuhara S and Inagaki C (2007) Proteinase-activated receptor 4 stimulation-induced epithelial-mesenchymal transition in alveolar epithelial cells. *Respir Res* 8: 31 (1-14)

総説

- 中邨智之 (2007) 【細胞外環境による形態形成の制御 新しい生物学の胎動】器官形成における弾性線維の役割とその制御. *細胞工学* 26: 1127–1130
- 中邨智之 (2007) 【哺乳類の器官構築】弾性線維の形成と再生. *蛋・核・酵* 52: 1419–1424

学会発表

- 三宅良平, 竹本剛司, 菅 豊明, 井上唯史, 中

柳智之, 楠本健司 (2007) 背部弾性線維腫の2症例. 第89回日本形成外科学会関西支部学術集会, 高槻

2. 安藤性實, 大谷ひとみ, 矢木泰弘, 稲垣千代子, 福原資郎 (2007) プロテアーゼ活性化受

容体4 (PAR4) による肺胞上皮細胞の筋線維芽細胞への形質転換効果: 肺線維化への関与の可能性. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 東京

病理学第一講座

〈研究概要〉

〈新しい骨髄移植方法を開発するまで〉

骨髄移植は, 1968年, 私のアメリカの先生の故Dr. Good (2006年, 5月に食道癌で死亡) によって, 重症複合免疫不全症 (T細胞もB細胞も欠除) の乳児に姉の骨髄を移植し, 成功したのが世界で最初の例です. その後, シアトルのFred Hutchinson Cancer Research CenterのThomas (1990年に骨髄移植でノーベル賞を受賞) 教授らによって現在の移植方法が確立されました.

骨髄移植は, 白血病や再生不良性貧血などの治療法として目覚ましい治療効果を挙げています.

現在, 骨髄移植の対象となっている疾患は, 主として①白血病や重症の再生不良性貧血等の血液疾患②先天性免疫不全症③先天性代謝疾患④自己免疫疾患などです.

私共は, 厚生労働省指定の難病 (118疾患) の大半が, 病因に自己免疫現象がなんらかの形で関与しており, 同種骨髄移植で治療できることを, 動物実験で明らかにしてきました.

骨髄移植とは, 文字通り骨の髄, すなわち骨の中心部に存在する血液細胞をドナー (提供者) より採取して, 点滴でレシピエント (患者) の静脈内に入れる治療方法です. その際, 移植する細胞が拒絶されないようにレシピエントの免疫担当細胞や造血系の細胞を放射線で死滅させておきます. 移植に必要な細胞は「造血幹細胞」と呼ばれ, これは血液を産生する源となる細胞で, 半永久的に自己再生能力 (自分で自分を作る能力) を有しています.

分裂した幹細胞の片方の細胞は元の幹細胞に戻りますが, もう一方の細胞は多分化能を有しているため, すべての血球系の細胞へと増殖分化します. 従って, 理論的には, 一個の幹細胞を移植すれば良いことになります.

骨髄の中には, このように, 血液系の細胞 (赤血球, 白血球, 血小板など) を造る元になる細胞, すなわち「造血幹細胞」と, 身体の骨格を形成する細胞 (筋肉, 骨, 軟骨, 結合組織など) を造る元になる細胞, すなわち「間葉系幹細胞」が存在します.

「造血幹細胞」は“種”に, 「間葉系幹細胞」は“畑”にたとえられますが, 最近, これらの細胞は, 一部, 相互に変換できることもわかってきました. また, 種が良く育つためには, 種と畑の相性が存在すること, 従って骨髄移植の際, 種だけを移植するのではなくて, 畑もドナー側に置き換えると移植の成功率が高まることが明らかになってきました. さらに, 骨髄の中に存在する種と畑をうまく利用すると, からだの中の傷害部位 (病変部) を修復できる可能性も出てきました. 今, 盛んに叫ばれている再生医療がそれです. 若い時の自分の骨髄細胞 (臍帯血でも可) を凍結保存しておけば, 病気の際に利用できるのです.

ES細胞や骨髄中に存在する「造血幹細胞」, 「間葉系幹細胞」から身体を構成している, あらゆる細胞 (神経細胞, 心筋細胞, 肝細胞等) へとin vitro並びにin vivoで分化誘導が可能であることが証明されつつあります. このES細胞や「造血幹細胞」, 「間葉系幹細胞」を用いて, 臓器を完全に再生しようとする試みも開始されていますが, 傷害された臓器の部分的な再生, 修復は可能であっても, 心臓や腎臓のような臓器を丸ごと作製することは, 無理ではないかと考えます.

一方, 血管の新生を目的として, 閉塞した動脈の周辺に, 自分の骨髄細胞を注射し, 側副路を形成し,

治療しようとする試みが開始され、かなりの効果が得られています。しかしながら、これも対症治療に過ぎず、例えば、動脈の閉塞の原疾患（動脈硬化症など）を根本的に治療しない限り再発は免れません。

これと同じような発想の治療方法が自己免疫疾患に対する自家骨髄移植または自己末梢血幹細胞の移植です。私達は、24年前、自己免疫疾患が「造血幹細胞」の異常により、発症してくることを種々のモデルマウスを用いて証明し、正常の骨髄を移植することによって治療できることを見出しました¹⁾²⁾。ヒトにおけるアロの骨髄移植は移植片対宿主病（GvHD）等の種々の問題があるため、自分の「造血幹細胞」を移植して、とりあえず一時しのぎをしようという考えです。当然ながら、移植後5年以内に再発する例が報告されて来ております。従って、安全で有効なアロの骨髄移植方法の開発が、長い間、待たれていました。

最近、私達は同種骨髄移植の新しい方法を開発しました。この方法は、従来の骨髄移植の方法を根本的に代えるもので、画期的な方法と自負しています。骨髄細胞は従来、腸骨より100個所以上、骨髄穿刺針を刺して吸引により採取していますが（図1）、私達の開発した方法は、灌流により骨髄細胞を採取するものです（図2）。この新しい方法では、末梢血が混入しないため、骨髄細胞が純粋に採取可能です。この採取した骨髄細胞の中には「造血幹細胞」以外に「間葉系幹細胞」も含まれており、これらの細胞を移植することによって、あらゆる細胞への分化誘導がin vivoで可能となるものと考えられます。また、従来の骨髄移植のように、これらの細胞を静脈内へ注入しますと、図1のように肺にほとんどがtrapされますが、これらの細胞を直接、骨髄内へ注入（文字通りの”骨髄移植”）をしますと、生着率が高まります。この骨髄内骨髄移植は、「造血幹細胞」（種）と骨髄の環境の構成細胞である「間葉系幹細胞」（畑）を効率良く、骨髄内へ戻すことが可能で、従って、造血系の回復も速やかです。

このように“種”（造血幹細胞）も“畑”（間葉系幹細胞）も正常のものと置換する、この新しい骨髄移植方法は、加齢と共に発症してくる骨粗鬆症、肺気腫、糖尿病、動脈硬化症、アルツハイマー病等の根本治療につながる可能性を秘めています。実際、私達は、モデル動物を用いて、肺気腫や骨粗鬆症が治療できることを明らかにしています。さらにこの新しい骨髄移植方法を臓器移植と併用すると、免疫抑制剤を使用しなくても拒絶反応が予防できます。現在、ヒトへの応用を視野に入れ、実験用カンクイザルを用いて安全性と有効性を確認しています。この方法がヒトへ応用されるようになれば、骨髄移植、臓器移植、再生治療、遺伝子治療の上に革命をもたらすものと確信しています。この方法がヒトへ応用され、難病という言葉がこの世から消え去る日が一日も早く来ることを願っています。

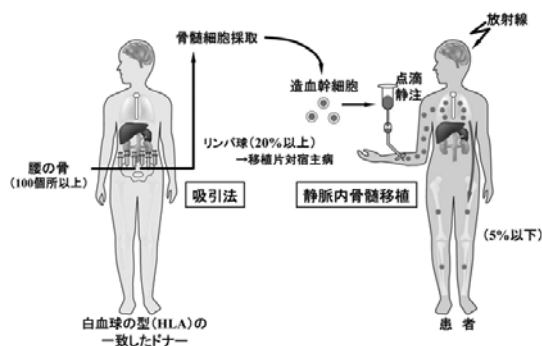


図1. 従来の骨髄移植の方法
(吸引法+静脈内骨髄移植)

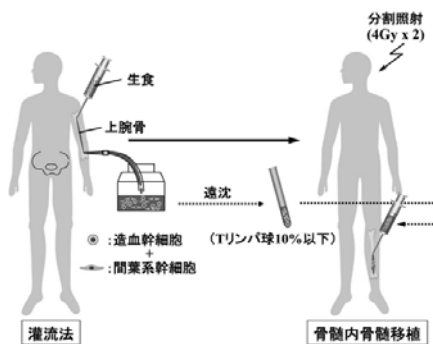


図2. 新しい骨髄移植の方法
(灌流法+骨髄内骨髄移植)

〈研究業績〉

原著

1. Koike-Kiriyama N, Adachi Y, Minamino K, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Yamada H, Mukaide H, Shigematsu A, Mizokami T, Matsumura M and Ikehara S (2007) Human cord blood cells can differentiate into retinal nerve cells. *Acta Neurobiol Exp* 67: 359–365
2. Li M, Peterson S, Husney D, Inaba M, Guo K, Eri T, Morita T, Patil K, Kappas A, Ikehara S and Abraham N-G (2007) Interdiction of the diabetic state in NOD mice by sustained induction of heme oxygenase: possible role of carbon monoxide and bilirubin. *Antioxid Redox Signal* 9: 855–863
3. Li M, Peterson S, Husney D, Inaba M, Guo K, Kappas A, Ikehara S and Abraham N-G (2007) Long-lasting expression of HO-1 delays progression of type I diabetes in NOD mice. *Cell Cycle* 6: 567–571
4. Matsui A, Okigaki M, Amano K, Adachi Y, Jin D, Takai S, Yamashita T, Kawashima S, Kurihara T, Miyazaki M, Tateishi K, Matsunaga S, Katsume A, Honshou S, Takahashi T, Matoba S, Kusaba T, Tatsumi T and Matsubara H (2007) Central role of calcium-dependent tyrosine kinase PYK2 in endothelial nitric oxide synthase-mediated angiogenic response and vascular function. *Circulation* 116: 1041–1051
5. Yang GX, Lian ZX, Chuang YH, Shu SA, Moritoki Y, Lan R, Wakabayashi K, Ansari AA, Dorshkind K, Ikehara S and Gershwin ME (2007) Generation of functionally distinct B lymphocytes from common myeloid progenitors. *Clin Exp Immunol* 150: 349–357
6. Tsuda M, Inaba M, Sakaguchi Y, Fukui J, Ueda Y, Omae M, Ando Y, Mukaide H, Guo K, Yabuki T, Nakatani T and Ikehara S (2007) Activation of granulocytes by direct interaction with dendritic cells. *Clin Exp Immunol* 150: 322–331
7. Hosaka N, Ryu T, Miyake T, Cui W, Nishida T, Takaki T, Inaba M and Ikehara S (2007) Treatment of autoimmune diseases in MRL/lpr mice by allogenic bone marrow transplantation plus adult thymus transplantation. *Clin Exp Immunol* 147: 555–563
8. Sugiura K, Taketani S, Yoshimura T, Nishino T, Nishino N, Fujisawa J, Hisha H, Inaba T and Ikehara S (2007) Effect of hepatocyte growth factor on long term hematopoiesis of human progenitor cells in transgenic-severe combined immunodeficiency mice. *Cytokine* 37: 218–226
9. Wang X, Hisha H, Cui W, Song C, Mizokami T, Okazaki S, Li Q, Feng W, Kato J, Jiang S, Fan H and Ikehara S (2007) The characteristics of hematopoietic stem cells from autoimmune-prone mice and the role of neural cell adhesion molecules in abnormal proliferation of these cells in MRL/lpr mice. *Haematologica* 92: 300–307
10. Ikehara S (2007) Innovative BMT methods for intractable diseases. *Immunol Res* 38: 251–260
11. Li M, Inaba M, Guo KQ, Hisha H, Abraham NG and Ikehara S (2007) Treatment of streptozotocin-induced diabetes mellitus in mice by intra-bone marrow bone marrow transplantation plus portal vein injection of beta cells induced from bone marrow cells. *Int J Hematol* 86: 438–445
12. Li C, He Y, Feng X, Inaba M, Adachi Y, Takada K, Zhang Y, Yamamoto Y, Wu X, Cui Y, Iwasaki M, Hisha H, Hosaka N, Taira M, Minamino K, Suzuki Y, Nakano K, Fukui J, Ueda Y, Koike Y, Tsuda M and Ikehara S (2007) An innovative approach to bone marrow collection and transplantation in a patient with beta-thalassemia major: marrow collection using a perfusion method followed by intra-bone marrow injection of collected bone marrow cells. *Int J Hematol* 85: 73–77
13. Mukaide H, Adachi Y, Koike-Kiriyama N, Suzuki Y, Minamino K, Iwasaki M, Tsuda M, Nakano K, Koike Y, Shigematsu A, Kamiyama Y and Ikehara S (2007) Immunotherapy for malignant tumors using combination of allogeneic intra-bone marrow-bone marrow transplantation, donor lymphocyte infusion and dendritic cells. *Int J Oncol* 30: 1309–1315
14. Okada T, Inaba M, Naiki M, Gershwin ME and Ikehara S (2007) Comparative immunobiology of

- thymic DC mRNA in autoimmune-prone mice. *J Autoimmun* 28: 41–45
15. Turkseven S, Drummond G, Rezzani R, Rodella L, Quan S, Ikehara S and Abraham NG (2007) Impact of silencing HO-2 on EC-SOD and the mitochondrial signaling pathway. *J Cell Biochem* 100: 815–823
 16. Koike-Kiriyama N, Koike Y, Adachi Y, Mukaide H, Minamino K, Shigematsu A, Kamiyama Y, Matsumura M and Ikehara S (2007) Intra-bone marrow injection of dendritic cells for treatment of malignant tumor in mice. *J Exp Clin Cancer Res* 26: 337–342
 17. Yoshihara T, Ohta M, Itokazu Y, Matsumoto N, Dezawa M, Suzuki Y, Taguchi A, Watanabe Y, Adachi Y, Ikehara S, Sugimoto H and Ide C (2007) Neuroprotective effect of bone marrow-derived mononuclear cells promoting functional recovery from spinal cord injury. *J Neurotrauma* 24: 1026–1036
 18. Peterson SJ, Husney D, Kruger AL, Olszanecki R, Ricci F, Rodella LF, Stacchiotti A, Rezzani R, McClung JA, Aronow WS, Ikehara S and Abraham NG (2007) Long-term treatment with the apolipoprotein A1 mimetic peptide increases antioxidants and vascular repair in type I diabetic rats. *J Pharmacol Exp Ther* 322: 514–520
 19. Shigematsu A, Adachi Y, Koike-Kiriyama N, Suzuki Y, Iwasaki M, Koike Y, Nakano K, Mukaide H, Imamura M and Ikehara S (2007) Effects of low-dose irradiation on enhancement of immunity by dendritic cells. *J Radiat Res* 48: 51–55
 20. Sakaguchi Y, Inaba M, Kusafuka K, Okazaki K and Ikehara S (2007) Establishment of animal models for three types of pancreatitis and analyses of regeneration mechanisms. *Pancreas* 33: 371–381
 21. Inaba M, Adachi Y, Hisha H, Hosaka N, Maki M, Ueda Y, Koike Y, Miyake T, Fukui J, Cui Y, Mukaide H, Koike N, Omae M, Mizokami T, Shigematsu A, Sakaguchi Y, Tsuda M, Okazaki S, Wang X, Li Q, Nishida A, Ando Y, Guo K, Song C, Cui W, Feng W, Katou J, Sado K, Nakamura S and Ikehara S (2007) Extensive studies on perfusion method plus intra-bone marrow-bone marrow transplantation using cynomolgus monkeys. *Stem Cells* 25: 2098–2103
 22. Fukui J, Inaba M, Ueda Y, Miyake T, Hosaka N, Kwon AH, Sakaguchi Y, Tsuda M, Omae M, Kamiyama Y and Ikehara S (2007) Prevention of graft-versus-host disease by intra-bone marrow injection of donor T cells. *Stem Cells* 25: 1595–1601
 23. Ueda Y, Inaba M, Takada K, Fukui J, Sakaguchi Y, Tsuda M, Omae M, Kushida T, Iida H and Ikehara S (2007) Induction of senile osteoporosis in normal mice by intra-bone marrow-bone marrow transplantation from osteoporosis-prone mice. *Stem Cells* 25: 1356–1363
 24. Kimura T, Asada R, Wang J, Kimura T, Morioka M, Matsui K, Kobayashi K, Henmi K, Imai S, Kita M, Tsuji T, Sasaki Y, Ikehara S and Sonoda Y (2007) Identification of long-term repopulating potential of human cord blood-derived CD34-flt3-severe combined immunodeficiency-repopulating cells by intra-bone marrow injection. *Stem Cells* 25: 1348–1355
 25. Li Q, Hisha H, Yasumizu R, Fan TX, Yang GX, Li Q, Cui YZ, Wang XL, Song CY, Okazaki S, Mizokami T, Cui WH, Guo K, Li M, Feng W, Katou J and Ikehara S (2007) Analyses of very early hemopoietic regeneration after bone marrow transplantation: comparison of intravenous and intrabone marrow routes. *Stem Cells* 25: 1186–1194
 26. Koike Y, Adachi Y, Suzuki Y, Iwasaki M, Koike-Kiriyama N, Minamino K, Nakano K, Mukaide H, Shigematsu A, Kiyozuka Y, Tubura A, Kamiyama Y and Ikehara S (2007) Allogeneic intrabone marrow-bone marrow transplantation plus donor lymphocyte infusion suppresses growth of colon cancer cells implanted in skin and liver of rats. *Stem Cells* 25: 385–391
 27. Feng W, Cui Y, Song C, Zhan H, Wang X, Li Q, Cui W, Guo K, Maki M, Hisha H, Mori T and Ikehara S (2007) Prevention of osteoporosis and hypogonadism by allogeneic ovarian transplanta-

tion in conjunction with intra-bone marrow-bone marrow transplantation. Transplantation 84: 1459-1466

28. Wijewardana V, Sugiura K, Shigeyama N, Moriguchi M, Tsunoda S, Ikehara S and Inaba T (2007) Isolation and characterization of hematopoietic progenitor cells in canine bone marrow. Vet Immunol Immunopathol 115: 230-238
29. 福井淳一, 稲葉宗夫, 上山泰男, 池原 進 (2007) 骨髓内骨髓移植法とドナーリンパ球骨髓内注入法による移植片対宿主病抑制効果の検討. Cytometry Res 17: 11-17
30. 池原 進 (2007) 【造血幹細胞移植のすべて】基礎編 骨髓内骨髓移植. 血腫瘍 55: 82-87
31. 連利 博, 保坂直樹, 池原 進, 入江直樹, 吉田牧子, 今井幸弘, 高田泰次, 羽賀博典, 田中紘一 (2007) 胆道閉鎖症の肝組織内における maternal microchimerism: 母親細胞の定量的解析ならびにその表現型と存在部位について. 日小外会誌 43: 728-729

症例報告

1. 重松明男, 足立 靖, 小柳津治樹, 松本憲明, 桐山直子, 向出裕美, 今村雅寛, 福原資郎, 池原 進 (2007) 同種骨髓移植後に, 水痘带状疱疹ウイルス感染症から血栓性微小血管障害を発症したと考えられた1剖検例. 診断病理 24: 348-354
2. 坂口雄沢, 榎 政彦, 足立 靖, 山本奈恵, 植村芳子, 川喜多繁誠, 鷹巢晃昌, 岡崎和一, 松田公志, 池原 進 (2007) 前立腺原発小細胞癌の1剖検例. 診断病理 24: 93-96

学会発表

1. 安藤祐吾, 稲葉宗夫, 坂口雄沢, 池原 進, 岡崎和一 (2007) Subcutaneous adipose tissue-derived stem cells facilitate colonic mucosal recovery from 2,4,6-trinitrobenzene sulfonic acid (TNBS)-induced colitis in rats. 第4回日本炎症性腸疾患研究会, 東京
2. Takaki T, Hosaka N, Miyake T, Cui W, Nishida T and Ikehara S (2007) Development of donor bone marrow cell-derived thymic epithelial cells in the thymus of MRL/lpr mice after allogeneic intra

bone marrow-bone marrow transplantation (IBM-BMT). 第37回日本免疫学会総会, 東京

3. Cui W, Hosaka N, Miyake T, Guo K, Wang X, Song C, Cui Y, Li Q, Feng W, Nishida T, Takaki T, Inaba M and Ikehara S (2007) Prolonged survival rate in mice bearing advanced tumor after syngeneic or allogeneic—intra bone marrow-bone marrow transplantation plus fetal thymus transplantation. 第37回日本免疫学会総会, 東京
4. Nishida T, Hosaka N, Takaki T, Miyake T, Cui W and Ikehara S (2007) Effect of adult thymus transplantation in allogeneic BMT (IBM-BMT) under conditioning regimens of low-dose irradiation and small number of BMCs. 第37回日本免疫学会総会, 東京
5. Sakaguchi Y, Inaba M, Uchida K, Ikehara S and Okazaki K (2007) Autoimmune mechanisms are involved in pancreatitis and sialoadenitis in WBN/Kob rats. The Second Meeting of Asian-Oceanic Pancreatic Association (AOPA), Kobe
6. Baba S, Iwai H, Lee S, Omae M, Ikehara S and Yamashita T (2007) Interaction between cochlear cells and bone marrow cells. 44th Inner Ear Biology Workshop, London
7. Iwai H, Baba S, Omae M, Lee S, Ikehara S and Yamashita T (2007) Prevention of accelerated presbycusis by maintenance of systemic immune functions. 44th Inner Ear Biology Workshop, London
8. Lee S, Iwai H, Baba S, Omae M, Ikehara S and Yamashita T (2007) Relationship between accelerated presbycusis and immunosenescence. 44th Inner Ear Biology Workshop, London
9. Ando Y, Inaba M, Sakaguchi Y, Ikehara S and Okazaki K (2007) Adipose tissue-derived stem cells facilitate colonic mucosal recovery from 2,4,6-trinitrobenzene sulfonic acid (TNBS)-induced colitis in rats. ICMI 2007 (13th International Congress of Mucosal Immunology), 東京
10. Sakaguchi Y, Inaba M, Fukui J, Ueda Y, Tsuda M, Guo Ke Quan, Omae M, Ando Y, Ikehara S and Okazaki K (2007) Prevention of autoimmune chronic pancreatitis in WBN/Kob rats by intra

- bone marrow-bone marrow transplantation. ICMI 2007 (13th International Congress of Mucosal Immunology), Tokyo
11. 足立 靖, 垠 貴司, 松波光代, 田中喜壽, 中元 剛, 溝上友美, 鷹巢晃昌 (2007) 細胞診とセルブロックを用いた免疫染色で診断を確定した形質細胞腫の一例. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会, 仙台
 12. Adachi Y, Shi M, Yanai S and Ikehara S (2007) (NZWxBXSB) F1マウスのLPSに対する高感受性は増加した樹状細胞からのTNF- α 産生亢進が関与している. 第37回日本免疫学会, 東京
 13. Shi M, Adachi Y, Yanai S and Ikehara S (2007) FKBP51は正常大腸粘膜上皮及び大腸腺癌に発現されており大腸癌の増殖を抑制する. 第37回日本免疫学会, 東京
 14. Yanai S, Adachi Y, Shi M and Ikehara S (2007) マウスにおける悪性腫瘍の治療としての樹状細胞の骨髄内注入. 第37回日本免疫学会, 東京
 15. Ando Y, Inaba M, Tuda M, Sakaguchi Y, Guo Ke Quan, Omae M, Okazaki K and Ikehara S (2007) Subcutaneous adipose tissue-derived stem cells facilitate colonic mucosal recovery from 2,4,6-trinitrobenzene sulfonic acid (TNBS)-induced colitis in rats. 第37回日本免疫学会総会, Tokyo
 16. Mizokami T, Hisha H, Okazaki S, Wang X, Song C, Li Q, Takaki T, Kato J, Kanzaki H and Ikehara S (2007) ヒト羊膜由来間葉系細胞の性状の検討. 第37回日本免疫学会総会・学術集会, 東京
 17. 加藤順子, 中澤孝夫, 村田健司, 藤本真由美, 倉 和美, 溝上友美, 保坂直樹, 早瀬ヨネ子, 桜井孝規, 足立 靖 (2007) 転移巣の細胞診断と組織診断の組み合わせで確定された肺癌の1症例. 日本臨床細胞学会秋期大会, 仙台
 18. 木内克治, 山田眞未, 植村芳子, 正健一郎, 大津弥生, 三木克朗, 西村哲哉, 松村美代 (2007) 眼症状を契機に明らかとなった胸腺原発の転移性脈絡膜腫瘍の1例. 第61回日本臨床眼科学会, 京都
 19. 岡崎 智, 池原 進, 上山泰男, 比舎弘子, 溝上友美, 王 曉麗, 宋昌よう, 李 清, 加藤順子 (2007) 骨髄内骨髄移植 (IBM-BMT) と放射線分割照射併用によるアロ肝臓生着の促進. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 東京
 20. 向出裕美, 足立 靖, 重松明男, 桐山直子, 上山泰男, 池原 進 (2007) ヒト大腸癌細胞におけるFKBP51の発現. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 東京
 21. 坂口雄沢, 岡崎和一, 池原 進 (2007) 骨髄内骨髄移植法による自己免疫性膵炎及びシェーグレン症候群の予防. 第38回日本膵臓学会大会, 福岡
 22. 垠 貴司, 足立 靖, 鷹巢晃昌, 田中喜壽, 松波光代, 赤松孝子, 四方伸明, 螺良愛郎 (2007) 原発および再発部より摂取された唾液腺導管癌の穿刺吸引細胞像. 第48回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 千葉
 23. 向出裕美, 足立 靖, 鈴木康弘, 南野桂三, 岩崎真佳, 中野景司, 小池保志, 桐山直子, 重松明男, 上山泰男, 池原 進 (2007) 悪性腫瘍に対する新しい免疫療法—骨盤内骨髄移植 (IBM-BMT) とdonor lymphocyte infusion (DLI) とドナー骨髄由来樹状細胞を用いて—. 第107回日本外科学会定期学術集会, 大阪
 24. 三宅 岳, 保坂直樹, 岡崎 智, 上山泰男, 池原 進 (2007) 胸腺移植を併用した骨髄内骨髄移植GVHR予防とGVT増強効果. 第107回日本外科学会定期学術集会, 大阪
 25. 安藤祐吾, 稲葉宗夫, 坂口雄沢, 内田一茂, 松下光伸, 池原 進, 岡崎和一 (2007) ラット皮下脂肪組織由来幹細胞の粘膜下局所注入法による腸管粘膜再生の検討. Bay Area Gut Club, 淡路島
 26. Ando Y, Inaba M, Tuda M, Sakaguchi Y, Guo Ke Quan, Omae M, Okazaki K and Ikehara S (2007) ラット皮下脂肪組織から分離培養した脂肪組織由来間葉系幹細胞による腸管粘膜再生の検討. 第96回日本病理学会, Osaka
 27. 三宅 岳, 保坂直樹, 龍 堯志, 西田晃久, 崔文旻, 稲葉宗夫, 上山泰男, 池原 進 (2007) 胸腺移植を併用したアロ骨髄移植 (骨髄内骨髄移植法) によるGVT及びGVHR効果の検討 (II): DLIとの比較. 第96回日本病理学会, 大阪
 28. 桐山直子, 足立 靖, 向出裕美, 重松明男, 池原 進 (2007) (NZWxBXSB) F1マウス (W/BF1) はLPSに感受性である. 第96回日本病理学会総会, 大阪

29. 向出裕美, 足立 靖, 重松明男, 桐山直子, 上山泰男, 池原 進 (2007) ヒト大腸癌細胞におけるFKBP51の発現. 第96回日本病理学会総会, 大阪
30. 高木孝士, 保坂直樹, 三宅 岳, 西田晃久, 崔文旻, 徳山陽子, 池原 進 (2007) 腎系球体に観察された特異的管状構造について. 第96回日本病理学会総会, 大阪
31. 三宅 岳, 保坂直樹, 龍 堯志, 西田晃久, 崔文旻, 稲葉宗夫, 上山泰男, 池原 進 (2007) 胸腺移植を併用したアロ骨髓移植 (骨髓内骨髓移植法) によるGVT及びGVHR効果の検討 (II): DLIとの比較. 第96回日本病理学会総会, 大阪
32. 重松明男, 足立 靖, 竹谷 茂, 桐山直子, 向出裕美, 池原 進 (2007) ヒト正常細胞におけるサイトグロビンの発現の検討. 第96回日本病理学会総会, 大阪
33. 大前麻理子, 稲葉宗夫, 上田祐輔, 坂口雄沢, 津田雅庸, 福井淳一, 安藤祐吾, 郭 可泉, 岩井 大, 山下敏男, 池原 進 (2007) Serial BMTによる異系骨髓内骨髓移植法と経静脈的骨髓移植法の造血維持能の比較. 第96回日本病理学会総会, 大阪
34. 保坂直樹, 三宅 岳, 崔 文旻, 西田晃久, 高木孝士, 稲葉宗夫, 池原 進 (2007) 過致死量放射線照射したマウスの新生児期胸腺併用骨髓移植による救済—胸腺のIL-7産生との関連—. 第96回日本病理学会総会, 大阪
35. 崔 文旻, 保坂直樹, 三宅 岳, 西田晃久, 崔雲澤, 王 曉麗, 郭 可泉, 宋 昌嘩, 李清, 稲葉宗夫, 池原 進 (2007) 宿主, 胸腺, 骨髓とも事なる3種のMHCを持つtriple chimera miceの作成: 老齡化モデルSAMPマウスへの応用. 第96回日本病理学会総会, 大阪
36. 溝上友美, 比舎弘子, 岡崎 智, 王 曉麗, 宋昌華, 李 清, 加藤順子, 神崎秀陽, 池原進 (2007) SCIDマウスへのヒト羊膜由来ストローマ細胞移植併用による臍帯血由来造血幹細胞生着促進作用. 第96回日本病理学会総会, 大阪
37. 安藤祐吾, 稲葉宗夫, 福井淳一, 上田祐輔, 津田雅庸, 坂口雄沢, 郭 可泉, 大前麻理子, 池原 進, 岡崎和一 (2007) ラット皮下脂肪組織から分離培養した脂肪組織由来間葉系幹細胞による腸管粘膜再生の検討. 第10回京都免疫ワークショップ学術集会, 大阪
38. 安藤祐吾, 稲葉宗夫, 坂口雄沢, 内田一茂, 松下光伸, 池原 進, 岡崎和一 (2007) 皮下脂肪組織由来幹細胞によるTNBS腸炎の治癒促進. 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患克服研究事業) 炎症性腸疾患の画期的治療法に関する臨床研究, 東京

病理学第二講座

〈研究概要〉

I. 高齡妊娠ラットの乳癌発生におよぼす影響

若齡初産婦は未産婦に比して乳癌の発生の抑制をみるが, 逆に35歳以上の初回妊娠は, 未産婦よりも乳癌の危険性を増す. しかし, 実験的に高齡ラットにおける妊娠の乳癌発生におよぼす影響については未だ検討をみない. ひとつには動物を高齡で妊娠させる困難さがあげられるが, 我々は妊娠期ホルモン環境を短期有効なエストロゲンとプロゲステロン (E/P) 製剤により作出することにより検討した. すなわち, 7週齡雌Lewisラットに50 mg/kg・*N*-methyl-*N*-nitrosourea (MNU) を腹腔内投与し, 24週齡時に3週間有効な徐放性E/P製剤投与ラットと非投与ラットの2群を作製し, ≥ 1 cm乳癌をみた個体を適宜屠殺し, 48週齡時に実験を終了した. その結果 ≥ 1 cm乳癌の発生率はE/P投与群では60%とE/P非投与群の44%より上昇し, 潜状期間は短縮 (28.7対34.6週) し, 微小乳癌も含めた全乳癌発生率で比較すると, E/P投与群では非投与群に比してラット当たりの乳癌個数は有意に増加した (1.8対0.8). 加うるに, E/P投与ラットに出現した ≥ 1 cm乳癌は, 有意にホルモン受容体 (ER/PgR) 陽性率が低く, コメド壊死をみるものが多く, 予後不良が示唆された. 若年ラットの妊娠あるいは短期E/P投与による乳癌の抑制はく

り返し再現されているが、今回高齢ラットに対する短期 E/P 投与による乳癌発生率の上昇をみると、出現した乳癌がヒトと同様に予後不良を示唆するホルモン非依存性のものが多く、かつコメド壊死を頻回にみたことはヒトに類似した有用なモデルと考える (原著-11)。

II. PARP阻害剤である3-aminobenzamideによるMNU誘発視細胞アポトーシスの制御

ニコチン酸アミドは多彩な薬理作用を有するが、我々はニコチン酸アミドが poly(ADP-ribose)polymerase (PARP) 阻害剤として作用し、MNU 誘発視細胞アポトーシスを完全に抑制することを実証した (Uehara et al., 2006)。そこで、特異的な PARP 阻害剤である 3-aminobenzamide による網膜傷害抑制効果につき、投与量、投与時期ならびにその機構につき検討した。50 週齢雌 Sprague-Dawley ラットに 60 mg/kg・MNU を単回腹腔内投与し、50, 30, 10, 5, 1, あるいは 0 mg/kg・3-aminobenzamide を同時に皮下投与したところ、用量依存性に網膜傷害を抑制し、30 あるいは 50 mg/kg 投与で有意な抑制をみた。次に 3-aminobenzamide を MNU 投与の 12 時間前、0, 4, 6, あるいは 12 時間後に皮下投与したところ、網膜傷害抑制は MNU との同時投与においてのみ認められた。さらに効果をみた 50 mg/kg・3-aminobenzamide を MNU と同時投与して NF- κ B の変動を 3-aminobenzamide 非投与群と比較すると、3-aminobenzamide 非投与群では MNU の傷害に平行して p (リン酸化)-NF- κ B 値の低下をみるのに対し、3-aminobenzamide 投与により、p-NF- κ B 値の保持をみたことは、病態制御には NF- κ B 値の持続的リン酸化の関与が示唆された (原著-3)。

III. MNU 誘発白内障における PARP 阻害剤の有効性

MNU 誘発網膜変性症に対してニコチン酸アミドや 3-aminobenzamide が有効であったため、同じ MNU 刺激により惹起される白内障に対するニコチン酸アミドや 3-aminobenzamide の有効性につき検討した。すなわち、15 日齢の雌雄の Sprague-Dawley ラットに 70 mg/kg・MNU を単回腹腔内投与して 50 mg/kg・3-aminobenzamide あるいは 1000 mg/kg・ニコチン酸アミドを同時投与した。ところが、これら PARP 阻害剤はむしろ白内障の程度を増悪することが判明し、同一の刺激に起因する細胞傷害に対しても、異なる細胞間では PARP 阻害剤の作用は異なることが判明した (原著-5)。

〈研究業績〉

原 著

1. Kurokawa I, Umeda K, Nishimura K, Yamanaka KI, Hakamada A, Isoda KI, Tsubura A and Mizutani H (2007) Filaggrin expression and the pathogenesis of epidermal cysts. *Br J Dermatol* 157: 415–416
2. Clayton N-P, Yoshizawa K, Kissling G-E, Burka LT, Chan P-C and Nyska A (2007) Immunohistochemical analysis of expressions of hepatic cytochrome P450 in F344 rats following oral treatment with kava extract. *Exp Toxicol Pathol* 58: 223–236
3. Miki K, Uehara N, Shikata N, Matsumura M and Tsubura A (2007) Poly (ADP-ribose) polymerase inhibitor 3-aminobenzamide rescues N-methyl-N-nitrosourea-induced photoreceptor cell apoptosis in Sprague-Dawley rats through preservation of nuclear factor-kappaB activity. *Exp Eye*

Res 84: 285–292

4. Shimano N, Uehara N, Kiyozuka Y, Shikata N and Tsubura A (2007) Effects of prepubertal indole-3-carbinol treatment on development of N-methyl-N-nitrosourea-induced mammary carcinomas in female Sprague-Dawley rats. *In Vivo* 21: 983–986
5. Miki K, Yoshizawa K, Uehara N, Yuri T, Matsuoka Y and Tsubura A (2007) PARP inhibitors accelerate N-methyl-N-nitrosourea-induced cataractogenesis in Sprague-Dawley rats. *In Vivo* 21: 739–744
6. Kurokawa I, Nishimura K, Yamanaka K-I, Mizutani H, Tsubura A and Revuz J (2007) Cytokeratin expression in squamous cell carcinoma arising from hidradenitis suppurativa (acne inversa). *J Cutan Pathol* 34: 675–678
7. Kurokawa I, Nakai Y, Nishimura K, Hakamada A, Isoda K, Yamanaka K, Mizutani H and Tsubura A

- (2007) Cytokeratin and filaggrin expression in nevus comedonicus. *J Cutan Pathol* 34: 338–341
8. Takemura H, Shim JY, Sayama K, Tsubura A, Zhu BT and Shimoi K (2007) Characterization of the estrogenic activities of zearalenone and zeranol in vivo and in vitro. *J Steroid Biochem Mol Biol* 103: 170–177
 9. Kurokawa I, Nishimura K, Tarumi C, Hakamada A, Isoda K, Mizutani H and Tsubura A (2007) Eccrine spiradenoma: co-expression of cytokeratin and smooth muscle actin suggesting differentiation toward myoepithelial cells. *J Eur Acad Dermatol Venereol* 21: 121–123
 10. Kurokawa I, Nishimura A, Hakamada A, Isoda K, Mizutani H, Murakami T, Tsubura A (2007) Rippled-pattern sebaceoma with an immunohistochemical study of cytokeratins. *J Eur Acad Dermatol Verneol* 21: 133–134
 11. Tsukamoto R, Mikami T, Miki K, Uehara N, Yuri T, Matsuoka Y, Okazaki K and Tsubura A (2007) N-methyl-N-nitrosourea-induced mammary carcinogenesis is promoted by short-term treatment with estrogen and progesterone mimicking pregnancy in aged female Lewis rats. *Oncol Rep* 18: 337–342
 12. Kurokawa I, Yokoyama T, Nishimura K, Hakamada A, Isoda K, Yamanaka K, Tsubura A and Mizutani H (2007) Pinkus tumor may originate from intraepidermal eccrine ducts and proliferate in the dermis. *Oncol Rep* 17: 49–54
 13. Koike Y, Adachi Y, Suzuki Y, Iwasaki M, Koike-Kiriyama N, Minamino K, Nakano K, Mukaide H, Shigematsu A, Kiyozuka Y, Tsubura A, Kamiyama Y and Ikehara S (2007) Allogeneic intrabone marrow-bone marrow transplantation plus donor lymphocyte infusion suppresses growth of colon cancer cells implanted in skin and liver of rats. *Stem Cells* 25: 385–391
 14. Walker NJ, Yoshizawa K, Miller RA, Brix AE, Sells DM, Jokinen MP, Wyde ME, Easterling M and Nyska A (2007) Pulmonary lesions in female Harlan Sprague-Dawley rats following two-year oral treatment with dioxin-like compounds. *Toxicol Pathol* 35: 880–889
 15. Yoshizawa K, Heatherly A, Malarkey DE, Walker NJ and Nyska A (2007) A critical comparison of murine pathology and epidemiological data of TCDD, PCB126, and PeCDF. *Toxicol Pathol* 35: 865–879
 16. 松岡洋一郎, 上原範久, 垪 貴司, 塚本麗子, 螺良愛郎 (2007) 経産乳腺の発癌刺激低感受性に関する研究. *乳癌基礎研* 16: 23–26
- ### 総 説
1. Matsuoka Y, Hamaguchi T, Fukamachi K, Yoshida M, Watanabe G, Taya K, Tsuda H and Tsubura A (2007) Molecular analysis of rat mammary carcinogenesis: an approach from carcinogenesis research to cancer prevention. *Med Mol Morphol* 40: 185–190
 2. Tsubura A, Yoshizawa K, Uehara N, Yuri T and Matsuoka Y (2007) Multistep mouse mammary tumorigenesis through pre-neoplasia to neoplasia and acquisition of metastatic potential. *Med Mol Morphol* 40: 9–17
 3. Matsuoka Y, Kawaguchi H, Yoshida H, Tsuda H, Tsubura A (2007) Rat mammary preneoplasia and neoplasia: a model for human breast cancer research. *Trends Cancer Res* 3: 1–13
 4. 深町勝巳, 津田洋幸, 松岡洋一郎 (2007) 毒性病理学の最近の話題 発がん高感受性ラットと毒性学. *病理と臨* 25: 736–743
- ### 症例報告
1. Miki K, Yuri T, Takeda N, Takehana K, Iwasaka T and Tsubura A (2007) An autopsy case of pseudoxanthoma elasticum: histochemical characteristics. *Med Mol Morphol* 40: 172–177
 2. Yuri T, Miki K, Tsukamoto R, Shinde A, Kusaka H and Tsubura A (2007) Autopsy case of desminopathy involving skeletal and cardiac muscle. *Pathol Int* 57: 32–36
- ### 学会発表
1. Kiyozuka Y, Takemoto K, Yamaoto A, Guttman P, Tsubura A and Kihara H (2007) X-ray imaging of cisplatin distribution in ovarian cancer cell in X-ray microscope. The 1st Int Cong of Inverse

Prob Int Assoc (AIP), Vancouver

2. 上原範久, 松岡洋一郎, 螺良愛郎 (2007) ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤の乳癌細胞増殖抑制におけるp38MAPK活性化の関与. 第30回日本分子生物学会, 横浜
3. 足立 靖, 垾 貴司, 松波光代, 田中喜壽, 中元 剛, 溝上友美, 鷹巢晃昌 (2007) 細胞診とセルブロックを用いた免疫染色で診断を確定した形質細胞腫の一例. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会, 仙台
4. 垾 貴司, 山崎文和, 鷹巢晃昌, 四方伸明, 螺良愛郎 (2007) 軀幹部皮膚に多発性丘疹をみた1例. 第39回日本病理学会近畿支部学術集会, 京都
5. Uehara N, Matsuoka Y and Tsubura A (2007) Mesothelin promotes anchorage independent growth and prevent anoikis via ERK pathway in human breast cancer cells. 第66回日本癌学会, 横浜
6. 垾 貴司, 近藤八重子, 頼 彦長, 兼松清果, 八尾隆治, 螺良愛郎 (2007) ミトコンドリア病に合併した肝機能障害の超微形態学的検討. 第48回日本組織細胞化学会・第39回日本臨床分子形態学会・合同学術集会, 山梨
7. 上原範久, 松岡洋一郎, 螺良愛郎 (2007) Mesothelin 過剰発現乳癌細胞株における足場非依存的増殖促進とERKシグナル経路を介したanoikis抑制機序. 第17回乳癌基礎研究会, 大阪
8. 頼 彦長, 塚本麗子, 三木克朗, 螺良愛郎 (2007) 高齢雌Lewisラットへの妊娠期ホルモン環境を模倣した短期エストロゲンとプロゲステロン処置によるN-methyl-N-nitrosourea誘発乳癌への影響. 第17回乳癌基礎研究会, 大阪
9. 垾 貴司, 足立 靖, 鷹巢晃昌, 田中喜壽, 松波光代, 赤松孝子, 四方伸明, 螺良愛郎 (2007) 原発および再発部より摂取された唾液腺導管癌の穿刺吸引細胞像. 第48回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 千葉
10. 黒川一郎, 西村啓介, 山中恵一, 袴田 新, 磯田憲一, 螺良愛郎, 水谷 仁 (2007) 表皮嚢腫におけるフィラグリンの発現. 第106回日本皮膚科学会, 横浜
11. 三木克朗, 高橋寛二, 北川チエミ, 埴本 慎, 木本高志, 西村哲哉, 松村美代, 坂井田紀子, 四方伸明, 上村芳子, 螺良愛郎 (2007) マイラゲル使用強膜内陥術後に発症した眼内炎の症例. 第111回日本眼科学会総会 (第42回臨床眼病理組織研究会), 大阪
12. 三木克朗, 義澤克彦, 上原範久, 螺良愛郎 (2007) MNU誘発白内障に対するPARP阻害剤の有効性. 第96回日本病理学会, 大阪
13. 松岡洋一郎, 深町勝巳, 上原範久, 垾 貴司, 津田洋幸, 螺良愛郎 (2007) 妊娠・出産による乳腺発癌抑制についての基礎的研究. 第96回日本病理学会, 大阪
14. 上原範久, 松岡洋一郎, 螺良愛郎 (2007) 過剰発現乳癌細胞株における足場非依存的増殖促進とanoikis抑制機構の解明. 第96回日本病理学会, 大阪
15. 垾 貴司, 塚本麗子, 上原範久, 松岡洋一郎, 螺良愛郎 (2007) エストロゲン・プロゲステロン投与による乳腺上皮におけるホルモン受容体の発現変化と乳腺発癌への影響. 第96回日本病理学会, 大阪

病理解剖

〈研究業績〉

原著

1. Koike-Kiriyama N, Adachi Y, Minamino K, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Yamada H, Mukaide H, Shigematsu A, Mizokami T, Matsumura M and Ikehara S (2007) Human cord blood cells can differentiate into retinal nerve cells. *Acta Neurobiol Exp* 67: 359-365
2. Mukaide H, Adachi Y, Koike-Kiriyama N, Suzuki Y, Minamino K, Iwasaki M, Tsuda M, Nakano K, Koike Y, Shigematsu A, Kamiyama Y and Ikehara S (2007) Immunotherapy for malignant tumors using combination of allogeneic intra-bone marrow-bone marrow transplantation, donor

lymphocyte infusion and dendritic cells. *Int J Oncol* 30: 1309-1315

3. Koike-Kiriyama N, Koike Y, Adachi Y, Mukaide H, Minamino K, Shigematsu A, Kamiyama Y, Matsumura M and Ikehara S (2007) Intra-bone marrow injection of dendritic cells for treatment of malignant tumor in mice. *J Exp Clin Cancer Res* 26: 337-342
4. Yoshihara T, Ohta M, Itokazu Y, Matsumoto N, Dezawa M, Suzuki Y, Taguchi A, Watanabe Y, Adachi Y, Ikehara S, Sugimoto H and Ide C (2007) Neuroprotective effect of bone marrow-derived mononuclear cells promoting functional recovery from spinal cord injury. *J Neurotrauma* 24: 1026-1036
5. Shigematsu A, Adachi Y, Koike-Kiriyama N, Suzuki Y, Iwasaki M, Koike Y, Nakano K, Mukaide H, Imamura M and Ikehara S (2007) Effects of low-dose irradiation on enhancement of immunity by dendritic cells. *J Radiat Res* 48: 51-55
6. Koike Y, Adachi Y, Suzuki Y, Iwasaki M, Koike-Kiriyama N, Minamino K, Nakano K, Mukaide H, Shigematsu A, Kiyozuka Y, Tubura A, Kamiyama Y and Ikehara S (2007) Allogeneic intrabone marrow-bone marrow transplantation plus donor lymphocyte infusion suppresses growth of colon cancer cells implanted in skin and liver of rats. *Stem Cells* 25: 385-391
7. Koike-Kiriyama N, Koike Y, Adachi Y, Mukaide H, Minamino K, Shigematsu A, Kamiyama Y, Matsumura M, Ikehara S (2007) Examination for adequate route to inoculate DC vaccine. *J Exp Clin Cancer Res* 26: 337-342
8. Matsui A, Okigaki M, Amano K, Adachi Y, Jin D, Takai S, Yamashita T, Kawashima S, Kurihara T, Miyazaki M, Tateishi K, Matsunaga S, Katsune A, Honshou S, Takahashi T, Matoba S, Kusaba T, Tatsumi T, Matsubara H (2007) Central role of calcium-dependent tyrosine kinase PYK2 in endothelial nitric oxide synthase-mediated angiogenic response and vascular function. *Circulation* 116: 1041-51

症例報告

1. 重松明男, 足立 靖, 小柳津治樹, 松本憲明, 桐山直子, 向出裕美, 今村雅寛, 福原資郎, 池原 進 (2007) 同種骨髄移植後に, 水痘带状疱疹ウイルス感染症から血栓性微小血管障害を発症したと考えられた1剖検例. *診断病理* 24: 348-354
2. 坂口雄沢, 榎 政彦, 足立 靖, 山本奈恵, 植村芳子, 川喜多繁誠, 鷹巢晃昌, 岡崎和一, 松田公志, 池原 進 (2007) 前立腺原発小細胞癌の1剖検例. *診断病理* 24: 93-96
3. 山本奈恵, 木下秀文, 井上貴昭, 川喜多繁誠, 大口尚基, 六車光英, 河 源, 坂口雄沢, 足立 靖, 坂井田紀子, 植村芳子, 松田公志 (2007) 内分泌療法中に小細胞癌に脱分化した前立腺癌の1例. *泌尿器科紀要* 53: 665-669

学会発表

1. 山東香織, 濱口記久子, 坂井仁美, 田口香利, 岡野公明, 本里智子, 岡本 久, 坂井田紀子, 植村芳子, 鷹巢晃昌 (2007) 胆汁細胞診で認めた悪性リンパ腫の2症例. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会, 仙台
2. 坂井仁美, 山東香織, 田口香利, 岡野公明, 濱口記久子, 坂井田紀子, 植村芳子, 鷹巢晃昌 (2007) 診断に苦慮した肺硬化性血管腫の1例. 第48回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 千葉
3. 光山俊行, 田橋賢也, 島谷昌明, 森 茂生, 岡崎 敬, 井上肇一, 谷口奈穂, 藤本正博, 坂井田紀子, 関 寿人, 岡崎和一 (2007) 十二指腸原発悪性リンパ腫の一例. 第78回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
4. 桐山直子, 足立 靖, 向出裕美, 重松明男, 池原 進 (2007) (NZWxBXSB) F1 マウス (W/BF1) は LPS に感受性である. 第96回日本病理学会総会, 大阪
5. 向出裕美, 足立 靖, 重松明男, 桐山直子, 上山泰男, 池原 進 (2007) ヒト大腸癌細胞におけるFKBP51の発現. 第96回日本病理学会総会, 大阪
6. 重松明男, 足立 靖, 竹谷 茂, 桐山直子, 向出裕美, 池原 進 (2007) ヒト正常細胞におけるサイトグロビンの発現の検討. 第96回日

本病理学会総会, 大阪

7. 向出裕美, 足立 靖, 鈴木康弘, 南野桂三, 岩崎真佳, 中野景司, 小池保志, 桐山直子, 重松明男, 上山泰男, 池原 進 (2007) 悪性腫瘍に対する新しい免疫療法—骨髓内骨髓移植 (IBM-BMT) と donor lymphocyte infusion (DLI) とドナー骨髓由来樹状細胞を用いて— 第107回日本外科学会定期学術集会, 大阪
8. 垠 貴司, 足立 靖, 鷹巢晃昌, 田中喜壽, 松波光代, 赤松孝子, 四方伸明, 螺良愛郎 (2007) 原発及び再発部より採取された唾液腺導管癌の穿刺吸引細胞像. (ポスター) 第48回臨床細胞学会総会春期大会, 千葉
9. Seiji Yanai, Yasushi Adachi, Ming Shi, Susumu Ikehara (2007) Intra-bone marrow injection of dendritic cells for treatment of malignant tumor in mice. 第37回日本免疫学会総会・学術集会, 東京
10. Ming Shi, Yasushi Adachi, Seiji Yanai, Susumu Ikehara (2007) FKBP51, which is expressed in both normal epithelial cells and adenocarcinoma cells in the colon, suppresses proliferation of colorectal adenocarcinoma. 第37回日本免疫学会総会・学術集会, 東京
11. Yasushi Adachi, Ming Shi, Seiji Yanai, Susumu Ikehara (2007) High sensitivity of (NZWxBXSB) F1 mice to lipopolysaccharide (LPS) is attributable to high-production of TNF- α by increased number of dendritic cells. 第37回日本免疫学会総会・学術集会, 東京
12. 加藤順子, 中澤孝夫, 村田健司, 藤本真由美, 倉和美, 溝上友美, 保坂直樹, 早瀬ヨネ子, 桜井孝規, 足立 靖 (2007) 転移巣の細胞診断と組織診断の組み合わせで確定された肺癌の1症例. 第46回臨床細胞学会秋期大会, 仙台
13. 足立 靖, 垠 貴司, 松波光代, 田中喜壽, 中本 剛, 溝上友美, 鷹巢晃昌 (2007) 細胞診とセルブロックを用いた免疫染色で診断を確定した形質細胞腫の一例. 第46回臨床細胞学会秋期大会, 仙台

微生物学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Gohda J, Irisawa M, Tanaka Y, Sato S, Ohtani K, Fujisawa J and Inoue J (2007) HTLV-1 Tax-induced NF κ B activation is independent of Lys-63-linked-type polyubiquitination. *Biochem Biophys Res Commun* 357: 225–230
2. Sekimoto G, Matsuzaki K, Yoshida K, Mori S, Murata M, Seki T, Matsui H, Fujisawa J and Okazaki K (2007) Reversible Smad-dependent signaling between tumor suppression and oncogenesis. *Cancer Res* 67: 5090–5096
3. Sugiura K, Taketani S, Yoshimura T, Nishino T, Nishino N, Fujisawa J, Hisha H, Inaba T and Ikehara S (2007) Effect of hepatocyte growth factor on long term hematopoiesis of human progenitor cells in transgenic-severe combined immunodeficiency mice. *Cytokine* 37: 218–226
4. Wang X, Hisha H, Cui W, Song C, Mizokami T, Okazaki S, Li Q, Feng W, Kato J, Jiang S, Fan H and Ikehara S (2007) The characteristics of hematopoietic stem cells from autoimmune-prone mice and the role of neural cell adhesion molecules in abnormal proliferation of these cells in MRL/lpr mice. *Haematologica* 92: 300–307
5. Matsuzaki K, Murata M, Yoshida K, Sekimoto G, Uemura Y, Sakaida N, Kaibori M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Fujisawa J, Okazaki K and Seki T (2007) Chronic inflammation associated with hepatitis C virus infection perturbs hepatic transforming growth factor beta signaling, promoting cirrhosis and hepatocellular carcinoma. *Hepatology* 46: 48–57
6. Yasui K, Miyazaki T, Matsuyama N, Kojima Y, Furuta RA, Fujisawa J, Tani Y, Shibata H, Sato S, Kato T, Ikeda H and Hirayama F (2007) Establishment of cell lines stably expressing HNA-1a, -1b, and -2a antigen with low background reactivity in flow cytometric analysis. *Transfusion* 47: 478–485

7. 保井一太, 宮崎 孔, 松山宣樹, 小島芳隆, 古田里佳, 藤澤順一, 谷 慶彦, 柴田弘俊, 佐藤進一郎, 加藤俊明, 池田久實, 平山文也 (2007) 顆粒球抗体検出用のHNA-1a, -1b, および-2a遺伝子発現パネル細胞株の作成. 日輸血細胞治療会誌 53: 558-565

学会発表

1. Jiang S-W, Inada T, Furuta RA and Fujisawa J-I (2007) Possible involvement of TORC2 in the transcriptional suppression of HTLV-1 in vivo. 第13回国際ヒトレトロウイルス HTLV 会議, Hakone
2. Miwa M, Kawazu Y, Konishi T, Shiokawa K, Nitta T, Yagami K-I, Sugimura H, Fujisawa J-I and Tanaka M (2007) HTLV-1 infection greatly modified the characteristics of radiation-induced lymphoma in mice. 第13回国際ヒトレトロウイルス HTLV 会議, Hakone
3. Tanaka M, Shiokawa K, Konishi T, Kawazu Y, Tsuda H, Fujisawa J-I and Miwa M (2007) Effect of Lactoferrin on HTLV-1 infection. 第13回国際ヒトレトロウイルス HTLV 会議, Hakone
4. 山田真生, 河津祐介, 田中正和, 藤澤順一, 三輪正直 (2007) DNA damageにおける中心体増幅を起こす経路の特定. 第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会合同大会, 横浜
5. 蔣 時文, 稲田武文, 藤澤順一 (2007) HTLV-1 の個体内発現制御における低酸素シグナルの関与. 第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生化学会大会合同大会, 横浜
6. 河津祐介, 田中正和, 小西智子, 長谷川翔, 鄭真美, 梶村春彦, 藤澤順一, 三輪正直 (2007) HTLV-1 感染マウスで放射線照射における腫瘍発生のメカニズムについて. 第55回日本ウイルス学会学術集会, 札幌
7. 手塚健太, 田中正和, 孫 鬢蓮, 植月太一, 藤澤順一, 三輪正直 (2007) HTLV-1 感染系におけるノイラミン酸の役割について. 第55回日本ウイルス学会学術集会, 札幌
8. 小西智子, 田中正和, 河津祐介, 鄭 真美, 長谷川翔, 藤澤順一, 三輪正直 (2007) HTLV-1 感染マウスにおける感染細胞のクローン増殖生について. 第55回日本ウイルス学会学術集会, 札幌
9. 蔣 時文, 藤澤順一 (2007) HTLV-1 の個体内発現制御における転写補助因子 TORC の関与. 第55回日本ウイルス学会学術集会, 札幌
10. 長谷川翔, 田中正和, 河津祐介, 三輪正直, 藤澤順一 (2007) In vivo イメージングを用いた Tax 発現細胞の個体内動態解析. 第55回日本ウイルス学会学術集会, 札幌
11. 鄭 真美, 田中正和, 小西智子, 河津祐介, 長谷川翔, 津田洋幸, 藤澤順一, 三輪正直 (2007) HTLV-1 感染におけるラクトフェリンの効果について. 第55回日本ウイルス学会学術集会, 札幌
12. 田中浩司, 田中正和, 酒井博幸, 藤澤順一, 三輪正直 (2007) Friend-MLV における組み込み過程での宿主DNA修復系 (PARP-1 及び PARP-2) の関与について. 第55回日本ウイルス学会学術集会, 札幌
13. 田中正和, 塩川くみ, 鄭 真美, 小西智子, 河津祐介, 津田洋幸, 藤澤順一, 三輪正直 (2007) HTLV-1 感染におけるラクトフェリンの効果について. 第66回日本癌学会学術総会, 横浜
14. 藤澤順一, 蔣 時文, 稲田武文 (2007) HTLV-1 の個体内発現制御における転写補助因子 TORC2 の関与. 第66回日本癌学会学術総会, 横浜
15. 三島伸介, 三宅真理, 浅井 梯, 加藤康幸, 金川修造, 濱田篤郎, 角田隆文, 藤澤順一, 西山利正 (2007) 旅行者下痢症の疫学調査. 大阪感染症流行予測調査会, 大阪

衛生学講座

〈研究概要〉

衛生学講座は大学院医学研究科で幹細胞生物学を担当している。このため幹細胞生物学に基づいて、主としてヒトの骨髄あるいは臍帯血に由来する組織幹細胞を用いるトランスレーショナルリサーチの展開を目指している。さらに、これらの基礎的研究成果を近い将来に細胞治療・再生医療に応用することと予防医学に貢献したいと考えている。

1) ヒト臍帯血由来CD34抗原陰性造血幹細胞の同定とその幹細胞特性の解明

最近、私達の研究グループは、独自に開発した骨髄腔内直接移植 (IBMI) 法を応用することにより、非常に効率的なヒト未分化造血幹細胞 (HSC) の同定法である SCID-repopulating cell (SRC) 測定系を開発した。本法を用いることにより、ヒト臍帯血中に極めて少数存在する CD34⁺ 抗原陰性造血幹細胞 (CD34⁻ HSC) の確実な同定に世界に先駆けて成功した (Blood 101: 2924-2931, 2003)。さらに、この CD34⁻ SRC が、*in vivo* における高い自己複製能と増殖能・遊走能を保持していることを明らかにしている (Int J Hematol 79: 328-333, 2004)。重要な発見は、従来、未分化な HSC に作用すると報告されていた stem cell factor, flt3 ligand 等のチロシンキナーゼ受容体である c-kit, flt3 が、われわれが同定した CD34⁻ SRC には発現していないことを明らかにしたことである (Blood 106(11): 235a, 2005)。以上の研究により、現時点でヒトの最も未分化な HSC の免疫特性は、Lin⁻CD45^{low}CD34⁻c-kit⁺flt3⁺ と考えられた (Stem cells 25: 1348-1355, 2007; J Autoimmunity 30: 136-144, 2008)。

その後の研究で、従来未分化 HSC とされていた CD34⁺CD38⁻ HSC と CD34⁻ HSC の未分化性について NOG マウスを用いる長期骨髄再構築実験系で検討した。その結果、われわれが同定した CD34⁻ HSC がより未分化な HSC であることが明らかにされた (投稿中)。

2) ヒト骨髄あるいは臍帯血に由来する組織幹細胞 (TCSC) の同定とその機能解析

ヒト骨髄あるいは臍帯血中には、HSC だけでなく間葉系幹細胞 (MSC)、あるいは多能性をもつ既知、未知の TCSC が存在している。われわれは、磁気ビーズ法や FACS を駆使することにより、ヒトの骨髄や臍帯血中に存在する多能性の TCSC の同定・純化法の開発・確立に取り組んできた。その過程で、ヒト臍帯血由来単核細胞を type I コラーゲン処理した培養皿中で EGM2 培地を加えて 1~2 週間培養し、cobblestone 様の late EPC (OEC) のコロニーを同定した。本細胞は、CD31, KDR, CD34 抗原陽性で Dil-Ac-LDL-uptake, UEA-1 lectin 結合能を示したことから OEC と確認された。現在、VEGF, IL-8 等に対する migration 能の解析や、matrigel 中での tube formation 等の機能解析を行っている (投稿中)。

3) 骨髄腔内直接移植法による新規マウス造血幹細胞の探索

ヒト臍帯血 Lin⁻CD34⁻ 細胞 (CD34⁻ SRC) は、強い SCID-repopulating cell (SRC) 活性を有し CD34⁺ SRC を産生することから、今後の移植・再生医療の素材として有望である。CD34⁻ SRC は CD34⁺ SRC と異なり、経静脈的移植 (Tail vein injection: TVI) 法ではなく、骨髄腔内直接移植 (Intra-bone marrow injection: IBMI) 法によってのみマウス骨髄に生着する。このような特性を持つマウス造血幹細胞 (HSC) の存在は過去に報告されていない。われわれは、IBMI 法によってマウス骨髄に生着する HSC の存在を探索するとともに、その特性を明らかにすることにより、希少な集団であるヒト CD34⁻ SRC の特性解明に役立てることを目指している。具体的には、ヒト SRC の経静脈的骨髄生着の責任因子として SDF-1 や SCF などが考えられ、これらの因子による直接的影響の及ばない HSC を、IBMI 法を用いることによって見出すことが出来るかどうか検討している。

4) 内分泌攪乱化学物質に関する研究

環境中に存在するエストロゲンと類似の作用を持つ化学物質の活性測定およびエストロゲン受容体を介した内分泌攪乱作用について研究を行った。特に、我々が日常的に摂取している食品に含まれる植物エストロゲンの内分泌攪乱作用の可能性およびその影響を明らかにするために、ホルモン応答性配列を含むレポータープラスミドを導入した動物細胞および酵母を用いた転写活性測定系を併用して、種々の植物由来食品に含まれる天然化学物質（植物エストロゲン）のエストロゲン活性の検索を試みた。この目的に最適な試料として、種々のハーブを単独あるいは混合で含む、市販ハーブティーに着目し、ハーブティー抽出液中のエストロゲン活性について分析を行った。その結果、ハーブティーのエタノール抽出液中に含まれる植物エストロゲンとして甘草を同定したが、通常のハーブティー摂取法である熱水抽出液中には甘草由来のエストロゲン活性は認められず、熱水抽出液中に含まれる植物エストロゲンとしてはペパーミントが最大のエストロゲン活性を示すことを見出し、*Eur Food Research & Technol* (225: 913-920, 2007) に発表した。

〈研究業績〉

原 著

1. Anderson K, Rusterholz C, Månsson R, Jensen CT, Bacos K, Zandi S, Sasaki Y, Nerlov C, Sigvardsson M and Jacobsen SE (2007) Ectopic expression of PAX5 promotes maintenance of biphenotypic myeloid progenitors coexpressing myeloid and B-cell lineage-associated genes. *Blood* 109: 3697-3705
2. Ueda Y, Itoh T, Fuji N, Harada S, Fujiki H, Shimizu K, Shiozaki A, Iwamoto A, Shimizu T, Mazda O, Kimura T, Sonoda Y, Taniwaki M and Yamagishi H (2007) Successful induction of clinically competent dendritic cells from granulocyte colony-stimulating factor-mobilized monocytes for cancer vaccine therapy. *Cancer Immunol Immunother* 56: 381-389
3. Kohno H, Kouda K, Tokunaga R and Sonoda Y (2007) Detection of estrogenic activity in herbal teas by in vitro reporter assays. *Eur Food Res Technol* 225: 913-920
4. Harada S, Kimura T, Fujiki H, Nakagawa H, Ueda Y, Itoh T, Yamagishi H and Sonoda Y (2007) Flt3 ligand promotes myeloid dendritic cell differentiation of human hematopoietic progenitor cells: possible application for cancer immunotherapy. *Int J Oncol* 30: 1461-1468
5. Kimura T, Asada R, Wang J, Kimura T, Morioka M, Matsui K, Kobayashi K, Henmi K, Imai S, Kita M, Tsuji T, Sasaki Y, Ikehara S and Sonoda Y (2007) Identification of long-term repopulating

potential of human cord blood-derived CD34-flt3-severe combined immunodeficiency-repopulating cells by intra-bone marrow injection. *Stem Cells* 25: 1348-1355

学会発表

1. 木村貴文, 浅田留美子, 木村 卓, 松岡由和, 長谷 真, 佐々木豊, 藺田精昭 (2007) ヒトCD34抗原陰性造血幹細胞のin vivo増殖分化動態とその未分化性の解明. 第69回日本血液学会総会, 横浜
2. 原田佐智夫, 木村貴文, 伊藤 剛, 上田祐二, 藺田精昭 (2007) Flt3 リガンドによるヒトPBSC由来DC前駆細胞の増幅とその機能解析. 第17回日本サイトメトリー学会総会, 浦安
3. 木村貴文, 浅田留美子, 木村 卓, 二宗みのり, 長谷 真, 佐々木豊, 藺田精昭 (2007) ヒトCD34抗原陰性未分化造血幹細胞の幹細胞特性の解明. 第17回日本サイトメトリー学会総会, 浦安
4. 藺田精昭 (2007) ヒト造血幹細胞の本体はどこまで解明されたのか—骨髓内骨髓移植の臨床的意義—. 第15回奈良県造血細胞移植研究会, 奈良
5. 河野比良夫, 石原敬康, 藺田精昭, 甲田勝康 (2007) 食餌制限: 絶食によるストレス関連遺伝子の発現誘導. 日本衛生学会, 大阪
6. 兼子裕人, 木村貴文, 藺田精昭, 松本洋典, 野村憲一, 堀池重夫, 横田昇平, 谷脇雅史, 大川原康夫 (2007) 低悪性度リンパ腫に対するin vivo purging を用いた自己末梢血幹細胞移

- 植. 第29回日本造血細胞移植学会総会, 福岡
7. 木村貴文, 浅田留美子, 木村 卓, 長谷 真, 佐々木豊, 藺田精昭 (2007) ヒトCD34抗原陰

性造血幹細胞の未分化性について. 第5回幹細胞シンポジウム, 淡路

公衆衛生学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Yoshida M, Sano K, Ishiyuki E, Nishiyama T and Fukunaga K (2007) Assessment of nutritional availability of selenium in selenium-enriched pumpkin. *Biomed Res Trace Elements* 19: 391–394
2. Yoshida M, Okada T, Namikawa Y, Matsuzaki Y, Nishiyama T and Fukunaga K (2007) Evaluation of nutritional availability and anti-tumor activity of selenium contained in selenium-enriched kaiware radish sprouts. *Biosci Biotechnol Biochem* 71: 2198–2205
3. Shibata SB, Osumi Y, Yagi M, Kanda S, Kawamoto K, Kuriyama H, Nishiyama T and Yamashita T (2007) Administration of amitriptyline attenuates noise-induced hearing loss via glial cell line-derived neurotrophic factor (GDNF) induction. *Brain Res* 1144: 74–81
4. Moriya H, Kuniminato T, Hosokawa M, Fukunaga K, Nishiyama T and Miyashita K (2007) Oxidative stability of salmon and herring roe lipids and their dietary effect on plasma cholesterol levels of rats. *Fish Sci* 73: 668–674
5. Okihashi M, Kitagawa Y, Obana H, Tanaka Y, Yamagishi Y, Sugitate K, Saito K, Kubota M, Kanai M, Ueda Y, Harada S and Kimura Y (2007) Rapid multiresidue method for determination of more 300 pesticide residues in food. *Food* 1: 101–110
6. Okihashi M, Takatori S, Kitagawa Y and Tanaka Y (2007) Simultaneous analysis of 260 pesticide residues in agricultural products by gas chromatograph-tandem mass spectrometer. *J AOAC Int* 90: 1165–1179
7. Ito K, Kimura Y, Tajika A, Fuchioka S, Iwasaka T and Nishiyama T (2007) Ultrasonographic

- changes of the knee joint cartilage associated with physical characterization in middle-aged women: 6-month observational survey. *J Phys Ther Sci* 19: 277–282
8. Ogata N, Matsuoka M, Matsuyama K, Shima C, Tajika A, Nishiyama T, Wada M, Jo N, Higuchi A, Minamino K, Matsunaga H, Takeda T and Matsumura M (2007) Plasma concentration of pigment epithelium-derived factor in patients with diabetic retinopathy. *J Clin Endocrinol Metab* 92: 1176–1179
 9. 堀伸二郎 (2007) 農薬ポジティブリスト制度施行と食品添加物への影響. *Foods & food ingredients journal of Japan* 212: 496–508
 10. 堀伸二郎 (2007) 油症 40年の歩み. *食衛誌* 48: J223–J228
 11. 柿本幸子, 高取 聡, 北川幹也, 吉光真人, 北川陽子, 岡本 葉, 起橋雅浩, 小西良昌, 尾花裕孝, 村田 弘, 住本建夫, 田中之雄, 福島成彦, 堀伸二郎 (2007) 国産野菜および果実中の残留農薬の汚染実態—平成13年度～平成18年度—. *大阪公衛研報* 45: 37–42
 12. 北川陽子, 起橋雅浩, 尾花裕孝, 阿久津和彦, 柿本幸子, 岡本 葉, 高取 聡, 小西良昌, 村田 弘, 住本建夫, 堀伸二郎, 田中之雄 (2007) 輸入農産物中の残留農薬の調査結果 (平成11年度～平成18年度). *大阪公衛研報* 45: 29–36
 13. 柴田清児ブルース, 八木正夫, 大隅泰則, 神田靖士, 西山利正, 河本光平, 朝子幹也, 栗山博道, 山下敏夫 (2007) アミトリプチリンの音響外傷に対する内耳保護作用. *頭頸自律神* 21: 19–21
 14. 三宅眞理, 田近亜蘭, 保津真一郎, 西山利正 (2007) アクチグラフから評価した介護施設入居者と独居高齢者の睡眠・覚醒リズム. *日健医会誌* 16: 60–61
 15. 津久井要, 古賀才博, 本多瑞枝 (2007) 海外

赴任者のメンタルヘルスに及ぼす諸要因に関する質問紙による検討. 日職災医学会誌 55: 別202

16. 上田照子, 荒井由美子, 西山利正 (2007) 在宅要介護高齢者を介護する息子による虐待に関する研究. 老年社会科学 29: 37-47
17. Ishida T, Yamamoto K, Amano H, Nishiyama T, Fukunaga K, Phounsavath S, Phanmanivong V (2007) Study on the Character of Mebendazole Tablets Available in IndoChina Peninsula. Clin Parasitol 17(1): 117-121
18. 高取 聡, 岡本 葉, 北川陽子, 柿本幸子, 村田 弘, 住本建夫, 起橋雅浩, 田中之雄 (2007) 農産物中の残留農薬検査に用いる新規一斉分析法. 大阪公衛研報 45: 67-78
19. 岡本 葉, 高取 聡, 起橋雅浩, 柿本幸子, 阿久津和彦, 北川陽子, 尾花裕孝, 村田 弘, 住本建夫, 田中之雄 (2007) 1993～2006年度に実施した柑橘類中における防かび剤の残留実態調査. 大阪公衛研報 45: 23-28
20. 三島伸介, 三宅眞理, 浅井 悌, 加藤康幸, 金川修造, 濱田篤郎, 角田隆文, 藤澤順一, 西山利正 (2007) 旅行者下痢症の疫学調査. 平成18年度大阪感染症流行予測調査会報告書第42報: 11-15

総 説

1. 三宅眞理 (2007) 「こころとからだの健康長寿」ダイバーシナルセラピー (3). E.E.O.A. Topics 27: 7-8
2. 西山利正 (2007) 旅行医学／渡航医学. Medico 38: 95-99
3. 西山利正 (2007) 海外渡航と感染症予防—予防接種・予防内服—. O.H.P. News 49: 17-19
4. 古賀才博 (2007) 「病気をもちながらどこまで働けるか—疾病と就労の臨床判断—」感染症インフルエンザ. 臨病理レビュー 139: 147-159

症例報告

1. 山中滋木, 堀尾 武, 植村芳子, 石田高明, 西山利正 (2007) マンソン孤虫症の1例. 皮膚科 6: 38-43

学会発表

1. Koga T, Fukushima S, Nishiyama T and Hamada A (2007) Survey of influenza pandemic preparedness plans among Japanese companies. 10th Conference of the International Society of Travel Medicine, Canada
2. Fukunaga K, Nishiyama T, Hosomi R, Arai H and Yoshida M (2007) Effect of fish oil and protein on azoxymethane-induced preneoplastic lesions in the mouse colon. 6th JOCS-JOCS Joint Meeting, Canada
3. Lamaningao P, Sone K, Sugiura Y, Akkhavong S, Bilakoun S and Nishiyama T (2007) An interim report for learning from “Health Notebook” on health seeking behavior at villages in Lao PDR. The 22nd Annual Meeting of Japan Association for Health, Osaka
4. Shibata S, Osumi Y, Yagi M, Kanda S, Kawamoto K, Kuriyama H, Nishiyama T and Yamashita T (2007) Administration of amitriptyline attenuates noise-induced hearing loss via glial cell line-derived neurotrophic factor (GDNF) induction. 第30回ARO midwinter meeting, Denver
5. 田近亜蘭, 西山利正, 木下利彦 (2007) 予約制導入前後の外来初診患者の比較. 第20回総合病院精神医学会, 北海道
6. 大岡久司, 神田靖士, 鈴木裕子, 美島健二, 齊藤一郎, 西山利正 (2007) 聴覚伝導路における組織幹細胞の同定. 第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生物学会大会, 横浜
7. 古賀才博 (2007) 海外勤務者の健康管理—その現状と問題点—. 第17回日本産業衛生学会, 産業医・産業看護全国協議会, 東京
8. 三宅眞理, 田近亜蘭, 保津真一郎, 西山利正 (2007) アクチグラフTMから評価した介護施設入居者と独居高齢者の睡眠・覚醒リズム. 第17回日本健康医学会総会, 東京
9. 古賀才博, 西山利正, 濱田篤郎 (2007) 上海, 蘇州, 青島へ進出している日系企業のインフルエンザ対策に関する調査. 第48回日本熱帯医学会大会, 大分
10. 黒田真里子, 天野博之, 三島伸介, Lamaningao Phephet, 古賀康史, Phanmanivong Viengsavanh, 西山利正 (2007) Lao PDP Khammouane 県にお

- ける疾病状況調査. 第48回日本熱帯医学会大会, 大分
11. 三島伸介, 神田靖士, Phounsavath Somphone, Sylavanh Phannasinh, Phanmanivong Viengsavanh, 天野博之, 西山利正 (2007) ラオス人民民主共和国における活動性結核のスクリーニング検査有効性の検討. 第48回日本熱帯医学会大会, 大分
 12. 林猪都子, 神田靖士, 石田高明, 西山利正 (2007) ヒト回虫と潰瘍性大腸炎 (UC) に関する研究 (3) —ヒト回虫と小腸におけるMucin12の局在部位の検討—. 第48回日本熱帯医学会大会, 大分
 13. 上田照子, 荒井由美子, 西山利正 (2007) 在宅要介護高齢者における息子による虐待に関する研究. 第66回日本公衆衛生学会総会, 松山
 14. 仁木 稔, 西山利正 (2007) 中華人民共和国大連市における在留邦人の心身医学的状況. 第66回日本公衆衛生学会総会, 松山
 15. 重永哲也, 寺澤真二, 伏原 忍, 大野健介, 松川明博, 堀伸二郎 (2007) 食品サンプルの違いによる農薬一斉分析への影響. 第94回日本食品衛生学会学術講演会, 静岡
 16. 大岡久司, 神田靖士, 鈴木裕子, 西山利正, 山下敏夫 (2007) 聴覚伝導路における組織幹細胞の同定. 第25回頭頸部自律神経研究会, 大阪
 17. 吉本陽二 (2007) 痛みと日常生活動作, 睡眠障害, 罹病期間, 抑うつ, 不安との関連について. 第42回日本理学療法学術大会, 新潟
 18. 樋口由美, 長野 聖, 淵岡 聡, 奥田邦晴, 林義孝 (2007) 身体機能, 生活機能, 転倒リスクに対する身体的および認知機能のトレーニング効果. 第42回日本理学療法学術大会, 新潟
 19. 古賀才博, 田近亜蘭, 西山利正, 濱田篤郎 (2007) 米国および中国に赴任した日本人勤務者と国内勤務者の健康診断データの比較検討. 第80回日本産業衛生学会, 大阪
 20. 起橋雅浩, 高取 聡, 北川陽子, 田中之雄 (2007) 食品中の残留農薬分析におけるGC/MS/MSの活用. 日本食品衛生学会第93回学術講演会, 東京
 21. 堀伸二郎 (2007) 有機ハロゲン化学物質 (PCDD/DFs, PBDEs) の食事を介したヒトへのリスク評価. 日本薬学会第127年会, 富山
 22. 三島伸介, 西山利正 (2007) 北京医療事情. 第14回びわ湖国際医療フォーラム, 大津
 23. 西山利正 (2007) 狂犬病の予防ワクチンと治療. 第14回びわ湖国際医療フォーラム, 大津
 24. 高橋信佳, 三宅眞理, 田嶋佐和子, 仁木 稔, 日根かがり, 木下藤寿, 木村 稔, 西山利正 (2007) 「行動変容追求型」ヘルスツーリズムの効果の検討 和歌山県「熊野健康村・熊野で健康ウォーキング」の取り組み. 第14回日本行動医学会学術総会, 三重

著 書

1. 田近亜蘭, 仁木 稔 (2007) 海外赴任者とその配偶者の精神的問題. 海外赴任者とその家族のメンタルヘルス (西山利正監修) 1-36頁, 社団法人 日本在外企業協会海外安全センター, 東京
2. 西山利正 (2007) 4. 原虫症, 寄生虫症 鉤虫症 (十二指腸虫症). 今日の治療指針2007年度版 (山口徹, 北原光夫, 福井次矢編), 49, 182-183頁, 医学書院, 東京
3. 三宅眞理 (2007) ダイバジショナル・セラピー. 自己を語る身体表現 (谷 祝子編) 250-265頁, 冬弓舎, 京都

法医学講座

〈研究概要〉

(1) ミトコンドリアDNA rRNA遺伝子の解析による動物種判定法の開発

法科学鑑定で重要な人獣鑑別 (動物種判定) 法として, ユニバーサルプライマーを用いたミトコンドリアDNAの12S・16S rRNA領域の解析法の確立について検討した. 各動物種250種 (脊索動物150種, 棘皮動物5種, 節足動物65種, 軟体動物29種, 刺胞動物1種) の組織から抽出したDNAを試料として検討したところ, 12S領域では脊索動物に, 16S領域では脊索動物に加えて多くの他の動物種の遺伝子を検出

して識別することが可能だった。

(2) 胃内容を用いた Triage 検査の有用性の検討

尿を対象とした濫用薬物簡易検査キットの Triage は簡単かつ短時間で実施できることから法医学分野や臨床現場で薬物検査に多用されている。しかし急性中毒の初期では薬物の尿中濃度が検出下限値に達しておらず偽陰性となる場合もある。実際の薬物経口摂取で、尿で陰性、胃内容で陽性となった事例があり、胃内容を用いる Triage 検査の有用性を報告した。胃内容や血清を試料に用いる上での注意点として、薬物抽出操作を行わないと偽陽性になる可能性があることも判明した。

(3) 尿糖によるアルコール産生の可能性の検討

アルコール検査は法医学実務上重要であるが、検査結果の評価上の留意点として死後の拡散や分解、腐敗による死後産生がある。それ以外に糖尿病患者の尿中から飲酒によらない高濃度のアルコールが検出された事例があり、尿糖が存在する場合は腐敗とは別に膀胱内でアルコール発酵が起こる可能性があることを実験的に証明した。

(4) p-ヒドロキシメタンフェタミンの抽出法と分析法の検討

覚せい剤メタンフェタミンの代謝物である p-ヒドロキシメタンフェタミン (p-OHMA) を指標とした覚せい剤濫用検査法の開発のために、NaCl-アセトニトリル抽出法による p-OHMA の抽出効率について検討した。p-OHMA はアセトニトリル相に 45%、水相に 55% 移行し、高速液体クロマトグラフ分析では水相、ガスクロマトグラフ質量分析ではアセトニトリル相を試料として用いると簡便であった。アセトニトリル相に飽和 NaCl 水溶液を加えて再抽出すると夾雑物質の除去に効果が認められた。また、高速液体クロマトグラフ（電気化学検出器または紫外吸光度検出器）を用いて簡便かつ特異的に分析可能であるかを検討したところ、分析条件として加電圧 +1,000 mV または波長 220 nm が最適で、検出限界は 5 μ l 注入した場合にそれぞれ 2 ng/ml と 0.12 μ g/ml で、直線性のある検量線が得られた。電気化学検出器では特異的に p-OHMA を検出することが可能だった。p-OHMA は覚せい剤取締法で規制されていないため、覚せい剤研究の許可を得ていない機関や設備が整っていない施設でも覚せい剤を間接的に分析でき、社会的にも有意義な研究と思われる。

(5) 脳波自動解析システムの脊髄自動反射を認めた脳死症例への応用

脳死症例で脊髄自動反射が認められる場合があり、外観からは脳死か否か判定が困難となる。従来から脳死患者に試行してきた脳波自動解析システムを脊髄自動反射が疑われる症例の解析に導入したところ、各部位の脳波が平坦であると判定され、客観的に脳死と診断することが可能であった。

(6) 膀胱壁を用いた凝集素解離試験による ABO 式血液型判定

ヒト由来ポリクローナル抗体が市販されていないために従来行われてきた毛髪からの血液型判定が困難となり、動物由来のポリクローナル抗体を用いて爪および脳硬膜で ABO 式血液型判定を実施しているが、脳硬膜と同様に比較的腐敗しにくい膀胱壁も ABO 式血液型判定の試料として使用可能であることを確認し、実際の剖検例に応用している。

(7) 溺死判定のためのプランクトン検査法における食品の影響

溺死例で、胃内容中から検出されたプランクトンが食品由来である可能性が疑われた事例があった。そこでイリコ、チリメンジャコ、シジミなどの水産物を分析したところ、プランクトンが含有されていることを確認し、プランクトン検査で留意すべきであることを報告した。

〈研究業績〉

症例報告

1. 吉田 学, 赤根 敦, 三谷友亮 (2007) 胃内容を用いた Triage 検査が死因判定に有効であった一部検例. 法医の実際と研 50: 181-185
2. 吉田 学, 赤根 敦 (2007) 尿中に高濃度エタノールを検出した一事例. 法医の実際と研 50: 175-179

学会発表

1. 吉田 学, 赤根 敦, 西川眞弓, 片木宗弘, 土橋 均 (2007) ECD-HPLC によるパラヒドロキシメタンフェタミンの分析. 第13回日本法科学技術学会, 東京
2. 沖井 裕, 赤根 敦, 吉村澄孝, 時安太久磨, 小林哲哉, 三田友亮, 吉田 学 (2007) 凝集素解離試験による膀胱壁からの ABO 式血液型判定 (2). 第54回日本法医学会近畿地方会, 大津
3. 吉田 学, 赤根 敦, 沖井 裕, 時安太久磨, 吉村澄孝, 西川眞弓, 片木宗弘, 土橋 均 (2007) フォトダイオードアレイ検出器-HPLC による p-hydroxymethamphetamine の検

出. 第54回日本法医学会近畿地方会, 大津

4. 三谷友亮, 赤根 敦 (2007) ミトコンドリア DNA rRNA の部分塩基配列を用いた動物種の識別. 日本DNA多型学会第16回学術集会, 大阪
5. 沖井 裕, 赤根 敦, 河本圭司, 岩瀬正顕, 吉村澄孝, 時安太久磨, 吉田 学 (2007) 脊髄自動反射を認めた脳死症例の脳波解析. 第91次日本法医学会総会, 秋田
6. 吉村澄孝, 赤根 敦, 吉田 学, 沖井 裕, 時安太久磨, 三谷友亮, 小林哲哉 (2007) 食品中に混入している珪藻. 第91次日本法医学会総会, 秋田
7. 吉田 学, 赤根 敦, 吉村澄孝, 時安太久磨, 沖井 裕 (2007) 簡易ホルマリン検査キットによる臓器固定液中のホルマリン濃度測定の検討 (第一報) 臓器種類との関係. 第91次日本法医学会総会, 秋田

著 書

1. 三谷友亮, 赤根 敦 (2007) 温度勾配電気泳動法による mtDNA HV1 領域の同一性比較法. DNA多型 Vol. 15 (日本DNA多型学会編) 264-267頁, 東洋書店, 東京

分子遺伝学部門

〈研究概要〉

接着分子インテグリンは免疫細胞の血管内皮, 抗原提示細胞, 細胞外マトリックス等への接着を媒介し, リンパ球のホーミング, 抗原認識, 細胞移動に重要な役割を果たしている. リンパ球インテグリンは刺激に応じてダイナミックに接着性が変化することが特徴である. この接着制御には低分子量 G タンパク質 Rap1 とそのエフェクター分子 RAPL が関与していることを明らかにしてきた. このシグナル伝達は細胞極性と連動して, LFA-1 の空間的制御を行っている点が特徴として挙げられる. Rap1-RAPL シグナルによるインテグリン接着の分子機構の解明と, このシグナル改変によって免疫細胞の動態, 増殖, 分化, 機能がどのような影響をうけるか, また, 炎症アレルギー, 自己免疫疾患などの免疫病との関連を調べるのが主要なテーマである.

最近の研究成果:

Rap1 とそのエフェクター分子 RAPL によるインテグリン制御機構を明らかにするために, RAPL 会合分子を酵母 two-hybrid 法を用いて, Ste20-like キナーゼに属する Mst1 を同定した. Mst1 は RAPL の coiled-coil 領域に結合し, キナーゼ活性が増強する. 会合とキナーゼ活性は活性化型 Rap1 によって亢進し, また, T リンパ球をケモカイン, 抗原架橋刺激すると, Mst1 が活性化するのに対して, RAPL 欠損 T リンパ球では活性化が著しく減少することから, Mst1 は RAPL 依存的に活性化することが判明した. Mst1 を過剰発

現させると先端膜と uropod が生じ, LFA-1 が先端膜に集積し, 接着がキナーゼ活性依存的に亢進する. リンパ球の Mst1 を knockdown するとこれらの効果が阻害された. Rap1-RAPL シグナルによる LFA-1 接着と細胞極性に Mst1 が重要であることが明らかになった.

RAPL 欠損マウスはリンパ球ホーミング機能障害によって, リンパ節の T, B リンパ球数が低下している. リンパ球接着カスケードにおける Rap1-RAPL の機能を灌流下血管内皮接着系, 生体内顕微鏡を用いて調べた. Rap1 はケモカインによって誘導される LFA-1, $\alpha 4 \beta 7$ を介する停止接着に重要であり, RAPL は停止接着以降におこる強固な接着に必要であった. LFA-1 の $\beta 2$ 細胞内領域が停止接着を制御し, αL 鎖が強固な接着に必要であった. Rap1-RAPL シグナルはこれらの領域を介して, リンパ球の血管内皮接着を制御している. さらに 2 光子レーザー顕微鏡を用いて, リンパ節組織内のリンパ球移動を解析したところ, RAPL 欠損 T, B リンパ球は移動速度が遅く, 移動距離が低下していたことから, 組織内移動に RAPL が重要であることがわかった (投稿中). 以上の研究により, Rap1-RAPL シグナルは Mst1 を介して, リンパ球の細胞極性と LFA-1 の局在を調節し, 血管内皮接着と組織内移動に重要な役割を果たしていることが明らかになった. 現在, RAPL, Mst1 の遺伝子改変マウスを用いて, リンパ球の増殖, 分化への影響, 自己免疫との関連を解析しており, インテグリン制御と細胞増殖・分化との協調的制御のメカニズムや自己免疫, リンホーマ発症に関与することを明らかにしつつある.

〈研究業績〉

原著

1. Yoshikawa Y, Satoh T, Tamura T, Wei P, Bilasy SE, Edamatsu H, Aiba A, Katagiri K, Kinashi T, Nakao K and Kataoka T (2007) The M-Ras-RA-GEF-2-Rap1 pathway mediates tumor necrosis factor- α dependent regulation of integrin activation in splenocytes. *Mol Biol Cell* 18: 2949-2959
2. Wang L, Kurosaki T and Corey SJ (2007) Engagement of the B-cell antigen receptor activates STAT through Lyn in a Jak-independent pathway. *Oncogene* 26: 2851-2859
3. 片桐晃子, 木梨達雄 (2007) 免疫学 接着分子による免疫細胞動態調節 (Rap1-RAPL と STK4/Mst1). *医のあゆみ* 220: 656-657

総説

1. Kinashi T (2007) Integrin regulation of lymphocyte trafficking: lessons from structural and signaling studies. *Adv Immunol* 93: 185-227
2. Katakai T and Shimizu A (2007) The network of fibroblastic reticular cells in the lymph node: Functional framework for immune surveillance. *Curr Immunol Rev* 3: 251-257
3. 木梨達雄 (2007) 低分子量 G 蛋白質 Rap1 による

インテグリンの制御. 蛋・核・酵 52: 1465-1471

学会発表

1. Katagiri K (2007) Spatiotemporal regulation of STK by RAPL is critical for lymphocyte polarity and adhesion. Gordon Research Conference: Mechanisms of Cell Signaling, Oxford
2. Kinashi T, Katagiri K and Ebisuno Y (2007) The Rap1-RAPL-Mst1 signaling. Gordon Research Conference: Mechanisms of Cell Signaling, Oxford
3. Kinashi T, Katagiri K and Ebisuno Y (2007) Roles of Rap1-RAPL signaling in lymphocyte adhesion. Bonner Forum Biomedizin Symposium Cell Adhesion in the Immune System, Bonn
4. Katagiri K (2007) Regulation of lymphocyte adhesion and migration by Rap1/RAPL/Mst1 signaling. Aso International Meeting, Thrombosis, Hemostasis, and Vascular Science 2007, 阿蘇
5. Kinashi T, Katagiri K and Ebisuno Y (2007) Regulation of integrin-dependent lymphocyte adhesion by RAPL signaling. The second International Symposium on Immune surveillance, 東京

内科学第一講座

〈研究概要〉

樹状細胞は生体に広く分布し、抗原特異的にT細胞を活性化、免疫応答を誘導する抗原提示細胞であり、近年免疫ネットワークを多方面から統御する細胞として注目を浴びている。樹状細胞は、自然免疫賦活剤として、抗腫瘍免疫療法の臨床試験も開始されてるが、臨床疾患における樹状細胞の側面からの免疫学的アプローチはHIV感染症等ごく限られた疾患においてのみなされており、樹状細胞と各臨床疾患との関わり、特に免疫異常を来す病態においての樹状細胞の関わりは未解明のままである。

樹状細胞は、その単離が難しいこと、生体内各組織における分布細胞密度が必ずしも高くはないことなどにより、ヒトにおいては正常状態での解析も十分にこなされていなかった。しかしながら、我々が確立した方法により末梢血を循環する樹状細胞をそのままの状態で解析することが可能になり、これらを用いて、我々は、免疫異常を呈する難治性疾患の病態を、樹状細胞の性状と機能の面から解析することにより、これまで不明とされていた疾患の病態を把握し、さらには治療に役立つ戦略の確立を目的とし現在研究を行っている。

血液部門：

同種造血幹細胞移植は、血液疾患の治療のみならず他の固形癌に対する治療戦略の一つとなりうる事が示されつつあり、今後ますます重要な治療法になると考えられる。同種造血幹細胞移植の中心理念はアロ抗原や腫瘍抗原に対する免疫反応による腫瘍根絶（graft-versus-tumor effect）であるが、この免疫反応は両刃の剣でありhostの組織障害性に作用し、しばしば致命的となるGVHD（graft-versus-host disease）が依然大きな問題となっている。当教室では同種造血幹細胞移植に関連して生じるこれらのダイナミックな免疫系の動態を多角的に解析することにより、graft-versus-tumor effectとGVHDの発生機序およびその相違を明らかにし、より効果的に前者を誘導し同時に後者を抑制する新しい治療戦略の開発を目的として検討を行っている。同種造血幹細胞移植を受けた造血器腫瘍患者では急性GVHD発症時にはミエロイド系樹状細胞とリンパ系樹状細胞の双方が末梢血において著しく減少していることを明らかにした。GVHD組織の免疫染色により、この減少は組織への能動的な動員によることが示された。これはドナーの樹状細胞がアロ抗原を提示することにより急性GVHDを惹起する可能性を示唆している。一方、慢性GVHD発症時には急性GVHDでみられたような末梢血樹状細胞の減少は認めなかった。しかしながら移植後慢性期にある患者では慢性GVHDの発症の有無に関わらずIFN- γ およびTNF- α 産生性のエフェクターT細胞の増加を認めた。これらの患者では腫瘍の再発を認めていないことより、これらのエフェクターT細胞がgraft-versus-tumor effectを担っている可能性がある。また興味深いことに慢性GVHDの発症時にはIL-4産生性のCD8+T細胞が必ず出現することが明らかとなった。すなわちこのIL-4産生性のCD8+T細胞は慢性GVHDの発症病態に深く関わっていることが示唆される。

呼吸器部門：

肺結核は高齢者のみならず、多くの若年者にも発症者が報告されており、現在最も重要視されている感染症のひとつである。結核菌に対する感染防御機構については、現在までに多くの研究がなされているが、当教室では抗原提示細胞として感染防御に重要である樹状細胞に焦点を当て検討を行っている。私たちはこれまで、肺結核患者では末梢血のミエロイド系樹状細胞が減少し選択的に結核組織に移行しTh1応答を誘導していることを見いだした。また私たちは、結核と同様の肉芽腫性疾患に属するサルコイドーシスに注目し、その発症・疾患の進展の機序を、樹状細胞を含めた免疫応答のシステムの観点から解析することを試みている。サルコイドーシス患者ではミエロイド系樹状細胞のみならずリンパ系樹状細胞も末梢血において著しく減少していることを突き止めている。すなわち、同じ肉芽腫性疾患でも結核とサルコイドーシスでは樹状細胞の動態が異なることが明らかにされた。

免疫部門：

近年における免疫学の進展は著しく、その中でも当科が注目し研究対象としている樹状細胞は、生体免疫応答の要に位置する極めて重要な細胞といえ、各種感染症に対する防御免疫を担う中心的な存在として位置づけられる一方で、炎症性アレルギー性疾患、自己免疫疾患、悪性腫瘍等の発症・進展のメカニズムにおいても重要な意味をもつことが明らかにされつつある。また樹状細胞によって制御されているエフェクターT細胞もTh1, Th2, regulatory Tなどの亜群により様々な疾患病態に関与すると考えられている。我々はヒト樹状細胞亜群ならびに制御性T細胞を含むエフェクターT細胞亜群の解析を行っており、ヒトにおける免疫制御機構のデータを蓄積している。これらの結果から我々は免疫異常を呈する難治性疾患の病態解明、さらには治療に役立つ戦略の確立を目的とし日々、研究を行っている。

〈研究業績〉

原 著

1. Yamauchi A, Fujita S, Ikeda J, Nakamichi I, Fukuhara S, Hino M, Kanakura Y, Ogawa H, Sugiyama H, Kanamaru A and Aozasa K (2007) Diffuse large B-cell lymphoma in the young in Japan: a study by the Osaka Lymphoma Study Group. *Am J Hematol* 82: 893–897
2. Nakamichi I, Tomita Y, Zhang B, Sugiyama H, Kanakura Y, Fukuhara S, Hino M, Kanamaru A, Ogawa H and Aozasa K (2007) Correlation between promoter hypermethylation of GSTP1 and response to chemotherapy in diffuse large B cell lymphoma. *Ann Hematol* 86: 557–564
3. Asou N, Kishimoto Y, Kiyoi H, Okada M, Kawai Y, Tsuzuki M, Horikawa K, Matsuda M, Shinagawa K, Kobayashi T, Ohtake S, Nishimura M, Takahashi M, Yagasaki F, Takeshita A, Kimura Y, Iwanaga M, Naoe T and Ohno R (2007) A randomized study with or without intensified maintenance chemotherapy in patients with acute promyelocytic leukemia who have become negative for PML-RARalpha transcript after consolidation therapy: the Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG) APL97 study. *Blood* 110: 59–66
4. Matsumoto M, Kawa K, Uemura M, Kato S, Ishizashi H, Isonishi A, Yagi H, Park Y-D, Takeshima Y, Kosaka Y, Hara H, Kai S, Kanamaru A, Fukuhara S, Hino M, Sako M, Hiraoka A, Ogawa H, Hara J and Fujimura Y (2007) Prophylactic fresh frozen plasma may prevent development of hepatic VOD after stem cell transplantation via ADAMTS13-mediated restoration of von Willebrand factor plasma levels. *Bone Marrow Transplant* 40: 251–259
5. Yanada M, Matsushita T, Asou N, Kishimoto Y, Tsuzuki M, Maeda Y, Horikawa K, Okada M, Ohtake S, Yagasaki F, Matsumoto T, Kimura Y, Shinagawa K, Iwanaga M, Miyazaki Y, Ohno R and Naoe T (2007) Severe hemorrhagic complications during remission induction therapy for acute promyelocytic leukemia: incidence, risk factors, and influence on outcome. *Eur J Haematol* 78: 213–219
6. Xu JX, Morii E, Liu Y, Nakamichi N, Ikeda J, Kimura H and Aozasa K (2007) High tolerance to apoptotic stimuli induced by serum depletion and ceramide in side-population cells: high expression of CD55 as a novel character for side-population. *Exp Cell Res* 313: 1877–1885
7. Li C, He Y, Feng X, Inaba M, Adachi Y, Takada K, Zhang Y, Yamamoto Y, Wu X, Cui Y, Iwasaki M, Hisha H, Hosaka N, Taira M, Minamino K, Suzuki Y, Nakano K, Fukui J, Ueda Y, Koike Y, Tsuda M and Ikehara S (2007) An innovative approach to bone marrow collection and transplantation in a patient with beta-thalassemia major: marrow collection using a perfusion method followed by intra-bone marrow injection of collected bone marrow cells. *Int J Hematol* 85: 73–77
8. Tanijiri T, Shimizu T, Uehira K, Yokoi T, Amuro H, Sugimoto H, Torii Y, Tajima K, Ito T, Amakawa R and Fukuhara S (2007) Hodgkin's reed-sternberg cell line (KM-H2) promotes a bidirectional differentiation of CD4+CD25+ Foxp3+ T cells and CD4+ cytotoxic T lymphocytes from CD4+ naive T cells. *J Leukoc Biol* 82:

576-584

9. Ando S, Otani H, Yagi Y, Kawai K, Araki H, Nakamura T, Fukuhara S and Inagaki C (2007) Protease-activated receptor 4-mediated Ca^{2+} signaling in mouse lung alveolar epithelial cells. *Life Sci* 81: 794-802
10. Ando S, Otani H, Yagi Y, Kawai K, Araki H, Fukuhara S and Inagaki C (2007) Proteinase-activated receptor 4 stimulation-induced epithelial-mesenchymal transition in alveolar epithelial cells. *Respir Res* 8: 31 (1-14)
11. Kimura T, Asada R, Wang J, Kimura T, Morioka M, Matsui K, Kobayashi K, Henmi K, Imai S, Kita M, Tsuji T, Sasaki Y, Ikehara S and Sonoda Y (2007) Identification of long-term repopulating potential of human cord blood-derived CD34-flt3-severe combined immunodeficiency-repopulating cells by intra-bone marrow injection. *Stem Cells* 25: 1348-1355
12. 金澤成紀, 山口和之, 野村昌作 (2007) 【血小板と血管病変 最近の話題】肺癌と血小板機能. *Angiol Front* 6: 252-257
13. 野村昌作, 石井一慶, 松崎龍典, 山岡 学, 阿部 操, 細川美香, 福原資郎 (2007) 特発性血小板減少性紫斑病におけるヘリコバクター・ピロリ菌除菌療法とHLAクラスIIアレルとの関係. *MHC* 14: 201-207
14. 新井 徹, 井上義一, 露口一成, 鈴木克洋, 林清二, 坂谷光則, 安藤性實, 井上幸治, 北市正則, 審良正則 (2007) 胸部CTにて多発性リング状陰影 (“reversed halo sign”) を呈した特発性器質化肺炎の1例. *日呼吸会誌* 45: 621-626
15. 野村昌作 (2007) 抗血小板薬の基礎知識. *脳と循環* 12: 209-214
16. 谷岡理恵, 森真一郎, 中西孝尚, 藤田真也, 中道尚人, 田嶋健一郎, 植村芳子, 尼川龍一, 岸本裕司, 福原資郎 (2007) 末梢血中のEpstein-Barr virus (EBV)-DNA 増加を伴った加齢性EBV 関連B細胞増殖異常症. *臨血* 48: 1492-1497

総 説

1. 野村昌作 (2007) VI. 凝固線溶系 5. マイク

ロパーティクルと血栓症. *Annu Rev 血液* 2007: 275-280

2. 野村昌作 (2007) Microparticle と血栓症. *Int Rev Thromb* 2: 154-159
3. 野村昌作 (2007) 話題のキーワード解説 Microparticle. *Int Rev Thromb* 1: 306-307

症例報告

1. 重松明男, 足立 靖, 小柳津治樹, 松本憲明, 桐山直子, 向出裕美, 今村雅寛, 福原資郎, 池原 進 (2007) 同種骨髄移植後に, 水痘带状疱疹ウイルス感染症から血栓性微小血管障害を発症したと考えられた1剖検例. *診断病理* 24: 348-354
2. 山中滋木, 爲政大幾, 堀尾 武, 石崎守彦, 川口雄才, 横井 崇, 中井邦久, 植村芳子 (2007) 皮膚浸潤を来したBurkitt lymphomaの1例. *皮膚の科* 6: 352-356

学会発表

1. 安室秀樹, 伊藤量基, 孫 瑛洙, 尾崎吉郎, 尼川龍一, 福原資郎 (2007) ヒト plasmacytoid 樹状細胞に対する HMG-CoA 還元酵素阻害剤の影響. 第37回日本免疫学会総会・学術集会, 東京
2. Amuro H, Ito T, Son Y, Ozaki Y, Amakawa R and Fukuhara S (2007) The effects of HMG-CoA reductase inhibitor on human plasmacytoid dendritic cells. *Annual European Congress of Rheumatology (EULAR 2007)*, Barcelona
3. Ozaki Y, Ito T, Amuro H, Son Y and Fukuhara S (2007) Peripheral blood dendritic cells in patients with Sjogren's syndrome is associated with duration time of sicca syndrome. *Annual European Congress of Rheumatology (EULAR 2008)*, Barcelona
4. 嶋元佳子, 尾崎吉郎, 安室秀樹, 孫 瑛洙, 伊藤量基, 福原資郎 (2007) 重症肝障害と過剰なアレルギー反応をともなった成人 still 病に対して血漿交換が奏功した一例. 第184回日本内科学会近畿地方会, 京都
5. 谷尻 力, 清水俊樹, 伊藤量基, 尼川龍一, 福原資郎 (2007) KM-H2 promotes a bi-directional differentiation of Foxp3+ T cells and CD4+

CTLs from CD4+ naïve T cells. 第37回日本免疫学会総会, 東京

6. 杉本博是, 伊藤量基, 横井 崇, 宮本理恵, 片芝雄一, 尾形誠, 尼川龍一, 福原資郎 (2007) TSLPとBCGによる樹状細胞のCD8+T細胞誘導能の検討. 第37回日本免疫学会総会・学術集会, 東京
7. 安室秀樹, 伊藤量基, 孫 瑛洙, 尾崎吉郎, 尼川龍一, 福原資郎 (2007) ヒトplasmacytoid樹状細胞に対するHMG-CoA還元酵素阻害剤の影響. 第69回日本血液学会総会・第49回日本臨床血液学総会, 横浜
8. 杉本博是, 伊藤量基, 横井 崇, 宮本理恵, 片芝雄一, 尾形 誠, 尼川龍一, 福原資郎 (2007) TSLPとBCGによる樹状細胞のCD8+T細胞誘導能の検討. 第69回日本血液学会総会・第49回日本臨床血液学総会, 横浜
9. 白杉由香理, 小川吉明, 安藤 潔, 橋野 聡, 長澤俊郎, 小島 寛, 倉田義之, 富山佳昭, 岸本裕司, 岩戸康治, 藤村欣吾, 北村 聖, 曾根原裕介, 大倉征幸, 大津智子, Nichol Janet L (2007) 新規血小板造血刺激たん白製剤AMG531の慢性ITPに対する安全性と有効性に関する検討. 第69回日本血液学会総会・第49回日本臨床血液学総会, 横浜
10. 中道尚人, 森井英一, 三浦康生, 通堂 満, 山内 周, 福原資郎, 青笹克之 (2007) NK細胞性intravascular lymphomatosisの一例. 第8回大阪リンパ腫研究会総会, 大阪
11. 中江 香, 岩井 大, 尼川龍一, 泉川雅彦, 河本光平, 大隅泰則, 中出多子, 栗山博道, 北尻雅則, 山下敏夫 (2007) H.pyloriの除菌にて改善した耳下腺MALTリンパ腫再発の1例. 第108回日本耳鼻咽喉科学会, 金沢
12. 安室秀樹, 伊藤量基, 孫 瑛洙, 尾崎吉郎, 尼川龍一, 福原資郎 (2007) ヒト末梢血リンパ球系樹状細胞に対するHMG-CoA還元酵素阻害剤の影響. 第18回日本樹状細胞研究会, 淡路島
13. 安藤性實, 大谷ひとみ, 矢木泰弘, 稲垣千代子, 福原資郎 (2007) プロテアーゼ活性化受容体4 (PAR4) による肺胞上皮細胞の筋線維芽細胞への形質転換効果: 肺線維化への関与の可能性. 第47回日本呼吸器学会学術講演会, 東京
14. 岸本裕司, 細川美香, 山本茉美, 寺嶋由香利, 有元美代子, 阿部 操, 岡前文子, 寺西節子, 福原資郎, 山岡 学, 市邊明美, 大谷哲司, 大西修司, 森眞一郎 (2007) 自己血輸血における保存前白血球除去の効果. 第55回日本輸血・細胞治療学会, 名古屋
15. 寺嶋由香利, 寺西節子, 山本茉美, 有元美代子, 細川美香, 阿部 操, 岡前文子, 市邊明美, 岸本裕司, 福原資郎 (2007) 輸血前後の感染症検査に対する取り組み. 第55回日本輸血・細胞治療学会, 名古屋
16. 山岡 学, 大西修司, 大谷哲司, 市邊明美, 森眞一郎, 阿部 操, 細川美香, 福原資郎, 海堀昌樹 (2007) HLA抗体保有患者の生体肝移植症例. 第55回日本輸血・細胞治療学会総会, 名古屋
17. 山岡 学, 大西修司, 大谷哲司, 市邊明美, 森眞一郎, 阿部 操, 中矢桂子, 福原資郎 (2007) 抗てんかん剤による薬剤性再生不良性貧血と同時に温式自己抗体が認められた症例. 第56回日本医学検査学会, 宮崎
18. 安室秀樹, 伊藤量基, 孫 瑛洙, 尾崎吉郎, 福原資郎 (2007) 末梢血1型インターフェロン産生細胞に対するHMG-CoA還元酵素阻害剤の影響. 第51回日本リウマチ学会総会・学術集会, 横浜
19. 嶋元佳子, 尾崎吉郎, 小室 元, 和田孝彦, 宮島茂夫 (2007) ステロイド増量で改善した縦隔気腫を伴ったamyopathic dermatomyositis. 第51回日本リウマチ学会総会・学術集会, 横浜
20. 村上真理, 清水俊樹, 上平和孝, 福原資郎 (2007) 「既治療進行期非小細胞肺癌に対する低用量ドセタキセル・メトロノーム化学療法」. 第5回日本臨床腫瘍学会総会, 札幌
21. 光山俊行, 田橋賢也, 島谷昌明, 森 茂生, 岡崎敬, 井上肇一, 谷口奈穂, 藤本正博, 坂井田紀子, 関 寿人, 岡崎和一 (2007) 十二指腸原発悪性リンパ腫の一例. 第78回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
22. 深田憲将, 森 茂生, 井上肇一, 岡崎 敬, 光山俊行, 田橋賢也, 松下光伸, 関 寿人, 岡崎和一, 尾崎吉郎, 坂井田紀子 (2007) 好酸球性胃腸炎により発症したChurg-Strauss症候

群の1例. 第78回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪

著 書

1. 福原資郎 (2007) 血液疾患—患者のみかた—. 内科学 (杉本恒明編) 9: 1554–1556頁, 朝倉書店, 東京

内科学第二講座

〈研究業績〉

原 著

1. Yanagida Y, Kimura Y, Shichino Y and Sasaki H (2007) The responses of lymphocyte and glutamine levels during a 7-day period after endurance running at various intensities. *Adv Exer Sport Physiol* 13: 13–17
2. Miyasaka Y, Barnes ME, Gersh BJ, Cha SS, Bailey KR, Seward JB, Iwasaka T and Tsang TS (2007) Coronary ischemic events after first atrial fibrillation: risk and survival. *Am J Med* 120: 357–363
3. Morimoto S, Yano Y, Maki K, Sawada K and Iwasaka T (2007) Efficacy of low-density lipoprotein apheresis in patients with peripheral arterial occlusive disease undergoing hemodialysis treatment. *Am J Nephrol* 27: 643–648
4. Glover DK, Ruiz M, Takehana K, Petruzella FD, Rieger JM, Macdonald TL, Watson DD and Beller GA (2007) Cardioprotection by Adenosine A_{2A} agonists in a canine model of myocardial stunning produced by multiple episodes of transient ischemia. *Am J Physiol Heart Circ Physiol* 292: H3164–H3171
5. Akita Y, Otani H, Matsuhisa S, Kyo S, Enoki C, Hattori R, Imamura H, Kamihata H, Kimura Y and Iwasaka T (2007) Exercise-induced activation of cardiac sympathetic nerve triggers cardioprotection via redox-sensitive activation of eNOS and upregulation of iNOS. *Am J Physiol Heart Circ Physiol* 292: H2051–H2059
6. Miyawaki T, Arita S, Yamashita A, Yoshii K, Nishikawa M and Iwasaka T (2007) Quantitative analysis of pulse wave responses of dialysis patients and their pulse waveform pattern. *Biomed Soft Comput Hum Sci* 12: 29–38
7. Matsui A, Okigaki M, Amano K, Adachi Y, Jin D, Takai S, Yamashita T, Kawashima S, Kurihara T, Miyazaki M, Tateishi K, Matsunaga S, Katsume A, Honshou S, Takahashi T, Matoba S, Kusaba T, Tatsumi T and Matsubara H (2007) Central role of calcium-dependent tyrosine kinase PYK2 in endothelial nitric oxide synthase-mediated angiogenic response and vascular function. *Circulation* 116: 1041–1051
8. Maeba H, Nakatani S, Sugawara M, Mimura J, Nakanishi N, Ogino H, Kitakaze M, Iwasaka T and Miyatake K (2007) Different time course of changes in tricuspid regurgitant pressure gradient and pulmonary artery flow acceleration after pulmonary thromboendarterectomy: implications for discordant recovery of pulmonary artery pressure and compliance. *Circ J* 71: 1771–1775
9. Inami N, Nomura S, Kimura Y, Yamada K, Nakamori H, Takahashi N, Fukuhara S and Iwasaka T (2007) Evaluation of platelet and leukocyte functions in effort angina patients using high shear conditions in small-sized collagen bead columns. *Clin Appl Thromb Hemost* 13: 428–431
10. Kusaba T, Hatta T, Sonomura K, Mori Y, Tokoro T, Nagata T, Umeda Y, Nagata K, Yasuda T, Sato T, Kimura K and Matsubara H (2007) Idiopathic nodular glomerulosclerosis: three Japanese cases and review of the literature. *Clin Nephrol* 67: 32–37
11. Miyasaka Y, Barnes ME, Petersen RC, Cha SS, Bailey KR, Gersh BJ, Casaclang-Verzosa G, Abhayaratna WP, Seward JB, Iwasaka T and Tsang TS (2007) Risk of dementia in stroke-free patients diagnosed with atrial fibrillation: data from a community-based cohort. *Eur Heart J* 28:

1962–1967

12. Thirunavukkarasu M, Penumathsa SV, Koneru S, Juhasz B, Zhan L, Otani H, Bagchi D, Das DK and Maulik N (2007) Resveratrol alleviates cardiac dysfunction in streptozotocin-induced diabetes: Role of nitric oxide, thioredoxin, and heme oxygenase. *Free Radic Biol Med* 43: 720–729
13. Thirunavukkarasu M, Juhasz B, Zhan L, Menon VP, Tosaki A, Otani H and Maulik N (2007) VEGFR1 (Flt-1+/-) gene knockout leads to the disruption of VEGF-mediated signaling through the nitric oxide/heme oxygenase pathway in ischemic preconditioned myocardium. *Free Radic Biol Med* 42: 1487–1495
14. Mukaide H, Adachi Y, Koike-Kiriyama N, Suzuki Y, Minamino K, Iwasaki M, Tsuda M, Nakano K, Koike Y, Shigematsu A, Kamiyama Y and Ikehara S (2007) Immunotherapy for malignant tumors using combination of allogeneic intra-bone marrow-bone marrow transplantation, donor lymphocyte infusion and dendritic cells. *Int J Oncol* 30: 1309–1315
15. Sakai K, Agassandian K, Morimoto S, Sinnayah P, Cassell MD, Davisson RL and Sigmund CD (2007) Local production of angiotensin-II in the subfornical organ causes elevated drinking. *J Clin Invest* 117: 1088–1095
16. Ito K, Kimura Y, Tajika A, Fuchioka S, Iwasaka T and Nishiyama T (2007) Ultrasonographic changes of the knee joint cartilage associated with physical characterization in middle-aged women: 6-month observational survey. *J Phys Ther Sci* 19: 277–282
17. Nomura S, Inami N, Kimura Y, Omoto S, Shouzu A, Nishikawa M and Iwasaka T (2007) Effect of nifedipine on adiponectin in hypertensive patients with type 2 diabetes mellitus. *J Hum Hypertens* 21: 38–44
18. Morimoto S, Yano Y, Maki K and Iwasaka T (2007) Renal and vascular protective effects of cilnidipine in patients with essential hypertension. *J Hypertens* 25: 2178–2183
19. Penumathsa SV, Thirunavukkarasu M, Koneru S, Juhasz B, Zhan L, Pant R, Menon V-P, Otani H and Maulik N (2007) Statin and resveratrol in combination induces cardioprotection against myocardial infarction in hypercholesterolemic rat. *J Mol Cell Cardiol* 42: 508–516
20. Shigematsu A, Adachi Y, Koike-Kiriyama N, Suzuki Y, Iwasaki M, Koike Y, Nakano K, Mukaide H, Imamura M and Ikehara S (2007) Effects of low-dose irradiation on enhancement of immunity by dendritic cells. *J Radiat Res* 48: 51–55
21. Miyasaka Y, Barnes ME, Bailey KR, Cha SS, Gersh BJ, Seward JB and Tsang TS (2007) Mortality trends in patients diagnosed with first atrial fibrillation: a 21-year community-based study. *J Am Coll Cardiol* 49: 986–992
22. Inami N, Nomura S, Shimazu T, Manabe K, Kimura Y and Iwasaka T (2007) Adiponectin incompletely prevent MCP-1-dependent restenosis after percutaneous coronary intervention in patients with coronary artery disease. *J Thromb Thrombolysis* 24: 267–273
23. Inami N, Nomura S, Shouzu A, Omoto S, Kimura Y, Takahashi N, Tanaka A, Nanba M, Shouda Y and Iwasaka T (2007) Effects of pitavastatin on adiponectin in patients with hyperlipidemia. *Pathophysiol Haemost Thromb* 36: 1–8
24. 森本 聡 (2007) baPWV と高血圧. *Arte Stiff* 12: 37–39
25. 木村 穰 (2007) AI, PWV/ABI の診療応用 私のやり方 運動療法効果判定における脈波伝播測定 (PWV) 評価の有用性. *Arte Stiff* (12) : 118–119
26. 木村 穰 (2007) 【内科臨床に役立つ心療内科的アプローチ】生活習慣病の認知行動療法的介入 一般内科医にもできる介入法 メタボリックシンドロームに対する具体的介入方法. *Medicina* 44: 2033–2035
27. 木村 穰 (2007) 【呼吸・循環障害のリハビリテーション Update 生命予後・生活機能予後改善をもたらす「攻めの医療」】循環リハビリテーションの最新の動向 医療経済からみた心臓リハビリテーション. *Mod Physician* 27: 249–252

28. 木村 稯 (2007) 【IT でどこまでわかるか?】在宅での自己管理支援システムとは?。肥満と糖尿 6: 529-531
 29. 奥 真也, 松田恵雄, 竹花一哉, 神宮司公二, 尾川浩一, 河邊譲治, 對間博之, 巽 光朗, 長谷川雪憲, 宮内 勉, 福本光孝 (2007) 1 核医学最新トピックス 核医学部門における医療情報管理の動向。Rad Fan 5: 54-57
 30. 佐藤 豪, 中西美和, 馬場天信, 木村 稯, 小崎篤志 (2007) 心理的ストレスの疫学的調査研究 ストレス, パーソナリティと喫煙行動の関連性について—アレキシサイミアとタイプ A 行動パターンとの関連から。ストレス科 21: 217-222
 31. 笠原憲子, 五十野剛, 拜殿未央, 前羽宏史, 吉田 進, 妹尾健, 真鍋憲市, 森口 暁, 万木孝富, 森島景子, 湯浅文雄, 岩坂壽二 (2007) 今月の心電図 CCU から興味ある波形 先行する嘔気症状に伴って発症した急性下壁心筋梗塞。ハートナーシング 20: 1242-1245
 32. 高田厚照, 拜殿未央 (2007) 【患者さんからの質問もコワくない! Q&Aでおさえる循環器検査のキホン】超音波 (エコー) 検査のキホン。ハートナーシング 20: 669-675, 635
 33. 高橋美智子, 齋藤 瞳, 中川明仁, 松島典子, 木村 稯, 馬場天信, 佐藤 豪 (2007) 肥満外来における減量効果からみた心理特性の差異についての検討。ヒューマンサイエンス (西宮) 10: 39-42
 34. 種村直美, 安田照美, 谷田由紀子, 湯浅文雄, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 今村洋二 (2007) 電子カルテシステムと重症部門システムとの処置連携の構築と課題。医療情報学 27: 434-436
 35. 拜殿未央, 岩坂壽二 (2007) 【心エコーの論点・問題点を問う】ポータブルエコーは臨床の現場で本当に有用なのか。心エコー 8: 408-413
 36. 滝川瑠美, 南出奈津子, 田中ひとみ, 春日靖洋, 津田信幸, 木村 稯 (2007) CT画像による内臓脂肪評価による運動効果の検討。心臓リハ 12: 122-124
 37. 馬殿正人, 中村誠志, 畑田憲吾, 塚 芳明, 藤高啓祐, 石戸隆裕, 藤川雄介, 杉浦哲朗, 岩坂壽二 (2007) マルチスライスCTによる冠動脈疾患の診断。診療と新薬 44: 1249-1250
 38. 岩坂壽二 (2007) 心電図の読み方。千里丘山田臨医会報 25: 83-87
 39. 吉田龍太郎, 蜜山加奈, 徳田美智子, 植松華乃子, 高須由樹子, 山本昭則, 安井奈保子, 土井五月, 新川康子, 柴崎泰延, 野田裕幸, 佐藤利行, 西川光重 (2007) 水分管理困難な透析患者に対する行動変容プログラムによる介入。大阪透析研究会誌 25: 165-168
 40. 大垣佳代, 中川 清, 森本 聡 (2007) 【患者指導】透析療法におけるクリニカルパス。大阪透析研究会誌 25: 137-142
 41. 神宮司公二, 竹花一哉, 松田恵雄, 奥 真也 (2007) 核医学情報における標準化の問題点とIHEの効用と限界。断層映像研究会誌 34: 162-171
 42. 北村 臣, 西村泰典, 北口 宏, 馬庭知弘, 里井壯平, 宮崎浩彰, 湯浅文雄 (2007) 病院開院に伴う電子クリニカルパス導入とその後の経過について—診療情報管理士の取り組みを中心に。日クリニカルパス会誌 9: 655-660
 43. 五十野剛, 元廣将之, 神島 宏, 妹尾 健, 真鍋憲市, 森口 暁, 万木孝富, 岩坂壽二 (2007) 重炭酸ナトリウムによる冠動脈造影施行後の造影剤腎症の予防効果。日臨生理会誌 37: 265-270
 44. 拜殿未央, 宮坂陽子, 岩坂壽二, 中谷 敏, 北風政史, 田中教雄, 増田喜一 (2007) パルスドプラ法による検討。日臨生理会誌 37: 197-201
 45. 元廣将之, 辻本悟史, 丸山勝也, 酢谷保夫, 神島 宏, 五十野剛, 岩坂壽二 (2007) スタチンによる冠動脈ステント留置後の再狭窄予防効果—Positive remodelingを呈する病変における検討。日臨生理会誌 37: 35-41
 46. 齋藤 瞳, 齋藤 瞳, 木村 稯, 田嶋佐和子, 小崎篤志, 上田加奈子, 中嶋由紀子, 馬場天信, 木村 稯, 岩坂壽二, 佐藤 豪 (2007) 肥満外来におけるチーム医療の効果の検討—心理特性と減量効果との関係について。肥満研 13: 68-73
- 総 説
1. Morimoto S, Aota Y, Sakuma T and Iwasaka T (2007) Neurovascular compression of the rostral

ventrolateral medulla as a cause of hypertension.
日臨生理会誌 37: 229-233

2. Akita Y, Otani H and Iwasaka T (2007) Exercise and Late Preconditioning. 日臨生理会誌 37: 15-26
3. 佐久間孝雄, 森本 聡 (2007) 本態性高血圧患者におけるテルミサルタンの腎機能および血管保護効果. Arte Stiff 12: 66-67
4. 所 敏子, 森本 聡 (2007) 抗GBM抗体型急速進行性糸球体腎炎. Medicina 44: 1202
5. 山原英樹, 森本 聡 (2007) IgA腎症. Medicina 44: 1994
6. 竹花一哉, 前羽宏史, 上山敬直, 畑田憲吾, 岩坂壽二 (2007) 正しい心筋SPECT画像を撮るために 新しい薬物負荷 (アデノシン負荷の実験). ニュータウンカンファレンス 32: 5-8
7. 高田厚照, 宮坂陽子 (2007) 【新人ナースもこれだけ知っていれば大丈夫! ICU+CCU+心臓血管外科+循環器病棟の看護のポイント147】 ナースが知っておきたい検査のPOINT 心エコー検査のポイント. ハートナーシング (2007秋季増刊): 290-294
8. 森本 聡 (2007) 高血圧と交感神経6白衣現象における交感神経の影響. 循環plus 7: 2-6
9. 岩坂壽二, 小糸仁史, 西上尚志, 宮坂陽子, 拝殿未央 (2007) 【循環器症候群 その他の循環器疾患を含めて】 心膜疾患 心外膜下脂肪沈着. 日臨 別冊 (循環器症候群II): 382-386
10. 木村 穰 (2007) QOL 向上のための身体活動—生理学的立場から—. 臨スポーツ医 24 (臨増): 11-14

症例報告

1. Miki K, Yuri T, Takeda N, Takehana K, Iwasaka T and Tsubura A (2007) An autopsy case of pseudoxanthoma elasticum: histochemical characteristics. Med Mol Morphol 40: 172-177
2. Nakajima F, Fukii M, Kitamura T, Sakaida A, Sakaguchi M, Oka H, Morimoto S, Masaki H, Yamahara H, Shibahara N and Inoue T (2007) A case report of interferon beta monotherapy for high hepatitis C viral load in dialysis patients. Ther Apher Dial 11: 306-308
3. Sakuma T, Morimoto S, Aota Y and Iwasaka T

(2007) Juvenile Hypertensive Patient of Congestive Acute Heart Failure with Old Multiple Cerebral Infarction and Hemorrhage: A Case Report. 日臨生理会誌 37: 211-214

4. 朴 幸男, 山本克浩, 岩坂潤二, 大石千尋, 大谷 肇, 岩坂壽二 (2007) IMAGE Sirolimus-eluting stent留置2年9ヵ月後に冠動脈瘤を生じた1例. CIRC FRONTI 11: 50-52
5. 堀越幹人, 宮坂陽子, 拝殿未央, 山本哲史, 前羽宏史, 五十野剛, 杉山千晶, 小倉常敬, 妹尾 健, 松村光一郎, 中東三聖, 横江洋之, 万木孝富, 岩坂壽二 (2007) 今月の心電図 CCUから興味ある波形 先行する感冒様症状に伴って認められた広範囲ST上昇. ハートナーシング 20: 1138-1143
6. 所 敏子, 菊池早苗, 山原英樹, 今田崇裕, 河野啓子, 高橋延行, 森本 聡, 西川光重, 岩坂壽二, 正木浩哉, 上坂達郎 (2007) 脳出血における腎不全治療として腹膜透析治療を選択した一例. 大阪CAPD研究会会誌 19: 24-28

学会発表

1. Miyasaka Y, Haiden M, Aota Y, Takada A, Sato Y, Kubota Y, Oishi C, Kimura Y, Takehana K and Iwasaka T (2007) Left atrial volume by real-time three-dimensional echocardiography: validation by multidetector computed tomography. American Heart Association, Orlando
2. Miyasaka Y, Barnes ME, Cha SS, Bailey KR and Tsang TSM (2007) Risk and contributing factors of stroke recurrence in patients newly diagnosed with atrial fibrillation. American Heart Association, Orlando
3. Yamada H, Higuchi A, Jo N, Wada M, Matsumura M, Kosaki A and Iwasaka T (2007) Protective effect against retinal neovascularization in diabetic retinopathy by angiotensin converting enzyme inhibitors. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2007 Annual Meeting, Fort Lauderdale, Florida
4. Aota Y, Morimoto S, Sakuma T, Takahashi N, Ikeda K, Sawada S and Iwasaka T (2007) Blood pressure variation in essential hypertension with neurovascular contact of the rostral ventrolateral

- medulla. 第71回日本循環器学会総会, 神戸
5. Sakuma T, Morimoto S, Aota Y, Takahashi N, Ikeda K, Sawada S and Iwasaka T (2007) Hypertensive organ damages in essential hypertension with neurovascular contact of the rostral ventrolateral medulla. 第71回日本循環器学会総会, 神戸
 6. Enoki C, Otani H, Sato D, Okazaki T, Moriguchi A, Hattori R, Iwasaka T and Imamura H (2007) Comparison of safety of mesenchymal stem cell transplantation between Intracoronary infusion and Direct injection in rats with myocardial Infusion. 第71回日本循環器学会総会, 神戸
 7. Ueyama T, Takehana K, Maeba H, Yoshida S and Iwasaka T (2007) Comparison of hemodynamic indices between Adenosine and Dipyridamole on pharmacological stress myocardial perfusion imaging. 第71回日本循環器学会総会, 神戸
 8. 山内 梓, 豊田長興, 西上尚志, 浮田千津子, 田代香織, 野村恵巳子, 小崎篤志, 西川光重, 岩坂壽二 (2007) 発熱, CRP 高値, 赤沈高値を来したバセドウ病の一例. 第184回日本内科学会近畿地方会, 大阪
 9. 大山恭夫, 坂口正博, 阿川重治, 森本 聡 (2007) 脂質異常症のnonHDL-コレステロールに対するロスバスタチンの有効性について. 第184回日本内科学会近畿地方会, 京都
 10. 中村友美, 豊田長興, 和手麗香, 万木孝富, 森口 暁, 浮田千津子, 中野 智, 日下博文, 西川光重, 岩坂壽二 (2007) 呼吸筋麻痺によるII型呼吸不全を伴ったCushing病の一例. 第184回日本内科学会近畿地方会, 大阪
 11. 岡本貴行, 森本 聡, 北村哲也, 坂井田文, 福井政慶, 中嶋章貴 (2007) 腹膜透析の併用が有効であった血液透析困難症の一例. 第21回大阪CAPD研究会, 大阪
 12. 種村直美, 安田照美, 谷田由紀子, 湯浅文雄, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 今村洋二 (2007) 電子カルテシステムと重症部門システムとの処置連携の構築と課題. 第27回医療情報学連合大会 (第8回日本医療情報学会学術大会), 神戸
 13. 大山恭夫, 坂口正博, 阿川重治, 気比茂子, 森本 聡 (2007) 当院における糖尿病教育入院の現況—メタボリックシンドロームの合併も意識した精査・治療マネジメント—. 第31回大阪府医師会医学会総会, 大阪
 14. 榎木千春, 大谷 肇, 佐藤大祐, 岡崎 徹, 山下浩司, 服部玲治, 岩坂壽二, 今村洋二 (2007) IGF-1 は心筋内に移植した骨髄間葉系幹細胞の生着を促進し, 心筋梗塞後の心機能を改善する. 第44回日本臨床生理学会, 大阪
 15. 佐久間孝雄, 森本 聡, 青田泰子, 池田耕士, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2007) 頭側延髄腹外側野への動脈による接触を伴う高血圧と臓器障害の関連について. 第44回日本臨床生理学会学術集会, 大阪
 16. 森本 聡, 高橋延行, 菊池早苗, 山原英樹, 今田崇裕, 河野啓子, 正木浩哉, 西川光重, 岩坂壽二 (2007) 血液透析患者の予後推定における血流依存性血管拡張反応と上腕一足首脈波伝播速度測定の意義. 第44回日本臨床生理学会学術集会, 大阪
 17. 野村恵巳子, 豊田長興, 西川光重, 岩坂壽二 (2007) 動脈硬化の進展に及ぼす甲状腺ホルモンの影響—ApoE ノックアウトマウスを用いた検討. 第44回日本臨床生理学会総会, 大阪
 18. 野村恵巳子, 豊田長興, 西川光重, 岩坂壽二 (2007) ヒト腸間膜由来脂肪細胞に発現する甲状腺ホルモン活性化酵素に関する検討. 第44回日本臨床生理学会総会, 大阪
 19. 奥 真也, 竹花一哉, 尾川浩一, 河邊謙治, 巽光朗, 宮内 勉, 福本光孝, 松田恵雄, 對間博之, 長谷川雪憲, 神宮司公二 (2007) 中間報告 (2) 核医学情報の標準化への対応. 第47回日本核医学会総会, 仙台
 20. 竹花一哉, 木村 稔, 岩坂壽二 (2007) 循環器領域における核医学情報標準化. 第47回日本核医学会総会, 仙台
 21. 竹花一哉 (2007) 核医学情報は本当に black sheepか?—各施設・領域の問題点, 運用の現状の報告—①循環器領域での核医学情報の標準化. 第50回日本核医学会総会, 仙台
 22. 宮内 昭, 高村勇貴, 伊藤康弘, 宮 章博, 小林 薫, 松塚文夫, 網野信行, 豊田長興, 野村恵巳子, 西川光重 (2007) 甲状腺癌大量遠隔転移患者における過剰転換 T3 甲状腺中毒症. 第50回日本甲状腺学会, 神戸

23. 野村恵巳子, 豊田長興, 岩坂壽二, 西川光重 (2007) 白色脂肪に発現する甲状腺ホルモン活性化酵素に関する検討. 第50回日本甲状腺学会, 神戸
24. 西川光重 (2007) 薬剤による甲状腺中毒症. 第50回日本甲状腺学会, 神戸
25. 原 克子, 朴 幸男, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2007) 虚血性心疾患 (安定労作性狭心症) におけるレムナントリポ蛋白コレステロール. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
26. 平山優子, 宮坂陽子, 拝殿未央, 杉林幸代, 高田厚照, 佐藤裕司, 山根景次, 箕尾恵子, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2007) 経胸壁心臓超音波検査が外科的術式の変更に寄与した一例～肺動脈弁にゆうぜいを認めた症例～. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
27. 宮野喜代子, 大垣佳代, 柴田清美, 木谷美保, 大田千穂子, 衣川 大, 狭間信幸, 中川 清, 高橋延行, 森本 聡 (2007) 出口部ケアにおける患者指導用パンフレットおよびDVDの有用性について. 腹膜透析研究会, 広島
28. 城戸江利花, 森本 聡, 高岸浩美, 柿本早苗, 住谷尚美, 保井明泰 (2007) 長期間腹膜透析施行後に血液透析に変更した患者における各種検査値および生活の質 (QOL) の変化. 腹膜透析研究会, 広島
29. 佐久間孝雄, 森本 聡, 青田泰子, 高橋延行, 池田耕士, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2007) 本態性高血圧における頭側延髄腹外側野への動脈性接触の罹患率および臓器障害に及ぼす影響に関する検討. 第30回日本高血圧学会総会, 宜野湾
30. 森本 聡, 高橋延行, 青田泰子, 佐久間孝雄, 岩坂壽二 (2007) 血圧連続測定による血圧の変化と内皮依存性血管拡張反応との関連について. 第30回日本高血圧学会総会, 宜野湾
31. 青田泰子, 森本 聡, 佐久間孝雄, 高橋延行, 池田耕士, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2007) 頭側延髄腹外側野への動脈による接触を認める本態性高血圧患者における交感神経抑制薬の有効性に関する検討. 第30回日本高血圧学会総会, 沖縄
32. 森本 聡, 高橋延行, 菊池早苗, 山原英樹, 今田崇裕, 河野啓子, 正木浩哉, 西川光重, 岩坂壽二 (2007) 難治性ネフローゼ症候群に対してイコデキストリン透析液単独腹膜透析療法を施行した3症例. 第37回日本腎臓学会西部学術大会, 福井
33. 榎木千春, 大谷 肇, 佐藤大祐, 岡崎 徹, 山下浩司, 服部玲治, 岩坂壽二, 今村洋二 (2007) IGF-1 は心筋内に移植した骨髄間葉系幹細胞の生着を促進し, 心筋梗塞後の心機能を改善する. 日本臨床生理学会, 大阪
34. 岡崎 徹, 大谷 肇, 山下浩司, 森口 暁, 佐藤大祐, 松久誠治, 秋田雄三, 岩坂壽二 (2007) 糖尿病性心筋症の虚血耐性における誘導型一酸化窒素合成酵素の役割. 日本臨床生理学会, 大阪
35. 岩坂潤二, 大谷 肇, 中竹利知, 野田哲平, 大石千尋, 上山敬直, 朴 幸男, 山本克浩, 岩坂壽二 (2007) 非腎障害例での降圧薬の種類による腎機能への影響. 日本臨床生理学会, 大阪
36. 佐藤大祐, 大谷 肇, 榎木千春, 今村洋二, 岩坂壽二 (2007) 心筋梗塞後の骨髄細胞に関する検討. 日本臨床生理学会, 大阪
37. 野田哲平, 上山敬直, 竹花一哉, 朴 幸男, 大谷 肇, 岩坂壽二 (2007) F-18-fluorodeoxyglucose PET と心臓MRI 造影遅延像において異なる特徴を示した心サルコイドーシスの2症例. 第183回日本内科学会近畿地方会, 神戸
38. 池田耕士, 森本 聡, 前原 稔, 大村直人, 池田茂樹, 黒川弘晶, 米虫 敦, 播磨洋子, 岩坂壽二, 澤田 敏 (2007) 延髄への動脈圧迫を認める本態性高血圧患者における交感神経抑制薬の有効性. 第35回日本磁気共鳴医学会大会, 神戸
39. 坂 貴司, 近藤八重子, 頼 彦長, 兼松清果, 八尾隆治, 螺良愛郎 (2007) ミトコンドリア病に合併した肝機能障害の超微形態学的検討. 第48回日本組織細胞化学会・第39回日本臨床分子形態学会・合同学術集会, 山梨
40. 竹花一哉 (2007) 心臓核医学による心事故りスク評価. 第55回日本心臓病学会, 浦安
41. 大垣佳代, 宮野喜代子, 西條和子, 柴田清美, 大田千穂子, 木谷美保, 狭間信幸, 衣川 大, 北村 臣, 中川 清, 高橋延行, 森本 聡 (2007) 連携システムにおける血液透析導入パ

- スの作成を試みて、第69回大阪透析研究会、大阪
42. 岩坂潤二, 土井理沙, 大石千尋, 神嶋 宏, 大谷 肇, 岩坂壽二 (2007) 経カテーテル的心筋内自家骨髄単核球移植後3年後に心不全で死亡した虚血性心筋症の1剖検例. 日本心不全学会, 千葉
 43. 高田厚照, 宮坂陽子, 佐藤裕司, 平山優子, 青田泰子, 拝殿未央, 高橋伯夫, 岩坂壽二 (2007) Left atrial volume by three dimensional echocardiography; comparison with two dimensional echocardiography. 日本心不全学会, 千葉
 44. 森本 聡, 青田泰子, 佐久間孝雄, 池田耕士, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2007) 頭側延髄外側野への動脈による接触を認める本態性高血圧患者における交感神経抑制薬の有効性に関する検討. 第5回交感神経とアンジオテンシンII研究会, 福岡
 45. 森本 聡 (2007) 透析患者の循環動態と腹膜透析のメリット. NPO 法人 CAPD 支援機構 PD沖縄塾ランチョンセミナー, 那覇
 46. 青田泰子, 森本 聡, 佐久間孝雄, 高橋延行, 池田耕士, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2007) 頭側延髄外側野への動脈による接触を認める本態性高血圧患者における交感神経抑制薬の有効性に関する検討. 第15回大阪臨床高血圧研究会, 大阪
 47. 佐久間孝雄, 森本 聡, 青田泰子, 池田耕士, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2007) 本態性高血圧における頭側延髄腹外側野への動脈性接触の罹患率および臓器障害に及ぼす影響に関する検討. 第30回日本高血圧学会総会, 沖縄
 48. 竹花一哉 (2007) 外来胸痛患者のトリアージ. 第48回北陸循環器核医学研究会, 金沢
 49. 竹花一哉 (2007) J-ACCESSデータに基づく心事故発生予測. 第75回日本核医学技術学会, 大阪
 50. 大谷 肇 (2007) 加齢心の虚血耐性と ischemic preconditioning に対する抵抗性に関する検討. 日本抗加齢医学会総会, 京都
 51. 竹花一哉 (2007) new era of Cardiac Imaging 即 new era of Nuclear Cardiology. 第12回日本心臓核医学会, 東京
 52. 竹花一哉, 前羽宏史, 上山敬直, 畑田憲吾, 岩坂壽二 (2007) 負荷時の心筋血流 SPECT 所見と心事故発生リスクの関連. 第17回日本心臓核医学会総会, 東京
 53. 奥田信昭, 森本 聡, 所 敏子, 高橋延行, 岩坂壽二 (2007) 敗血症性ショックによる急性皮質壊死により高度の腎不全を呈した1例. 第52回日本透析医学会学術集会総会, 大阪
 54. 西條和子, 中川 清, 宮野喜代子, 大垣佳代, 柴田清美, 大田千穂子, 森本 聡 (2007) 電子カルテと透析管理システムの連携について. 第52回日本透析医学会学術集会総会, 大阪
 55. 北村哲也, 森本 聡, 岡本貴行, 中嶋章貴 (2007) 腹部大動脈人工血管仮性動脈瘤および右深大腿動脈瘤破裂を来した血液透析患者の一例. 第52回日本透析医学会学術集会総会, 大阪
 56. 青井一憲, 森本 聡, 早川 敬, 所敏子, 高橋延行, 小宮山豊, 正木浩哉, 西川光重, 岩坂壽二 (2007) 血液透析導入時にヘパリン起因性血小板減少症 (HIT) を発症した一例. 第52回日本透析医学会学術集会総会, 大阪
 57. 西川光重 (2007) 透析患者の内分泌機能. 第52回日本透析医学会総会, 大阪
 58. 森本 聡, 高橋延行, 菊池早苗, 山原英樹, 今田崇裕, 所 敏子, 河野啓子, 正木浩哉, 岩坂壽二 (2007) 頭側延髄腹外側野への動脈による圧迫を伴う高血圧と腎障害の関連について. 第50回日本腎臓学会総会, 浜松
 59. 近藤八重子, 豊田長興, 野村恵巳子, 森田龍頼, 田代香織, 城 聡一, 城ひろみ, 四馬田恵, 長谷川隆正, 小崎篤志, 岩坂壽二, 西川光重 (2007) 4年間の経過でインスリン依存状態に移行した SPIDDM 合併自己免疫性内分泌腺症候群 Type 3A の1例. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台
 60. 森田龍頼, 豊田長興, 近藤八重子, 野村恵巳子, 田代香織, 城 聡一, 城ひろみ, 四馬田恵, 長谷川隆正, 小崎篤志, 岩坂壽二, 西川光重 (2007) 副腎性 preclinical Cushing 症候群の耐糖能に関する検討. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台
 61. 豊田長興, 野村恵巳子, 近藤八重子, 森田龍頼, 田代香織, 城 聡一, 城ひろみ, 四馬田恵, 長谷川隆正, 小崎篤志, 岩坂壽二, 西川

- 光重 (2007) 1型糖尿病にバセドウ病を合併する自己免疫性内分泌腺症候群 Type 3A のバセドウ病に対する抗甲状腺剤の治療効果に関する検討. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台
62. 野村恵巳子, 豊田長興, 近藤八重子, 森田龍頼, 田代香織, 城 聡一, 城ひろみ, 四馬田恵, 長谷川隆正, 小崎篤志, 岩坂壽二, 西川光重 (2007) ヒト腸間膜由来脂肪細胞に発現する甲状腺ホルモン活性化酵素に関する検討. 第50回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台
63. 高田厚照, 宮坂陽子, 佐藤裕司, 平山優子, 拝殿美央, 青田泰子, 高橋伯夫, 岩坂壽二 (2007) 3次元心エコー法による左房容積の測定; 2次元心エコー法との比較. 心エコー図学会, 長野
64. 山田晴彦, 樋口暁子, 城 信雄, 和田光正, 松村美代, 小崎篤志, 岩坂壽二 (2007) ACE阻害薬による増殖糖尿病網膜症への進行阻害効果. 第111回日本眼科学会総会, 大阪
65. 池田耕士, 森本 聡, 前原 稔, 大村直人, 黒川弘晶, 片山和敏, 河 相吉, 岩坂壽二, 澤田 敏 (2007) 延髄への血管圧迫一本態性高血圧患者と正常血圧者のgrade比較. 第66回日本医学放射線学会総会, 横浜
66. 岡崎瑞穂, 岩崎泰正, 豊田長興, 西山 充, 次田 誠, 谷口義典, 何 静, 田口崇文, 品原正幸, 丸山 博, 橋本浩三 (2007) Low T3症候群発症の分子機構—炎症および細胞内エネルギー枯渇との関連. 第80回日本内分泌学会学術総会, 東京
67. 豊田長興, 野村恵巳子, 岩坂壽二, 西川光重 (2007) 1型糖尿病を合併するバセドウ病に対する抗甲状腺剤の治療効果に関する検討. 第80回日本内分泌学会学術総会, 東京
68. 野村恵巳子, 豊田長興, 岩坂壽二, 西川光重 (2007) ヒト腸間膜由来脂肪細胞に発現する甲状腺ホルモン活性化酵素に関する検討. 第80回日本内分泌学会学術総会, 東京
69. 大谷 肇 (2007) ATP-sensitive redistribution of Utrophin; a novel mechanism of cell death during metabolic inhibition. 第71回日本循環器学会総会, 神戸
70. 西條和子, 宮野喜代子, 大垣佳代, 柴田清美, 大田千穂子, 森本 聡, 桃崎淳子 (2007) 電子カルテと透析管理システムの連携について. 第68回大阪透析研究会, 大阪
71. 北村哲也, 森本 聡, 岡本貴行, 中嶋章貴 (2007) 腹部大動脈人工血管仮性動脈瘤破裂および右深大腿動脈瘤破裂を来した透析患者の一例. 第68回大阪透析研究会, 大阪
72. 竹花一哉 (2007) J-ACCESS データに基づく心事故発生予測ツール: Heart Risk View. 第71回日本循環器学会, 神戸
73. 竹花一哉 (2007) IHEを用いた循環器情報管理の具体的適用領域. 第71回日本循環器学会, 神戸
74. Takehana K, Maeba H, Ueyama T, Yoshida S, Hatada K and Iwasaka T (2007) Reliability of two-days stress myocardial perfusion imaging protocol for detection of coronary artery disease. 第71回日本循環器学会総会, 神戸
75. 大谷 肇 (2007) 継続的有酸素運動の心筋保護効果における心臓交感神経と酸化ストレスの役割に関する検討. 日本抗加齢医学会総会, 京都
76. Akita Y, Otani H, Matsuhisa S, Sato D, Kyoi S, Kamihata H, Kimira Y and Iwasaka T (2007) Exercise-induced activation of cardiac sympathetic nerve triggers cardioprotection against infarction via redox-sensitive activation of eNOS and up-regulation of iNOS. 日本循環器学会, 神戸
77. Matsuhisa S, Akita Y, Sato D, Kyoi S and Iwasaka T (2007) Antioxidant paradox and Angiotensin II type-1 receptor blockade for heart failure treatment in cardiomyopathy hamster. 日本循環器病学会, 神戸
78. Okazaki T, Otani H, Matsuhisa S, Akita Y, Sato D and Iwasaka T (2007) Reversal of nitric oxide synthase uncoupling by tetrahydrobiopterin unmasks tolerance to ischemia/reperfusion injury in diabetic heart. 日本循環器病学会, 神戸
79. 竹花一哉 (2007) 正しい心筋SPECT画像を撮るために新しい薬物負荷 (アデノシン負荷の実際). 第32回ニュータウンカンファレンス, 神戸
80. 豊田長興 (2007) CTで両側の副腎腫瘍を認め、シンチでは右側に取り込みを、サンプリングでは左側のアルドステロンが高値であった原

発性アルドステロン症の1例. 内分泌代謝シンポジウム, 京都

81. 森本 聡 (2007) 高血圧管理はこうすれば大丈夫. 市民公開講座. 生活習慣病と上手に付き合う方法. 日本医工学治療学会第23回学術大会, 大阪市
82. 竹花一哉 (2007) new era of Cardiac Imaging. 第100回日本放射線技術学会近畿地方会, 大阪
83. 豊嶋敦彦, 豊田長興, 片瀬香織, 野村恵巳子, 小崎篤志, 岩坂壽二, 西川光重 (2007) 甲状腺機能亢進症を呈した肋骨転移を伴った甲状腺癌の1例. 第29回京都甲状腺研究会, 京都
84. 森本 聡 (2007) CKDにおける降圧療法を考える—N型カルシウム拮抗薬の有用性について—. 第50回日本腎臓学会総会, 浜松

著 書

1. 西川光重, 稲田満夫 (2007) 喫煙の血管作動性物質と甲状腺ホルモン代謝・作用に及ぼす影響. 喫煙科学研究の歩み—1996年から2005年—173–178頁, 喫煙科学研究財団, 東京
2. 西川光重, 豊田長興, 野村恵巳子 (2007) 甲状腺機能低下症. 内分泌代謝専門医ガイドブック (成瀬光栄, 平田結喜緒, 島津 章編) 117–120頁, 診断と治療社, 東京
3. 西川光重 (2007) 21世紀の甲状腺診療・研究への展望. 日本甲状腺学会50周年記念論文集 21世紀の甲状腺診療・研究への展望 (日本甲状腺学会理事会・広報委員会編) 57–58頁, メディカルレビュー, 東京

内科学第三講座

〈研究業績〉

原 著

1. Sekimoto G, Matsuzaki K, Yoshida K, Mori S, Murata M, Seki T, Matsui H, Fujisawa J and Okazaki K (2007) Reversible Smad-dependent signaling between tumor suppression and oncogenesis. *Cancer Res* 67: 5090–5096
2. Tsuda M, Inaba M, Sakaguchi Y, Fukui J, Ueda Y, Omae M, Ando Y, Mukaide H, Guo K, Yabuki T, Nakatani T and Ikehara S (2007) Activation of granulocytes by direct interaction with dendritic cells. *Clin Exp Immunol* 150: 322–331
3. Kaibori M, Morita M, Tagami S, Uchida Y, Tanaka H, Yoshioka K, Takahashi Y, Sakaida N, Uemura Y, Seki T, Okazaki K and Kamiyama Y (2007) Cutaneous and colonic metastases after resection of hepatocellular carcinoma. *Dig Dis Sci* 52: 1114–1117
4. Kaibori M, Uchida Y, Ishizaki M, Saito T, Hirohara J, Kishimoto Y, Uemura Y, Tanaka K and Kamiyama Y (2007) Living donor liver transplantation for primary biliary cirrhosis with autoimmune hemolytic anemia: a case report. *Dig Dis Sci* 52: 3237–3239
5. Fukui T, Nishio A, Okazaki K, Kasahara K, Saga

- K, Tanaka J, Uza N, Ueno S, Kido M, Ohashi S, Asada M, Nakase H, Watanabe N and Chiba T (2007) Cross-primed CD8+ cytotoxic T cells induce severe Helicobacter-associated gastritis in the absence of CD4+ T cells. *Helicobacter* 12: 486–497
6. Matsuzaki K, Murata M, Yoshida K, Sekimoto G, Uemura Y, Sakaida N, Kaibori M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Fujisawa J, Okazaki K and Seki T (2007) Chronic inflammation associated with hepatitis C virus infection perturbs hepatic transforming growth factor beta signaling, promoting cirrhosis and hepatocellular carcinoma. *Hepatology* 46: 48–57
7. Okazaki K (2007) Is IgG4-associated multifocal systemic fibrosis the same disease entity as autoimmune pancreatitis? *Intern Med* 46: 117–118
8. Kiriya K, Watanabe N, Nishio A, Okazaki K, Kido M, Saga K, Tanaka J, Akamatsu T, Ohashi S, Asada M, Fukui T and Chiba T (2007) Essential role of Peyer's patches in the development of Helicobacter-induced gastritis. *Int Immunol* 19: 435–446
9. Wakamatsu T, Nakahashi Y, Hachimine D, Seki T and Okazaki K (2007) The combination of

- glycyrrhizin and lamivudine can reverse the cisplatin resistance in hepatocellular carcinoma cells through inhibition of multidrug resistance-associated proteins. *Int J Oncol* 31: 1465–1472
10. Ikeda K, Seki T, Umehara H, Inokuchi R, Tamai T, Sakaida N, Uemura Y, Kamiyama Y and Okazaki K (2007) Clinicopathologic study of small hepatocellular carcinoma with microscopic satellite nodules to determine the extent of tumor ablation by local therapy. *Int J Oncol* 31: 485–491
 11. Ito T, Nishimori I, Inoue N, Kawabe K, Gibo J, Arita Y, Okazaki K, Takayanagi R and Otsuki M (2007) Treatment for autoimmune pancreatitis: consensus on the treatment for patients with autoimmune pancreatitis in Japan. *J Gastroenterol* 42: 50–58
 12. Ikeura T, Kataoka Y, Wakabayashi T, Mori T, Takamori Y, Takamido S, Okazaki K and Yamada H (2007) Effects of sensory denervation by neonatal capsaicin administration on experimental pancreatitis induced by dibutyltin dichloride. *Med Mol Morphol* 40: 141–149
 13. Kasugai H, Osaki Y, Oka H, Kudo M, Seki T and Osaka Liver Cancer Study Group (2007) Severe complications of radiofrequency ablation therapy for hepatocellular carcinoma: An analysis of 3891 ablations in 2614 patients. *Oncology* 72: 72–75
 14. Tsukamoto R, Mikami T, Miki K, Uehara N, Yuri T, Matsuoka Y, Okazaki K and Tsubura A (2007) N-methyl-N-nitrosourea-induced mammary carcinogenesis is promoted by short-term treatment with estrogen and progesterone mimicking pregnancy in aged female Lewis rats. *Oncol Rep* 18: 337–342
 15. Kamisawa T, Chung JB, Irie H, Nishino T, Ueki T, Takase M, Kawa S, Nishimori I, Okazaki K, Kim MH and Otsuki M (2007) Japan-Korea symposium on autoimmune pancreatitis (KOKURA 2007). *Pancreas* 35: 281–284
 16. Sakaguchi Y, Inaba M, Kusafuka K, Okazaki K and Ikehara S (2007) Establishment of animal models for three types of pancreatitis and analyses of regeneration mechanisms. *Pancreas* 33: 371–381
 17. Fukui J, Inaba M, Ueda Y, Miyake T, Hosaka N, Kwon AH, Sakaguchi Y, Tsuda M, Omae M, Kamiyama Y and Ikehara S (2007) Prevention of graft-versus-host disease by intra-bone marrow injection of donor T cells. *Stem Cells* 25: 1595–1601
 18. Matsushita M, Danbara N, Shimatani M, Matsumoto T, Uchida K, Omiya M, Okazaki K (2007) Handcrafted two-channel colonoscope for removing large lipomas. *Endoscopy* 39: 84
 19. Matsushita M, Shimatani M, Uchida K, Okazaki K (2007) Mechanism of acute pancreatitis after peroral double-balloon enteroscopy. *Endoscopy* 39: 480
 20. Matsushita M, Uchida K, Okazaki K (2007) Open-biopsy-forceps technique for removing biliary metallic stents migrated distally and wedged transversely in the duodenum. *Endoscopy* 39: 570
 21. Matsushita M, Shimatani M, Uchida K, Okazaki K (2007) Safe endoscopic polypectomy of jejunal polyps with a detachable snare during double-balloon enteroscopy. *Gut* 56: 1324
 22. Matsushita M, Uchida K, Okazaki K (2007) EUS-guided suprapapillary puncture for safe selective biliary access. *Gastrointest Endosc* 66: 865–866
 23. Matsushita M, Danbara N, Fukui T, Matsumoto T, Uchida K, Omiya M, Okazaki K (2007) Total colonoscopy with a transparent hood for trainees. *Am J Gastroenterol* 102: 2355–2356
 24. Matsushita M, Uchida K, Okazaki K (2007) Endoscopic injection therapy for post-sphincterotomy bleeding: single injection orad to the papilla versus double injection orad to and into the papilla. *Endoscopy* 39: 1109
 25. Matsushita M, Shimatani M, Uchida K, Okazaki K (2007) Safer endoscopic therapy of small-bowel diseases during double-balloon enteroscopy. *Endoscopy* 39: 1107
 26. 内田一茂, 岡崎和一 (2007) 【自己免疫性膵炎】自己免疫性膵炎の自己抗体と標的抗原の免疫学的解析. *Bio Clin* 22: 968–972
 27. 岡崎和一, 大宮美香, 内田一茂, 藤井寿仁, 松

- 下光伸 (2007) 【IBDの治療指針・ガイドラインをいかに臨床に活かすか】ガイドラインを活かした潰瘍性大腸炎の外来での治療. *IBD Res* 1: 24-32
28. 是枝ちづ (2007) 肝シンチグラフィによる NASHの診断と経過観察. *Minophagen Med Rev* 52: 239-242
29. 岡崎和一, 内田一茂, 三好秀明, 鉢嶺大作, 松下光伸, 高岡 亮 (2007) 【自己免疫性膵炎 (AIP) の胆管病変と原発性硬化性胆管炎 (PSC)】病態 PSCとAIPの免疫異常. *肝・胆・膵* 54: 209-216
30. 岡崎和一, 三好秀明, 小薮雅紀, 内田一茂 (2007) 【膵炎 病態と治療指針】自己免疫性膵炎 自己免疫性膵炎の発症機序と病態, 治療指針. *最新医* 62: 1908-1913
31. 岡崎和一 (2007) 消化器疾患をめぐる最近の話題 自己免疫性膵炎とは. *大阪医* 41: 24-26
32. 西森 功, 岡崎和一, 川茂 幸, 大槻 眞 (2007) 自己免疫性膵炎の新しい臨床診断基準 2006 をめぐって 自己免疫性膵炎の治療についての実態調査. *胆と膵* 28: 961-966
33. 岡崎和一, 三好秀明, 小薮雅紀, 深田憲将, 坂口雄沢, 内田一茂 (2007) 自己免疫性膵炎の新しい臨床診断基準 2006 をめぐって 自己免疫性膵炎の新しい臨床診断基準改訂の意義とポイント. *胆と膵* 28: 919-924
34. 里井壯平, 豊川秀吉, 柳本泰明, 道浦 拓, 松井陽一, 山本智久, 山尾 順, 上山泰男, 宮崎浩彰 (2007) 膵頭十二指腸切除術におけるクリニカルパス. *日クリニカルパス会誌* 9: 667-672
35. 森 茂生, 岡崎和一 (2007) 知っておくべき新しい診療理念 内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD). *日医師会誌* 135: 2376-2377
36. 渡部則彦, 岡崎和一, 千葉 勉 (2007) 消化器疾患の分子生物学 第15回 消化管リンパ腫. *分子消化器病* 4: 239-245
37. 是枝ちづ, 武田聖子, 關 壽人, 岡崎和一, 河相吉 (2007) 核医学的検査によるNASHの経過観察. *薬理と治療* 35: S-271-S-276
38. 岡崎和一, 内田一茂, 鉢嶺大作, 三好秀明, 松下光伸, 高岡 亮 (2007) 【消化器の炎症からの腫瘍】膵臓 自己免疫性膵炎は膵癌に関連するのか. *臨床消内科* 22: 1023-1028
39. 岡崎和一 (2007) 【自己免疫性膵炎 最前線】自己免疫性膵炎診断基準 2006 の作成にあたって. *膵臓* 22: 624-628
40. 浅田全範, 西尾彰功, 内田一茂, 木戸政博, 上野 哲, 宇座徳光, 桐谷景一, 井上聡子, 北村 浩, 大橋真也, 玉置敬之, 福井寿朗, 松浦 稔, 川崎公男, 西 俊希, 渡部則彦, 仲瀬裕志, 千葉 勉, 岡崎和一 (2007) 自己免疫性膵炎患者における抗膵分泌性トリプシンインヒビター自己抗体の同定. *膵臓* 22: 82-84
41. Matsushita M, Danbara N, Shimatani M, Matsumoto T, Uchida K, Omiya M, Okazaki K. Hand-crafted two-channel colonoscope for removing large lipomas. *Endoscopy* 2007;39:84.
42. Matsushita M, Shimatani M, Uchida K, Okazaki K. Mechanism of acute pancreatitis after peroral double-balloon enteroscopy. *Endoscopy* 2007;39:480.
43. Matsushita M, Uchida K, Okazaki K. Open-biopsy-forceps technique for removing biliary metallic stents migrated distally and wedged transversely in the duodenum. *Endoscopy* 2007;39:570.
44. Matsushita M, Shimatani M, Uchida K, Okazaki K. Safe endoscopic polypectomy of jejunal polyps with a detachable snare during double-balloon enteroscopy. *Gut* 2007;56:1324.
45. Matsushita M, Uchida K, Okazaki K. EUS-guided suprapapillary puncture for safe selective biliary access. *Gastrointest Endosc* 2007;66:865-6.
46. Matsushita M, Danbara N, Fukui T, Matsumoto T, Uchida K, Omiya M, Okazaki K. Total colonoscopy with a transparent hood for trainees. *Am J Gastroenterol* 2007;102:2355-6.
47. Matsushita M, Uchida K, Okazaki K. Endoscopic injection therapy for post-sphincterotomy bleeding: single injection orad to the papilla versus double injection orad to and into the papilla. *Endoscopy* 2007;39:1109.
48. Matsushita M, Shimatani M, Uchida K, Okazaki K. Safer endoscopic therapy of small-bowel dis-

eases during double-balloon enteroscopy. *Endoscopy* 2007;39:1107.

総説

1. Matsushita M, Uchida K and Okazaki K (2007) Role of the appendix in the pathogenesis of ulcerative colitis. *Inflammopharmacology* 15: 154–157
2. Okazaki K, Uchida K, Matsushita M and Takaoka M (2007) How to diagnose autoimmune pancreatitis by the revised Japanese clinical criteria. *J Gastroenterol* 42: 32–38
3. 廣原淳子, 仲野俊成, 關 壽人, 岡崎和一, 大西三朗 (2007) 原発性胆汁性肝硬変の全国調査からみた他臓器疾患との関連. *消化器科* 45: 652–657

症例報告

1. Saga K, Fukui T, Kato Y, Komeda T, Nakase H, Watanabe N, Nishio A and Chiba T (2007) Localized cytomegalovirus reactivation after radiotherapy for high-grade gastric lymphoma. *Gastrointest Endosc* 65: 545–547
2. Uchida K, Satoi S, Miyoshi H, Hachimine D, Ikeura T, Shimatani M, Matsushita M, Takaoka M, Takai S, Ashida K and Okazaki K (2007) Inflammatory pseudotumors of the pancreas and liver with infiltration of IgG4-positive plasma cells. *Intern Med* 46: 1409–1412
3. Kwon AH, Tsuji K, Yamada H, Okazaki K and Sakaida N (2007) Amyloidosis of the gallbladder mimicking gallbladder cancer. *J Gastroenterol* 42: 261–264
4. Nakayama S, Matsushita M, Yamashina M, Kawamura R, Ikeura T, Shimatani M, Uchida K, Yamamoto S, Kubota Y and Okazaki K (2007) Effective steroid mini-pulse therapy for refractory biliary stenosis due to autoimmune pancreatitis. *Pancreas* 35: 83–84
5. Matsushita M, Yamashina M, Ikeura T, Shimatani M, Uchida K, Takaoka M, Okazaki K (2007) Effective steroid pulse therapy for the biliary stenosis caused by autoimmune pancreatitis. *Am J Gastroenterol* 102: 220–221

6. 島谷昌明, 松下光伸, 内田一茂, 福井由理, 田橋賢也, 関 寿人, 岡崎和一, 植村芳子, 坂井田紀子, 河南智晴 (2007) ダブルバルーン小腸内視鏡検査が切除範囲決定の一助となった回腸カルチノイド肝転移の1例. *Gastroenterol Endosc* 49: 1152–1158
7. 坂口雄沢, 榎 政彦, 足立 靖, 山本奈恵, 植村芳子, 川喜多繁誠, 鷹巢晃昌, 岡崎和一, 松田公志, 池原 進 (2007) 前立腺原発小細胞癌の1剖検例. *診断病理* 24: 93–96
8. 海堀昌樹, 石崎守彦, 内田洋一朗, 斉藤隆道, 植村芳子, 関 寿人, 上山泰男 (2007) 若年者に発症した非B非C型肝炎細胞癌の1例. *日消器外誌* 40: 617–622
9. 田橋賢也, 鈴木 亮, 若松隆宏, 森 茂生, 竹内幸俊, 河島祥彦, 岡崎和一 (2007) 内視鏡的食道静脈瘤硬化療法後に生じた巨大食道血腫の1例. *日門脈圧亢進症会誌* 13: 107–111
10. 村江美保, 為政大幾, 堀尾 武, 梅原英人, 岡崎和一 (2007) 腎平滑筋肉腫の多発皮膚転移例. *皮の科* 6: 154–158
11. 尾崎 岳, 海堀昌樹, 小池保志, 植村芳子, 関 寿人, 上山泰男 (2007) 肝原発内分泌細胞癌の1切除例. *臨外* 62: 553–557
12. Matsushita M, Yamashina M, Ikeura T, Shimatani M, Uchida K, Takaoka M, Okazaki K. Effective steroid pulse therapy for the biliary stenosis caused by autoimmune pancreatitis. *Am J Gastroenterol* 2007;102:220-1.

学会発表

1. 安藤祐吾, 稲葉宗夫, 坂口雄沢, 池原 進, 岡崎和一 (2007) Subcutaneous adipose tissue-derived stem cells facilitate colonic mucosal recovery from 2,4,6-trinitrobenzene sulfonic acid (TNBS)-induced colitis in rats. 第4回日本炎症性腸疾患研究会, 東京
2. Murata M, Matsuzaki K, Yoshida K, Sekimoto G, Uemura Y, Sakaide N, Fujisawa J, Seki T, Koike K and Okazaki K (2007) Hepatitis B virus X protein shifts hepatic Smad3-mediated signaling from tumor suppression to oncogenesis in chronic hepatitis B. 1st APDW, Kobe
3. Seki T (2007) Ultrasonically guided percuta-

- neous local ablation therapy (RFA, MCT) for small hepatocellular carcinoma (HCC). 21th Workshop on Endoscopic Ultrasonography & Abdominal US, Seoul
4. Miyoshi H, Uchida K, Matsushita M, Takaoka M and Okazaki K (2007) Analysis of regulatory T cells in patients with autoimmune pancreatitis. Asian Pacific Digestive Week, Kobe
 5. Okazaki K (2007) Current diagnosis and management of ulcerative colitis in Japan. Asian Pacific Digestive Week, Kobe
 6. Okazaki K (2007) Clinical diagnosis of autoimmune pancreatitis in Japan. Asian Pacific Digestive Week, Kobe
 7. Hachimine D, Uchida K, Matsuzaki K, Seki T and Okazaki K (2007) Smad3 phosphoisoform-mediated signaling during colorectal cancer using chronic colitis mice model. Asian Pacific Digestive Week 2007, Kobe
 8. Matsuzaki K (2007) TGF- β signaling in human fibro-carcinogenesis. Osaka Liver Fibrosis Meeting, Osaka
 9. Sakaguchi Y, Inaba M, Uchida K, Ikehara S and Okazaki K (2007) Autoimmune mechanisms are involved in pancreatitis and sialoadenitis in WBN/Kob rats. The Second Meeting of Asian-Oceanic Pancreatic Association (AOPA), Kobe
 10. Okazaki K, Ito T, Nishimori I, Kawa S, Koizumi M, Kamisawa T and Otsuki M (2007) Other organ involvement in autoimmune pancreatitis. Korea-Japan Symposium for Autoimmune Pancreatitis, Korea
 11. Ando Y, Inaba M, Sakaguchi Y, Ikehara S and Okazaki K (2007) Adipose tissue-derived stem cells facilitate colonic mucosal recovery from 2,4,6-trinitrobenzene sulfonic acid (TNBS)-induced colitis in rats. ICMI 2007 (13th International Congress of Mucosal Immunology), 東京
 12. Fukui T, Okazaki K, Nishio A and Chiba T (2007) Gastric mucosal hyperplasia via up-regulation of gastrin induced by persistent activation of gastric innate immunity in MHC class II-deficient mice. ICMI 2007 (13th International Congress of Mucosal Immunology), Tokyo
 13. Sakaguchi Y, Inaba M, Fukui J, Ueda Y, Tsuda M, Guo Ke Quan, Omae M, Ando Y, Ikehara S and Okazaki K (2007) Prevention of autoimmune chronic pancreatitis in WBN/Kob rats by intra bone marrow—bone marrow transplantation. ICMI 2007 (13th International Congress of Mucosal Immunology), Tokyo
 14. Hachimine D, Uchida K, Asada M, Kawamata S, Matsuzaki K, Seki T and Okazaki K (2007) Analysis of Smad3 phosphoisoform-mediated signaling during colorectal cancer using IL-10 knock out mice. ICMI2007 13th International Congress of Mucosal Immunology, 東京
 15. Watanabe N, Kiriya K, Nishio A, Kido M, Saga K, Tanaka J, Akamatsu T, Ohashi S, Asada M, Fukui T, Okazaki K and Chiba T (2007) Essential role of Peyer's patches in the development of Helicobacter-induced gastritis. DDW 2007 (Digestive Disease Week 2007), Washington, D.C.
 16. Murata M, Matsuzaki K, Seki T and Okazaki K (2007) Chronic hepatitis C shifts human hepatocytic TGF- β signaling, promoting cirrhosis and cancer. 17th APASL Annual Meeting in Kyoto, Kyoto
 17. Ikeda K, Seki T, Umehara H and Okazaki K (2007) Evaluation of small hepatocellular carcinoma with microscopic satellite nodules. Asian Pacific Association for the Study of the Liver (APASL) 2007, Kyoto
 18. Toyokawa H, Satoi S, Yanagimoto H, Matsui Y, Takai S, Kamiyama Y, Fukata N, Takaoka M, Uchiyama S, Uemura Y, Sakaida N and Okazaki K (2007) A case report of small solid pseudopapillary tumor in a young man. First Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association, Fukuoka
 19. Yamao J, Satoi S, Toyokawa H, Yanagimoto H, Yamamoto T, Takai S, Kamiyama Y, Takaoka M and Okazaki K (2007) A case report of the bile duct cancer arising 40 years after choledochoduodenostomy congenital choledochal dilation. First Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association, Fukuoka

20. Seki T (2007) Treatment techniques (HCC). How to introduce? The 17th APASL Annual Meeting, Kyoto
21. Umehara H, Seki T, Ikeda K and Okazaki K (2007) Microwave coagulation therapy for hepatocellular carcinoma using a new microwave electrode. The 17th APASL Annual Meeting in KYOTO, Kyoto
22. 関 寿人 (2007) 肝癌の最新の治療. 大阪府医師会：肝炎に関する研修会, 大阪
23. 村田美樹, 松崎恒一, 関本 剛, 関 寿人, 岡崎和一 (2007) B型慢性肝疾患におけるTGF- β シグナル伝達. 第15回浜名湖シンポジウム, 浜松
24. 塩見圭佑, 福井寿朗, 廣原淳子, 鈴木 亮, 住本貴美, 森 茂生, 松本隆之, 関 寿人, 岡崎和一 (2007) 気管内挿管時の用手的マスク換気にて胃粘膜裂傷を来した1例. 第184回日本内科学会近畿地方会, 京都
25. 井上肇一, 池田耕造, 関 寿人, 梅原秀人, 井口亮輔, 岡崎和一 (2007) PTA (percutaneous transluminal angioplasty) と血管内ステント留置術が有効であった Budd-Chiari 症候群の一例. 第37回日本肝臓学会西部会, 長崎
26. 是枝ちづ, 武田聖子, 関 寿人, 池田耕造, 梅原秀人, 岡崎和一, 河 相吉 (2007) 肝シンチグラフィによる NASH の経過観察—BMI 経過による検討—. 第37回日本肝臓学会西部会, 長崎
27. 池田広記, 井上肇一, 住本貴美, 鈴木 亮, 中橋佳嗣, 廣原淳子, 関 寿人, 岡崎和一, 海堀昌樹, 上山泰男, 坂井田紀子, 植村芳子 (2007) インターフェロン治療で完全著効を得られた慢性C型肝炎に発症した G-CSF 産生肝細胞癌の1例. 第37回日本肝臓学会西部会, 長崎
28. 池田耕造, 関 寿人, 梅原秀人, 井上肇一, 井口亮輔, 岡崎和一 (2007) 高Ca血症を呈した進行肝細胞癌の2例. 第37回日本肝臓学会西部会, 長崎
29. 武田聖子, 是枝ちづ, 横江有佳, 梅原秀人, 池田耕造, 関 寿人, 岡崎和一, 河 相吉, 池田茂樹, 北出浩章, 権 雅憲, 四方伸明 (2007) 肝腫瘍との鑑別が困難であった肝異物肉芽腫の一切除例. 第37回日本肝臓学会西部会, 長崎
30. 門田洋一, 福島慎太郎, 関 寿人, 池田耕造, 梅原秀人, 廣原淳子, 岡崎和一 (2007) 薬物性肝障害が発症に関与し自己免疫性肝炎が示唆された1例. 第37回日本肝臓学会西部会, 長崎
31. 廣原淳子, 海堀昌樹, 木村 稔 (2007) シンポジウム肝移植におけるチーム医療：生体部分肝移植における脂肪肝ドナーに対するチーム医療としての取り組み. 第37回日本肝臓学会西部会, 長崎
32. 福井寿朗, 岡崎和一, 西尾彰功, 千葉 勉 (2007) ヘリコバクター胃炎におけるCD8陽性細胞の役割—MHC class II 欠損マウスを用いた検討—. 第6回消化器病フォーラム, 東京
33. Ando Y, Inaba M, Tuda M, Sakaguchi Y, Guo Ke Quan, Omae M, Okazaki K and Ikehara S (2007) Subcutaneous adipose tissue-derived stem cells facilitate colonic mucosal recovery from 2,4,6-trinitrobenzene sulfonic acid (TNBS)-induced colitis in rats. 第37回日本免疫学会総会, Tokyo
34. 橋本可成, 笠原 宏, 藤井壽仁 (2007) 直腸腫瘍に対するMITAS. 第62回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京
35. 藤井壽仁, 橋本可成, 吉田 良, 高田秀穂 (2007) 検診を契機に発見されたS状結腸 gastrointestinal stromal tumorの1例. 第62回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京
36. 門田洋一 (2007) 肝疾患と外来診察. 第6回北河内肝疾患懇話会, 大阪
37. 是枝ちづ, 武田聖子, 関 寿人, 岡崎和一, 河相吉 (2007) NASHにおける肝シンチグラフィによる経過観察—BMI 変化による検討—. 日本臨床生理学会第44回総会, 大阪
38. 安藤祐吾, 藤井寿仁, 渡辺敏彦, 川股聖二, 松本隆之, 松下光伸, 岡崎和一 (2007) 出血性ショックを伴ったクローン病に抗 TNF- α 抗体が有効であった一例. 北河内炎症性腸疾患カンファレンス, 大阪
39. 廣原淳子 (2007) 原発性胆汁性肝硬変 (PBC) の病態と治療について. 枚方市保健所原発性胆汁性肝硬変学習会, 大阪
40. 島谷昌明, 高岡 亮, 岡崎和一 (2007) パネルディスカッション 12：術後再建腸管を有す

- る胆膵疾患症例に対するダブルバルーン内視鏡 (DBE) を用いた内視鏡的アプローチ. JDDW 2007, 神戸
41. 島谷昌明, 松下光伸, 岡崎和一 (2007) パネルディスカッション7: ダブルバルーン小腸内視鏡後の高アミラーゼ血症に関する検討. JDDW 2007, 神戸
42. 梅原秀人, 関 寿人, 池田構造, 岡崎和一 (2007) 肝細胞癌に対するフッ素系樹脂コーティングマイクロ波電極を用いた経皮的マイクロ波凝固治療. 第26回Microwave surgery研究会, 福岡
43. 藤井壽仁, 川股聖二, 山縣英生, 吉田勝紀, 鉢嶺大作, 福島慎太郎, 門田洋一, 是枝ちづ, 関壽人, 岡崎和一 (2007) 大腸ポリープと肥満, 生活習慣との関連についての検討. 第49回日本消化器病学会, 神戸
44. 橋本可成, 笠原 宏, 上野公彦, 前川洋子, 鄭充彦, 広中 愛, 貫名英之, 北沢勇人, 藤井壽仁 (2007) Zion (ALTA) 注による内痔核硬化療法の合併症回避の工夫. 第49回日本消化器病学会大会, 神戸
45. 橋本可成, 笠原 宏, 上野公彦, 前川陽子, 貫名英之, 北沢勇人, 藤井壽仁 (2007) 下痢症にて発症し, 治療に長時間を要した再発型一過性虚血性腸炎の1例. 第74回日本消化器内視鏡学会総会, 神戸
46. 岡崎和一 (2007) 自己免疫性膵炎の最近の話題. 第89回静岡胆膵疾患研究会, 静岡
47. 宮崎浩彰, 清水由紀子, 西本英充, 前田利治, 鶴見由美子, 廣田育彦, 西村泰典, 仲野俊成, 岡崎和一 (2007) 電子カルテシステムにおけるアレルギーチェックの改善. 第8回日本クリニカルパス学会学術集会, 札幌
48. 里井壯平, 豊川秀吉, 柳本泰明, 道浦 拓, 井上健太郎, 由井倫太郎, 松井陽一, 宮崎浩彰, 上山泰男 (2007) 膵頭十二指腸切除術パスのバリエーション分析. 第8回日本クリニカルパス学会学術集会, 札幌
49. 星野勝一, 田橋賢也, 若松隆宏, 森 茂生, 竹内幸俊, 河島祥彦, 岡崎和一 (2007) EVL用オーバーチューブによる食道穿孔部より動脈性出血をきたした一例. 第14回日本門脈圧亢進症学会総会, 大分
50. 藤井壽仁, 松下光伸, 岡崎和一 (2007) 当院における大腸内視鏡検査の若年者群と高齢者群の比較検討. 第25回日本大腸検査学会, 東京
51. 松崎恒一 (2007) B型慢性肝疾患におけるTGF- β シグナル伝達. 第2回大阪肝臓ミーティング, 大阪
52. 高岡 亮, 島谷昌明, 岡崎和一 (2007) 切除不能悪性肝門部胆管閉塞に対するメタリックステントを用いた内視鏡的肝両葉ドレナージ術. 第43回日本胆道学会学術集会, 東京
53. 島谷昌明, 高岡 亮, 岡崎和一 (2007) ワークショップ1: 術後再建腸管を有する総胆管結石症例に対するダブルバルーン内視鏡の有効性. 第43回日本胆道学会学術集会, 東京
54. 坂 貴司, 近藤八重子, 頼 彦長, 兼松清果, 八尾隆治, 螺良愛郎 (2007) ミトコンドリア病に合併した肝機能障害の超微形態学的検討. 第48回日本組織細胞化学会・第39回日本臨床分子形態学会・合同学術集会, 山梨
55. 岸本真房, 島谷昌明, 國澤亜以, 鈴木聡史, 富野敦稔, 山本 透, 鈴木 亮, 松下光伸, 北澤康秀, 岡崎和一 (2007) 露出血管を伴う巨大空腸憩室出血に対してダブルバルーン小腸内視鏡を用いて止血術を施行した1例. 第79回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
56. 住本貴美, 田橋賢也, 豊永貴彦, 鈴木 亮, 若松隆宏, 島谷昌明, 森 茂生, 高岡 亮, 竹内幸俊, 河島祥彦, 岡崎和一, 米虫 敦 (2007) 腎静脈狭窄により卵巣・子宮静脈を介する門脈一体循環シャントを認めた胃静脈瘤の1例. 第79回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
57. 島谷昌明, 松下光伸, 岡崎和一 (2007) ワークショップ1: 当科におけるダブルバルーン小腸内視鏡の現状と内視鏡検査・処置の工夫. 第79回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
58. 鈴木 亮, 島谷昌明, 八尾隆治, 豊永貴彦, 住本貴美, 田橋賢也, 松下光伸, 高岡 亮, 岡崎和一 (2007) 小腸Crohn病疑い症例に対してダブルバルーン小腸内視鏡 (DBE) 施行し, 回腸癌と確定診断し得た一例. 第79回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
59. 成田基良, 豊永貴彦, 塩見圭佑, 鈴木 亮, 住本貴美, 井上肇一, 池田広記, 中橋佳嗣, 廣

- 原淳子, 関 寿人, 岡崎和一, 海堀昌樹, 上山泰男, 植村芳子 (2007) 肝癌と鑑別が困難であった限局性結節性過形成 (FNH) の1例. 第87回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
60. 島谷昌明, 高岡 亮, 深田憲将, 岡崎和一 (2007) シンポジウム2: 術後再建腸管を有する急性胆管炎症例に対してダブルバルーン内視鏡を用いた内視鏡的アプローチの有用性. 第87回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
61. 豊永貴彦, 高岡 亮, 深田憲将, 島谷昌明, 小薮雅紀, 池浦 司, 楠田武生, 住本貴美, 鈴木 亮, 内田一茂, 関 寿人, 岡崎和一, 柳本泰明, 里井壮平, 上山泰男, 坂井田紀子 (2007) 脾神経内分泌腫瘍の一症例. 第87回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
62. 鈴木 亮, 高岡 亮, 島谷昌明, 住本貴美, 豊永貴彦, 深田憲将, 小薮雅紀, 池浦 司, 楠田武生, 内田一茂, 松下光伸, 関 寿人, 岡崎和一 (2007) 脾癌との鑑別診断に超音波内視鏡下吸引針細胞診, ステロイドミニパルス療法が有用であった自己免疫性脾炎の一例. 第87回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
63. 関 寿人 (2007) 肝癌の治療. 日本消化器病学会近畿支部 第25回教育講演会, 大阪
64. 廣原淳子 (2007) 原発性胆汁性肝硬変全国調査第28報. 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患克服研究事業) 難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究平成19年度第1回総会, 東京
65. 是枝ちづ (2007) クイズ症例. 第158回 大阪腹部超音波研究会, 大阪
66. 関 寿人 (2007) 肝細胞癌に対する局所治療. 第15回北大阪消化器病勉強会, 守口
67. 松下光伸, 岡崎和一, 深田憲将, 内田一茂, 安藤祐吾, 鉢嶺大作, 川股聖二, 大宮美香, 藤井壽仁 (2007) リポ化ステロイドを用いたドラッグデリバリーシステムによる炎症性腸疾患の治療: 多施設共同による無作為化並行群間試験案. 厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業「炎症性腸疾患の画期的治療法に関する臨床研究」平成19年度第1回総会, 東京
68. 松下光伸, 岡崎和一, 深田憲将, 内田一茂, 安藤祐吾, 鉢嶺大作, 川股聖二, 大宮美香, 藤井壽仁, 大植謙一, 廣田育彦, 田畑泰彦, 仲瀬裕志, 千葉 勉 (2007) ポリ乳酸マイクロカプセルを用いたステロイド封入カプセルによる難治性潰瘍性大腸炎治療の臨床試験. 厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業「炎症性腸疾患の画期的治療法に関する臨床研究」平成19年度第1回総会, 東京
69. 松下光伸, 岡崎和一, 内田一茂, 三好秀明, 坂口雄沢, 小薮雅紀, 池浦 司, 島谷昌明, 福井寿朗, 高岡 亮 (2007) 自己免疫性脾炎の治療におけるステロイド・ミニパルス療法の有用性. 厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業「難治性脾疾患に関する調査研究班」平成19年度第1回総会, 東京
70. 安藤祐吾, 稲葉宗夫, 坂口雄沢, 松下光伸, 内田一茂, 池原 進, 岡崎和一 (2007) 皮下脂肪組織由来幹細胞による TNBS 腸炎の治療促進. 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患克服研究事業) 炎症性腸疾患の画期的治療法に関する臨床研究, 東京
71. 岡崎和一 (2007) 自己免疫性脾炎の最近の話題. 第23回南大阪肝胆脾研究会, 大阪
72. 是枝ちづ, 武田聖子, 関 寿人, 岡崎和一, 河相吉 (2007) 肝シンチグラフィによる経過観察. 第7回関西肝血流動態イメージ研究会, 大阪
73. 島谷昌明, 八尾隆治, 小薮雅紀, 深田憲将, 鈴木 亮, 井上肇一, 光山俊行, 住本貴美, 松下光伸, 高岡 亮, 岡崎和一 (2007) 当科におけるダブルバルーン内視鏡を用いた内視鏡検査・処置の工夫. SB Club 小腸研究会, 大阪
74. 大宮美香, 鈴木 亮, 住本貴美, 若松隆宏, 段原直行, 福井寿朗, 松本隆之, 松下光伸, 岡崎和一 (2007) ペンタサによる肝障害をきたし, CMVとC. difficileが病状に影響をもたらしたと考えられるUCの一例. 第14回北河内炎症性腸疾患カンファレンス, 大阪
75. 岡崎和一 (2007) 自己免疫性脾炎の最近の話題. 第2回阪神脾炎・脾癌セミナー, 西宮
76. 松下光伸 (2007) 生活習慣と大腸癌. 第37回日本消化器病学会近畿支部主催市民公開講座, 大阪
77. 坂口雄沢, 岡崎和一, 池原 進 (2007) 骨髄内骨髄移植法による自己免疫性脾炎及びシェーグレン症候群の予防. 第38回日本脾臓学会大会, 福岡

78. 内田一茂, 八隅秀二郎, 松下光伸, 高岡 亮, 岡崎和一 (2007) 当院における自己免疫性膵炎の長期観察症例についての検討. 第38回日本膵臓学会大会, 福岡
79. 柳本泰明, 里井壯平, 豊川秀吉, 山本智久, 山尾 順, 荒木 浩, 高井惣一郎, 岡崎和一, 上山泰男 (2007) 自己免疫性肝炎を合併した術前診断困難な小膵癌の1切除例. 第38回日本膵臓学会大会, 福岡
80. 田中正俊, 斉藤明子, 伊東和樹, 熊田 卓, 工藤正俊, 岡 博子, 関 寿人, 春日井博志, 大崎住夫 (2007) 治療前後のAFP-L3分画から検討した肝細胞癌治療後の予後予測 (前向き多施設共同研究). 第43回日本肝癌研究会, 東京
81. 梅原秀人, 関 寿人, 池田構造, 井口亮輔, 岡崎和一 (2007) 多方向展開型注入針を用いた経皮的エタノール注入療法 (PEIT). 第43回日本肝癌研究会, 東京
82. 松崎恒一, 村田美樹, 関本 剛, 吉田勝紀, 関寿人, 岡崎和一 (2007) C型慢性肝疾患におけるTGF- β シグナル伝達. 第43回日本肝臓学会総会, 東京
83. 松崎恒一, 村田美樹, 関本 剛, 吉田勝紀, 関寿人, 岡崎和一 (2007) B型慢性肝疾患におけるTGF- β シグナル伝達. 第43回日本肝臓学会総会, 東京
84. 梅原秀人, 関 寿人, 池田耕造, 井口亮輔, 岡崎和一 (2007) 肝細胞癌に対する経皮的マイクロ波凝固療法一改良型マイクロ波電極を用いた検討. 第43回日本肝臓学会総会, 東京
85. 門田洋一, 福島慎太郎, 関 寿人, 岡崎和一 (2007) 薬物性肝障害と薬剤性過敏症症候群における薬物性肝障害スコアリングと脾腫の検討. 第43回日本肝臓学会総会, 東京
86. 廣原淳子, 仲野俊成, 関 寿人, 岡崎和一, 大西三朗 (2007) 原発性胆汁性肝硬変全国調査における肝細胞癌合併例の予後規定因子に関する検討. 第43回日本肝臓学会総会, 東京
87. 三木博和, 山道啓吾, 道浦 拓, 井上健太郎, 岸本真房, 鈴木聡史, 富野敦徳, 松本隆之, 森茂生, 北澤康秀, 中根恭司 (2007) 義歯誤飲による食道異物の一例. 第61回日本食道学会学術集会, 横浜
88. 岡崎和一 (2007) 膵炎ガイドラインに基づく膵炎診療の最前線. 日本消化器病学会北陸支部第17回教育講演会第104回支部例会, 富山
89. 是枝ちづ, 武田聖子, 関 寿人, 岡崎和一, 河相吉 (2007) 核医学的検査によるNASHの経過観察. 第15回肝病態生理研究会, 東京
90. 井上肇一, 中橋佳嗣, 松本隆之, 池田広記, 宮崎浩彰, 廣原淳子, 関 寿人, 岡崎和一, 山本奈恵, 植村芳子 (2007) 施術4年後に肝・骨転移を来した悪性副腎外褐色細胞腫の1例. 第182回日本内科学会近畿地方会, 大阪
91. 若松隆宏, 鉢嶺大作, 中橋佳嗣, 関 寿人, 岡崎和一 (2007) MRP2,3を分子標的とした肝細胞癌におけるシスプラチン耐性の克服. 第43回日本肝臓学会総会, 東京
92. 島谷昌明, 高岡 亮, 岡崎和一 (2007) パネルディスカッション7: 術後症例に対する内視鏡治療: 術後再建腸管を有する症例に対するダブルバルーン内視鏡の有用性. 第73回日本消化器内視鏡学会総会, 東京
93. 薦田礼司, 福田奈未, 渡部紀久, 森内 寛, 関寿人, 前田俊道, 福田 裕, 原田和樹 (2007) ヒト肝癌由来培養細胞HepG2における過酸化水素で誘導されるアポトーシス現象. 2007年度農芸化学学会大会, 東京
94. 安藤祐吾, 稲葉宗夫, 坂口雄沢, 内田一茂, 松下光伸, 池原 進, 岡崎和一 (2007) ラット皮下脂肪組織由来幹細胞の粘膜下局所注入法による腸管粘膜再生の検討. Bay Area Gut Club, 淡路島
95. 武田聖子, 是枝ちづ (2007) 超音波診断が困難であった肝腫瘍の一例. 第156回大阪腹部超音波研究会, 大阪
96. 岡崎 敬, 高岡 亮, 島谷昌明, 小薮雅紀, 深田憲将, 若松隆宏, 内田一茂, 関 寿人, 岡崎和一, 松井陽一 (2007) 腫瘍との鑑別に経口胆道鏡が有効であった総胆管結石の1例. 第78回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
97. 光山俊行, 田橋賢也, 島谷昌明, 森 茂生, 岡崎 敬, 井上肇一, 谷口奈穂, 藤本正博, 坂井田紀子, 関 寿人, 岡崎和一 (2007) 十二指腸原発悪性リンパ腫の一例. 第78回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
98. 小薮雅紀, 高岡 亮, 島谷昌明, 森 茂生, 深田憲将, 井上肇一, 光山俊行, 内田一茂, 関

- 寿人, 岡崎和一 (2007) Choledochocoele 類似の総胆管拡張症に EST が有用であった一例. 第78回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
99. 深田憲将, 森 茂生, 井上肇一, 岡崎 敬, 光山俊行, 田橋賢也, 松下光伸, 関 寿人, 岡崎和一, 尾崎吉郎, 坂井田紀子 (2007) 好酸球性胃腸炎により発症した Churg-Strauss 症候群の1例. 第78回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
100. 島谷昌明, 高岡 亮, 岡崎和一 (2007) パネルディスカッション2: 胆膵領域の内視鏡診断・治療の最前線: 術後再建腸管症例に対するダブルバルーン内視鏡を用いた ERCP 関連手技の経験と有用性. 第78回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
101. 藤井壽仁, 川股聖二, 山縣英生, 吉田勝紀, 鉢嶺大作, 鈴木 亮, 住本貴美, 武尾真宏, 福島慎太郎, 門田洋一, 是枝ちづ, 関 寿人, 岡崎和一 (2007) 当院における放射線腸炎9例の検討. 第78回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
102. 鈴木 亮, 島谷昌明, 八尾隆治, 井上肇一, 岡崎 敬, 住本貴美, 武尾真宏, 光山俊行, 松下光伸, 高岡 亮, 関 寿人, 岡崎和一 (2007) ダブルバルーン小腸内視鏡検査にて確定診断し得た meckel 憩室の一例. 第78回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
103. Ando Y, Inaba M, Tuda M, Sakaguchi Y, Guo Ke Quan, Omae M, Okazaki K and Ikehara S (2007) ラット皮下脂肪組織から分離培養した脂肪組織由来間葉系幹細胞による腸管粘膜再生の検討. 第96回日本病理学会, Osaka
104. 島谷昌明 (2007) ダブルバルーン小腸内視鏡を用いた検査・処置. 関西消化器懇話会, 大阪
105. 島谷昌明, 松下光伸, 八尾隆治, 鈴木 亮, 井上肇一, 岡崎 敬, 住本貴美, 武尾真宏, 光山俊行, 高岡 亮, 岡崎和一 (2007) 右下腹部痛精査の小腸透視にて異常を認めた一例. 関西腸疾患セミナー, 大阪
106. 安藤祐吾, 稲葉宗夫, 福井淳一, 上田祐輔, 津田雅庸, 坂口雄沢, 郭 可泉, 大前麻理子, 池原 進, 岡崎和一 (2007) ラット皮下脂肪組織から分離培養した脂肪組織由来間葉系幹細胞による腸管粘膜再生の検討. 第10回京都免疫ワークショップ学術集会, 大阪
107. 松崎恒一, 村田美樹, 関本 剛, 吉田勝紀, 関 寿人, 岡崎和一 (2007) B型慢性肝疾患における TGF- β シグナル伝達. 第48回京都肝疾患懇話会, 京都
108. 井上肇一, 高岡 亮, 住本貴美, 光山俊行, 深田憲将, 若松隆宏, 森 茂生, 大宮美香, 中橋佳嗣, 関 寿人, 岡崎和一, 井上健太郎, 上山泰男 (2007) 悪性腹膜中皮腫の1症例. 第86回日本消化器病学会近畿支部例会, 京都
109. 深田憲将, 高岡 亮, 岡崎敬, 小薮雅紀, 島谷昌明, 内田一茂, 内山正三, 関 寿人, 岡崎和一, 豊川秀吉, 里井壮平, 上山泰男 (2007) 健診で発見された solid pseudopapillary tumor の若年男性の1例. 第86回日本消化器病学会近畿支部例会, 京都
110. 藤井壽仁, 関 寿人, 岡崎和一 (2007) 大腸腺腫と肥満, 食習慣との関連についての検討. 第86回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
111. 鈴木 亮, 住本貴美, 中橋佳嗣, 武尾真宏, 光山俊行, 岡崎 敬, 井上肇一, 若松隆宏, 松本隆之, 池田広記, 宮崎浩彰, 廣原淳子, 関寿人, 岡崎和一, 植村芳子 (2007) 興味深い臨床経過を辿ったB型急性肝炎の2例. 第86回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
112. 関 寿人 (2007) 肝細胞癌に対する局所治療: RFA・MCT・EITの現状と展望. 福山市がん診療連携フォーラム, 福山
113. 松下光伸, 岡崎和一, 深田憲将, 内田一茂, 安藤祐吾, 川股聖二, 大宮美香, 藤井壽仁 (2007) リポ化ステロイドを用いたドラッグデリバリーシステムによる炎症性腸疾患の治療: 多施設共同による無作為化並行群間試験案. 厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業「炎症性腸疾患の画期的治療法に関する臨床研究」平成18年度第2回総会, 東京
114. 松下光伸, 岡崎和一, 深田憲将, 内田一茂, 安藤祐吾, 川股聖二, 大宮美香, 藤井壽仁, 廣田育彦, 田畑泰彦 (2007) ポリ乳酸マイクロカプセルを用いたステロイド封入カプセルによる難治性潰瘍性大腸炎治療の臨床試験. 厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業「炎症性腸疾患の画期的治療法に関する臨床研究」平成18年度第2回総会, 東京

115. 安藤祐吾, 稲葉宗夫, 坂口雄沢, 内田一茂, 松下光伸, 池原 進, 岡崎和一 (2007) 皮下脂肪組織由来幹細胞による TNBS 腸炎の治療促進. 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患克服研究事業) 炎症性腸疾患の画期的治療法に関する臨床研究, 東京
 116. 廣原淳子 (2007) 原発性胆汁性肝硬変全国調査第 27 報. 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患克服研究事業) 難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究平成 18 年度第 2 回総会, 東京
 117. 川股聖二, 岡崎和一, 松崎恒一, 内田一茂, 松下光伸, 日比紀文, 松岡克善, 岩男 泰 (2007) 潰瘍性大腸炎の癌化における Smad のリン酸化シグナル伝達の解析. 厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成 18 年度第 2 回総会, 東京
 118. 内田一茂, 三好秀明, 池浦 司, 島谷昌明, 松下光伸, 高岡 亮, 岡崎和一 (2007) 自己免疫性膵炎とその周辺疾患に関する臨床的検討. 第 104 回日本内科学会総会, 大阪
 119. 豊永貴彦, 松本隆之, 鈴木 亮, 住本貴美, 若松隆宏, 福井寿朗, 大宮美香, 内田一茂, 松下光伸, 岡崎和一 (2007) 露出血管のあるクローン病の潰瘍出血に対して内視鏡的止血術が有効であった一例. 第 4 回 Digestive disease Osaka Meeting, 大阪
- 著 書
1. Seki T (2007) Percutaneous liver biopsy, Percutaneous ethanol injection therapy, Percutaneous microwave coagulation therapy, Percutaneous radiofrequency ablation therapy. Ultrasound Diagnosis of Digestive Disease (Third Edition) (Chan Sup Shim ed) pp 403-429, RYO MOON GAK. Co.P, Seoul
 2. 岡崎和一 (2007) 自己免疫性膵炎. Annual Review 消化器 2007 (林 紀夫, 日比紀文, 上西紀夫, 下瀬川徹編) 201-207 頁, 中外医学社, 東京
 3. 関 寿人 (2007) マイクロ波凝固療法の有用性とその使い分け. 肝癌: ラジオ波治療 そのノウハウとエビデンス (池田健次編) 31-37 頁, 診断と治療社, 東京
 4. 廣原淳子, 仲野俊成, 関 寿人, 岡崎和一 (2007) 原発性胆汁性肝硬変全国調査 (第 27 報). 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 (難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究) 平成 18 年度総括・分担研究報告書 39-41 頁, 難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究班, 東京
 5. 岡崎和一 (2007) 急性膵炎. 今日の診断基準 (大田 健, 奈良信雄編) 270-275 頁, 南江堂, 東京
 6. 大槻 眞, 岡崎和一 (2007) 自己免疫性膵炎 アトラス 1-54 頁, 厚生労働省難治性膵疾患調査研究班, 東京
 7. 島谷昌明, 高岡 亮, 岡崎和一 (2007) DB-ERCP の準備と基本手技. 胆膵内視鏡治療の基本手技 (岡崎和一編) 2, 87-98 頁, 診断と治療社, 東京
 8. 岡崎和一, 内田一茂, 高岡 亮 (2007) 3. 内科 C. 消化器 5. 自己免疫性膵炎. 必携女性の医療学: 外来で役立つ実践ガイド (本庄英雄, 島田和幸編) 553-557 頁, 永井書店, 大阪

心療内科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Hirai K, Komura K, Tokoro A, Kuromaru T, Ohsima A, Ito T, Sumiyoshi Y and Hyodo I (2007) Psychological and behavioral mechanisms influencing the use of complementary and alternative medicine (CAM) in cancer patients. Ann Oncol 19: 49-55
2. Kishida Y, Miki H, Nishii T, Inoue T, Nishida S, Yoshikawa H and Sugano N (2007) Therapeutic effects of Saireito (TJ-114), a traditional Japanese herbal medicine, on postoperative edema and inflammation after total hip arthroplasty. Phytomedicine 14: 581-586

3. Kanbara K, Fukunaga M, Mutsuura H, Takeuchi H, Kitamura K and Nakai Y (2007) An exploratory study of subgrouping of patients with functional somatic syndrome based on the psychophysiological stress response: its relationship with moods and subjective variables. *Psychosom Med* 69: 158–165
 4. 中井吉英, 福永幹彦 (2007) 【不定愁訴とその対応】不定愁訴とは? *JOHNS* 23: 953–956
 5. 深尾篤嗣, 岡山征史朗, 高松順太, 中井吉英, 花房俊昭 (2007) パロキセチンにより抑うつ症状の改善とともに甲状腺機能亢進症の寛解がみられたバセドウ病患者の1例. *Pharm Med* 25: 119–122
 6. 竹内寛治, 中井吉英 (2007) 【心身症のすべて】心身症の実際 機能性胃腸症. *からだの科学* 254: 58–60
 7. 中井吉英 (2007) 【慢性疼痛管理】慢性疼痛の診断に必要な知識 ペインクリニクシンのための心身医学的知識. *ペインクリニック* 28: S82–S89
 8. 中井吉英, 水野泰行, 阿部哲也 (2007) 【難治性疼痛と闘う 研究と治療の最前線】痛みと闘う 各科の取り組み システム論的な見方による難治性疼痛の予防と治療. *医のあゆみ* 223: 784–789
 9. 中井吉英 (2007) サロン談義 いのちの科学としての医学・医療「第5主題」コメント 医療崩壊 大学病院の現場から. *環境と健康* 20: 574–587
 10. 土井麻里 (2007) 【相補・代替医療の現況をみる 日常診療で知っておくべき多種多様のCAMを解説します】心身相関療法 瞑想法. *治療* 89: 1476–1481
 11. 竹林直紀, 神原憲治, 三谷有子, 中井吉英 (2007) 【相補・代替医療の現況をみる 日常診療で知っておくべき多種多様のCAMを解説します】心身相関療法 バイオフィードバック. *治療* 89: 1439–1446
 12. 神原憲治, 伴 郁美, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) 【相補・代替医療の現況をみる 日常診療で知っておくべき多種多様のCAMを解説します】心身相関療法 心理療法. *治療* 89: 1425–1432
 13. 阿部哲也, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) 自律訓練法による胃運動機能の変化. *消心身医* 14: 70–73
 14. 竹内寛治, 神原憲治, 福永幹彦, 三谷有子, 六浦裕美, 中井吉英 (2007) DES患者とGERD患者における長期間食道運動機能の解析. *消心身医* 14: 52–59
 15. 水野泰行, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) 心身症患者における病態認識と治療効果との関係に関する前向き研究. *心身医* 47: 721–728
 16. 伴 郁美, 神原憲治, 福永幹彦, 河瀬雅紀, 中井吉英 (2007) リラックス呼吸法における身体的・心理的变化について. *心療内科* 11: 384–389
 17. 蓮尾英明, 阿部哲也, 永岡三穂, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) 外在化技法を用いることで解決志向アプローチの有効性を高めた機能性消化管障害症例の検討. *心療内科* 11: 350–354
 18. 永岡三穂, 松田能宣, 蓮尾英明, 中井吉英 (2007) 【頭痛診療の実際】各科における診療の実際 心療内科の頭痛診療. *総合臨* 56: 741–745
 19. 中井吉英 (2007) 【臨床医学の展望2007 診断および治療上の進歩】心身医学. *医事新報* 4324: 88–92
 20. 村上典子, 小笹裕美子, 村松知子, 中山伸一, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) 心身医学的観点から見た阪神・淡路大震災被災住民の健康問題. *日集団災医会誌* 12: 189–195
 21. 相原由花, 竹林直紀, 中井吉英, (2007) 【最近注目されている心身医学療法】アロマセラピー. *日心療内誌* 11: 128–132
 22. 深尾篤嗣, 奥見裕邦, 和田教義, 岡山征史朗, 相田貴子, 谷口喜美江, 中井吉英, 花房俊昭 (2007) 自己心理学的アプローチが有効であった解離性健忘, 食物アレルギー患者の一例. *洛和会病医誌* 18: 46–51
- 総 説
1. 阿部哲也, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) 【プライマリケアで消化管機能異常症を診る】心療内科から見た消化管機能異常症. *クリニカルプラクティス* 26: 382–385
 2. 水野泰行, 阿部哲也, 中井吉英 (2007) 特集

慢性疼痛に対する集学的アプローチⅡ 心療内科の立場から. ペインクリニック 28: 1589-1598

3. 阿部哲也, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) 【子どもを蝕む大人の病気】消化性潰瘍. 小児科 48: 574-578
4. 福永幹彦 (2007) 心身症診断・治療ガイドライン 2006・Summary Functional Dyspepsia (FD). 心身医 47: 653-657
5. 西田慎二 (2007) 精神構造一五神の働きと治療への応用. 中医臨 28: 7-12
6. 芦高恵美子, 阿部哲也, 松村伸治, 伊藤誠二 (2007) 脊髄後角におけるNMDA受容体リン酸化と神経因性疼痛. 慢性疼痛 26: 41-47

症例報告

1. 橋爪 誠 (2007) 統合医療と健康生成論. Compr Med 8: 16-22
2. 西田慎二, 岸田友紀, 井上隆弥, 吉川秀樹 (2007) 漢方薬によって改善した遷延性・難治性過敏性腸症候群の1例. 漢方の臨 54: 281-285
3. 永岡三穂, 蓮尾英明, 福永幹彦 (2007) 精神障害・人格障害を伴う1症例. 治療学 41: 636-638
4. 水野泰行, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) Empty chair による「第三の視点」の獲得が改善をもたらしたためまい患者の1例. 心療内科 11: 355-359
5. 坂本能基, 中西俊一郎, 内田 学, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) 腹腔鏡下手術により治癒した慢性骨盤痛の2症例. 日産婦内視鏡会誌 23: 161-164
6. 水野泰行, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) 抑肝散が有効であった慢性疼痛の1例. 日東洋心身医研 21: 52-55

学会発表

1. Kawahara M, Tokoro A, Tada H, Ishiwata R, Teramukai S, Fukushima M, Kubota K, Shinkai T and Furuse K (2007) Quality of life (QOL) evaluation for advanced non-small cell lung cancer (NSCLC): a comparison between vinorelbine and gemcitabine followed by docetaxel

(VGD) versus paclitaxel and carboplatin (PC) regimen on a phase III protocol JMT0 LC00-03 (BRI LC03-01). 12th World Conference on Lung Cancer, Soul

2. Tokoro A, Hirai K, Komura K, Kuromaru T, Ohshima A, Hyodo I, Sumiyoshi Y and Nakai Y (2007) Attitudes toward the use of complementary and alternative medicine in Japanese lung cancer patients. 9th World Congress of Psycho-Oncology, London
3. Kanbara K, Fukunaga M, Mutuura H, Ban I and Nakai Y (2007) Psychophysiological stress response and heart rate variability in patients with functional somatic syndrome. 19th World Congress on Psychosomatic Medicine, Quebec
4. 山本和美, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) Patients with chronic pain analyzed by rorschach test. 19th World Congress on Psychosomatic Medicine, Quebec
5. Hashizume M (2007) Physical symptoms reflecting social conditions. 19th World Congress on Psychosomatic Medicine (第19回世界心身医学会議), Quebec
6. 六浦裕美, 神原憲治, 福永幹彦, 北村香奈, 中井吉英 (2007) Poster: Salivary cortisol morning responses of patients with functional somatic syndrome (FSS). 19th World Congress on Psychosomatic Medicine, Quebec
7. Fukao A, Fujimi Y, Okayama S, Ushiroyama T, Nakai Y and Hanafusa T (2007) The case of female patient with major depression and eating disorder treated successfully by process oriented psychology. The XV International Congress of the International Society of Psychosomatic Obstetrics and Gynecology, Kyoto
8. Kobayashi K, Takebayashi N, Fukunaga M and Nakai Y (2007) Burden of childcare: Mothers with psychosomatic disorders. The XV International Congress of the International Society of Psychosomatic Obstetrics and Gynecology, Kyoto
9. Hashizume M (2007) Psychosomatic curricula and psychosomatic medicine in Japan. 第58回ドイツ心身医学会総会, Nürnberg

10. Harada K, Hirai K, Arai H, Tokoro A, Oka K, Nakmaura Y and Fujita A (2007) Autonomy and self-efficacy of physical activity in Japanese advanced lung cancer patients in chemotherapy: a pilot study. The 9th International Congress of Behavioral Medicine, Bangkok
11. 所 昭宏 (2007) 患者さんと家族の支えあい. 2007年JPOSH ピンクリボン キッズ・ファミリープログラム 家族で話そう ピンクリボン, 名古屋
12. 永岡三穂, 福永幹彦, 水野泰行, 阿部哲也, 神原憲治, 中井吉英 (2007) 心療内科入院患者における強迫的性格傾向の検討. 第12回心療内科学会総会, 大阪
13. 阿部哲也, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) 機能性胃腸症における胃運動リズム異常の検討. 第12回日本心療内科学会学術大会, 大阪
14. 水野泰行, 小林貴美子, 計屋典子, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) 重症度の異なる疼痛患者の比較—重症化予測因子の検討に向けて—. 第12回日本心療内科学会学術大会, 大阪
15. 土井麻里, 阿部哲也, 神原憲治, 水野泰行, 永岡三穂, 伴 郁美, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) 瞑想による心理的効果について. 第12回日本心療内科学会総会, 大阪
16. 西田慎二 (2007) 気の病変としての心身症の病態・治療. 日本東洋医学会和歌山県部会, 和歌山
17. 所 昭宏, 平井 啓, 古村和恵, 黒丸尊治 (2007) がん患者における補完代替療法の受療行動に関する行動科学的研究. 平成19年度厚生労働省がん助成金17-14「がんの代替療法の科学的検証と臨床応用に関する研究」班 第2回班会議, 大阪
18. 所 昭宏 (2007) 悩んでいませんか? 終末期看護. H19市立貝塚病院看護部 継続教育 緩和ケア研修, 貝塚
19. 塩崎麻里子, 平井 啓, 所 昭宏, 小山敦子, 乾 浩巳 (2007) 乳がん患者の心理的適応に親しい他者のサポート態度が及ぼす影響: 侵入症状と回避的対処を媒介変数とした検討. 第20回日本サイコオンコロジー学会総会, 札幌
20. 荒井弘和, 平井 啓, 原田和弘, 所 昭宏 (2007) 化学療法中の進行肺がん患者における身体活動と心理的適応: 予備的検討. 第20回日本サイコオンコロジー学会総会, 札幌
21. 平井 啓, 荒井弘和, 所 昭宏, 澤端章好, 奥村明之進 (2007) 術後肺癌・悪性呼吸器患者の身体活動と心理的適応の関係. 第20回日本サイコオンコロジー学会総会, 札幌
22. 黒丸尊治 (2007) 緩和ケア領域において腫瘍マーカーが低下した4症例についての検討. 第22回ホリスティック医学研究会, 東京
23. 西田慎二 (2007) 歯科・口腔疾患の東洋心身医学的治療. 第25回日本歯科東洋医学会総会, 大阪
24. 荒井弘和, 砂山さおり, 畑 博美, 井上亜由美, 上砂陽子, 田中孝浩, 平井 啓, 所 昭宏 (2007) 肺結核患者のマスク着用に対する行動科学的アプローチ試み. 第2回生活習慣病認知行動療法研究会, 東京
25. 神原憲治, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) Functional somatic syndromeにおける精神生理学的ストレス反応の特徴と病態の考察. 第44回日本臨床生理学会, 大阪
26. 所 昭宏, 河原正明, 多田春江, 石渡量太, 手良向聡, 福島雅典, 久保田馨, 古瀬清行 (2007) 進行非小細胞肺癌に対する臨床第3相比較試験 (JMTOLC00-03) 登録患者のQOL評価研究. 第48回日本肺癌学会総会, 名古屋
27. 村上典子, 吉永和正, 長崎 靖, 他 (2007) JR事故遺族ケアの経験とDMORT研究会. 第54回日本法医学会近畿地方会, 滋賀
28. 黒岩仁美, 熊谷加奈子, 辻 美里, 岡所扶実, 井関紘子, 宮崎美佳, 大津 幸, 砂金秀美, 日保ヒサ, 山中政子, 青野奈々, 松田能宣, 所 昭宏, 高田 實, 新田 剛 (2007) 鎮痛補助薬としての酒石酸イフェンブロジルの効果及び安全性の検討. 第61回国立病院総合医学会, 名古屋
29. 村上典子 (2007) 救急医療におけるターミナルケア・グリーフケア. 第9回日本救急看護学会, 大阪
30. 水野泰行 (2007) 催眠により症状と不安のコントロールを図った機能性腹部鼓脹の一例. 第9回日本臨床催眠学会, 兵庫
31. 高田 實, 所 昭宏, 山中政子, 松田能宣, 日

- 保ヒサ, 池山晴人 (2007) 通院中の肺がん患者のがん性疼痛の認識に関する研究. 平成19年度厚生労働省がん研究助成金19-4がん患者の支持療法・緩和療法の技術の向上及びその評価に関する研究的場班第2回班会議, 東京
32. 山本和美 (2007) 医療におけるヨガの可能性を探る. 21世紀統合医療フォーラム, 京都
33. 多田春江, 所 昭宏, 石渡量太, 手良向聡, 福島雅典, 久保田馨, 河原正明, 古瀬清行 (2007) 進行非小細胞肺癌に対するランダム化比較試験での欠損パターンを考慮したQOL評価. 第45回日本がん治療学会総会, 京都
34. 仁木 稔, 西山利正 (2007) 中華人民共和国大連市における在留邦人の心身医学的状况. 第66回日本公衆衛生学会総会, 松山
35. 中井恭子, 蔭山 充, 中西美保, 志馬千佳, 西田慎二 (2007) “桃核承気湯”により, 長年の腰痛が劇的に軽快した38歳女性. 日本東洋医学会関西支部例会, 京都
36. 中西美保, 蔭山 充, 中井恭子, 志馬千佳, 福井弥己郎, 西田慎二 (2007) 苓姜朮甘湯が著効したFailed back surgery syndrome (腰椎術後腰痛) の1例. 日本東洋医学会関西支部例会, 京都
37. 有光潤介, 萩原圭祐, 井上隆弥, 岸田友紀, 西田慎二 (2007) リウマチ性多発筋痛症に対して漢方治療が有効であった2例. 日本東洋医学会関西支部例会, 京都
38. 西田慎二 (2007) うつ病・うつ状態の洋漢統合医療. 日本東洋医学会奈良県部会, 奈良
39. 所 昭宏 (2007) シンポジスト「多職種間連携による地域緩和ケア当院における退院前調整カンファレンスの取り組み」. 第12回南大阪緩和医療研究会, 堺
40. 所 昭宏 (2007) 呼吸器疾患に対する心療内科的アプローチ～近畿中央胸部疾患センターでの取り組み～. 第2回南大阪メンタルヘルスフォーラム, 堺
41. 橋爪 誠 (2007) シンポジウム「皮膚疾患患者のこころを考える」心療内科医としてどう対応するか. 第44回日本心身医学会近畿地方会, 大阪
42. 水野泰行, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) パニック障害に対するストラテジー療法の検討. 第44回日本心身医学会近畿地方会, 大阪
43. 村上典子, 石川裕美子, 島津由美 (2007) 薬害HIV感染被害遺族へのグリーフケア. 第44回日本心身医学会近畿地方会, 大阪
44. 土井麻里, 永岡三穂, 水野泰行, 阿部哲也, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) 口腔内に含水することで症状が消失した呑気症の一例. 第44回日本心身医学会近畿地方会, 大阪
45. 西田慎二 (2007) 不定愁訴に対する漢方治療. 第1回南大阪漢方研究会, 堺
46. 所 昭宏 (2007) 全人的医療とがん緩和ケアチーム～近畿中央胸部疾患センターでの取り組み～. 第1回福岡緩和ケアチーム懇話会, 福岡
47. 井上隆弥, 岸田友紀, 有光潤介, 西田慎二 (2007) 八味地黄丸が有効であった肢端紅痛症の1例. 第20回日本疼痛漢方研究会, 東京
48. 日保ヒサ, 木村智子, 糠塚里恵, 上田純子, 松川有美, 東野智佐江, 所 昭宏, 平井 啓, 荒井弘和, 中宣 敬, 高田 實 (2007) 肺がん患者の外来化学療法移行への効果的な支援に関する研究. 第12回日本緩和医療学会総会, 岡山
49. 北村香奈, 神原憲治, 六浦裕美, 福永幹彦 (2007) 機能的胃腸障害の質的研究. 第22回日本保健医療行動科学会, 東京
50. 所 昭宏 (2007) がん医療における心の痛み～サイコオンコロジーの視点より～. 第2回河内西部地区 緩和ケア勉強会, 和歌山労災病院
51. 神原憲治, 伴 郁美, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) 身体感覚の気づきへのプロセスとバイオフィードバック. 第35回日本バイオフィードバック学会学術総会, 広島
52. 西田慎二, 岸田友紀, 井上隆弥 (2007) 大阪大学附属病院漢方医学外来の初診患者の特徴. 第58回日本東洋医学会学術総会, 広島
53. 萩原圭祐, 有光潤介, 西田慎二 (2007) 慢性の難治性下痢を伴った肺高血圧症合併の皮膚筋炎患者にボセンタンと附子理中湯が著効した一例. 第58回日本東洋医学会学術総会, 広島
54. 所 昭宏, 平井 啓, 古村和恵, 黒丸尊治 (2007) がん患者における補完代替療法の受療行動に関する行動科学的研究. 平成19年度厚生労働省がん助成金17-14「がんの代替療法の科学的検証と臨床応用に関する研究」班 第1

回班会議, 大阪

55. 村上典子, 中山伸一, 中村雅彦, 他 (2007) 救急医療におけるターミナルケア・グリーフケアという視点の重要性～心療内科医からの報告～. 第10回日本臨床救急医学会総会, 神戸
56. 阿部哲也, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) 上部消化管ビデオ透視検査を用いた機能性胃腸症 (FD) の胃運動機能評価. 第48回日本心身医学会総会, 福岡
57. 永岡三穂, 福永幹彦, 阿部哲也, 水野泰行, 中井吉英 (2007) 限界設定により症状が安定化した3症例の検討. 第48回日本心身医学会総会, 福岡
58. 橋爪 誠 (2007) 日本語版「コヒアレンス感質問票」の作成 (第1報). 第48回日本心身医学会総会, 福岡
59. 水野泰行, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) 改善度予想と心身症の改善との関係～よくなると思う方が, より良くなる～. 第48回日本心身医学会総会, 福岡
60. 村上典子, 小笹裕美子 (2007) 社会のニーズに応え, 発信していく心療内科をめざして～リエゾン, 災害医療, グリーフケアを通じて～. 第48回日本心身医学会総会, 福岡
61. 伴 郁美, 神原憲治, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) アレキシサイミア傾向がリラックス呼吸法による生理的・心理的指標の変化に及ぼす影響について. 第48回日本心身医学会総会, 福岡
62. 所 昭宏, 小山敦子, 松田能宣, 小杉孝子, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) パネルディスカッション2 パネリスト 心身医療におけるチーム医療: コ・メディカルの役割 「全人的医療学」コース受講の医学生からみたチーム医療への期待と不安～コ・メディカルとの連携を目指して～. 第49回日本心身医学会総会, 福岡
63. 神原憲治, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) 心身症患者におけるストレス反応とその多様性. 第48回日本心身医学会総会, 福岡
64. 高田 實, 所 昭宏, 山中政子, 日保ヒサ, 池山晴人 (2007) 在宅進行肺がん患者の疼痛緩和に関する介入研究. 平成19年度厚生労働省がん研究助成金19-4 がん患者の支持療法・緩和療法の技術の向上及びその評価に関する研究的場班 第1回班会議, 東京
65. 山本和美 (2007) ロールシャッハ・テストにおける慢性疼痛患者の心理的特徴. 包括システムによる日本ロールシャッハ学会, 東京
66. 水野泰行 (2007) よく分からない腰痛のみかた一心身医学からみた慢性腰痛一. ストレス関連疾患研究会, 大阪
67. 所 昭宏 (2007) がん診療における心の痛み～サイコオンコロジーの立場より～. 堺市医師会内科医会学術講演, 堺
68. 所 昭宏 (2007) モーニングセミナー1 シンポジスト 「移植医療従事者のQOLを考えるー燃え尽きないためにーCare for Caregiver ～サイコオンコロジーの視点より～」. 第29回日本造血細胞移植学会総会, 福岡
69. 所 昭宏, 木村 剛, 中井吉英 (2007) むずむず症候群を合併した肺結核症に対して, 心身医学的診断・治療を行なった1例. 第43回日本心身医学会近畿地方会, 大津
70. 西田慎二, 岸田友紀, 井上隆弥 (2007) 心療内科領域における抑肝散のさまざまな使用方法. 第43回日本東洋心身医学研究会, 東京
71. 水野泰行, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) empty chair を用いた「第三の視点」の獲得が改善をもたらしたためい患者の一例. 日本心身医学会地方会, 滋賀
72. 伴 郁美, 神原憲治, 福永幹彦, 中井吉英 (2007) リラックス呼吸法における身体的・心理的变化について. 日本心身医学会地方会, 滋賀
73. 村上典子, 中山伸一, 本間正人, 他 (2007) 多数死体発生事象に対する遺族・遺体対応派遣チーム (DMORT) についての提言～JR福知山線脱線事故の教訓を生かして～. 第12回日本集団災害医学会, 名古屋
74. 所 昭宏 (2007) がん医療における心のケアーサイコオンコロジーの最近の動向一. 第374回近中CC, 堺
75. 西田慎二 (2007) 漢方医学の基礎知識一病院薬剤師のかたへーその2. 第41回ファーマシューティカル・ケア研究会, 大阪
76. 所 昭宏 (2007) がん医療におけるBad Newsの伝え方とサポート. 第4回滋賀緩和・在宅医療セミナー, 滋賀医大病院 (大津)

77. 土井麻里 (2007) 瞑想 (メディテーション) の心身へ及ぼす効果と体験実習 (その2). 日本代替相補・伝統医療連合会議 (JACT) 第8回心身医学研究会, 大阪
78. Hashizume M (2007) Sonderworkshop: Japan und die Kampo-Medizin. 第58回ドイツ心身医学会総会, Nürnberg

著書

1. 中井吉英 (2007) SSRIによる身体症状・疾患へのアプローチ 慢性疼痛. SSRIのすべて (小山 司編) 1, 162-167頁, 先端医学社, 東京
2. 黒丸尊治 (2007) 緩和ケアとホリスティック医学. ホリスティック医学 50-51頁, 東京堂

出版, 東京

3. 中井吉英 (2007) 軽症うつに対する薬物療法開始のタイミングは? 内科で診る うつ診療の手びき (久保木富房編) 94頁, ヴェンメディカル
4. 中井吉英 (2007) 女性患者への対応の仕方と心得. 必携 女性の医療学—外来で役立つ実践ガイド— (本庄英雄, 島田和幸編) 9-16頁, 永井書店, 大阪
5. 橋爪 誠 (2007) 致死的疾患とサルートジェネシス—呼吸不全の症例を通して. 心身症の診断と治療 (永田勝太郎編) 364-367頁, 診断と治療社, 東京

神経内科学講座

〈研究概要〉

運動ニューロンなど神経細胞変性に関する研究

2007年度は, SCA8の神経病理所見について国際シンポジウムにて講演する機会を得た. 核—細胞質間蛋白輸送システムの異常が孤発性および家族性 ALS 患者の脊髄前角細胞においても認められること, さらにこの機能異常が核膜孔複合体そのものの異常による可能性を示し, 日本神経学会総会で発表した. さらに, 好塩基性封入体を伴う運動ニューロン病に出現する封入体に RNA および RNA 関連蛋白が存在することを明らかにし, この封入体の成因に stress granule が関与していることを示して, 日本神経学会総会および日本神経病理学会総会で発表した.

筋細胞の変性・再生に関する研究

2007年度は, 封入体筋炎における筋細胞の空胞形成には DNA の二本鎖切断を伴う核の変性が関与していることを免疫組織化学的に証明した. 結果を日本神経病理学会および日本臨床分子形態学会にて発表した. さらに封入体筋炎における glycosylation に関する酵素の異常発現について日本神経学会総会にて発表した.

〈研究業績〉

原著

1. Ito H, Ito H, Fujita K, Kinoshita Y, Takanashi Y and Kusaka H (2007) Phrenic nerve conduction in the early stage of Guillain-Barre syndrome might predict the respiratory failure. Acta Neurol Scand 116: 255-258
2. Ito H, Ito H, Nakano S and Kusaka H (2007) Low-dose subcutaneous injection of botulinum toxin type A for facial synkinesis and hyperlacrimation. Acta Neurol Scand 115: 271-274

mation. Acta Neurol Scand 115: 271-274

3. Kanazawa S, Kinoshita Y, Sougawa M, Yamaguchi K and Nomura S (2007) High-grade stenosis of the trachea caused by a Kommerell's diverticulum in a right-sided aortic arch. Intern Med 46: 919-920
4. Yuri T, Miki K, Tsukamoto R, Shinde A, Kusaka H and Tsubura A (2007) Autopsy case of desminopathy involving skeletal and cardiac muscle. Pathol Int 57: 32-36

5. 戸田弘紀, 西田南海子, 石川正恒, 齋木英資, 松本禎之, 伊東秀文 (2007) マルチトラック微小電極を用いた視床下核刺激療法の最適化と刺激合併症予防. 機能脳神外 46: 34-36

総 説

1. Hirano A and Wate R (2007) Diagnostic clues and more from photographs. Neuropathology 27: 1-9
2. 伊東秀文, 和手麗香, 日下博文 (2007) 臨床医のための神経病理 SCA8. Clin Neurosci 25: 970-971

症例報告

1. 井上 学, 小島康祐, 里井 斉, 牧野ふみ, 神田益太郎, 柴崎 浩, 新出明代 (2007) 胸腺腫に重症筋無力症, 多発筋炎, 甲状腺炎と好酸球増多症を合併した1例. 臨神経 47: 423-428

学会発表

1. Ito H (2007) Neuropathology of SCA8. 第3回東京医科歯科大学21世紀COEプログラム国際シンポジウム, Tokyo
2. 中村聖香, 新出明代, 和手麗香, 中野 智, 伊東秀文, 日下博文 (2007) クリーゼ後副腎皮質ホルモンとcyclosporine Aの併用が治療に有効であった高齢者重症筋無力症の1例. 日本神経学会第87回近畿地方会, 大阪
3. 新出明代, 國枝武伸, 木下芳美, 和手麗香, 中野 智, 日下博文, 伊東秀文, 山田正仁, 北本哲之 (2007) 本邦初の変異型Creutzfeldt-Jakob病 (vCJD) の一例. 第35回臨床神経病理懇話会, 香川
4. 中野 智, 西井 誠, 藤田賢吾, 新出明代, 伊東秀文, 日下博文 (2007) 封入体筋炎におけるヒストンの異常. 第39回日本臨床分子形態学会, 甲府
5. 藤田賢吾, 伊東秀文, 中野 智, 木下芳美, 和手麗香, 新出明代, 日下博文 (2007) 好塩基性封入体を伴う成人発症の運動ニューロン病におけるRNA関連蛋白の免疫組織化学的検討. ブレインメディカルサイエンス系・高次機能制御系大学院研究中間発表会, 大阪
6. 木下芳美, 伊東秀文, 藤田賢吾, 和手麗香, 新出明代, 中野 智, 日下博文 (2007) 筋萎縮

性側索硬化症における核膜孔複合体構成蛋白Nup62の免疫組織化学的検討. ブレインメディカルサイエンス系・高次機能制御系大学院研究中間発表会, 大阪

7. 新出明代, 中野 智, 林 知子, 木下芳美, 藤田賢吾, 中村正孝, 西井 誠, 和手麗香, 伊東秀文, 日下博文 (2007) 当院における重症筋無力症の治療成績. 第25回日本神経治療学会総会, 仙台
8. 中野 智, 新出明代, 日下博文 (2007) Nemaline小体と核のapoptotic changeを伴い, myofibrillar myopathy様の免疫組織化学反応を示したミオパチー. 第48回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京
9. 西井 誠, 新出明代, 和手麗香, 中野 智, 伊東秀文, 日下博文 (2007) 増悪寛解を繰り返したステロイド反応性脳炎の一症例. 日本神経学会第86回近畿地方会, 大阪
10. 中野 智, 新出明代, 藤田賢吾, 伊東秀文, 日下博文 (2007) 封入体筋炎とDMRVにおけるO-GlcNAc転移酵素の異常発現. 第48回日本神経学会総会, 名古屋
11. 藤田賢吾, 伊東秀文, 中野 智, 木下芳美, 和手麗香, 新出明代, 日下博文 (2007) 成人期発症の好塩基性封入体を伴う運動ニューロン病におけるRNA関連蛋白の免疫組織化学的検討. 第48回日本神経学会総会, 名古屋
12. 木下芳美, 伊東秀文, 藤田賢吾, 和手麗香, 新出明代, 中野 智, 日下博文 (2007) 筋萎縮性側索硬化症における核膜孔複合体構成蛋白Nup62の免疫組織化学的検討. 第48回日本神経学会総会, 名古屋
13. 中野 智, 藤田賢吾, 新出明代, 伊東秀文, 日下博文 (2007) 炎症性ミオパチーにおけるDNA2本鎖切断の証明: γ -H2AXの免疫組織化学による検討. 第48回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京
14. 藤田賢吾, 伊東秀文, 中野 智, 木下芳美, 和手麗香, 新出明代, 日下博文 (2007) 好塩基性封入体を伴う成人発症の運動ニューロン病におけるRNA関連蛋白の免疫組織化学的検討. 第48回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京
15. 木下芳美, 伊東秀文, 藤田賢吾, 和手麗香, 新

出明代, 中野 智, 日下博文 (2007) 成人発症核内封入体病の1剖検例. 第48回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京

16. 大西静生, 高島 望, 今井輝国, 田辺英紀, 松木 充, 伊東秀文, 日下博文 (2007) 脳梁膨大部に可逆性病変を認めた急性辺縁系脳炎の成人例. 第30回日本脳神経CI学会総会, 大阪

著 書

1. 日下博文 (2007) D. 変性疾患 6) ジストニア, 振戦 2. 本態性振戦に有効であるとのエビデンスのある薬剤は何か. EBM 神経疾患の治療 2007-2008 (岡本幸市, 棚橋紀夫, 水澤英洋編) 261-269頁, 中外医学社, 東京

精神神経科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Yoshida T, Ha-Kawa S, Yoshimura M, Nobuhara K, Kinoshita T, Sawada S (2007) Effectiveness of treatment with donepezil hydrochloride and changes in regional cerebral blood flow in patients with Alzheimer's disease. *Ann Nucl Med* 21(5): 257-265
2. Okugawa G, Tamagaki C, Agartz I (2007) Frontal and temporal volume size of grey and white matter in patients with schizophrenia: an MRI parcellation study. *Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci* 257(5): 304-307
3. Serretti A, Kato M, De Ronchi D, Kinoshita T (2007) Meta-analysis of serotonin transporter gene promoter polymorphism (5-HTTLPR) association with selective serotonin reuptake inhibitor efficacy in depressed patients. *Mol Psychiatry* 12(3): 247-257
4. Okugawa G, Nobuhara K, Takase K, Kinoshita T (2007) Cerebellar posterior superior vermis and cognitive cluster scores in drug-naive patients with first-episode schizophrenia. *Neuropsychobiology* 56(4): 216-219
5. Kato M, Wakeno M, Okugawa G, Fukuda T, Azuma J, Kinoshita T, Serretti A (2007) No association of TPH1 218A/C polymorphism with treatment response and intolerance to SSRIs in Japanese patients with major depression. *Neuropsychobiology* 56(4): 167-171
6. Okugawa G, Nobuhara K, Takase K, Saito Y, Yoshimura M, Kinoshita T (2007) Olanzapine increases grey and white matter volumes in the

caudate nucleus of patients with schizophrenia. *Neuropsychobiology* 55(1): 43-46

7. Wakeno M, Okugawa G, Takekita Y, Kato M, Fukuda T, Yamashita M, Hosoi Y, Azuma J, Kinoshita T (2007) Delirium associated with paroxetine in an elderly depressive patient: a case report. *Pharmacopsychiatry* 40(5): 199-200
8. Varnäs K, Okugawa G, Hammarberg A, Nesvåg R, Rimol LM, Franck J, Agartz I (2007) Cerebellar volumes in men with schizophrenia and alcohol dependence. *Psychiatry Clin Neurosci* 61(3): 326-329
9. Yoshimura M, Koenig T, Irisawa S, Isotani T, Yamada K, Kikuchi M, Okugawa G, Yagyu T, Kinoshita T, Strik W, Dierks T (2007) A pharmac-EEG study on antipsychotic drugs in healthy volunteers. *Psychopharmacology* 191(4): 995-1004
10. Suzuki T, Tamura N (2007) System for judgement of depressive tendency from speech analysis. *Electronics and Communications in Japan, Part II* 90(10): 103-114
11. 高田あや, 谷万喜子, 井上博紀, 吉野真紀, 鈴木俊明, 若山育郎, 吉田宗平, 柳生隆視, 木下利彦 (2007) 鍼治療が頸部ジストニア患者の心理的問題に与える影響. *関西理学* 7: 91-96
12. 藤沢大介, 橋本直樹, 小泉弥生, 大塚耕太郎, 奥川 学, 館農 勝, 五十君啓泰, 上野雄文, 菊地俊暁, 佐藤創一郎, 佐藤玲子, 高橋克昌, 高橋英彦, 中川敦夫, 藤内栄太, 森 貴俊, 諸隈一平, 吉田公輔, 早稲田芳史 (2007) 精神科受診経路に関する多施設研究 パイロット

スタディ. 精神医 49(1): 7-15

13. 穴井己理子, 三宅由子, 皆川邦直, 林もも子, 堀内麻美, 山口 登 (2007) FIS日本語版 (Fear of Intimacy Scale-J) の信頼性, 妥当性. 精神科治療 22(5): 809-817
14. 上野千穂, 織田裕行, 井上雅晴, 有木永子, 榎場美穂, 木下利彦 (2007) 性嗜好異常を伴う高機能広汎性発達障害 性犯罪と行動化抑止について. 精神誌 109(7): 637-653
15. 笛木孝明, 奥川 学, 織田裕行, 分野正貴, 上野千穂, 森田紗千, 木下利彦 (2007) バルブロ酸が誘因となり軽度意識障害を呈したてんかん患者の1症例. 大阪てんかん研会誌 17(1): 1-3
16. 峯岸由紀子, 磯谷俊明, 吉村匡史, 山田圭造, 西田圭一郎, 森田紗千, 齊藤幸子, 入澤 聡, 木下利彦, 木原 裕 (2007) 郭林新気功が空間的脳電位活動にもたらす影響. 催眠と科 22(1): 41-45
17. 三宅眞理, 田近亜蘭, 保津真一郎, 西山利正 (2007) アクチグラフから評価した介護施設入居者と独居高齢者の睡眠・覚醒リズム. 日本健康医学会雑誌 16(3): 60-61

総 説・著書

1. 杉本達哉, 織田裕行, 吉田常孝 (2007) Q&Aで学ぶ救急現場の精神症状 自殺企図の場合 (1). EMERGENCY CARE 20: 199-203
2. 杉本達哉, 織田裕行, 吉田常孝 (2007) Q&Aで学ぶ救急現場の精神症状 自殺企図の場合 (2). EMERGENCY CARE 20: 236-239
3. 鈴木裕子, 安斉順子, 鈴木朋子, 恩田 彰, 藤波尚美, 小泉晋一, 荒川 歩 (2007) 日本における臨床心理学の導入と受容過程 2—臨床人間学の構築—. ヒューマンサービスリサーチ 3: 35-67
4. 延原健二 (2007) 認知症のケア アルツハイマー型認知症の鑑別診断. 外来精神医療 6(2): 86-89
5. 木下利彦 (2007) 最近のうつ病の捉え方. 外来精神医療 6(2): 7-9
6. 齊藤幸子, 延原健二, 奥川 学, 高瀬勝教, 上野千穂, 木下利彦 (2007) 【強迫の診立てと治療】強迫性障害における脳画像研究. 精神科治療 22(5): 517-521
7. 奥川 学, 加藤正樹, 分野正貴, 嶽北佳輝, 高瀬勝教, 吉村匡史, 木下利彦 (2007) 【オーダーメイド医療の時代は来るか 臨床薬理遺伝学の現状と課題】臨床薬理遺伝学からみた抗うつ薬の治療効果予測. 臨精薬理 10(8): 1439-1446
8. 吉田常孝, 織田裕行, 杉本達哉 (2007) Q&Aで学ぶ救急現場の精神症状 認知症の場合. EMERGENCY CARE 20(9): 939-944
9. 杉本達哉, 織田裕行, 吉田常孝 (2007) Q&Aで学ぶ救急現場の精神症状 不眠の場合. EMERGENCY CARE 20(8): 837-840
10. 織田裕行, 吉田常孝, 杉本達哉 (2007) Q&Aで学ぶ救急現場の精神症状 精神症状を伴う患者さんの転科・転院の場合. EMERGENCY CARE 20(12): 1231-1235
11. 吉田常孝, 織田裕行, 杉本達哉 (2007) Q&Aで学ぶ 救急現場の精神症状 11…「暴れる人」の場合. EMERGENCY CARE 20(11): 1159-1163
12. 杉本達哉, 織田裕行, 吉田常孝 (2007) Q&Aで学ぶ救急現場の精神症状 抑うつの場合. EMERGENCY CARE 20(10): 1034-1037
13. 織田裕行, 杉本達哉, 吉田常孝 (2007) Q&Aで学ぶ救急現場の精神症状 せん妄の場合. EMERGENCY CARE 20(1): 73-77
14. 加藤正樹, 奥川 学, 分野正貴, 嶽北佳輝, 木下利彦 (2007) セロトニン受容体およびセロトニントランスポーター遺伝子多型が抗うつ薬の臨床効果に与える影響. 臨精薬理 10: 831-842
15. 上野千穂 (2007) 【精神医学入門】Q&A集 精神医学入門 息子が小児科に入退院を繰り返しています. いつも付き添うなど, できる限りのことをしているつもりなのですが, 甘やかしすぎているような気がします. 子どもの心の発達に影響が生じないか心配です. どのようなことに気をつけたらよいのでしょうか? こころのりんしょう a・la・carte 26(2): 186
16. 織田裕行, 吉田常孝, 杉本達哉 (2007) Q&Aで学ぶ救急現場の精神症状 “こんめい” の場合. EMERGENCY CARE 20(7): 725-728
17. 吉田常孝, 織田裕行, 杉本達哉 (2007) Q&A

で学ぶ 救急現場の精神症状 心的トラウマの場合(喪失体験・悲嘆反応など). EMERGENCY CARE 20(6): 626-630

18. 織田裕行, 吉田常孝, 杉本達哉 (2007) Q&Aで学ぶ救急現場の精神症状 アルコール乱用(物質乱用)に関連した精神症状の場合. EMERGENCY CARE 20(5): 501-504
19. 吉田常孝, 織田裕行, 杉本達哉 (2007) Q&Aで学ぶ救急現場の精神症状 不安症状(過換気発作やパニック症状など)の場合. EMERGENCY CARE 20(4): 407-411
20. 木下利彦 (2007) 斎藤正己先生. 最新精神医学 12(2): 204-205
21. 奥川 学 (2007) 統合失調症の診断学的研究と治療学的研究. 分子精神医学 7(2): 152-153
22. 鈴木朋子 (2007) 【精神療法と心理療法】Q&A集 精神療法と心理療法 米国では精神分析が有名人のステイタスのように流行しましたが, なぜ, 日本ではそうならなかったのでしょうか? こころのりんしょう a・la・carte 26(3): 365
23. 鈴木朋子 (2007) 【精神療法と心理療法】Q&A集 精神療法と心理療法 精神療法の起源は何ですか? こころのりんしょう a・la・carte 26(3): 345
24. 鈴木朋子 (2007) 【精神療法と心理療法】Q&A集 精神療法と心理療法 精神療法も心理療法も英語ではどちらもサイコセラピーとなりますが, その違いは何ですか? こころのりんしょう a・la・carte 26(3): 343

症例報告

1. Tamagaki C, Murata A, Ohara T, Sakata T, Takase K, Okugawa G, Nobuhara K, Kinoshita T (2007) Adrenoleukodystrophy initially presenting with symptoms of dementia. Psychogeriatrics 7: 163-165
2. 上野千穂, 織田裕行, 井上雅晴, 有木永子, 榎場美穂, 木下利彦 (2007) 児童精神医学 高機能広汎性発達障害に性嗜好異常を伴った2症例. 外来精神医療 6(2): 73-75

学会発表

1. Saito Y, Nobuhara K, Okugawa G, Takase K,

Sugimoto T, Ikeda K, Sawada S, Kinoshita T (2007) White matter abnormalities in obsessive-compulsive disorder; a magnetic resonance diffusion tensor imaging study. 15th AEP European Congress of Psychiatry, Spain

2. Ueno C, Yoshida T, Saito A, Hasaba M, Inoue M, Mii H, Ha-Kawa S, Sawada S, Kinoshita T (2007) Brain perfusion impairments in pervasive developmental disorders. 18th LACAPAP, Melbourne
3. Ueno C, Yamamoto T, Suzuki A, Saito A, Okamura H, Inoue M, Kinoshita T (2007) Environmental Management Improves Behaviors and Intellectual Growth of Juvenile Delinquents in Reformatories. 18th LACAPAP, Melbourne
4. Kato M (2007) 5-HT_{2A} gene variants influence specific and different aspects of antidepressant response in Japanese and Italian mood disorder patients. 15th World Congress of Psychiatry Genetic (WCPG), NY
5. Kato M (2007) ABCB1 (MDR1) gene polymorphisms are associated with the clinical response to paroxetine in patients with major depressive disorder. 15th World Congress of Psychiatry Genetic (WCPG), NY
6. Kato M (2007) Review and Meta-Analysis of Antidepressant Pharmacogenetic Findings in Major Depressive Disorder. 7th Annual Pharmacogenetics in Psychiatry, NY
7. Kato M (2007) PHARMACOGENETIC STUDIES IN DEPRESSION: A PROPOSAL FOR METHODOLOGIC GUIDELINES. 7th Annual Pharmacogenetics in Psychiatry, NY
8. Saito Y, Nobuhara K, Okugawa G, Takase K, Sugimoto T, Ikeda K, Sawada S, Kinoshita T (2007) White Matter Abnormalities in Obsessive-compulsive disorder, A magnetic resonance diffusion tensor imaging study. 第29回日本生物学的精神医学会, 札幌
9. 田近亜蘭 (2007) より良い生活を送るために～統合失調症の理解. 精神障害者家族教室, 守口・門真
10. 田近亜蘭, 西山利正, 木下利彦 (2007) 予約制導入前後の外来初診患者の比較. 第20回総

合病院精神医学会, 北海道

11. 守田 稔 (2007) 障害児・者総合相談会, 第3回障害児・者総合相談会 城東区保健所福祉センター, 大阪
12. 鈴木美佐 (2007) 認知症への理解と家族の支え方, 阪南市介護者(家族)の会 20周年記念事業, 大阪
13. 田近亜蘭 (2007) もっとよく知ろう こころの病, 精神障害者当事者健康教室, 寝屋川
14. 田近亜蘭 (2007) もっとよく知ろう 薬と治療, 精神障害者当事者健康教室, 寝屋川
15. 井上雅晴, 上野千穂, 三井 浩, 鈴木朋子, 柳場美穂, 木下利彦 (2007) 複雑な生育歴をもつ男児に対して箱庭療法を施行した一症例, 第48回日本児童青年精神医学会総会, 岩手
16. 鈴木美佐 (2007) 「認知症のお年寄りへの対応」, 第5回まちづくりサポーター研修会, 守口
17. 鈴木美佐 (2007) 「VTRゆず先生の回想法」で学ぼうわたしたちの回想法, 認知症地域資源ネットワーク構築推進事業回想法連続講座, 守口
18. 鈴木美佐 (2007) 認知高齢者が安心して暮らせるまちづくり, 研修会, 四条畷
19. 田近亜蘭 (2007) こころの病の治療と家族のかかわり方, 精神障害者家族教室, 寝屋川
20. 田近亜蘭 (2007) こころの病の正しい理解, 精神障害者家族教室の講師について, 寝屋川
21. 山田妃沙子 (2007) ケース・マネージャー研修会, 第5回ケース・マネージャー研修会, 日本医科大学付属病院
22. 井上雅晴 (2007) 児童・思春期によくみられる精神疾患について～発達障害を中心に～, 現代的健康課題対策支援事業 心の健康相談の支援, 大阪
23. 三井 浩 (2007) 「社会的ひきこもり」への理解, 四条畷保健所, 大阪
24. 三井 浩 (2007) 社会的ひきこもり, 守口・門真地域ネットワーク実務担当者会議, 大阪
25. 田近亜蘭 (2007) 「精神障害とは」 疾病と障害 およびそのリハビリについて, 守口保健所主催 精神障害者理解促進事業, 大阪
26. 上野千穂 (2007) 病気のことを正しく知ろう～統合失調症を中心に～, 精神障害者当事者学集会, 守口
27. 中平暁子 (2007) 認知症の治験, 実施上の課題と今後のあり方 臨床心理士 CRC の立場から, 第7回CRCと臨床試験のあり方を考える会議, 横浜
28. 三井 浩 (2007) こころの病気の特性について, 精神保健福祉ボランティア講座, 守口
29. 鈴木美佐 (2007) 「家族が認知症になったら」～大切な人の尊厳を守るために～, 第2回認知症見守り教室, 守口
30. 山田妃沙子 (2007) 事例検討及び研修会, 第4回ケース・マネジメント研修会, 奈良
31. 三井 浩 (2007) 社会的ひきこもり 家族の心理, 守口保健所ひきこもり家族交流会, 大阪
32. 齊藤幸子, 延原健二, 奥川 学, 高瀬勝教, 杉本達哉, 池田耕土, 澤田 敏, 木下利彦 (2007) 強迫性障害の拡散テンソル画像研究, 第29回日本生物学的精神医学会, 札幌
33. 鈴木美佐 (2007) ご存知ですか? 認知症のこと, ふれ愛推進員 研修会, 守口
34. 鈴木美佐 (2007) 「私が認知症になったら」～備えあれば憂いなし～, 第1回認知症見守り教室, 守口
35. 三井 浩 (2007) 「社会的ひきこもりへの家族支援～精神科嘱託医の立場から～」 「ひきこもり」家族交流会で何が変化するのか? 守口保健所ひきこもり家族セミナー, 大阪
36. 村上貴栄 (2007) 精神障害者とのかかわり方～生活のしづらさを理解する～, 自立支援法障害福祉サービス事業所研修, 門真
37. 鈴木美佐 (2007) 認知症高齢者を地域で支えるためにケース, マネジメントを行なう上で重要なこと, 大阪府吹田市保健所(認知症に関する実務者講習会), 吹田
38. 村上貴栄 (2007) 精神障害者の生活障害と利用できる社会資源, 門真市居宅介護支援事業所セミナー, 大阪
39. 鈴木美佐 (2007) 認知症の理解と予防, 門真市地域包括支援センター介護予防講座, 門真
40. 村上貴栄 (2007) こころの病とともに生活することとは, 守口市精神保健ボランティア講座, 大阪
41. 片上哲也 (2007) 病気の理解を深めよう, 精神障害者当事者教室, 四条畷
42. 井上雅晴, 上野千穂, 織田裕行, 片上哲也, 山

- 田圭造, 入澤 聡, 木下利彦 (2007) 強迫傾向を有する広汎性発達障害に対して療育的アプローチが有効であった一症例. 第100回近畿精神神経学会, 大阪
43. 木下利彦 (2007) シンポジウム5プラセボを用いた臨床治験を考える ミルタザピンのプラセボ対照臨床開発試験. 第17回日本臨床精神神経薬理学会, 大阪
44. 木下利彦 (2007) 医学部におけるコミュニケーション教育とその問題. 第17回日本医療薬学会, 群馬
45. 吉村匡史, Koenig T, 齊藤幸子, 延原健二, 磯谷俊明, 菊知 充, 奥川 学, 入澤 聡, 山田圭造, 西田圭一郎, 森田紗千, 木下利彦, Strik W.K, Dierks T (2007) 強迫性障害患者に対する不安誘発に伴う脳電場の変化—健常者との比較—. 第9回日本脳機能マッピング学会, 秋田
46. 吉村匡史, Koenig T, 齊藤幸子, 延原健二, 磯谷俊明, 菊知 充, 奥川 学, 入澤 聡, 山田圭造, 西田圭一郎, 森田紗千, 木下利彦, Strik W.K, Dierks T (2007) 強迫性障害患者の微細脳電場構造 (microstates). 第10回日本薬物脳波学会学術大会, 東京
47. 吉村匡史, 齊藤幸子, 木下利彦 (2007) 強迫性障害の (OCD) の morphometry. 第37回日本臨床神経生理学学術大会, 宇都宮
48. 吉村匡史, 磯谷敏明, 入澤 聡, 山田圭造, 木下利彦 (2007) 抗精神病薬が健常者の脳電場構造に及ぼす影響. 第17回日本臨床精神神経薬理学会, 大阪
49. 上野千穂, 井上雅晴, 山本幸良, 木下利彦 (2007) 単科精神病院における児童自立支援施設への関わり. 第48回日本児童青年精神医学会, 岩手
50. 織田裕行 (2007) 性同一性障害 (Gender Identity Disorder). 第33回京阪神カンファレンス, 大阪
51. 織田裕行 (2007) 治療が中断した性同一性障害二症例 (ケースディスカッション: 指定討論). 第20回日本総合病院精神医学会, 札幌
52. 加藤正樹 (2007) シンポジウム4新規抗うつ薬の使い分け: パロキセチン. 第17回日本臨床精神神経薬理学会, 大阪
53. 加藤正樹, Serrreti A, 木下利彦 (2007) Meta-analysis of serotonin transporter gene promoter polymorphism (5-HTTLPR) association with selective serotonin reuptake inhibitor efficacy in depressed patients. 第17回日本臨床精神神経薬理学会, 大阪
54. 杉本達哉, 宮崎秀行, 岩瀬正顕, 木下利彦, 中谷壽男 (2007) 一酸化炭素中毒集団発生事例の2ヶ月間フォローアップ結果の報告. 第29回日本中毒学会総会, 東京
55. 分野正貴, 奥川 学, 福田剛史, 細井夕香, 加藤正樹, 嶽北佳輝, 南畝晋平, 山下恵実, 東純一, 木下利彦 (2007) アドレナリン $\alpha 2A$ 受容体遺伝子多型と SSRI/SNRI の抗うつ効果の関連について. 第17回日本臨床精神神経薬理学会, 大阪
56. 伊東朋子, 木下利彦 (2007) 感情を感じる身体部位イメージについて. 日本心理学会第71回大会研究発表集, 神奈川
57. 片上哲也 (2007) 双極性障害の病相予防のための心理教育的な介入—双極性概念の拡大, soft bipolarity に関連して—. 第17回日本ブリーフサイコセラピー学会, 長野
58. 片上哲也 (2007) 大学精神科急性期病棟における看護師による SSI の導入, 実施からみえてきた “かかわり” の視点の変化. 第15回日本精神障害者リハビリテーション学会, 名古屋
59. 嶽北佳輝, 入澤 聡, 田近亜蘭, 北元 健, 分野正貴, 加藤正樹, 奥川 学, 木下利彦 (2007) 大学病院精神科外来における Aripiprazole の使用状況と有効性・副作用の検討. 第20回総合病院精神医学会, 札幌
60. 嶽北佳輝, 入澤 聡, 田近亜蘭, 北元 健, 分野正貴, 加藤正樹, 奥川 学, 木下利彦 (2007) 大学病院精神科外来における Aripiprazole の使用状況—有効性と副作用の検討—. 第17回日本臨床精神神経薬理学会, 大阪
61. 嶽北佳輝, 奥川 学, 加藤正樹, 分野正貴, 篠崎和弘, 岸本年史, 米田 博, 木下利彦 (2007) ペロスピロンとリスバリドンの多施設共同無作為割付比較試験. 第17回日本臨床精神神経薬理学会, 大阪
62. 西田圭一郎 (2007) Fronto-temporal dementia (FTD) 患者における定量脳波解析—Low Resolution Brain Electromagnetic Tomography

- (LORETA) 解析を用いて－. 第37回日本臨床神経生理学学会大会, 宇都宮
63. 今村容子, 西田圭一郎, 入澤 聡, 嶽北佳輝, 吉田常孝, 吉村匡史, 木下利彦 (2007) 前頭側頭型認知症にバルプロ酸が奏効した一例. 近畿精神神経学会, 兵庫
 64. 今村容子, 西田圭一郎, 入澤 聡, 嶽北佳輝, 吉田常孝, 吉村匡史, 木下利彦 (2007) 前頭側頭型認知症にバルプロ酸が奏効した一例. 第20回総合病院精神医学会総会, 札幌
 65. 吉野真紀, 柳生隆視, 高田あや, 三井 浩, 鈴木朋子, 岡村宏美, 谷万喜子, 西村栄津子, 鈴木俊明, 木下利彦 (2007) 頸部ジストニア (痙性斜頸) 患者の心理的特徴～ロールシャッハテストを用いた検討～. 第103回日本精神神経学会総会, 高知
 66. 山田妃沙子, 鈴木美佐, 織田裕行, 堀内麻美, 山田圭造, 守田稔, 吉野真紀, 中平暁子, 鈴木朋子, 木下利彦 (2007) 精神保健福祉士が性同一性障害の包括的治療に果たす役割. 第20回日本総合病院精神医学会, 札幌
 67. 山田妃沙子, 織田裕行, 堀内麻美, 片上哲也, 山田圭造, 守田稔, 吉野真紀, 中平暁子, 鈴木朋子, 鈴木美佐, 木下利彦 (2007) 当院の性同一性障害の現状と今後のあり方に対する検討. GID学会第10回研究大会, 大阪
 68. 山田妃沙子, 杉本達也, 織田裕行, 吉田常孝, 中谷壽男, 木下利彦 (2007) 地域における自殺の現状と課題. 第32回日本自殺予防学会, 岩手
 69. 山田妃沙子, 織田裕行, 堀内麻美, 片上哲也, 守田稔, 吉野真紀, 中平暁子, 鈴木朋子, 鈴木美佐, 木下利彦 (2007) 性同一性障害医療チームに求められる精神保健福祉士の役割. 第104回日本精神神経学会学術総会, 東京
 70. 山田妃沙子, 鈴木美佐, 織田裕行, 鈴木朋子, 木下利彦 (2007) チーム医療における精神保健福祉士の役割～性同一性障害の治療を通して～. 第44回日本精神保健福祉士協会全国大会 第7回精神保健福祉会, 神奈川
 71. 上野千穂 (2007) 神経症的発症. 平成19年度「こころの健康づくり対策」研修会, 東京
 72. 三井 浩 (2007) 思春期症例 (参加者からの事例). 平成19年度「こころの健康づくり対策」研修会, 東京
 73. 吉村匡史, 齊藤幸子, 木下利彦 (2007) 強迫性障害 (OCD) の morphometry. 第37回日本臨床神経生理学学会大会, 宇都宮
 74. 片上哲也 (2007) 双極性障害の病相予防のための心理教育的な介入－双極性概念の拡大, soft bipolarityに関連して－. 第17回日本プライフサイコセラピー学会, 長野
 75. 織田裕行 (2007) 困った依頼. 第5回KMUリエゾン研究会, 大阪

小児科学講座

〈研究概要〉

小児科は総合診療科としての特性を活かし, 小児の様々な疾患の診断, 治療に関する研究を分野別に研究班を組織して行っている. 以下に2007年の主な成果を研究班別に述べる.

- 1) 腎臓病研究班: 前年からの継続研究として特発性ネフローゼ症候群における一酸化窒素の病因的役割に関する検討やラットの腸管灌流実験による経口補水療法の生理学的根拠の検証を行った. さらに Henoch-Schönlein 紫斑病に合併する腎炎 (紫斑病性腎炎) に対するシクロスポリンの有効性に関する検討を行った.
- 2) 免疫・アレルギー研究班: 食物アレルギーの小児を対象に, 経口減感作療法に関する臨床研究を行いその有用性を報告した.
- 3) 内分泌・代謝研究班: アンギオテンシンⅡの免疫系に及ぼす影響を好中球の活性酸素産生能の点からあきらかにした.
- 4) 精神・神経疾患研究班: 消化器疾患における心身医学的アプローチや向精神薬処方の実態調査を行った. また発達障害児への地域社会全体での対応方法の確立に関する実践的試みを行い, 発達障害児の肥

満は学校教職員への啓発活動で大きな成果が上がることを報告した。さらにNICUに入院予定の胎児を持つ母親への出生前訪問が出産後の母親の情緒面に大きな影響を及ぼすことを明らかにした。

5) 循環器研究班：川崎病冠動脈病変形成における一酸化窒素の関与を検討し、患児白血球の一酸化窒素産生能から冠動脈病変合併が予測できる可能性を示した。

6) 新生児研究班：新生児仮死で出生した児の神経学的予後を新生児期早期の脳血流変動で予測できることをレーザードップラー血流計を用いて報告した。また羊水吸引症候群に起因する重症の新生児呼吸障害に対して好中球エラスターゼ阻害剤が有効であることを明らかにした。

7) 血液腫瘍研究班：チロシンキナーゼ阻害薬による白血病の分子標的療法に関する研究や白血病患児の各種治療のさいの酸化的ストレスに関する臨床研究を行った。

8) その他：本邦で最短の在胎期間（在胎22週2日、出生体重340g）で後遺症なく救命しえた超低出生体重児の管理例を報告したほか、腹痛を主訴とした4例の救急疾患の診断にMRI 膵胆管造影が有用であることを報告した。また小児の上顎洞炎の簡便な診断法として「上顎洞エコー診断法」についても報告した。

〈研究業績〉

原 著

1. Koike-Kiriyama N, Adachi Y, Minamino K, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Yamada H, Mukaide H, Shigematsu A, Mizokami T, Matsumura M and Ikehara S (2007) Human cord blood cells can differentiate into retinal nerve cells. *Acta Neurobiol Exp* 67: 359–365
2. Takaya J, Araki A, Mori K and Kaneko K (2007) Usefulness of diffusion-weighted MRI in human herpesvirus-6 encephalitis. *Acta Paediatr* 96: 137–138
3. Fujinaga S, Ohtomo Y, Someya T, Shimizu T, Yamashiro Y and Kaneko K (2007) Massive hydrothorax complicating peritoneal dialysis in hemolytic uremic syndrome with diarrhea. *Clin Nephrol* 68: 428–430
4. Takaya J, Nakano S, Imai Y, Fujii Y and Kaneko K (2007) Usefulness of magnetic resonance cholangiopancreatography in biliary structures in infants: a four-case report. *Eur J Pediatr* 166: 211–214
5. Ishizaki Y, Nagahama T, Kitamura N, Suzuki S, Fujii T, Otsuka I, Iba M, Sakurai C, Enomoto Y and Kobayashi Y (2007) Effects of “preliminary holding” of extremely low birth weight infants on the mental health of their mothers. *Int J Psychol Res* 1: 23–32
6. Yoshihara T, Okada K, Kobayashi M, Kikuta A, Kato K, Adachi N, Kikuchi A, Ishida H, Hirota Y, Kuroda H, Nagatoshi Y, Inukai T, Koike K, Kigasawa H, Yagasaki H, Tokuda K, Kishimoto T, Nakano T, Fujita N, Goto H, Nakazawa Y, Kanegane H, Matsuzaki A, Osugi Y, Hasegawa D, Uoshima N, Nakamura K, Tsuchida M, Tanaka R, Watanabe A and Yabe H (2007) Outcome of non-T-cell-depleted HLA-haploidentical hematopoietic stem cell transplantation from family donors in children and adolescents. *Int J Hematol* 85: 246–255
7. Mukaide H, Adachi Y, Koike-Kiriyama N, Suzuki Y, Minamino K, Iwasaki M, Tsuda M, Nakano K, Koike Y, Shigematsu A, Kamiyama Y and Ikehara S (2007) Immunotherapy for malignant tumors using combination of allogeneic intra-bone marrow-bone marrow transplantation, donor lymphocyte infusion and dendritic cells. *Int J Oncol* 30: 1309–1315
8. Shigematsu A, Adachi Y, Koike-Kiriyama N, Suzuki Y, Iwasaki M, Koike Y, Nakano K, Mukaide H, Imamura M and Ikehara S (2007) Effects of low-dose irradiation on enhancement of immunity by dendritic cells. *J Radiat Res* 48: 51–55
9. Tokuhara D, Iijima M, Tamamori A, Ohura T, Takaya J, Maisawa S, Kobayashi K, Saheki T, Yamano T and Okano Y (2007) Novel diagnostic approach to citrin deficiency: Analysis of citrin protein in lymphocytes. *Mol Genet Metab* 90: 30–36

10. Fujinaga S, Ohtomo Y, Umino D, Mochizuki H, Murakami H, Shimizu T, Yamashiro Y and Kaneko K (2007) Plasma exchange combined with immunosuppressive treatment in a child with rapidly progressive IgA nephropathy. *Pediatr Nephrol* 22: 899–902
11. Fujinaga S, Ohtomo Y, Umino D, Mochizuki H, Takemoto M, Shimizu T, Yamashiro Y and Kaneko K (2007) Treatment of steroid-resistant membranous lupus nephritis with plasmapheresis and low-dose cyclosporine. *Pediatr Nephrol* 22: 616–617
12. Fujinaga S, Ohtomo Y, Umino D, Takemoto M, Shimizu T, Yamashiro Y and Kaneko K (2007) A prospective study on the use of mycophenolate mofetil in children with cyclosporine-dependent nephrotic syndrome. *Pediatr Nephrol* 22: 71–76
13. Fujinaga S, Ohtomo Y, Umino D, Mochizuki H, Takemoto M, Shimizu T, Yamashiro Y and Kaneko K (2007) Pulmonary edema in a boy with biopsy-proven poststreptococcal glomerulonephritis without urinary abnormalities. *Pediatr Nephrol* 22: 154–155
14. Takaya J, Yamato F, Higashino H and Kaneko K (2007) Intracellular magnesium and adipokines in umbilical cord plasma and infant birth size. *Pediatr Res* 62: 700–703
15. Koike Y, Adachi Y, Suzuki Y, Iwasaki M, Koike-Kiriyama N, Minamino K, Nakano K, Mukaide H, Shigematsu A, Kiyozuka Y, Tubura A, Kamiyama Y and Ikehara S (2007) Allogeneic intrabone marrow-bone marrow transplantation plus donor lymphocyte infusion suppresses growth of colon cancer cells implanted in skin and liver of rats. *Stem Cells* 25: 385–391
16. 石崎優子 (2007) 【発達障害のいま】発達障害をめぐる理想と現実 発達障害児支援のための連携 小児科医の視点から. *そだちの科学* 8: 28–33
17. 金子一成 (2007) 【これだけは知っておきたい小児ケア Q&A】小児の症状, 観察と看護 脱水について, 教えてください. *ナーシングケア Q&A* 16: 50–51
18. 藤井喜充, 木野 稔, 中野博光 (2007) クルーブ症候群における小児喉頭超音波の試み. *外来小児科* 10: 143–146
19. 金子一成 (2007) 子どもの生活習慣病 子どもの高血圧について. *健康教室* 58: 16–17
20. 辻美代子, 舟木克枝, 藤原 亨, 川崎勝彦, 久木野豊, 中野景司, 中野幸子 (2007) 予約制による小児科外来診療について—現状と今後の展望—. *済生会医学・福祉共同研究* 平成18年度版: 64–87
21. 木下 洋, 黒柳裕一 (2007) 【周産期の症候・診断・治療ナビ】新生児編 診断ナビゲーション 免疫異常. *周産期医学* 37: 614–618
22. 木下 洋, 北村直行, 黒柳裕一 (2007) 【新生児心肺蘇生法】新生児蘇生講習会の実践と成人学習. *周産期医学* 37: 197–202
23. 金子一成 (2007) 【よく遭遇する内分泌疾患診療のための基本知識】中枢神経系異常に伴う水・電解質代謝異常. *小児科診療* 70: 1710–1716
24. 石崎優子, 木野 稔, 中村美奈子, 小林陽之助 (2007) 急性期入院医療, 心身症治療における病棟保育士の役割—子どもの遊びからの心理社会的問題・発達障害の発見と心身症患者へのかかわり—. *小児科臨床* 60: 475–480
25. 河崎裕英 (2007) 【大きく変わりつつある治療法】チロシンキナーゼ阻害薬 imatinib mesylate による白血病の分子標的療法. *小児内科* 39: 908–909
26. 金子一成 (2007) 【輸液のすべて 基本から実際まで】各種病態での輸液の実際 小児科の輸液. *腎と透析* 63: 323–328
27. 村上貴孝, 森 喜造, 木全貴久, 森 伸生, 目黒敬章, 藤井喜充, 寺口正之, 園府寺美, 木野 稔, 中野博光 (2007) インフルエンザに伴うけいれん発作の臨床的特徴. *大阪救急* 76: 20–24
28. 金子一成 (2007) 【腎・泌尿器疾患診療マニュアル 小児から成人まで】感染症関連糸球体腎炎 エルシニア感染症による急性腎不全. *日本医師会雑誌* 136: S180–S181
29. 古林万木夫, 田辺創一, 谷内昇一郎 (2007) 醤油醸造における小麦アレルゲンの分解機構. *日本小児アレルギー学会誌* 21: 96–101
30. 小島崇嗣, 小島俊巳, 谷内昇一郎, 金子一成

(2007) 小児急性上顎洞炎のエコー診断. 日本小児アレルギー学会誌 21: 109-115

31. 山口孝則, 中井秀郎, 林祐太郎, 金子一成, 大友義之, 吉村仁志 (2007) 小児尿路感染と予防投薬に関するアンケート調査報告. 日本小児腎臓病学会誌 20: 123-130
32. 藤永周一郎, 海野大輔, 原 聡, 高田 大, 望月 弘, 大友義之, 菊地 陽, 清水俊明, 山城雄一郎, 金子一成 (2007) 小児血液腫瘍疾患の急性腎不全における持続的腎代替療法. 日本小児腎臓病学会誌 20: 1-8
33. 村上貴孝 (2007) 学校医から見た肢体不自由養護学校の現状と問題点. 脳と発達 39: 423-426
34. 安原昭博 (2007) 認知の発達 注意機能の発達とその異常: 視覚性持続処理課題 (もぐら一ず) による検討. 臨床脳波 49: 1-5
35. 北村直行, 金子一成 (2007) 採血トラブルとその周辺 小児科における静脈穿刺時の諸注意と工夫 疼痛緩和を含めて. 臨床病理 55: 257-261

総 説

1. Takada K, Hamada Y, Sato M, Fujii Y, Teraguchi M, Kaneko K and Kamiyama Y (2007) Cecal volvulus in children with mental disability. *Pediatr Surg Int* 23: 1011-1014
2. 金子一成 (2007) 大学の窓 ファカルティ・デベロップメント. 大阪小児科医会会報 143: 4-5
3. 金子一成 (2007) 〈うぶ声〉経口補水療法. 大阪小児科医会会報 140: 56-58
4. 蓮井正史, 居原田安奈, 辻 章志, 舟木克枝, 今井雄一郎, 磯崎夕佳, 金子一成 (2007) 小児の特発性ネフローゼ症候群における一酸化窒素 (NO) の関与. 日本小児腎臓病学会誌 20: 26-29
5. 395-396
2. Yorioka H, Kasamatu A, Okuno S, Yoshida M, Komeda S, Murata H, Sawaragi S, Kanzaki H, Ohashi A, Kawataki M and Yoo SJ (2007) P45.15: Prenatal diagnosis of fetal left pulmonary arterial sling. *Ultrasound Obstet Gynecol* 30: 628
3. 大谷尚子, 木下 洋, 田村和夫, 野村 裕, 江見正義, 田中啓子, 桑名博士, 鈴木顕児, 井上武司 (2007) 臍帯動脈異常に尾部退行症候群を合併した1例および当院での単一臍帯動脈18例の検討. 周産期医学 37: 1612-1614
4. 上田悟史, 柳田英彦, 井上智弘, 田端信忠, 山本清一郎, 峰 研治, 岡本一章, 小野 厚, 竹村 司 (2007) ヒトヘルペスウイルス6型脳症の3症例におけるMRI拡散強調画像および髄液中interleukin-6の検討. 小児科臨床 60: 1172-1178
5. 奥田浩人, 小野 厚, 大川 薫, 畑中武志 (2007) Drug Combination による固定薬疹の1例. 小児科臨床 60: 119-123
6. 大橋 敦, 木下 洋, 北村直行, 辰巳貴美子, 辻 章志, 竹安晶子, 金子一成 (2007) 在胎22週2日 (出生体重340 g) で生存退院しえた超低出生体重児の管理経験. 日本小児科学会雑誌 111: 1318-1322
7. 池本裕実子, 藤井喜充, 荻野廣太郎, 吉村健, 野木俊二, 寺口正之, 金子一成 (2007) 単心室に対するFontan術後に合併した肝硬変の1例. 日本小児科学会雑誌 111: 55-59
8. 石崎優子, 藤井宏弥, 木野 稔, 藤井由里, 服部祐子, 中村美奈子, 大川 薫, 谷内昇一郎, 金子一成 (2007) 選択的セロトニン再取り込み阻害剤と心理療法の併用が著効した強迫性障害の2学童例. 新薬と臨床 56: 463-470
9. 中村真紀子, 原田佳明, 寺西顕司, 大川 薫, 大上庄一, 岡村雅雄, 金子一成 (2007) 喘息として2年間治療されていた原発性気管内神経鞘腫の1例: 画像診断の重要性. 日本小児放射線学会雑誌 23: 125-129
10. 端 里香, 中村彰利, 杉本健郎, 金子一成 (2007) 乳児期に発症した若年性歯状核赤核淡蒼球レイ体萎縮症 (DRPLA) の姉妹例一経時的脳波変化の検討. 脳と発達 39: 445-449

症例報告

1. Takaya J, Ohashi R, Harada Y, Yamato F, Higashino H, Kobayashi Y and Kaneko K (2007) Cerebral edema in a child with diabetic keto-acidosis before initial treatment. *Pediatr Int* 49:

学会発表

1. 北村直行, 長濱輝代, 石崎優子, 金子一成 (2007) Effects of prenatal visits on mood status of expectant mothers of premature infants. 3rd Congress of Asian Society for Pediatric Research, Tokyo
2. Yorioka H, Kasamatsu A, Okuno S, Yoshida M, Komeda S, Murata H, Sawaragi S, Kanzaki H, Oohashi A, Kawataki M and Yoo SJ (2007) Placental diagnosis of fetal left pulmonary arterial sling. 17th World Congress on Ultrasound in Obstetrics and Gynecology, Italia
3. Takaya J, Yamato F, Tsuji S and Kaneko K (2007) Low Ca diet increases the radical production of polymorphonuclear leukocytes from mice. 3rd Congress of Asian Society for Pediatric Research, Tokyo
4. Kaneko K (2007) Practice of oral rehydration therapy for children. 3rd Congress of Asian Society for Pediatric Research (ASPR), Tokyo
5. Ishizaki Y, Fukuoka H, Ishizaki T, Fujii Y, Kino M, Higashino H, Ueda N, Kobayashi Y, Taniuchi S and Kaneko K (2007) Usefulness of inferior vena cava diameter in subjects with orthostatic intolerance induced by 10 day bed rest experiment. 5th Congress of the International Society for Autonomic Neuroscience, Kyoto
6. 藤井由里, 石崎優子, 木野 稔, 谷内昇一郎, 小林陽之助, 金子一成 (2007) Changes in inferior vena cava diameter in subjects with orthostatic intolerance after treatment with midodrine. ISAN2007, Kyoto
7. Iharada A, Hasui M, Imai Y, Tsuji S, Isozaki Y, Kaneko K, Kanda S and Nishiyama T (2007) Role of Nitric oxide produced by T and B cell in Idiopathic Nephrotic Syndrome. 14th IPNA (第14回国際小児腎臓病学会), Budapest
8. Tatsumi K, Tsuji S, Sugiura I, Orihara M, Nakao K, Okano H and Yasui M (2007) Functional analysis of Drosophila big brain(bib) that is a homolog of mammalian Aquaporin-4(AQP4). The 5th International Conference of Aquaporin, Nara
9. Takaya J, Yamato F and Kaneko K (2007) Intracellular magnesium and adipokines in umbilical cord plasma and infant birth size. The Endocrine Society's 89th Annual Meeting ENDO 07, Toronto
10. 高屋淳二 (2007) こどものメタボリックシンドローム. 大阪府保育所保健連絡協議会講演会, 大阪
11. 谷内昇一郎, 蓮井正史, 金子一成 (2007) 診断にステロイド負荷が有用であった自己免疫性好中球減少症の3例. 第15回食細胞機能異常症研究会, 東京
12. 松本文博, 池本裕実子, 大川 薫, 伊藤太一, 西村美紀, 岡本一章, 小野 厚 (2007) 心性多尿の1幼児例. 第176回大阪小児科学会, 大阪
13. 川崎康寛, 東野博彦, 卯西 元, 小國龍也, 田邊卓也, 田川哲三, 市川正裕, 武知哲久, 蔭山尚正 (2007) 大阪府の「子ども医療圏」の実態調査—第1報—. 第176回大阪小児科学会, 大阪
14. 藤井喜充, 森 喜造, 木全貴久, 森 伸生, 寺口正之, 村上貴孝, 岡府寺美, 木野 稔, 中野博光 (2007) 小児ピロリ菌感染症の臨床像について—急性胃粘膜病変との関連—. 第176回大阪小児科学会, 大阪
15. 高田晃平, 中野崇秀, 野田幸弘, 河崎裕英, 金子一成, 浜田吉則 (2007) 小児機能性副腎皮質腫瘍の一例. 第23回日本小児がん学会学術集会, 仙台
16. 平林雅人, 中野崇秀, 野田幸弘, 徳原克治, 高田晃平, 浜田吉則, 金子一成 (2007) 卵巣原発性索間質性腫瘍(若年型顆粒膜細胞腫, Sertoli Leydig tumor) の2例. 第23回日本小児がん学会学術集会, 仙台
17. 岡本真道, 小島崇嗣, 谷内昇一郎, 金子一成, 木村彰宏, 青木孝夫 (2007) 乳児期の卵アレルギー検査としてのHRTの有用性. 第44回日本小児アレルギー学会, 名古屋
18. 谷内昇一郎, 岡本真道, 小島崇嗣, 須藤京子, 金子一成 (2007) 食物経口負荷試験における誘発症状とその対応について. 第44回日本小児アレルギー学会, 名古屋
19. 平林雅人, 小島崇嗣, 笹井みさ, 谷内昇一郎, 金子一成 (2007) 難治性食物アレルギーに対して微量経口減感作療法を行った一例. 第44

回日本小児アレルギー学会, 名古屋

20. 金子一成 (2007) 小児の医原性低Na血症と維持輸液療法. 近畿大学附属病院研修医勉強会, 大阪
21. 久松洋司, 石原美由希, 伊藤亜希子, 都築朋子, 笠松 敦, 依岡寛和, 岡田英孝, 榎木晋, 神崎秀陽, 中島純一, 稲垣隆介 (2007) 妊娠28週で出生前診断し得た開放性二分脊椎(脊椎裂)の1症例. 第117回近畿産科婦人科学会学術集会, 大阪
22. 谷内昇一郎 (2007) 小麦アレルギー患者における低アレルゲン化小麦による減感作療法(20例のまとめ). 第15回大阪食物アレルギー懇話会, 大阪
23. 高屋淳二, 山戸史子, 金子一成 (2007) マグネシウムおよびカルシウムがマウス好中球の活性酸素/一酸化窒素に及ぼす影響. 第27回日本マグネシウム学会総会, 東京
24. 川崎康寛, 東野博彦, 卯西 元, 小國龍也, 蔭山尚正 (2007) 小児在宅医療に関する小児科医の意識と現況. 第31回大阪府医師会医学会総会, 大阪
25. 村上貴孝, 船戸正久, 鍋谷まこと, 齋藤利雄, 三宅 理, 高瀬俊夫, 東川幸嗣, 宮本勝彦, 金太 章, 永井利三郎, 田中順子, 若宮英司, 片桐修一, 三宅忠夫, 藤田敬之助, 杉本 壽 (2007) 発達障害児のための支援ネットワーク形成に関するアンケート～診療所に対するアンケート調査結果. 第31回大阪府医師会医学会総会, 大阪
26. 村上洋介, 松下 享, 寺口正之, 萱谷 太, 篠原 徹, 横山達郎, 井出幸彦, 越後茂之, 小川 實, 加納治男, 北田實男, 武内克郎, 西崎 宏, 湯浅 實, 森口久子 (2007) 学校府下の学校における自動体外式除細動器(AED)の普及状況—アンケート調査報告—. 第31回大阪府医師会医学会総会, 大阪
27. 今井雄一郎, 野田幸弘, 磯崎夕佳, 蓮井正史, 金子一成 (2007) シクロスポリンAを投与した紫斑病性腎炎の1例. 第36回近畿小児腎臓病学会, 大阪
28. 谷内昇一郎, 蓮井正史, 金子一成 (2007) プレドニンの少量投与が有効であったPFAPAの1例. 第39回日本小児感染症学会, 横浜
29. 今井雄一郎, 野田幸弘, 磯崎夕佳, 蓮井正史, 金子一成 (2007) 腸重積を合併し, 緊急開腹術を施行した Henoch-Schönlein 紫斑病の1症例. 第3回OK小児救急症例検討会, 大阪
30. 村上貴孝 (2007) インフルエンザに伴うけいれん症例の検討. 第41回日本でんかん学会, 福岡
31. 金子一成 (2007) 小児の低ナトリウム血症と新しい維持輸液. 第41回日本小児内分泌学会学術集会, 横浜
32. 今井雄一郎, 野田幸弘, 磯崎夕佳, 蓮井正史, 金子一成 (2007) 腸重積をきたした Henoch-Schönlein 紫斑病の1症例. 第4回京阪こどもカンファレンス, 大阪
33. 下智比古, 蓮井正史, 大倉ひろ枝, 森 喜造, 高橋伯夫, 金子一成 (2007) AST 結合免疫グロブリンの10歳女児例. 第54回日本臨床検査医学会学術集会 (第54回日本臨床検査医学会学術集会・第47回日本臨床化学会年次学術集会連合大会), 大阪
34. 岡本真道, 谷内昇一郎, 小島崇嗣, 須藤京子, 金子一成 (2007) 卵アレルギー患者における新しい経口減感作療法の試み. 第57回日本アレルギー学会学術大会, 横浜
35. 石崎優子 (2007) 地域で支える子どもと家族—抱え込みVS責任放棄—. 第98回日本小児精神神経学会, 栃木
36. 金子一成 (2007) 小児の慢性腎疾患と成長障害. ノボ, ノボディスクファーマ社内勉強会, 東京
37. 高屋淳二 (2007) こどもの肥満: 生活習慣病の予防は幼児期から. 守口あそぼう広場講演会, 大阪
38. 辻美代子, 舟木克枝, 藤原 亨, 田中幸代, 金子一成 (2007) 向精神薬の大量誤飲をくり返した1男児例. 第25回日本小児心身医学会, 大阪
39. 藤井喜充, 木野 稔, 中野博光 (2007) 小児肝門部肝外胆管一過性拡張の検討. 第34回日本小児栄養消化器肝臓学会, 仙台
40. 辻美代子, 舟木克枝, 藤原 亨, 田中幸代, 金子一成 (2007) 大量の薬物誤飲をくり返した1男児例. 第36回大阪市東部小児談話会, 大阪
41. 金子一成 (2007) 小児慢性腎炎の早期発見と

- 早期治療の意義. 第37回日本腎臓学会西部学術大会, 福井
42. 村上貴孝 (2007) 発達障害を伴ったてんかん症例の検討. 第42回日本小児神経学会近畿地方会, 大阪
43. 原田佳明 (2007) 勤務医の労働環境と医療安全. 第45回日本病院管理学会学術総会, 横浜
44. 辻美代子, 舟木克枝, 藤原 亨, 川崎勝彦, 久木野豊, 中野景司, 中野幸子 (2007) 予約制による小児科外来診療について一現状と今後の展望一. 第60回済生会学会, 埼玉
45. 藤井喜充, 木野 稔, 中野博光 (2007) 嚢胞性胸腺奇形腫の1例. 日本超音波医学会第34回関西地方会学術集会, 大阪
46. 池本裕実子, 大川 薫 (2007) 当科で経験した症例の紹介:「外来・入院の症例の紹介」「救急外来初診患者の死亡例」. 平成19年度日本医師会生涯教育講座, 大阪
47. 村上貴孝 (2007) 重症心身障害児のケアにおける問題点. 医療的ケア委員会校内研修会(西淀川養護学校), 大阪
48. 金子一成 (2007) 経口補水療法の最近の考え方. 岡山市小児専門医会, 岡山
49. 金子一成 (2007) 経口補水療法の実際. 西大阪小児疾患研究会, 大阪
50. 今井雄一郎, 居原田安奈, 河崎裕英, 磯崎夕佳, 蓮井正史, 金子一成 (2007) ANCA関連顕微鏡的多発動脈周囲炎の1幼児例. 第175回大阪小児科学会, 大阪
51. 石崎優子, 深井善光, 永井 章, 宮島 祐 (2007) 日本小児心身医学会薬事委員会の15歳未満の小児への向精神薬の適正使用への取り組み. 第25回日本小児心身医学会学術集会, 札幌
52. 植田美穂, 車谷一樹, 小林陽之助, 松本圭子, 大方美香 (2007) 大阪総合保育大学学生・保護者に対する麻疹等の感染症および予防接種に関する意識調査. 第46回大阪小児保健研究会, 大阪
53. 川崎康寛, 東野博彦, 卯西 元, 小國龍也, 蔭山尚正 (2007) 大阪小児科医会会員の在宅医療に関する意識および現況調査. 第46回大阪小児保健研究会, 大阪
54. 荒木 敦 (2007) 非ヘルペス性辺縁系脳炎後の側頭葉てんかんの1症例. 第52回大阪小児てんかん研究会, 大阪
55. 金子一成 (2007) 小児科における尿検査の重要性. 尿検査フォーラム2007, 大阪
56. 寺口正之 (2007) 「症例から見た心疾患の学校管理」一先天性心疾患一. 平成19年度 学校保健・循環器講習会, 大阪
57. 金子一成 (2007) 小児の夜尿症の診かた・考え方. 和歌山小児科医学会学術講演会, 和歌山
58. 村上貴孝 (2007) 発達障害児に対する支援. 夏期教員研修会(大阪市立城東小学校), 大阪
59. 村上貴孝 (2007) 小児神経疾患の特徴と発症メカニズム. 大阪肢体不自由自立活動研究会第32回夏期講習会, 大阪
60. 居原田安奈, 高屋淳二, 中村真紀子, 原田佳明, 高田晃平, 浜田吉則, 金子一成 (2007) 腸間膜裂孔ヘルニアによる絞扼性イレウスの2症例. 第18回寝屋川小児懇話会, 大阪
61. 村上貴孝 (2007) 乳幼児の発達について. 大阪市児童福祉施設連盟乳幼児分科会研修会, 大阪
62. 金子一成 (2007) 乳幼児にやさしい腎機能検査:シスタチンCによる糸球体濾過率予測と試験紙による一日尿蛋白量予測. 第16回日本小児泌尿器学会総会, 神戸
63. 金子一成 (2007) 小児の輸液療法における最近の話題. 第21回九州小児ネフロロジー研究会, 福岡
64. 寺口正之 (2007) 川崎病の γ -グロブリン不応例に対するステロイドパルス療法の効果. 第32回KMU小児臨床研究会, 大阪
65. 荒木 敦, 服部祐子, 金子一成 (2007) ガバペンチンが奏効した症候性West症候群の1症例. 第36回大阪てんかん研究会, 大阪
66. 藤井喜充 (2007) 小児習慣性便秘の治療方針及び器質的消化器疾患について. 第43回守口門真外来小児科勉強会, 大阪
67. 大橋 敦, 竹安晶子, 黒柳裕一, 峰 研治, 辻章志, 北村直行, 木下 洋, 金子一成 (2007) LDFを用いた脳血流測定による神経学的予後の予測. 第43回日本周産期・新生児医学会学術集会, 東京
68. 依岡寛和, 笠松 敦, 奥野茜子, 米田祥子, 村田紘未, 山口昌美, 榎木 晋, 神崎秀陽, 大

- 橋 敦, 金子一成, 川滝元良 (2007) STIC を用いて出生前診断を行ったleft pulmonary arterial slingの1症例. 第43回日本周産期・新生児学会学術集会, 東京
69. 笠松 敦, 依岡寛和, 榎木 晋, 神崎秀陽, 大橋 敦, 竹安晶子 (2007) 臍帯静脈途絶をきたした1症例. 第43回日本周産期・新生児学会学術集会, 東京
70. 原田佳明, 川崎美榮子, 鶴田一郎, 四方伸明, 麻田真知子, 別所 陽, 埴田和史 (2007) 勤務医の労働環境実態と意識に関する調査. 第48回日本社会医学学会総会, 名古屋
71. 村上貴孝 (2007) 二次救急病院におけるけいれん性疾患の実態. 第49回日本小児神経学会, 大阪
72. 村上貴孝 (2007) 小児科領域におけるclobazamの臨床. 第49回日本小児神経学会, 大阪
73. 村上貴孝 (2007) こどもの健康保持について. 特別支援教育実践講座 (大阪市教育委員会主催), 大阪
74. 金子一成 (2007) 増加する小児肥満—小児期のメタボリックシンドローム—. ノボノルディスクファーマ主催特別講演会, 大阪
75. 藤井喜充, 木野 稔, 中野博光 (2007) 患者の予定に合わせた急性虫垂炎の治療計画の試み. 第174回大阪小児科学会, 大阪
76. 谷内昇一郎, 田辺創一, 小島崇嗣, 箕浦貴則, 須藤京子, 木村彰宏, 黒坂文武, 笹井みさ, 西野昌光, 伊藤典之, 金子一成 (2007) 小麦アレルギー患者における低アレルゲン化小麦による減感作療法: ω -5 グリアジニン RAST 値での評価. 第19回日本アレルギー学会春季臨床大会, 横浜
77. 箕浦貴則, 谷内昇一郎, 金子一成 (2007) 当院における食負荷試験の検討 (HRT と特異的 IgEc 値との関連). 第19回日本アレルギー学会春季臨床大会, 横浜
78. 藤井喜充 (2007) 小児腹部超音波ハンズオンセミナー. 第21回日本小児救急医学会, 鹿児島
79. 藤井喜充, 木野 稔, 中野博光 (2007) クループ症候群における小児喉頭超音波の試み. 第21回日本小児救急医学会, 鹿児島
80. 金子一成 (2007) 経口補水療法の実践. 第21回日本小児救急医学学会, 鹿児島
81. 金子一成 (2007) Henoch-Schönlein 紫斑病の病因と臨床像. 第37回京都腎臓免疫研究会, 京都
82. 磯崎夕佳, 今井雄一郎, 蓮井正史, 金子一成, 角坂芳彦, 高橋伯夫 (2007) 小児における血清シスタチン C 測定の有用性. 第42回小児腎臓病学会, 横浜
83. 石森真吾, 舟木克枝, 藤原 亨, 辻美代子, 磯崎夕佳, 蓮井正史, 金子一成 (2007) 3歳児検尿で発見された無症候性溶血性尿毒症症候群の1女児例. 第42回小児腎臓病学会, 横浜
84. 今井雄一郎, 高屋淳二, 蓮井正史, 金子一成 (2007) 各種経口補水液の水分・ナトリウムの吸収率に関する検討. 第42回日本小児腎臓病学術集会, 横浜
85. 磯崎夕佳, 今井雄一郎, 蓮井正史, 金子一成 (2007) 小児の腎泌尿器疾患における64列マルチスライスCTの有用性. 第43回小児放射線学会, 東京
86. 金子一成 (2007) カリキュラム構成と評価. 平成19年度 新任教員ワークショップ, 大阪
87. 池本裕実子, 小野 厚, 岡本一章, 西村美紀, 伊藤太一, 大川 薫, 松本文博, 桑田博文, 青松幸雄 (2007) 最近, 当科で経験した興味ある症例の紹介. 松原市医師会学術講演会・第41回症例検討会, 大阪
88. 谷内昇一郎, 金子一成 (2007) 卵白アレルギー患者における減感作療法のこころみ. 第14回大阪食物アレルギー懇話会, 大阪
89. 吉村 健, 谷内昇一郎, 寺口正之, 金子一成 (2007) 川崎病血管炎における一酸化窒素 (NO) および活性酸素種 (ROS) の関与に関する検討. 第110回日本小児科学会学術集会, 京都
90. 金子一成 (2007) 小児画像診断の最前線. 第110回日本小児科学会学術集会, 京都
91. 今井雄一郎, 高屋淳二, 金子一成 (2007) ラット腸管を用いた各種経口補水液の吸収率に関する検討. 第110回日本小児科学会学術集会, 京都
92. 石崎優子, 服部祐子, 藤井由里, 中村美奈子, 大川 薫, 長尾靖子, 箕浦貴則, 谷内昇一郎, 金子一成, 木野 稔 (2007) 関西医大小児科における小児心身医学研修システム. 第110回日本小児科学会学術集会, 京都

93. 谷内昇一郎, 蓮井正史, 今井雄一郎, 金子一成 (2007) 診断時に抗 IgM 抗体のみが陽性であった自己免疫性好中球減少症の3例. 第110回日本小児科学会学術集会, 京都
94. 高屋淳二, 山戸史子, 東野博彦, 金子一成 (2007) 臍帯血の細胞内マグネシウムおよびアディポサイトカインと出生体格との関係. 第110回日本小児科学術集会, 京都
95. 藤井喜充, 木野 稔, 中野博光 (2007) クループ症候群における小児喉頭超音波の試み. 第12回近畿外来小児科学研究会, 大阪
96. 村上貴孝 (2007) インフルエンザに伴うけいれん症例の検討. 第51回大阪小児てんかん研究会, 大阪
97. 金子一成 (2007) Henoch-Schönlein紫斑病の病因と臨床像. 第8回近畿小児リウマチ・膠原病研究会, 大阪
98. 辻美代子 (2007) 教室で気づく心の問題～小児科医としての経験から～. 大阪市養護教員会第59回定期研修会, 大阪
99. 金子一成 (2007) 小児の維持輸液療法再考. 第110日本小児科学会栃木県地方会, 栃木
100. 藤井喜充, 木野 稔, 中野博光 (2007) 日常診療におけるピロリ菌検索の意義. 第11回日本小児H.pylori研究会, 東京
101. 寺口正之, 荻野廣太郎, 吉村 健, 野田幸弘, 谷内昇一郎, 木野 稔, 岡崎仁志, 金子一成 (2007) 免疫グロブリン不応の川崎病におけるステロイドパルス療法の意義. 第20回近畿小児科学会, 和歌山
102. 谷内昇一郎, 小島崇嗣, 箕浦貴則, 須藤京子, 笹井みさ, 金子一成, 田辺創一, 木村彰宏, 黒坂文武, 西野昌光, 伊藤典之, 浅野由美 (2007) 小麦アレルギー患者における低アレルギー化小麦による減感作療法. 第20回近畿小児科学会, 和歌山
103. 藤井喜充 (2007) 小児における超音波検査の症例. 第20回小児科勉強会 PSG, 大阪
104. 高田晃平, 中野崇秀, 徳原克治, 野田幸弘, 河崎裕英, 金子一成, 浜田吉則 (2007) 新生児期に破裂し腹膜播種, 残肝再発した肝芽腫の1例. 第29回近畿小児がん研究会, 大阪
105. 舟木克枝, 藤原 亨, 辻美代子 (2007) 視力低下を主訴としたバセドウ病の8歳女児例. 第35回大阪市東部小児談話会, 大阪
106. 荒木 敦, 長尾靖子, 鈴川純子, 金子一成, 田辺卓也 (2007) ヘルペス脳炎後遺症による前頭葉病変で著明な多動性を呈する1男児例. 第41回日本小児神経学会近畿地方会, 大阪
107. 藤井喜充, 木野 稔, 中野博光 (2007) 腹部救急疾患における小児肝門部肝外胆管拡張の検討. 第43回日本腹部救急医学会総会, 東京
108. 高屋淳二, 山戸史子, 金子一成 (2007) 臍帯血の細胞内マグネシウムおよびアディポサイトカインと出生体格との関係. 第4回小児栄養研究会, 大阪
109. 高田晃平, 徳原克治, 浜田吉則, 荒木 敦 (2007) 重度心身障害を伴った臍帯ヘルニアの再開腹術の適応. 第57回小児外科わからん会, 神戸
110. 高屋淳二 (2007) 生活習慣病の予防と学校保健. 布施医師会学術講演会, 大阪
111. 金子一成 (2007) 学校検尿制度による小児腎疾患の診断と治療. 近畿臨床検査技師会一般検査分野研修会, 大阪
112. 金子一成 (2007) 小児の経口補水療法の実際. 新潟市小児科医会集談会, 新潟
113. 石森真吾, 舟木克枝, 藤原 亨, 辻美代子 (2007) 9か月の小児科研修で経験できた紫斑病性腎炎の女児例. 第28回済生会野江病院学術集談会, 大阪
114. 金子一成 (2007) 小児の輸液療法における最近の話題. 第59回南大阪疾患研究会, 大阪
115. 東野博彦 (2007) 低身長. 第5回大阪小児内分泌勉強会, 大阪
116. 藤井喜充, 木野 稔, 中野博光 (2007) クループ症候群における小児喉頭超音波の試み. 日本超音波医学会第33回関西地方会学術集会, 和歌山
117. 小野 厚 (2007) ワクチンのお話し. 平成18年度第3回市立松原病院健康管理推進事業, 大阪
118. 金子一成 (2007) 学校検尿制度による小児腎疾患の診断と治療. アークレイ学術講演会, 東京
119. 金子一成 (2007) 腎疾患の理解と日常生活の自己管理について. 大阪府枚方保健所主催講演会, 大阪

- 120.金子一成 (2007) 感染性胃腸炎の経口補液療法. 第1回東京小児科医会セミナー, 東京
- 121.谷内昇一郎, 石崎優子, 服部祐子, 鈴川純子, 金子一成, 伊藤 誠, 戎 監, 木村園子 (2007) 院内学級通学で著明に喘息が改善した中学1年の女子例. 第40回気管支喘息勉強会, 大阪

著 書

1. 石崎優子 (2007) 帯同する子どもの発達と心理社会的問題. 海外赴任者とその家族のメンタルヘルス (西山利正編) 37-49頁, 社団法人日本在外企業協会, 東京
2. 金子一成 (2007) 急性糸球体腎炎, ネフローゼ症候群. 今日の処方 (高久史麿, 水島 裕編) 4, 900-903頁, 南江堂, 東京
3. 金子一成 (2007) 血管性紫斑病. 今日の処方 (高久史麿, 水島 裕編) 4, 910-912頁, 南江堂, 東京
4. 金子一成 (2007) 小児ネフローゼ症候群今日の診断基準 (大田 健, 奈良信雄編) 930-932頁, 南江堂, 東京
5. 深井善光 (2007) 物質使用・乱用一疫学, 薬理学的考察, マネジメントのための検証と提言. 児童青年精神医学 (長尾圭造, 宮本信也編) 511-529頁, 明石書店, 東京
6. 居原田安奈, 蓮井正史, 金子一成 (2007) 尿路感染症. 小児科診療ガイドライン (五十嵐隆編) 1, 269-273頁, 総合医学社, 東京
7. 谷内昇一郎 (2007) 高IgE症候群. 臨床アレルギー学 (宮本昭正編) 3, 455-457頁, 南江堂, 東京

外科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Koike-Kiriyama N, Adachi Y, Minamino K, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Yamada H, Mukaide H, Shigematsu A, Mizokami T, Matsumura M and Ikehara S (2007) Human cord blood cells can differentiate into retinal nerve cells. *Acta Neurobiol Exp* 67: 359-365
2. Kaibori M, Saito T, Matsui Y, Uchida Y, Ishizaki M and Kamiyama Y (2007) A review of the prognostic factors in patients with recurrence after liver resection for hepatocellular carcinoma. *Am J Surg* 193: 431-437
3. Kaibori M, Matsui Y, Saito T and Kamiyama Y (2007) Risk factors for different patterns of recurrence after resection of hepatocellular carcinoma. *Anticancer Res* 27: 2809-2816
4. Mishima H, Ikenaga M, Ishida H, Iwamoto S, Morimoto T, Narahara H, Kato T, Tsujie M, Kitai T, Fukunaga M, Nakanishi M, Tsujinaka T, Furukawa H and Taguchi T (2007) Multi-center phase II study of irinotecan plus bolus fluorouracil/1-leucovorin for metastatic colorectal cancer. *Anticancer Res* 27: 1003-1008
5. Matsui Y, Terakawa N, Satoi S, Kaibori M, Kitade H, Takai S, Kwon AH and Kamiyama Y (2007) Postoperative outcomes in patients with hepatocellular carcinomas resected with exposure of the tumor surface: clinical role of the no-margin resection. *Arch Surg* 142: 596-602; discussion 603
6. Takahashi K, Satoi S, Yanagimoto H, Terakawa N, Toyokawa H, Yamamoto T, Matsui Y, Takai S, Kwon AH and Kamiyama Y (2007) Circulating dendritic cells and development of septic complications after pancreatectomy for pancreatic cancer. *Arch Surg* 142: 1151-1157
7. Kwon AH and Qiu Z (2007) Neutrophil elastase inhibitor prevents endotoxin-induced liver injury following experimental partial hepatectomy. *Br J Surg* 94: 609-619
8. Yamamoto D, Iwase S, Kitamura K, Odagiri H, Yamamoto C and Nagumo Y (2008) A phase II study of trastuzumab and capecitabine for patients with HER2-overexpressing metastatic breast cancer: Japan Breast Cancer Research Network (JBCRN) 00 Trial. *Cancer Chemother Pharmacol* 61: 509-514

9. Yokoigawa N, Takeuchi N, Toda M, Inoue M, Kaibori M, Yanagida H, Inaba T, Tanaka H, Ogura T, Takada H, Okumura T, Kwon AH, Kamiyama Y and Nakada H (2007) Overproduction of PGE2 in peripheral blood monocytes of gastrointestinal cancer patients with mucins in their bloodstream. *Cancer Lett* 245: 149–155
10. Yanagimoto H, Mine T, Yamamoto K, Satoi S, Terakawa N, Takahashi K, Nakahara K, Honma S, Tanaka M, Mizoguchi J, Yamada A, Oka M, Kamiyama Y, Itoh K and Takai S (2007) Immunological evaluation of personalized peptide vaccination with gemcitabine for pancreatic cancer. *Cancer Sci* 98: 605–611
11. Tsuda M, Inaba M, Sakaguchi Y, Fukui J, Ueda Y, Omae M, Ando Y, Mukaide H, Guo K, Yabuki T, Nakatani T and Ikehara S (2007) Activation of granulocytes by direct interaction with dendritic cells. *Clin Exp Immunol* 150: 322–331
12. Nishizawa M, Matsui K, Wakame K, Tanaka H, Tokuhara K, Kamiyama Y and Okumura T (2007) Involvement of active hexose correlated compound in expression of inducible nitric oxide synthase gene and relating genes. *Clin Nutr* 2: 40
13. Kaibori M, Morita M, Tagami S, Uchida Y, Tanaka H, Yoshioka K, Takahashi Y, Sakaida N, Uemura Y, Seki T, Okazaki K and Kamiyama Y (2007) Cutaneous and colonic metastases after resection of hepatocellular carcinoma. *Dig Dis Sci* 52: 1114–1117
14. Kaibori M, Uchida Y, Ishizaki M, Saito T, Hirohara J, Kishimoto Y, Uemura Y, Tanaka K and Kamiyama Y (2007) Living donor liver transplantation for primary biliary cirrhosis with autoimmune hemolytic anemia: a case report. *Dig Dis Sci* 52: 3237–3239
15. Kwon AH, Qiu Z and Hirao Y (2007) Topical application of plasma fibronectin in full-thickness skin wound healing in rats. *Exp Biol Med* 232: 935–941
16. Kwon AH, Qiu Z, Tsuji K, Miyaso T and Okumura T (2007) Fibronectin prevents endotoxin shock after partial hepatectomy in rats via inhibition of nuclear factor-kappaB and apoptosis. *Exp Biol Med* 232: 895–903
17. Matsui K, Nishizawa M, Ozaki T, Kimura T, Hashimoto I, Yamada M, Kaibori M, Kamiyama Y, Ito S and Okumura T (2008) Natural antisense transcript stabilizes inducible nitric oxide synthase messenger RNA in rat hepatocytes. *Hepatology* 47: 686–697
18. Matsuzaki K, Murata M, Yoshida K, Sekimoto G, Uemura Y, Sakaida N, Kaibori M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Fujisawa J, Okazaki K and Seki T (2007) Chronic inflammation associated with hepatitis C virus infection perturbs hepatic transforming growth factor beta signaling, promoting cirrhosis and hepatocellular carcinoma. *Hepatology* 46: 48–57
19. Shimano N, Uehara N, Kiyozuka Y, Shikata N and Tsubura A (2007) Effects of prepubertal indole-3-carbinol treatment on development of N-methyl-N-nitrosourea-induced mammary carcinomas in female Sprague-Dawley rats. *In Vivo* 21: 983–986
20. Ikeda K, Seki T, Umehara H, Inokuchi R, Tamai T, Sakaida N, Uemura Y, Kamiyama Y and Okazaki K (2007) Clinicopathologic study of small hepatocellular carcinoma with microscopic satellite nodules to determine the extent of tumor ablation by local therapy. *Int J Oncol* 31: 485–491
21. Mukaide H, Adachi Y, Koike-Kiriyama N, Suzuki Y, Minamino K, Iwasaki M, Tsuda M, Nakano K, Koike Y, Shigematsu A, Kamiyama Y and Ikehara S (2007) Immunotherapy for malignant tumors using combination of allogeneic intra-bone marrow-bone marrow transplantation, donor lymphocyte infusion and dendritic cells. *Int J Oncol* 30: 1309–1315
22. Matsui K, Kawaguchi Y, Ozaki T, Tokuhara K, Tanaka H, Kaibori M, Matsui Y, Kamiyama Y, Wakame K, Miura T, Nishizawa M and Okumura T (2007) Effect of active hexose correlated compound on the production of nitric oxide in hepatocytes. *JPEN J Parenter Enteral Nutr* 31: 373–381
23. Ozaki T, Kaibori M, Matsui K, Tokuhara K,

- Tanaka H, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2007) Effect of thiol-containing molecule cysteamine on the induction of inducible nitric oxide synthase in hepatocytes. *JPEN J Parenter Enteral Nutr* 31: 366–372
24. Koike-Kiriyama N, Koike Y, Adachi Y, Mukaide H, Minamino K, Shigematsu A, Kamiyama Y, Matsumura M and Ikehara S (2007) Intra-bone marrow injection of dendritic cells for treatment of malignant tumor in mice. *J Exp Clin Cancer Res* 26: 337–342
25. Fukushima K, Fujii H, Yamamura T, Sugita A, Kameoka S, Nagawa H, Futami K, Watanabe T, Hatakeyama K, Sawada T, Yoshioka K, Kusunoki M, Konishi F, Watanabe M, Takahashi K, Ogawa H, Funayama Y, Hibi T, Sasaki I; Surgical Research Group, the Research Committee of Inflammatory Bowel Disease, Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan (2007) Pouchitis atlas for objective endoscopic diagnosis. *J Gastroenterol* 42: 799–806
26. Shigematsu A, Adachi Y, Koike-Kiriyama N, Suzuki Y, Iwasaki M, Koike Y, Nakano K, Mukaide H, Imamura M and Ikehara S (2007) Effects of low-dose irradiation on enhancement of immunity by dendritic cells. *J Radiat Res* 48: 51–55
27. Qiu Z, Kwon AH and Kamiyama Y (2007) Effects of plasma fibronectin on the healing of full-thickness skin wounds in streptozotocin-induced diabetic rats. *J Surg Res* 138: 64–70
28. Kwon AH and Inui H (2007) Preoperative diagnosis and efficacy of laparoscopic procedures in the treatment of Mirizzi syndrome. *J Am Coll Surg* 204: 409–415
29. Yoshida H, Kwon AH, Kaibori M, Tsuji K, Habara K, Yamada M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2008) Edaravone prevents iNOS expression by inhibiting its promoter transactivation and mRNA stability in cytokine-stimulated hepatocytes. *Nitric Oxide* 18: 105–112
30. Yamada M, Nishizawa M, Nakatake R, Habara K, Yoshida H, Ozaki T, Matsui K, Hamada Y, Kamiyama Y, Ito S and Okumura T (2008) Characterization of alternatively spliced isoforms of the type I interleukin-1 receptor on iNOS induction in rat hepatocytes. *Nitric Oxide* 17: 98–105
31. Satoi S, Yamamoto H, Takai S, Tanigawa N, Komemushi A, Yanagimoto H, Toyokawa H, Matsui Y, Mergental H and Kamiyama Y (2007) Clinical impact of multidetector row computed tomography on patients with pancreatic cancer. *Pancreas* 34: 175–179
32. Inaba M, Adachi Y, Hisha H, Hosaka N, Maki M, Ueda Y, Koike Y, Miyake T, Fukui J, Cui Y, Mukaide H, Koike N, Omae M, Mizokami T, Shigematsu A, Sakaguchi Y, Tsuda M, Okazaki S, Wang X, Li Q, Nishida A, Ando Y, Guo K, Song C, Cui W, Feng W, Katou J, Sado K, Nakamura S and Ikehara S (2007) Extensive studies on perfusion method plus intra-bone marrow-bone marrow transplantation using cynomolgus monkeys. *Stem Cells* 25: 2098–2103
33. Fukui J, Inaba M, Ueda Y, Miyake T, Hosaka N, Kwon AH, Sakaguchi Y, Tsuda M, Omae M, Kamiyama Y and Ikehara S (2007) Prevention of graft-versus-host disease by intra-bone marrow injection of donor T cells. *Stem Cells* 25: 1595–1601
34. Koike Y, Adachi Y, Suzuki Y, Iwasaki M, Koike-Kiriyama N, Minamino K, Nakano K, Mukaide H, Shigematsu A, Kiyozuka Y, Tubura A, Kamiyama Y and Ikehara S (2007) Allogeneic intrabone marrow-bone marrow transplantation plus donor lymphocyte infusion suppresses growth of colon cancer cells implanted in skin and liver of rats. *Stem Cells* 25: 385–391
35. Kwon AH, Qiu Z and Hiraon Y (2007) Effect of plasma fibronectin on the incisional wound healing in rats. *Surgery* 141: 254–261
36. 福井淳一, 稲葉宗夫, 上山泰男, 池原進 (2007) 骨髓内骨髓移植法とドナーリンパ球骨髓内注入法による移植片対宿主病抑制効果の検討. *Cytometry Res* 17: 11–17
37. 柳本泰明, 伊東恭悟 (2007) 【癌免疫制御法の進歩と展望】細胞性免疫による癌治療はどこ

- まで可能か】化学療法を併用した腫瘍抗原ペプチド個別化免疫療法. 医学のあゆみ 221: 622-626
38. 古河 洋, 今村博司, 岸本朋乃, 福永 睦, 辻仲利政, 藤谷和正, 三嶋秀行, 上堂文也, 植原啓之, 中根恭司, 井上健太郎, 滝内比呂也, 後藤昌弘, 富田尚裕, 田村茂行, 飯島正平, 加藤健志, 今野元博, 佐藤太郎, 木村 豊, 小林研二, 下川敏雄 (2007) 胃癌治療の新しいエビデンスを求めて—臨床試験の取り組み—OGSGの取り組みと現状. 外科治療 97: 400-406
 39. 浜田吉則, 高田晃平, 棚野晃秀, 徳原克治, 佐藤正人, 上山泰男 (2007) 小児外科疾患に対する標準的治療指針 臍ヘルニア. 外科治療 96: 92-96
 40. 中根恭司, 道浦 拓, 桜本和人, 神原達也, 中井宏治, 井上健太郎, 山道啓吾 (2007) 【胃癌治療のトピックス】早期胃癌に対する機能温存手術 幽門保存胃切除術の評価. 癌と治療 34: 25-28
 41. 山道啓吾, 道浦 拓, 浅井 晃, 桜本和人, 金成泰, 中井宏治, 井上健太郎, 中根恭司 (2007) 【食道癌に対する集学的治療】進行食道癌に対する集学的治療の治療成績と問題点. 癌の臨 53: 23-29
 42. 権 雅憲, 小倉徳裕, 辻 勝成, 北出浩章 (2007) 胆道造影CTを用いたMirizzi症候群に対する腹腔鏡下手術適応の検討. 手術 61: 1167-1171
 43. 高田晃平, 徳原克治, 棚野晃秀, 佐藤正人, 浜田吉則 (2007) 【小児の三大急性腹症—診断・治療のトピックス】腸管重複症によるイレウス. 小児外科 39: 598-602
 44. 井上健太郎, 中根恭司 (2007) 【治療の流れがチャートでわかる! 消化器外科疾患の病態生理】胃がん. 消外Nurs 12: 455-458
 45. 里井壯平, 柳本泰明, 豊川秀吉, 谷川 昇, 米虫 敦, 山本智久, 山尾 順, 荒木 浩, 松井陽一, 高井惣一郎, 上山泰男 (2007) 【画像診断による膵癌術前進行度診断 正診率の向上をめざして】MD-CTによる進展度診断と外科的予後. 胆と膵 28: 103-107
 46. 里井壯平, 豊川秀吉, 柳本泰明, 道浦 拓, 松井陽一, 山本智久, 山尾 順, 上山泰男, 宮崎浩彰 (2007) 膵頭十二指腸切除術におけるクリニカルパス. 日クリニカルパス会誌 9: 667-672
 47. 北村 臣, 西村泰典, 北口 宏, 馬庭知弘, 里井壯平, 宮崎浩彰, 湯浅文雄 (2007) 病院開院に伴う電子クリニカルパス導入とその後の経過について—診療情報管理士の取り組みを中心に. 日クリニカルパス会誌 9: 655-660
 48. 山道啓吾, 道浦 拓, 三木博和, 桜本和人, 中井宏治, 井上健太郎, 浅井 晃, 中根恭司 (2007) 食道多重癌に対する治療法の検討. 日気管食道会報 58: 215-216
 49. 吉岡和彦, 畑 嘉高, 岩本慈能, 中根恭司 (2007) 【直腸肛門の機能性疾患】直腸肛門機能性疾患に対する治療 有茎薄筋移植を中心に. 日本大腸肛門病会誌 60: 906-910
 50. 辻 勝成, 権 雅憲, 北出浩章, 今村 敦, 高田秀穂 (2007) 腹膜悪性中皮腫の診断にFDG-PETが有用であった1例. 日臨外会誌 68: 2367-2371
 51. 中根恭司, 井上健太郎, 道浦 拓, 桜本和人, 神原達也, 中井宏治, 山道啓吾 (2007) 【外科領域におけるインフォームド・コンセントと医療安全対策】胃外科におけるインフォームド・コンセントと医療安全対策. 臨外 62: 175-179
 52. 吉岡和彦, 岩本慈能, 中根恭司 (2007) 【肛門疾患診断・治療のコツと実際】肛門機能不全の診断・治療のコツと実際. 臨外 62: 1365-1370
 53. 佐藤正人, 浜田吉則, 高田晃平, 棚野晃秀, 徳原克治, 畑埜武彦 (2007) 良性腸疾患における腹腔鏡下手術の適応と限界 小児腸重積に対する腹腔鏡下手術の適応と限界. 臨外 62: 59-64
 54. 里井壯平, 山本栄和, 高井惣一郎, 谷川 昇, 米虫 敦, 柳本泰明, 豊川秀吉, 松井陽一, Hynek Mergental, 上山泰男 (2007) 膵癌患者におけるmulti-detector row CTの臨床的影響. 膵臓 22: 516-518
 55. 水上 陽, 笹田哲朗, 橋田裕毅, 水本明良, 佐藤正人, 上田修吾, 田中基文, 郡司周太郎, 大石賢玄, 小山幸法, 吉田昌弘, 金井陸行, 鷹

巢晃昌, 高林有道 (2007) 膵管出血をきたした退形成性膵管癌の1例. 膵臓 22: 488-493

総説

1. Takada K, Hamada Y, Sato M, Fujii Y, Teraguchi M, Kaneko K and Kamiyama Y (2007) Cecal volvulus in children with mental disability. *Pediatr Surg Int* 23: 1011-1014
2. 山中英治 (2007) 【薬学6年制 10年後を見据えて】その他の業種の立場から 医師の立場から見た薬学6年制. 医薬ジャーナル 43: 137-141
3. 山中英治 (2007) 【知っておきたい肥満者の手術】肥満者の周術期管理. 外科治療 96: 254-258
4. 中根恭司, 桜本和人, 神原達也, 道浦 拓, 中井宏治, 井上健太郎, 山道啓吾 (2007) 胃・十二指腸穿孔. 消外Nurs 30: 1051-1057
5. 山中英治 (2007) こうすればうまく伝わる患者さんにわかる手術説明のヒケツ 肝臓切除術. 消外Nurs 12: 882-888
6. 山中英治 (2007) こうすればうまく伝わる患者さんにわかる 手術説明のヒケツ 術前術後の栄養療法. 消外Nurs 12: 771-778
7. 山中英治 (2007) こうすればうまく伝わる患者さんにわかる 手術説明のヒケツ 膵頭十二指腸切除術. 消外Nurs 12: 656-662
8. 山中英治 (2007) こうすればうまく伝わる患者さんにわかる 手術説明のヒケツ 胆嚢摘出術. 消外Nurs 12: 546-551
9. 山中英治 (2007) こうすればうまく伝わる患者さんにわかる 手術説明のヒケツ 直腸がん手術. 消外Nurs 12: 419-428
10. 山中英治 (2007) こうすればうまく伝わる患者さんにわかる 手術説明のヒケツ 結腸切除術. 消外Nurs 12: 316-325
11. 山中英治 (2007) こうすればうまく伝わる患者さんにわかる手術説明のヒケツ 緩和医療. 消外Nurs 12: 1296-1304
12. 山中英治 (2007) こうすればうまく伝わる患者さんにわかる手術説明のヒケツ イレウス (腸閉塞). 消外Nurs 12: 1200-1209
13. 山中英治 (2007) こうすればうまく伝わる患者さんにわかる手術説明のヒケツ 十二指

腸潰瘍穿孔. 消外Nurs 12: 1100-1106

14. 山中英治 (2007) こうすればうまく伝わる患者さんにわかる 手術説明のヒケツ 食道亜全摘術. 消外Nurs 12: 97-103

症例報告

1. Uchida K, Satoi S, Miyoshi H, Hachimine D, Ikeura T, Shimatani M, Matsushita M, Takaoka M, Takai S, Ashida K and Okazaki K (2007) Inflammatory pseudotumors of the pancreas and liver with infiltration of IgG4-positive plasma cells. *Intern Med* 46: 1409-1412
2. Kwon AH, Tsuji K, Yamada H, Okazaki K and Sakaida N (2007) Amyloidosis of the gallbladder mimicking gallbladder cancer. *J Gastroenterol* 42: 261-264
3. Kwon AH and Sakaida N (2007) Simultaneous presence of xanthogranulomatous cholecystitis and gallbladder cancer. *J Gastroenterol* 42(8): 703-704
4. Kwon AH (2007) Authors' reply: Neutrophil elastase inhibitor prevents endotoxin-induced liver injury following experimental partial hepatectomy. *Br J Surg* 94(7): 912
5. Sato M, Motohiro T, Seto S, Kogire M, Takada K and Hamada Y (2007) A case of splenosis after laparoscopic splenectomy. *Pediatr Surg Int* 23: 1019-1021
6. 奥野茜子, 中嶋達也, 吉田桃子, 岡田英孝, 安田勝彦, 神崎秀陽, 吉岡和彦 (2007) 急性虫垂炎との鑑別を要した卵巣および虫垂の子宮内膜症の1例. エンドメトリオーシス研究会誌 28: 122-125
7. 重松明男, 足立 靖, 小柳津治樹, 松本憲明, 桐山直子, 向出裕美, 今村雅寛, 福原資郎, 池原 進 (2007) 同種骨髄移植後に, 水痘带状疱疹ウイルス感染症から血栓性微小血管障害を発症したと考えられた1剖検例. 診断病理 24: 348-354
8. 海堀昌樹, 石崎守彦, 内田洋一朗, 斉藤隆道, 植村芳子, 関 寿人, 上山泰男 (2007) 若年者に発症した非B非C型肝炎細胞癌の1例. 日消器外誌 40: 617-622
9. 金 成泰, 今村容子, 川口雄才, 北出浩章, 中

井宏治, 高田秀穂 (2007) 索状物の牽引により発症した回腸穿孔の1例. 日臨外会誌 68: 595-598

10. 山中滋木, 爲政大幾, 堀尾 武, 石崎守彦, 川口雄才, 横井 崇, 中井邦久, 植村芳子 (2007) 皮膚浸潤を来したBurkitt lymphomaの1例. 皮膚の科 6: 352-356
11. 尾崎 岳, 海堀昌樹, 小池保志, 植村芳子, 関寿人, 上山泰男 (2007) 肝原発内分泌細胞癌の1切除例. 臨外 62: 553-557

学会発表

1. Nishizawa M, Matsui K, Wakame K, Tanaka H, Tokuhara K, Kamiyama Y and Okumura T (2007) Involvement of active hexose correlated compound in expression of inducible nitric oxide synthase gene and relating genes. The 29th ESPEN (European Society for Parenteral and Enteral Nutrition) Congress, Prague
2. Habara K, Nakai K, Kitagawa K, Hamada Y, Kamiyama Y, Nishizawa M and Okumura T (2007) The up-regulation of iNOS induction by pitavastatin in inflammatory cytokine-stimulated IEC-6. Xth International Small Bowel Transplant Symposium, Santa Monica
3. Habara K, Nakai K, Kitagawa K, Kamiyama Y, Nishizawa M and Okumura T (2007) Effect of pitavastatin on the production of nitric oxide in IEC-6. 第10回国際小腸シンポジウム, USA
4. Yoshioka K, Iwamoto S, Hata Y and Nakane Y (2007) Decision making using analytic hierarchy process for graciloplasty in patients with rectal cancer. 12th Conference on colorectal and anal function, Tokyo
5. Hamada Y, Tanano A and Takada K (2007) SNOOPY-like appearance in the follow-up MRCP. 第39回カナダ小児外科学会, Canada
6. Yoshioka K (2007) Graciloplasty for fecal incontinence. 2nd Colorectal Disease Symposium in Tokyo, 東京
7. Imamura A, Okubo Y, Hirooka S, Ozaki T, Tanaka H, Okuno M, Kwon AH, Takada H and Kamiyama Y (2007) Surgical creation of durability and reliable atypical vascular access channels in chronic hemodialysis patients. 第42回ヨーロッパ外科研究会議, Rotterdam
8. Satoi S, Takai S, Yanagimoto H, Toyokawa H, Matsui Y, Yamamoto T, Yamao J and Kamiyama Y (2007) Clinical impact of multi-detector row CT on patients with pancreatic cancer. First Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association, Fukuoka
9. Toyokawa H, Satoi S, Yanagimoto H, Matsui Y, Takai S, Kamiyama Y, Fukata N, Takaoka M, Uchiyama S, Uemura Y, Sakaida N and Okazaki K (2007) A case report of small solid pseudopapillary tumor in a young man. First Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association, Fukuoka
10. Yamamoto T, Yanagimoto H, Takai S, Satoi S, Toyokawa H, Yamao J, Takahashi K, Terakawa N and Kamiyama Y (2007) Circulating regulatory T cells in pancreatic cancer patients. First Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association, Fukuoka
11. Yamao J, Satoi S, Toyokawa H, Yanagimoto H, Yamamoto T, Takai S, Kamiyama Y, Takaoka M and Okazaki K (2007) A case report of the bile duct cancer arising 40years after choledochoduodenostomy congenital choledochal dilation. First Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association, Fukuoka
12. Ozaki T, Kaibori M, Matsui K, Tokuhara K, Tanaka H, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2007) Effect of thiol-containing molecule cysteamine on the induction of inducible nitric oxide synthase in hepatocytes. Clinical Nutrition Week 2007 (Annual Conference of American Society for Parenteral and Enteral Nutrition), Phoenix
13. Tanaka H, Kaibori M, Uchida Y, Matsui K, Ozaki T, Tokuhara K, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2007) Effect of sodium hydrogen exchanger inhibitor on the induction of inducible nitric oxide synthase and nitric oxide production in primary cultured hepatocytes. Clinical Nutrition Week 2007 (Annual Conference of American Society for Parenteral and

- Enteral Nutrition), Phoenix
14. Matsui K, Kawaguchi Y, Ozaki T, Tokuhara K, Tanaka H, Kaibori M, Matsui Y, Kamiyama Y, Wakame K, Miura T, Nishizawa M and Okumura T (2007) Effect of active hexose correlated compound on the production of nitric oxide in hepatocytes. Clinical Nutrition Week 2007 (Annual Conference of American Society for Parenteral and Enteral Nutrition), Phoenix
 15. Tokuhara K, Hamada Y, Ozaki T, Matsui K, Tanaka H, Kaibori M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2007) Rebamipide, anti-gastric Ulcer drug, upregulates the induction of inducible nitric oxide synthase in interleukin-1b-stimulated hepatocytes. Clinical Nutrition Week 2007 (Annual Conference of American Society for Parenteral and Enteral Nutrition), Phoenix
 16. Kaibori M, Saito T, Matsui K, Sang kil Ha-Kawa and Kamiyama Y (2007) Usefulness of TC-99M GSA liver scintigraphy for the evaluation of liver regeneration of liver regeneration in donors after living donor liver transplantation. 20th World congress of International Society for Digestive Surgery, Pattaya, Thailand
 17. Kaibori M, Saito T, Matsui K, Sang kil Ha-Kawa and Kamiyama Y (2007) Usefulness of TC-99M GSA liver scintigraphy for the assessment of recurrent hepatitis C after living donor liver transplantation: A case report. 10th congress of Asian Society of Transplantation, Pattaya, Thailand
 18. Kaibori M, Saito T, Matsui K and Kamiyama Y (2007) Liver regeneration in donors evaluated by TC-99M-GSA scintigraphy after living donor liver transplantation. 42nd Congress of the European Society for Surgical Research (ESSR), Rotterdam, Netherlands
 19. Kaibori M (2007) Early death due to recurrence after resection of large hepatocellular carcinomas. 42nd Congress of the European Society for Surgical Research (ESSR), Rotterdam, Netherlands
 20. Kaibori M (2007) Patterns of recurrence after resection of hepatocellular carcinoma. 42nd Congress of the European Society for Surgical Research (ESSR), Rotterdam, Netherlands
 21. Kaibori M, Saito T, Matsui K and Kamiyama Y (2007) Indications for liver transplantation in patients with primary and recurrent HCC. 17th APASL Conference, Kyoto, Japan
 22. Kaibori M, Saito T, Matsui K and Kamiyama Y (2007) Risk factors for early death due to recurrence after hepatic resection for large HCC. 17th APASL Conference, Kyoto, Japan
 23. Kaibori M, Saito T, Matsui Y and Kamiyama Y (2007) Risk factors for different patterns of recurrence after resection of hepatocellular carcinoma. 17th APASL Conference, Kyoto, Japan
 24. 山本大悟 (2007) A phase II study of trastuzumab and capecitabine for patients with HER2-overexpressing metastatic breast cancer: Japan Breast Cancer Research Network (JBCRN) 00 Trial. 癌統計学会, 新潟
 25. 中井宏治, 川口雄才, 尾崎 岳, 大石賢玄, 岡崎 智, 宮宗武史, 横井川規巨, 今田世紀, 吉田 良, 北出浩章, 今村 敦, 權 雅憲, 高田秀穂 (2007) 巨大GISTの2症例. 近畿GIST研究会, 大阪
 26. 西澤幹雄, 松井康輔, 木村富紀, 徳原克治, 田中宏典, 上山泰男, 伊藤誠二, 奥村忠芳 (2007) 炎症性遺伝子の発現誘導におけるアンチセンス転写物の関与. 第17回アンチセンスシンポジウム, 金沢
 27. 高田晃平, 中野崇秀, 野田幸弘, 河崎裕英, 金子一成, 浜田吉則 (2007) 小児機能的副腎皮質腫瘍の一例. 第23回日本小児がん学会学術集会, 仙台
 28. 平林雅人, 中野崇秀, 野田幸弘, 徳原克治, 高田晃平, 浜田吉則, 金子一成 (2007) 卵巣原発性索間質性腫瘍 (若年型顆粒膜細胞腫, Sertoli Leydig tumor) の2例. 第23回日本小児がん学会学術集会, 仙台
 29. 海堀昌樹, 松井康輔, 斉藤隆道, 上山泰男 (2007) 進行肝癌術後早期再発死亡の予後因子と治療戦略. 第37回日本肝臓学会西部会, 長崎
 30. 池田広記, 井上肇一, 住本貴美, 鈴木 亮, 中橋佳嗣, 廣原淳子, 関 寿人, 岡崎和一, 海

- 堀昌樹, 上山泰男, 坂井田紀子, 植村芳子 (2007) インターフェロン治療で完全著効を得られた慢性C型肝炎に発症したG-CSF産生肝細胞癌の1例. 第37回日本肝臓学会西部会, 長崎
31. 武田聖子, 是枝ちづ, 横江有佳, 梅原秀人, 池田耕造, 関 寿人, 岡崎和一, 河 相吉, 池田茂樹, 北出浩章, 權 雅憲, 四方伸明 (2007) 肝腫瘍との鑑別が困難であった肝異物肉芽腫の一切除例. 第37回日本肝臓学会西部会, 長崎
 32. 廣原淳子, 海堀昌樹, 木村 稔 (2007) シンポジウム肝移植におけるチーム医療: 生体部分肝移植における脂肪肝ドナーに対するチーム医療としての取り組み. 第37回日本肝臓学会西部会, 長崎
 33. 山本大悟, 兼松清果, 川西 洋, 小路徹二, 山本智寿子, 田中完児 (2007) Capecitabine既治療転移乳癌に対するS-1の有効性と安全性の検討. 第5回日本乳癌学会近畿地方会, 大阪
 34. 佐藤正人 (2007) 胃瘻の管理について. 第5回北区医師会在宅医療研究会, 大阪
 35. 奥村忠芳, 松井康輔, 若命浩二, 三浦健人, 尾崎 岳, 海堀昌樹, 松井陽一, 川口雄才, 上山泰男, 西澤幹雄 (2007) 肝細胞におけるActive Hexose Correlated CompoundのiNOS阻害メカニズム. 第80回日本生化学会, 横浜
 36. 西澤幹雄, 松井康輔, 木村富紀, 尾崎 岳, 上山泰男, 奥村忠芳 (2007) 肝細胞におけるアンチセンス転写物を介した誘導型一酸化窒素合成酵素 (iNOS) 遺伝子の発現調節機構. 第80回日本生化学会, 横浜
 37. 園田真理, 佐藤正人 (2007) Human tailの2例. 平成19年京大外科冬季研究会, 京都
 38. 松井陽一, 上山泰男 (2007) 機能性食品Active hexose correlated compound (AHCC) の肝細胞癌術後補助療法としての効果, 及び健康人に対する免疫学的効果. 第10回日本補完代替医療学会学術集会, 福岡
 39. 山道啓吾 (2007) 胸管損傷による膿胸から多臓器不全に至った重度糖尿病合併食道癌の1切除症例. 第12回近畿過大侵襲研究会, 大阪
 40. 山道啓吾, 井上健太郎, 道浦 拓, 金 成泰, 中井宏治, 中根恭司 (2007) 腹腔鏡補助下幽門側胃切除術におけるわれわれの工夫. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 仙台
 41. 佐藤正人, 園田真理 (2007) Mesh Plug and on lay sheet を用いた先天性横隔膜ヘルニア術後再発例の治療経験. 第27回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会, 栃木
 42. 佐藤正人 (2007) 胃瘻栄養のコツ. 第34回大阪医療薬学研究会, 大阪
 43. 中井宏治, 神原達也, 金 成泰, 道浦 拓, 井上健太郎, 山道啓吾, 中根恭司 (2007) 当科における残胃癌の検討. 第37回胃外科・術後障害研究会, 大阪
 44. 道浦 拓, 由井倫太郎, 桜本和人, 中井宏治, 井上健太郎, 山道啓吾, 中根恭司 (2007) RI胃排出試験による幽門保存胃切除術の機能評価. 第37回胃外科・術後障害研究会, 大阪
 45. Adachi Y, Shi M, Yanai S and Ikehara S (2007) (NZWxBXSB) F1マウスのLPSに対する高感受性は増加した樹状細胞からのTNF- α 産生亢進が関与している. 第37回日本免疫学会, 東京
 46. Yanai S, Adachi Y, Shi M and Ikehara S (2007) マウスにおける悪性腫瘍の治療としての樹状細胞の骨髄内注入. 第37回日本免疫学会, 東京
 47. 海堀昌樹, 齊藤隆道, 松井康輔, 石崎守彦, 内田洋一朗, 河 相吉, 上山泰男 (2007) アシアロシンチによる生体肝移植ドナー残肝の肝再生の検討. 第43回日本移植学会総会, 仙台
 48. 岩宮裕章, 吉田 良, 大石賢玄, 岡崎 智, 宮宗武史, 尾崎 岳, 横井川規巨, 中井宏治, 今田世紀, 北出浩章, 今村 敦, 川口雄才, 權雅憲, 高田秀穂 (2007) 術前診断に苦慮した鼠径部腫瘍の一切除例. 第560回大阪外科集談会, 大阪
 49. 高橋雅也, 豊川秀吉, 里井壯平, 柳本泰明, 松井陽一, 山道啓吾, 上山泰男 (2007) 臍Dermoid cystの1例. 第560回大阪外科集談会, 大阪
 50. 末廣泰男, 寺川直良, 菅野兼史, 羽原弘造, 北川克彦, 小田道夫, 山中英治, 玉井千里 (2007) 穿孔性腹膜炎を契機に発見された臍癌虫垂転移の一例. 第560回大阪外科集談会, 大阪
 51. 藤井壽仁, 橋本可成, 吉田 良, 高田秀穂 (2007) 検診を契機に発見されたS状結腸gastrointestinal stromal tumorの1例. 第62回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京
 52. 岩本慈能, 吉岡和彦, 向出裕美, 岡崎 智, 中

- 根恭司 (2007) 進行株直腸癌に対する5'-DFURと術前放射線化学療法. 第62回日本大腸肛門病学会総会, 東京
53. 吉岡和彦, 畑 嘉高, 岩本慈能, 中根恭司 (2007) 直腸癌における術式選択の意思決定要素の重要度の解析. 第62回日本大腸肛門病学会総会, 東京
54. 海堀昌樹, 松井康輔, 斉藤隆道, 石崎守彦, 内田洋一郎, 上山泰男 (2007) GSA シンチによる生体肝移植ドナー残肝の肝再生の検討. 第69回日本臨床外科学会総会, 横浜
55. 海堀昌樹, 斉藤隆道, 松井康輔, 石崎守彦, 内田洋一郎, 松井陽一, 上山泰男 (2007) 当科における肝細胞癌肝切除症例における輸血療法の検討. 第69回日本臨床外科学会総会, 横浜
56. 岩本慈能, 吉岡和彦, 向出裕美, 岡崎 智, 中根恭司 (2007) 進行・再発大腸癌に対する初回化学療法としてのmFOLFOX6療法—毒性軽減のための工夫—. 第69回日本臨床外科学会総会, 横浜
57. 吉田秀行, 山本大悟, 兼松清果, 奥川帆麻, 川西 洋, 小路徹二, 田中完児 (2007) 乳癌術後補助療法でPaclitaxelにより誘発された間質性肺炎の1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 横浜
58. 肱川 健, 荒木 浩, 豊島 茂, 里井壯平, 豊川秀吉, 柳本泰明, 上山泰男 (2007) 十二指腸悪性ラブドイド腫瘍の1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 横浜
59. 荒木吉朗, 桜本和人, 由井倫太郎, 道浦 拓, 井上健太郎, 山道啓吾, 中根恭司, 上山泰男 (2007) 十二指腸癌との鑑別が問題となった胆嚢十二指腸瘻嵌頓胆石の1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 横浜
60. 桜本和人, 岩本慈能, 由井倫太郎, 三木博和, 荒木吉朗, 吉岡和彦, 中根恭司 (2007) 妊婦を契機に発見された腹膜偽粘液腫の一例. 第69回日本臨床外科学会総会, 横浜
61. 寺川直良, 羽原弘造, 北川克彦, 菅野兼史, 末廣泰男, 山中英治 (2007) 特発性小腸穿孔の1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 横浜
62. 中井宏治, 川口雄才, 大石賢玄, 大久保遊平, 岡崎 智, 尾崎 岳, 横井川規巨, 吉田 良, 北出浩章, 奥野雅史, 今村 敦, 権 雅憲, 高田秀穂 (2007) 術後10年目に腹膜再発を認めたStage IV膵癌の1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 横浜
63. 道浦 拓, 中根恭司, 由井倫太郎, 桜本和人, 中井宏治, 井上健太郎, 山道啓吾, 上山泰男 (2007) 噴門側胃切除術の機能評価. 第69回日本臨床外科学会総会, 横浜
64. 畑 嘉高, 吉岡和彦, 岩本慈能, 中根恭司, 増田芳夫 (2007) 痔瘻に対するタイトシートン法とルーズシートン法の比較検討. 第69回日本臨床外科学会総会, 横浜
65. 豊川秀吉, 里井壯平, 柳本泰明, 山本智久, 山尾 順, 金 成泰, 廣岡 智, 松井陽一, 上山泰男 (2007) 膵頭十二指腸切除術のパス運用とその臨床的影響. 第69回日本臨床外科学会総会, 横浜
66. 北出浩章, 尾崎 岳, 横井川規巨, 奥野雅史, 大久保遊平, 中井宏治, 吉田 良, 今村 敦, 川口雄才, 権 雅憲, 高田秀穂, 垓 貴司 (2007) FDG-PET で高集積を示した後腹膜パラガングリオーマの1例. 第69回日本臨床外科学会総会, 横浜
67. 柳本泰明, 里井壯平, 豊川秀吉, 廣岡 智, 山本智久, 山尾 順, 金 成泰, 松井陽一, 上山泰男 (2007) 膵頭十二指腸切除術後合併症低減のための取り組み. 第69回日本臨床外科学会総会, 横浜
68. 廣岡 智, 里井壯平, 柳本泰明, 豊川秀吉, 山本智久, 山尾 順, 金 成泰, 松井陽一, 上山泰男 (2007) 膵頭十二指腸切除術における自己血輸血の導入による影響. 第69回日本臨床外科学会総会, 横浜
69. 権 雅憲, 北出浩章, 今村 敦, 横井川規巨 (2007) アシアロシンチを用いた肝切除後の機能的肝再生評価の意義. 第69回日本臨床外科学会総会, 横浜
70. 権 雅憲, 北出浩章, 今村 敦, 横井川規巨 (2007) 胆嚢癌を否定できない症例に対する腹腔鏡下手術の意義. 第69回日本臨床外科学会総会, 横浜
71. 柳本泰明, 内藤雅康, 里井壯平, 豊川秀吉, 峯孝志, 山本智久, 寺川直良, 山田 亮, 岡正朗, 上山泰男, 伊東恭悟 (2007) 膵癌治療における新しい取り組み～個別化診断に応じ

たテーラーメイド型免疫化学療法の開発～.

第20回日本バイオセラピー学会学術集会, 札幌

72. 佐藤正人 (2007) 先天性肥厚性幽門狭窄症—その術式と変遷. 第20回北野小児科学術講演会, 大阪
73. 岩本慈能, 吉岡和彦, 向出裕美, 岡崎 智, 中根恭司 (2007) 進行・再発大腸癌に対する初回化学療法としてのmFOLFOX6療法. 第45回日本癌治療学会総会, 京都
74. 岩本慈能, 吉岡和彦, 中根恭司, 海堀昌樹, 斉藤隆道, 上山泰男 (2007) 術前化学療法を行い肝切除した大腸癌肝転移症例の検討. 第45回日本癌治療学会総会, 京都
75. 柳本泰明, 荒木 浩, 里井壯平, 末平智子, 大島真弓, 大平真須美, 山本美香, 豊川秀吉, 山本智久, 上山泰男 (2007) 切除不能膵癌における塩酸ゲムシタビン/S-1併用療法の試み. 第45回日本癌治療学会総会, 京都
76. 柳本泰明, 里井壯平, 荒木 浩, 末平智子, 大島真弓, 大平真須美, 山本美香, 豊川秀吉, 山本智久, 上山泰男 (2007) 膵・胆道系悪性疾患における外来化学療法の有用性. 第45回日本癌治療学会総会, 京都
77. 柳本泰明, 里井壯平, 内藤雅康, 峯 孝志, 豊川秀吉, 山本智久, 小松誠和, 山田 亮, 岡正朗, 上山泰男 (2007) 膵癌に対する化学療法を併用した腫瘍抗原ペプチド個別化免疫療法 (第1/2相臨床試験). 第45回日本癌治療学会総会, 京都
78. 里井壯平, 柳本泰明, 豊川秀吉, 荒木 浩, 金成泰, 山尾 順, 山本智久, 松井陽一, 高井惣一郎, 上山泰男 (2007) 当科における膵癌の集学的治療. 第45回日本癌治療学会総会, 京都
79. 山本智久, 柳本泰明, 里井壯平, 豊川秀吉, 寺川直良, 高橋完治, 山尾 順, 上山泰男 (2007) 膵癌患者における末梢血中制御性T細胞 (CD4 + CD25 + Tcell) の測定意義. 第45回日本消化器病学会大会, 神戸
80. 柳本泰明, 里井壯平, 峯 孝志, 豊川秀吉, 高橋完治, 山本智久, 寺川直良, 山田 亮, 岡正朗, 上山泰男, 伊藤恭悟 (2007) 膵癌治療における新しい取り組み～個別化診断に応じたテーラーメイド型免疫化学療法の開発～.

第45回日本消化器病学会大会, 神戸

81. 里井壯平, 豊川秀吉, 柳本泰明, 岩城隆二, 松井陽一, 金 成泰, 山尾 順, 山本智久, 上山泰男 (2007) 十二指腸乳頭部癌切除例における補助療法対照例の予測. 第45回日本消化器病学会大会, 神戸
82. 上田創平 (2007) 発展途上国および災害被災地に対する医療援助活動における脳神経外科治療の実態と問題. 第66回日本脳神経外科学会総会, 東京
83. 岩井愛子, 道浦 拓, 由井倫太郎, 荒木吉朗, 桜本和人, 井上健太郎, 里井壯平, 山道啓吾, 中根恭司, 上山泰男 (2007) 胃癌患者に対する全ての胃切除法に適応したクリニカルパスの作成とその評価. 第8回日本クリニカルパス学会学術集会, 札幌
84. 道浦 拓, 由井倫太郎, 桜本和人, 荒木吉朗, 井上健太郎, 里井壯平, 山道啓吾, 中根恭司, 上山泰男 (2007) 当院における胃切除術クリニカルパスのバリアンス分析. 第8回日本クリニカルパス学会学術集会, 札幌
85. 里井壯平, 豊川秀吉, 柳本泰明, 道浦 拓, 井上健太郎, 由井倫太郎, 松井陽一, 宮崎浩彰, 上山泰男 (2007) 膵頭十二指腸切除術パスのバリアンス分析. 第8回日本クリニカルパス学会学術集会, 札幌
86. 吉田秀行, 山本大悟, 兼松清果, 川西 洋, 小路徹二, 山本智寿子, 田中完児 (2007) 化学療法の乳管内投与. 第12回乳管内視鏡研究会, 大阪
87. 吉岡和彦 (2007) 便失禁に対する外科的治療—有茎薄筋移植を中心に—. 第23回北陸ストーマ研究会, 福井
88. 高田晃平, 徳原克治, 由井倫太郎, 大石賢玄, 上田創平, 浜田吉則 (2007) 当科における総胆管拡張症出生前診断例の検討. 第30回日本膵・胆管合流異常研究会, 鹿児島
89. 垓 貴司, 近藤八重子, 頼 彦長, 兼松清果, 八尾隆治, 螺良愛郎 (2007) ミトコンドリア病に合併した肝機能障害の超微形態学的検討. 第48回日本組織細胞化学会・第39回日本臨床分子形態学会合同学術集会, 山梨
90. 曾和三恵子, 今村 敦, 大石賢玄, 岡崎 智, 宮宗武史, 尾崎 岳, 横井川規巨, 中井宏治,

- 今田世紀, 吉田 良, 北出浩章, 川口雄才, 権雅憲, 高田秀穂 (2007) 広範な狭窄により手術を必要とした腹部大動脈瘤術後虚血性腸炎の1例. 第559回大阪外科集談会, 大阪
91. 成田基良, 豊永貴彦, 塩見圭佑, 鈴木 亮, 住本貴美, 井上肇一, 池田広記, 中橋佳嗣, 廣原淳子, 関 寿人, 岡崎和一, 海堀昌樹, 上山泰男, 植村芳子 (2007) 肝癌と鑑別が困難であった限局性結節性過形成 (FNH) の1例. 第87回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
92. 豊永貴彦, 高岡 亮, 深田憲将, 島谷昌明, 小薮雅紀, 池浦 司, 楠田武生, 住本貴美, 鈴木 亮, 内田一茂, 関 寿人, 岡崎和一, 柳本泰明, 里井壮平, 上山泰男, 坂井田紀子 (2007) 脾神経内分泌腫瘍の一症例. 第87回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
93. 佐藤正人 (2007) 胃ろうと気管切開の管理などについて. 大阪市立養護教育諸学校医療的ケア連絡協議会研修会, 大阪
94. 園田真理, 佐藤正人 (2007) Human tailの1例. 第43回日本小児外科学会近畿地方会, 大阪
95. 高田晃平, 徳原克治, 岡本奈津子, 江本まゆみ, 大町太一, 浜田吉則 (2007) 卵巣原発Sertoli-Leydig cell tumorの1例. 第43回日本小児外科学会近畿地方会, 大阪
96. 高田晃平, 徳原克治, 岡本奈津子, 江本まゆみ, 大町太一, 浜田吉則 (2007) 胎生期腸重積によって発症した先天性回腸狭窄症の一例. 第43回日本小児外科学会近畿地方会, 大阪
97. 松井康輔, 川口雄才, 尾崎 岳, 松井陽一, 海堀昌樹, 西澤幹雄, 奥村忠芳, 上山泰男 (2007) AHCCの肝細胞誘導型一酸化窒素合成酵素 (iNOS) 制御-iNOS遺伝子のアンチセンス転写物を介した誘導阻害一. 第15回AHCC研究会, 札幌
98. 西澤幹雄, 松井康輔, 木村富紀, 尾崎 岳, 上山泰男, 奥村忠芳 (2007) 肝細胞におけるアンチセンス転写物を介したinducible nitric oxide synthase (iNOS) 遺伝子の発現調節機構. 第15回AHCC研究会, 札幌
99. 佐藤正人, 園田真理 (2007) 横隔膜挙上症に対する胸腔鏡手術. 第37回京大小児科関連懇話会, 大阪
100. 岡崎 智, 池原 進, 上山泰男, 比舎弘子, 溝上友美, 王 曉麗, 宋昌よう, 李 清, 加藤順子 (2007) 骨髄内骨髄移植 (IBM-BMT) と放射線分割照射併用によるアロ肝臓生着の促進. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 東京
101. 岩本慈能, 吉岡和彦, 向出裕美, 岡崎 智, 桜本和人, 中根恭司 (2007) 大腸癌に対する腹腔鏡下手術—当院症例の問題点—. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 東京
102. 吉田 良, 高田秀穂, 岩本慈能, 吉岡和彦 (2007) 人工肛門閉鎖術に伴う, SSIを中心とした合併症に関する検討. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 東京
103. 向出裕美, 足立 靖, 重松明男, 桐山直子, 上山泰男, 池原 進 (2007) ヒト大腸癌細胞におけるFKBP51の発現. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 東京
104. 桜本和人, 岩本慈能, 向出裕美, 岡崎 智, 吉岡和彦, 中根恭司 (2007) 当院における回腸人工肛門閉鎖術の検討. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 東京
105. 山道啓吾, 道浦 拓, 浅井 晃, 桜本和人, 金 成泰, 中井宏治, 井上健太郎, 中根恭司 (2007) 高齢者食道癌に対する治療法の検討. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 東京
106. 山本智久, 柳本泰明, 里井壮平, 豊川秀吉, 山尾 順, 高橋完治, 寺川直良, 上山泰男 (2007) 脾癌患者における免疫学的予後評価. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 東京
107. 中井宏治, 川口雄才, 北出浩章, 山道啓吾, 高田秀穂, 中根恭司, 上山泰男 (2007) 同時性4重複癌の1例. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 東京
108. 道浦 拓, 中根恭司, 桜本和人, 中井宏治, 井上健太郎, 山道啓吾, 上山泰男 (2007) 幽門保存胃切除術 (PPG) 後の長期経過例の評価. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 東京
109. 柳本泰明, 里井壮平, 峯 孝志, 豊川秀吉, 山本智久, 山田 亮, 岡 正朗, 伊東恭悟, 上山泰男 (2007) 進行脾癌におけるテラーメイド癌ペプチドワクチン/塩酸ゲムシタビン併

用臨床題1/2相試験. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 東京

110. 由井倫太郎, 東山 洋, 岩城隆二, 平田昌敬 (2007) 肝芽腫術後門脈閉塞による挙上空腸静脈瘤破裂の1例. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 東京
111. 里井壯平, 柳本泰明, 豊川秀吉, 山本智久, 松井陽一, 上山泰男 (2007) 膵癌術前進展度診断: MD-CT でできること, できないこと. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 東京
112. 權 雅憲, 今村 敦, 吉田和正, 奥野雅史, 北出浩章 (2007) 腹腔鏡下胆嚢摘出術における術中迅速診断の意義と予後の検討. 第62回日本消化器外科学会定期学術集会, 東京
113. 岩本慈能, 吉岡和彦, 向出裕美, 岡崎 智, 中根恭司 (2007) 進行下部直腸癌に対する5'-DFUR と術前放射線化学療法. 第67回大腸癌研究会, 神戸
114. 田中宏典, 徳原克治, 尾崎 岳, 松井康輔, 石崎守彦, 内田洋一郎, 海堀昌樹, 上山泰男, 西澤幹雄, 奥村忠芳 (2007) 肝細胞のI型インターロイキン-1レセプターの増幅シグナルとiNOS mRNAの安定化. 第14回肝細胞研究会, 鹿児島
115. 内田洋一郎, 海堀昌樹, 肱川 健, 石崎守彦, 田中宏典, 徳原克治, 尾崎 岳, 松井康輔, 奥村忠芳, 上山泰男 (2007) 障害肝における好中球エラスターゼ阻害剤の保護効果. 第14回肝細胞研究会, 鹿児島
116. 尾崎 岳, 川口雄才, 松井康輔, 徳原克治, 田中宏典, 上山泰男, 西澤幹雄, 奥村忠芳 (2007) 紫イベの肝iNOS誘導に対する抑制効果とそのメカニズム. 第14回肝細胞研究会, 鹿児島
117. 山本大悟, 兼松清果, 川西 洋, 小路徹二, 山本智寿子, 田中完児 (2007) Capecitabine投与患者におけるHand-foot syndrome 予防としてビタミンE (ユベラ) の有効性. 第15回日本乳癌学会学術総会, 横浜
118. 豊川秀吉, 里井壯平, 柳本泰明, 松井陽一, 山尾 順, 山本智久, 金 成泰, 上山泰男 (2007) 術前診断に難渋した膵仮性のう胞の胸腔内穿破の1例. 第19回日本肝胆膵外科学会学術集会, 横浜
119. 柳本泰明, 里井壯平, 豊川秀吉, 山本智久, 山尾 順, 荒木 浩, 高井惣一郎, 上山泰男 (2007) ジェムザール投与中に間質性肺炎を合併した切除不能膵癌の1例. 第19回日本肝胆膵外科学会学術集会, 横浜
120. 里井壯平, 柳本泰明, 豊川秀吉, 山本智久, 荒木 浩, 松井陽一, 山尾 順, 北出浩章, 上山泰男 (2007) 膵癌治療戦略におけるMD-CTの役割. 第19回日本肝胆膵外科学会学術集会, 横浜
121. 山尾 順, 里井壯平, 山本智久, 金 成泰, 柳本泰明, 豊川秀吉, 權 雅憲, 上山泰男 (2007) 膵癌モデルラットにおける正常膵組織と膵癌組織の繊維化の比較. 第38回日本膵臓学会大会, 福岡
122. 山本智久, 柳本泰明, 里井壯平, 豊川秀吉, 山尾 順, 高橋完治, 寺川直良, 上山泰男 (2007) 膵癌患者における免疫学的予後評価. 第38回日本膵臓学会大会, 福岡
123. 柳本泰明, 里井壯平, 豊川秀吉, 山本智久, 山尾 順, 荒木 浩, 高井惣一郎, 岡崎和一, 上山泰男 (2007) 自己免疫性肝炎を合併した術前診断困難な小膵癌の1切除例. 第38回日本膵臓学会大会, 福岡
124. 柳本泰明, 里井壯平, 豊川秀吉, 山本智久, 山尾 順, 荒木 浩, 高井惣一郎, 上山泰男 (2007) 膵癌の予後規定因子としての免疫機能評価と免疫化学療法への取り組み. 第38回日本膵臓学会大会, 福岡
125. 里井壯平, 柳本泰明, 豊川秀吉, 山本智久, 松井陽一, 北出浩章, 上山泰男 (2007) MD-CT撮像条件の違いによる膵癌治療内容. 第38回日本膵臓学会大会, 福岡
126. 中万里子, 大枝由紀, 高橋幸子, 吉田 良, 高田秀穂, 宮崎啓子 (2007) 高齢者の装具選択～退院後の経過を振り返って～. 第49回関西STOMA研究会, 大阪
127. 桜本和人, 山道啓吾, 道浦 拓, 三木博和, 神原達也, 井上健太郎, 浅井 晃, 中根恭司 (2007) 皮膚筋炎症状が軽快, 増悪を繰り返した食道三重複癌の一例. 第61回日本食道学会学術集会, 横浜
128. 三木博和, 山道啓吾, 道浦 拓, 井上健太郎,

- 岸本真房, 鈴木聡史, 富野敦捻, 松本隆之, 森茂生, 北澤康秀, 中根恭司 (2007) 義歯誤飲による食道異物の一例. 第61回日本食道学会学術集会, 横浜
129. 山道啓吾, 道浦 拓, 浅井 晃, 桜本和人, 小松優治, 金 成泰, 中井宏治, 井上健太郎, 中根恭司 (2007) 高齢者食道癌の検討. 第61回日本食道学会学術集会, 横浜
130. 山道啓吾, 道浦 拓, 浅井 晃, 桜本和人, 小松優治, 金 成泰, 中井宏治, 井上健太郎, 中根恭司 (2007) 再発・進行食道癌に対するNedaplatin/Vindecin併用療法の有用性. 第61回日本食道学会学術集会, 横浜
131. 中井宏治, 山道啓吾, 道浦 拓, 桜本和人, 神原達也, 井上健太郎, 中根恭司 (2007) 食道癌術後異時性多発残食道癌に対する根治的CTR後に再発を認めた1例. 第61回日本食道学会学術集会, 横浜
132. 道浦 拓, 山道啓吾, 桜本和人, 小松優治, 金 成泰, 中井宏治, 井上健太郎, 浅井 晃, 中根恭司 (2007) PD術後食道表在癌の1例. 第61回日本食道学会学術集会, 東京
133. 道浦 拓, 山道啓吾, 桜本和人, 小松優治, 金 成泰, 中井宏治, 井上健太郎, 浅井 晃, 中根恭司 (2007) 進行食道癌に対する術前化学放射線療法の功罪. 第61回日本食道学会学術集会, 横浜
134. 山本智久, 柳本泰明, 里井壯平, 豊川秀吉, 高橋完治, 寺川直良, 山尾 順, 高井惣一郎, 上山泰男 (2007) 脾癌患者末梢血におけるCD4+CD25+制御性T細胞 (Treg) の検討. 第28回癌免疫外科研究会, 東京
135. 今村 敦, 大久保遊平, 田中宏典, 尾崎 岳, 奥野雅史, 高田秀穂, 上山泰男 (2007) 腹部大動脈瘤術後リンパ漏の治療. 第35回日本血管外科学会総会, 名古屋
136. 山道啓吾 (2007) LADG 導入プロセスの問題点と適応拡大. 第3回近畿腹腔鏡下胃切除セミナー, 大阪
137. 高田晃平, 徳原克治, 浜田吉則 (2007) 重度心身障害児に発症した大腸軸捻転症. 第44回日本小児外科学会学術集会, 東京
138. 佐藤正人, 高田晃平, 棚野晃秀, 徳原克治, 浜田吉則 (2007) 腹腔鏡下幽門筋切開術はadvanced laparoscopic surgery への橋渡しとなりうるか—learning curveの検討から. 第44回日本小児外科学会学術集会, 東京
139. 佐藤正人, 小切匡史, 棚野晃秀, 高田晃平 (2007) 腹腔鏡下脾臓摘出術後のsplenosis. 第44回日本小児外科学会学術集会, 東京
140. 上山庸佑, 中井宏治, 秦 亮嘉, 大久保遊平, 尾崎 岳, 内田洋一朗, 横井川規巨, 辻 勝成, 吉田 良, 北出浩章, 奥野雅史, 今村敦, 川口雄才, 権 雅憲, 高田秀穂 (2007) 術後10年目に腹膜再発を認めたStage IV脾癌の1例. 第557回大阪外科集談会, 大阪
141. 坪田 優, 由井倫太郎, 道浦 拓, 荒木吉朗, 桜本和人, 井上健太郎, 山道啓吾, 中根恭司, 上山泰男 (2007) G-CSF産生食道癌の1例. 第557回大阪外科集談会, 大阪
142. 山岡 学, 大西修司, 大谷哲司, 市邊明美, 森真一郎, 阿部 操, 細川美香, 福原資郎, 海堀昌樹 (2007) HLA 抗体保有患者の生体肝移植症例. 第55回日本輸血・細胞治療学会総会, 名古屋
143. 海堀昌樹, 内田洋一朗, 石崎守彦, 斉藤隆道, 松井康輔, 松井陽一, 上山泰男 (2007) 肝細胞癌切除後の再発形式よりみた術前予測とその対策. 第107回日本外科学会定期学術集会, 大阪
144. 向出裕美, 足立 靖, 鈴木康弘, 南野桂三, 岩崎真佳, 中野景司, 小池保志, 桐山直子, 重松明男, 上山泰男, 池原 進 (2007) 悪性腫瘍に対する新しい免疫療法—骨盤内骨髄移植 (IBM-BMT) とdonor lymphocyte infusion (DLI) とドナー骨髄由来樹状細胞を用いて—. 第107回日本外科学会定期学術集会, 大阪
145. 今村 敦, 廣岡 智, 小池保志, 辻 勝成, 田中宏典, 尾崎 岳, 奥野雅史, 大久保遊平, 権雅憲, 高田秀穂, 上山泰男 (2007) 腸骨動脈CTOに対する血管内治療の遠隔成績ならびに長期開存因子の検討. 第107回日本外科学会定期学術集会, 大阪
146. 三宅 岳, 保坂直樹, 岡崎 智, 上山泰男, 池原 進 (2007) 胸腺移植を併用した骨髄内骨髄移植GVHR予防とGVT増強効果. 第107回日本外科学会定期学術集会, 大阪
147. 山道啓吾, 馬殿徹也, 金 成泰, 道浦 拓,

- 中井宏治, 井上健太郎, 浅井 晃, 中根恭司 (2007) 食道癌における末梢血微小転移の検出と臨床応用. 第107回日本外科学会定期学術集会, 大阪
148. 山尾 順, 里井壮平, 豊川秀吉, 柳本泰明, 金 成泰, 山本智久, 松井陽一, 寺川直良, 高井惣一郎, 上山泰男 (2007) 臍頭十二指腸切除術クリニカルパスの導入とその効果. 第107回日本外科学会定期学術集会, 大阪
149. 山本智久, 柳本泰明, 高井惣一郎, 里井壮平, 豊川秀吉, 山尾 順, 高橋完治, 寺川直良, 上山泰男 (2007) 臍癌患者末梢血における制御性T細胞 (Treg) の検討. 第107回日本外科学会定期学術集会, 大阪
150. 石崎守彦, 海堀昌樹, 内田洋一郎, 肱川 健, 尾崎 岳, 田中宏典, 権 雅憲, 奥村忠芳, 上山泰男 (2007) 肝虚血再灌流モデルにおけるNa/H 交換輸送体阻害剤の生体保護効果の検討. 第107回日本外科学会定期学術集会, 大阪
151. 道浦 拓, 山道啓吾, 小松優治, 桜本和人, 金 成泰, 中井宏治, 井上健太郎, 中根恭司, 上山泰男 (2007) Linear stapler を用いた食道胃管吻合. 第107回日本外科学会定期学術集会, 大阪
152. 徳原克治, 浜田吉則, 尾崎 岳, 松井康輔, 田中宏典, 海堀昌樹, 西澤幹雄, 奥村忠芳, 上山泰男 (2007) Rebamipide による肝細胞の一酸化窒素産生の増強効果. 第107回日本外科学会定期学術集会, 大阪
153. 内田洋一郎, 海堀昌樹, 石崎守彦, 肱川 健, 尾崎 岳, 田中宏典, 松井康輔, 徳原克治, 権雅憲, 奥村忠芳, 上山泰男 (2007) ラット劇症肝不全モデルにおけるNa⁺/H⁺ exchanger inhibitor (FR183998) の生体保護効果の検討. 第107回日本外科学会定期学術集会, 大阪
154. 里井壮平, 高井惣一郎, 谷川 昇, 柳本泰明, 豊川秀吉, 米虫 敦, 松井陽一, 山尾 順, 山本智久, 上山泰男 (2007) 臍癌症例におけるMDCTによる進展度評価と短期予後. 第107回日本外科学会定期学術集会, 大阪
155. 権 雅憲, 邱 澤雨 (2007) 創傷治癒過程におけるフィブロネクチンの臨床応用について. 第107回日本外科学会定期学術集会, 大阪
156. 柳本泰明 (2007) 臍癌免疫機能評価と免疫化学療法への取り組み. 第123回関西医科大学学内学術集談会, 大阪
157. 高田晃平, 中野崇秀, 徳原克治, 野田幸弘, 河崎裕英, 金子一成, 浜田吉則 (2007) 新生児期に破裂し腹膜播種, 残肝再発した肝芽腫の1例. 第29回近畿小児がん研究会, 大阪
158. 荒木吉朗, 岡村成雄 (2007) 絞扼性イレウスをきたした鼠径ヘルニア偽還納の1例. 第43回腹部救急医学会総会, 東京
159. 秦 亮嘉, 大久保遊平, 兼松清果, 小池保志, 辻 勝成, 中井宏治, 吉田 良, 北出浩章, 奥野雅史, 今村 敦, 川口雄才, 権 雅憲, 高田秀穂 (2007) 治療に難渋した食道癌患者の一例. 第556回大阪外科集談会, 大阪
160. 高田晃平, 徳原克治, 浜田吉則, 荒木 敦 (2007) 重度心身障害を伴った臍帯ヘルニアの再開腹術の適応. 第57回小児外科わからん会, 神戸
161. 中根恭司, 道浦 拓, 三宅 岳, 小松優治, 中井宏治, 佐藤睦哉, 井上健太郎, 山道啓吾 (2007) 噴門側切除後の再建法—幽門形成は必要か?—. 第58回日本消化器外科学会, 東京
162. 岡崎 敬, 高岡 亮, 島谷昌明, 小薮雅紀, 深田憲将, 若松隆宏, 内田一茂, 関 寿人, 岡崎和一, 松井陽一 (2007) 腫瘍との鑑別に経口胆道鏡が有効であった総胆管結石の1例. 第78回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
163. 道浦 拓, 中根恭司, 神原達也, 中井宏治, 井上健太郎, 山道啓吾, 上山泰男 (2007) Gastrointestinal quality of life index を用いたPPGの評価. 第79回日本胃癌学会, 名古屋
164. 井上健太郎, 道浦 拓, 桜本和人, 三木博和, 神原達也, 山道啓吾, 中根恭司 (2007) 全ての胃切除法に適応可能なクリニカルパスの作成と評価. 第79回日本胃癌学会総会, 名古屋
165. 中根恭司, 道浦 拓, 三木博和, 桜本和人, 神原達也, 中井宏治, 井上健太郎, 山道啓吾 (2007) 早期胃癌に対する幽門機能温存手術後の評価. 第79回日本胃癌学会総会, 名古屋
166. 道浦 拓, 桜本和人, 神原達也, 中井宏治, 井上健太郎, 山道啓吾, 中根恭司 (2007) Gastrointestinal quality of life index を用いたPPGの評価. 第79回日本胃癌学会総会, 名古屋
167. 三宅 岳, 保坂直樹, 龍 堯志, 西田晃久, 崔

- 文旻, 稲葉宗夫, 上山泰男, 池原 進 (2007) 胸腺移植を併用したアロ骨髓移植 (骨髓内骨髓移植法) による GVT 及び GVHR 効果の検討 (II): DLI との比較. 第 96 回日本病理学会, 大阪
168. 桐山直子, 足立 靖, 向出裕美, 重松明男, 池原 進 (2007) (NZWxBXSB) F1 マウス (W/BF1) は LPS に感受性である. 第 96 回日本病理学会総会, 大阪
169. 向出裕美, 足立 靖, 重松明男, 桐山直子, 上山泰男, 池原 進 (2007) ヒト大腸癌細胞における FKBP51 の発現. 第 96 回日本病理学会総会, 大阪
170. 重松明男, 足立 靖, 竹谷 茂, 桐山直子, 向出裕美, 池原 進 (2007) ヒト正常細胞におけるサイトグロビンの発現の検討. 第 96 回日本病理学会総会, 大阪
171. 柳本泰明, 里井壯平, 豊川秀吉, 高橋完治, 寺川直良, 山本智久, 上山泰男 (2007) 膵癌の免疫機能評価と免疫化学療法への取り組み. 第 10 回京都免疫ワークショップ学術集会, 大阪
172. 三木博和, 道浦 拓, 桜本和人, 井上健太郎, 山道啓吾, 中根恭司 (2007) PD 術後食道表在癌に対し salvage 局所切除が有効であった 1 例. 第 54 回阪神食道疾患検討会, 大阪
173. 井上肇一, 高岡 亮, 住本貴美, 光山俊行, 深田憲将, 若松隆宏, 森 茂生, 大宮美香, 中橋佳嗣, 関 寿人, 岡崎和一, 井上健太郎, 上山泰男 (2007) 悪性腹膜中皮腫の 1 症例. 第 86 回日本消化器病学会近畿支部例会, 京都
174. 深田憲将, 高岡 亮, 岡崎 敬, 小薮雅紀, 島谷昌明, 内田一茂, 内山正三, 関 寿人, 岡崎和一, 豊川秀吉, 里井壯平, 上山泰男 (2007) 健診で発見された solid pseudopapillary tumor の若年男性の 1 例. 第 86 回日本消化器病学会近畿支部例会, 京都
175. 山本智久, 柳本泰明, 里井壯平, 豊川秀吉, 高橋完治, 寺川直良, 山尾 順, 上山泰男 (2007) 膵癌患者末梢血における制御性 T 細胞 (Treg) の検討. 第 19 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 横浜
176. 海堀昌樹, 松井康輔, 石崎守彦, 斎藤隆道, 松井陽一, 上山泰男 (2007) 肝細胞癌切除後の再発形式よりみた術前予測とその対策. 第 66 回日本癌学会学術総会, 横浜
177. 岩本慈能, 吉岡和彦, 向出裕美, 岡崎 智, 中根恭司 (2007) 進行・再発大腸癌に対する初回化学療法としての mFOLFOX6 療法—毒性軽減のための工夫—. 第 69 回日本臨床外科学会総会, 横浜
178. 松井陽一, 上山泰男 (2007) 機能性食品 Active hexose correlated compound (AHCC) の肝細胞癌術後補助療法としての効果, 及び健康人に対する免疫学的効果. 第 10 回日本補完代替医療学会学術集会, 福岡
179. 小原ゆみ子, 西窪 進, 長谷川慎, 長山しのぶ, 佐藤睦哉 (2007) 単包アルコール綿花導入の意義 —小規模病院のケース—. 第 22 回日本環境感染学会, 横浜
180. 山中英治 (2007) PBL チュートリアルによる臨床栄養教育. 第 22 回日本静脈経腸栄養学会, 愛媛
181. 山中英治, 寺川直良, 羽原弘造, 北川克彦 (2007) 胃切除術クリニカルパスでの標準化. 第 69 回日本臨床外科学会総会, 横浜
182. 三宅 岳, 稲葉宗夫, 保坂直樹, 上山泰男, 池原 進 (2007) 骨髓内ドナーリンパ球輸注による移植片対宿主病抑制効果: bone marrow stromal cells の関与. 免疫学会総会, 東京
183. 里井壯平, 柳本泰明, 豊川秀吉, 山本智久, 荒木 浩, 松井陽一, 山尾 順, 北出浩章, 上山泰男 (2007) 膵癌治療戦略における MD-CT の役割. 第 19 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 横浜
184. 山本智久, 柳本泰明, 里井壯平, 豊川秀吉, 高橋完治, 寺川直良, 山尾 順, 上山泰男 (2007) 膵癌患者末梢血における制御性 T 細胞 (Treg) の検討. 第 19 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 横浜
185. 坪田 優, 海堀昌樹, 斎藤隆道, 岩本慈能, 吉岡和彦, 上山泰男 (2007) エホバの証人患者における転移性肝癌切除の 1 例. 第 19 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 横浜
186. 海堀昌樹, 斎藤隆道, 松井陽一, 上山泰男 (2007) 広範な肝右葉被膜下出血を呈した急性胆嚢炎の一例. 第 19 回日本肝胆膵外科学会学術集会, 横浜
187. 棚野晃秀, 堀沢 稔 (2007) 異なる治療方法

- にて軽快した小児十二指腸潰瘍の2例. 第41日本小児外科学会東海地方会, 名古屋
188. 武田聖子, 是枝ちづ, 横江有佳, 梅原秀人, 池田耕造, 関 寿人, 岡崎 和一, 河相吉, 池田茂樹, 北出浩章, 権 雅憲, 四方伸明 (2007) 肝腫瘍との鑑別が困難であった肝異物肉芽腫の一切除例. 第37回日本肝臓学会西部会, 長崎
189. 山中英治 (2007) DPC とクリニカルパス. 第9回日本医療マネジメント学会, 東京
190. 海堀昌樹, 斎藤隆道, 松井康輔, 松井陽一, 山岡 学, 上山泰男 (2007) 当科における肝細胞癌肝切除症例における輸血療法の検討. 第44回日本外科代謝栄養学会学術集会, 東京
191. 西窪 進, 佐藤睦哉, 長谷川慎, 長山しのぶ, 小原ゆみ子 (2007) 当院におけるHBVワクチン接種導入前後での抗体保持率の推移. 第22回日本環境感染学会, 横浜
192. 田中宏典, 徳原克治, 尾崎 岳, 松井康輔, 石崎守彦, 内田洋一朗, 海堀昌樹, 上山泰男, 西澤幹雄, 奥村忠芳 (2007) 肝細胞のI型インターロイキン-1レセプターの増幅シグナルとiNOS mRNAの安定化. 肝細胞研究会, 鹿児島
193. 松井康輔, 海堀昌樹, 斎藤隆道, 石崎守彦, 上山泰男 (2007) GSA シンチによる生体肝移植ドナー残肝の肝再生の検討. 第24回近畿肝移植検討会, 大阪
194. 柳本泰明, 里井壯平, 高橋完治, 豊川秀吉, 山本智久, 山尾 順, 高井惣一郎, 上山泰男 (2007) 痔瘻切除症例における合併症予知因子としての末梢血樹状細胞の有用性. 第28回癌免疫外科研究会, 東京
195. 棚野晃秀, 堀沢 稔 (2007) 当院における小児領域腹腔鏡下手術の導入と現状について. 第39回安城小児科分科会, 安城
196. 棚野晃秀, 堀沢 稔 (2007) 当院における小児虫垂炎に対する治療骨子とInterval手術の導入について. 第37回安城小児科分科会, 安城
197. 棚野晃秀, 堀沢 稔 (2007) 意識障害を来して来院した腸間膜裂孔ヘルニアの1例. 第34回安城小児科分科会, 安城

著 書

1. 中根恭司, 井上健太郎 (2007) 消化性潰瘍の合併症 外科的治療法. 消化器疾患最新の治療2007-2008 (菅野健太郎, 上西紀夫, 井廻道夫編) 139-141頁, 南江堂, 東京
2. 浜田吉則, 日置紘士郎 (2007) 術前術後管理. 新臨床栄養学 (岡田 正, 馬場忠雄, 山城雄一郎編) 564-568頁, 医学書院, 東京

胸部心臓血管外科学講座

〈研究概要〉

胸部心臓血管外科学講座は、心臓血管外科と呼吸器外科の2つの診療科を有している。心臓血管外科は循環器内科や小児科循環器グループとともに、先天性心疾患、虚血性心疾患、弁膜症、大動脈疾患等の疾患に対し、内科と外科が一体となって研究活動を行っている。また、呼吸器外科は、肺癌、転移性肺腫瘍、悪性縦隔腫瘍など悪性胸部疾患の外科治療を行い、第一内科呼吸器グループ、放射線科治療部門、病態検査科病理部門と研究グループを作り協力して臨床研究活動を行っている。また、神経内科との協力のもとに重症筋無力症の外科治療も担当し難病の治療成績向上に努めている。

心臓血管外科部門では、手術件数約200例である。小児科循環器グループとも密接な関係を保ち、術前より互いに協力して治療を行っており、成績向上のため、きめ細かい術前術後管理に努めている。虚血性心疾患では、動脈グラフトを用いた完全血行再建を基本とし、長年の心筋保護法の研究成果が実り、安全に手術が行えるようになっていく。また、循環器内科での基礎的研究の臨床への応用として、骨髄幹細胞移植による血管再生治療を臨床に試みている。弁膜症の治療方針は、自己弁温存をはかる弁形成、弁輪形成術を第一選択とし、不可能な例に人工弁置換術を行う方針である。経食道エコーの術中導入により適切な弁機能の判定が可能となった。大血管疾患は、破裂性大動脈瘤や急性大動脈解離が含まれ、脳合併症や多臓器不全、感染による死亡例も多いが、大動脈弓部3分枝置換も超低体温循環停止法と選択

の脳灌流法の併用により、安全な手術が可能になった。また、大動脈遮断に伴う脊髄麻痺予防の問題も極めて重要であり、その予防法の研究をすすめている。

呼吸器外科は、年間約170例の手術症例があり、その多くは原発性肺癌、悪性縦隔腫瘍、転移性腫瘍である。肺癌は、地域医師会と協力し市民検診を積極的に行っており早期発見例が増加しており、治療成績は向上し、その成績を逐次公表している。これら早期肺癌の外科手術にあたっては胸腔鏡を補助とした低侵襲手術を行うことを原則としている。しかし、依然減少しない進行肺癌などに対しては呼吸器内科、放射線科と協力し集学的治療を積極的に行い予後の改善に努めている。自然気胸も数多い疾患であり、若年者が多い本疾患には胸腔鏡手術を多用している。また転移性肺腫瘍も近年症例が増加しその治療戦略は年々変化し予後の改善がみられてきた。また、以前から当院で積極的な集学的治療を行っている非精上皮腫精胚細胞性腫瘍などの悪性縦隔腫瘍も良好な手術成績の向上をみている。

平成19年度も、心臓血管外科、呼吸器外科ともに、これらの臨床経験に基づいた研究発表が行いえた。

心臓血管分野では、1) 組織培養装置の導入による分子生物学的側面からの研究に基づいた心筋保護に関する臨床的、基礎的研究(心筋細胞特異的心筋保護法に関する研究、統合的薬理学 Preconditioning に関する研究)、2) 心、肺移植に関する基礎的研究、3) 虚血性心疾患に対する骨髓幹細胞移植による再生医療の研究などを行った。また、4) 大阪工業大学生体システム研究室とともに生体流体力学の共同研究も進めている。

呼吸器外科分野では、1) 肺癌に関する細胞免疫学的研究、2) 全摘術後の対側肺嚢胞の予防的処理に関する検討、3) 肺切除術後のドレーン管理に関する臨床的評価、4) 複数の腫瘍マーカーを統合的に用いた肺癌の診断の検討を行った。実験的研究では、5) 生体吸収性気管支ステントの開発とその臨床応用の研究を続け、6) ラット肺移植モデルにおける移植後再還流障害の予防、7) 肺腺癌における癌幹細胞の同定とその臨床的意義の検討にも19年度から取り組んでいる。

〈研究業績〉

原 著

1. Akita Y, Otani H, Matsuhisa S, Kyo S, Enoki C, Hattori R, Imamura H, Kamihata H, Kimura Y and Iwasaka T (2007) Exercise-induced activation of cardiac sympathetic nerve triggers cardioprotection via redox-sensitive activation of eNOS and upregulation of iNOS. *Am J Physiol Heart Circ Physiol* 292: H2051-H2059
2. Kaneda H, Saito Y, Okamoto M, Maniwa T, Minami K and Imamura H (2007) Early postoperative mobilization with walking at 4 hours after lobectomy in lung cancer patients. *Gen Thorac Cardiovasc Surg* 55: 493-498
3. 北村 臣, 西村泰典, 北口 宏, 馬庭知弘, 里井壯平, 宮崎浩彰, 湯浅文雄 (2007) 病院開院に伴う電子クリニカルパス導入とその後の経過について—診療情報管理士の取り組みを中心に. *日クリニカルパス会誌* 9: 655-660

症例報告

1. Kaneda H, Saito Y, Okamoto M, Maniwa T,

Minami K and Imamura H (2007) Bilaterally repeated spontaneous pneumothorax with ankylosing spondylitis. *Gen Thorac Cardiovasc Surg* 55: 266-269

学会発表

1. Okada T, Yagi R, Hattori R, Nakao Y, Sumida T, Jono H and Imamura H (2007) The strategy for ischemic heart disease with peripheral arterial disease. The 18 Biennial Congress Association of Thoracic and Cardiovascular Surgeons of Asia, Bali
2. Yagi R, Okada T, Hattori R, Nakao Y, Sumida T, Jono H and Imamura H (2007) The strategy for abdominal aortic aneurysm with ischemic heart disease. The 18 Biennial Congress Association of Thoracic and Cardiovascular Surgeons of Asia, Bali
3. Saito Y, Kodama K, Higashiyama M, Hara S, Okumura M, Bando T, Yoshimura M, Yoshikawa K, Ohta M and Nakade M (2007) Pulmonary metastasectomy for the patients with colorectal

- carcinoma: A prognostic assessment. CHEST 2007, Chicago
4. Hattori R (2007) Total arch replacement for arch aneurysm with distal extension. The 10th Annual Scientific Meeting of Malaysian Association for Thoracic and Cardiovascular Surgery, Kuala Lumpur
 5. Maniwa T, Saito Y, Saito T, Kaneda H and Imamura H (2007) Bulla formation in the residual lung is a predictor of contralateral pneumothorax after pneumonectomy. 12th World Conference on Lung Cancer, Seoul
 6. Kaneda H, Saito Y, Maniwa T, Minami K and Imamura H (2007) Prediction model for lung cancer with multiple serum tumor markers. 12th World Conference of Lung Cancer, Seoul
 7. Hattori R, Okada T, John H, Enoki C, Nakao Y, Sumida T and Imamura H (2007) 17mm St. Jude Medical Regent valves are advantageous in the small aortic annulus. The 15th Annual Meeting of Asian Society for Cardiovascular Surgery, Beijing
 8. Enoki C, Otani H, Sato D, Okazaki T, Moriguchi A, Hattori R, Iwasaka T and Imamura H (2007) Comparison of safety of mesenchymal stem cell transplantation between intracoronary infusion and direct injection in rats with myocardial infarction. 第71回日本循環器学会総会, 神戸
 9. Saito T, Shime N, Sugishita C, Kusaba T, Fujita N, Itoh K, Saito Y and Hashimoto S (2007) Serum galactomannan negative disseminated aspergillosis: A case report. 12th Congress of the APSR*/2nd Joint Congress of the APSR/ACCP, Brisbane
 10. 榎木千春, 大谷 肇, 佐藤大祐, 岡崎 徹, 山下浩司, 服部玲治, 岩坂壽二, 今村洋二 (2007) IGF-1 は心筋内に移植した骨髄間葉系幹細胞の生着を促進し, 心筋梗塞後の心機能を改善する. 第44回日本臨床生理学会, 大阪
 11. 金田浩由紀, 齊藤朋人, 馬庭知弘, 南健一郎, 齊藤幸人 (2007) 肺腺癌術後に出現した GGO が半年後 solid な部分を呈し異時性二次癌か再発かの判断が困難であった1例. 第48回日本肺癌学会総会, 名古屋
 12. 齊藤朋人, 馬庭知弘, 金田浩由紀, 坂井田紀子, 植村芳子, 齊藤幸人 (2007) 月経随伴性気胸の3手術例. 第11回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会, 東京
 13. 齊藤朋人, 杉下知佳子, 草場哲郎, 藤田直久, 伊東恭子, 志馬伸朗 (2007) 長期集中治療患者に発生したDisseminated Aspergillosisの1例. LKカンファレンス, 大阪
 14. 岡田隆之, 服部玲治, 中尾佳永, 角田智彦, 上能寛之, 今村洋二 (2007) 悪性関節リウマチに合併した狭小弁輪を伴う大動脈弁閉鎖不全に対する大動脈弁置換術. 関西胸部外科学会, 大阪
 15. 角田智彦, 今村洋二, 中尾佳永, 榎木千春, 服部玲治, 岡田隆之, 上能寛之 (2007) 内胸動脈を使用した一側肺動脈欠損症の治験例. 第50回関西胸部外科学会, 大阪
 16. 中尾佳永, 服部玲治, 岡田隆之, 上能寛之, 榎木千春, 角田智彦, 今村洋二 (2007) Leriche 症候群合併の不安定狭心症患者の緊急 off pump CABG, 右腋窩動脈-大腿動脈バイパス手術を行った1例. 第50回関西胸部外科学会, 大阪
 17. 齊藤幸人, 太田三徳, 岡田守人, 奥村明之進, 原 聡, 坂東 徹, 東山聖彦, 児玉 憲, 中出雅治 (2007) 大腸癌肺転移手術例に対する外科治療成績. 第50回関西胸部外科学会, 大阪
 18. 上能寛之, 服部玲治, 岡田隆之, 角田智彦, 中尾佳永, 今村洋二 (2007) Graft 選択に難渋した冠動脈バイパス術. 第50回関西胸部外科学会学術集会, 大阪
 19. 金田浩由紀, 齊藤幸人, 南健一郎, 馬庭知弘 (2007) 肺切除術後の胸腔ドレーン水封管理における問題点. 第24回日本呼吸器外科学会, 横浜
 20. 馬庭知弘, 齊藤幸人, 齊藤朋人, 金田浩由紀, 南健一郎 (2007) 肺全摘術予定患者における対側肺嚢胞は予防的に処理すべきか? 日本呼吸器外科学会, 横浜
 21. 岡本三貴, 金田浩由紀, 坂井田紀子, 馬庭知弘, 植村芳子, 岡村明治, 齊藤幸人 (2007) 当科で経験した硬化性血管腫6例. LKカンファレンス, 大阪
 22. 金田浩由紀 (2007) 肺切除後の呼吸機能改善を目指して. 肺クオリティー研究会, 大阪

23. 馬庭知弘 (2007) 肺がんの外来化学療法. 第 1 号, 大阪
76 回大阪から肺がんをなくす会シンポジウム

脳神経外科学講座

〈研究概要〉

脳腫瘍では悪性グリオーマに対する集学的治療を行い, 手術材料は全例に電顕, 組織培養を試みている. 株化細胞を基礎にして, フローサイトメトリー (FACS can購入), レーザースキャニングサイトメーターによるDNA histogramの解析, サイクリンによるcell kinetics, 無菌的細胞分取, 更に分子生物学的手法による解析などを行っている. また, 透過型, 走査型電顕による形態学的観察も行っている. 最近では, 脳腫瘍の遺伝子治療の基礎実験を行っている. 脳血管障害では臨床的に血管内手術とを組み合わせた最先端の治療を行っている. 小児脳外科では先天性奇形の実験的作成や, 水頭症の発生機序について研究をしている. 脳死研究では, 平坦脳波の自動解析を法医学・救急科・精神科と合同で研究を行っている. 頭蓋底外科では, 耳鼻科・形成外科とのチームにより困難な手術例に対する種々のアプローチを研究している.

虚血脳や脊髄損傷における骨髄移植による神経再生の基礎実験を臨床応用に向けて研究中である.

〈研究業績〉

原 著

1. Inagaki T, Kyutoku S, Seno T, Kawaguchi T, Yamahara T, Oshige H, Yamanouchi Y and Kawamoto K (2007) The intracranial pressure of the patients with mild form of craniosynostosis. Childs Nerv Syst 23: 1455-1459
2. Numa Y and Kawamoto K (2007) Frontozygomatic approach to intraorbital tumors. Skull Base 17: 303-309
3. Katayama Y, Haraoka J, Hirabayashi H, Kawamata T, Kawamoto K, Kitahara T, Kojima J, Kuroiwa T, Mori T, Moro N, Nagata I, Ogawa A, Ohno K, Seiki Y, Shiokawa Y, Teramoto A, Tominaga T and Yoshimine T (2007) A randomized controlled trial of hydrocortisone against hyponatremia in patients with aneurysmal subarachnoid hemorrhage. Stroke 38: 2373-2375
4. 山原崇弘, 龍 堯志, 大石哲也, 大重英行, 瀬野敏孝, 沼 義博, 山内康雄, 河本圭司 (2007) 再発 astrocytoma の臨床病理学的研究. Neuro-Oncol 進歩 16: 19-26
5. 河本圭司 (2007) 図と表で理解する脳腫瘍病理の鑑別診断. 脳外速報 17: 1428-1429
6. 河本圭司 (2007) 図と表で理解する脳腫瘍病理の鑑別診断 光顕による鑑別診断 シスト

嚢胞, 嚢腫. 脳外速報 17: 1310-1311

総 説

1. 稲垣隆介 (2007) 低出生体重児の脳室内出血に合併する水頭症. 脳外速報 17: 1438-1444

症例報告

1. 山原崇弘, 龍 堯志, 李 強, 大石哲也, 櫻井靖夫, 瀬野敏孝, 山内康雄, 河本圭司 (2007) 術前診断が困難であった頭蓋骨腫瘍の1例. Neuro-Oncol 進歩 16: 54-55
2. 瀬野敏孝, 沼 義博, 稲垣隆介, 山原崇弘, 川口琢也, 山内康雄, 河本圭司 (2007) 乳幼児皮下腫瘍の一例. Neuro-Oncol 進歩 16: 61-62
3. 山原崇弘, 沼 義博, 瀬野敏孝, 大石哲也, 龍 堯志, 山内康雄, 河本圭司 (2007) 頭蓋冠腫瘍の一例. Neuro-Oncol 進歩 16: 67-68
4. 稲垣隆介, 龍 堯志, 上坂達郎, 浅井昭雄, 河本圭司 (2007) 脊髄空洞症と腫瘍を伴った一例. Neuro-Oncol 進歩 16: 69

学会発表

1. Inagaki T (2007) Pediatric section, treatment of intracranial cystic lesions with neuroendoscopy. World Federation of Neurosurgical Societies, 13th Interim Meeting/12th Asia-Australasian

- Congress of Neurological Surgeons, Nagoya
2. Kawamoto K, Yamahara T, Oshige H, Oishi T, Seno T, Kawaguchi T, Uesaka T, Numa Y and Asai A (2007) Decision of operative area in malignant glioma-morphology and cell kinetics. World Federation of Neurosurgical Societies, 13th Interim Meeting/12th Asia-Australasian Congress of Neurological Surgeons, Nagoya
 3. Oshige H, Yamahara T, Oishi T, Seno T, Kawaguchi T, Qiang Li, Yunbo Zhen, Numa Y and Kawamoto K (2007) Mechanism of anti-neoplastic agents using by flow cytometry in glioma cells. World Federation of Neurosurgical Societies, 13th Interim Meeting/12th Asia-Australasian Congress of Neurological Surgeons, Nagoya
 4. Inagaki T (2007) The application for the endoscopic surgery for the pediatric cases: the third ventriculostomy and treatment of intra- and para-ventricular cystic lesions. WFNS neuro-endoscopic workshop, Egypt
 5. Zhen Yunbo, Zhao Shiguang, Li Qiang, Numa Y and Kawamoto K (2007) Flow cytometric and immunohistochemical detection of cyclins in malignant gliomas. 第65回社団法人日本脳神経外科学会総会, 東京
 6. Inagaki T, Kyutoku S, Seno T, Ryu T, Uesaka T, Kawaguchi T, Yamanouchi Y and Kawamoto K (2007) The surgical outcomes of mild form of craniosynostosis based on the intracranial pressure. 35th Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery, Liverpool
 7. Yunbo Zhen, Qiang Li, Oshige H, Yamahara T, Seno T, Kawaguchi T, Senba T and Kawamoto K (2007) Technical methods for light and electron microscopic observation of small amounts of sorted cells by FCM. 第25回日本ヒト細胞学会, 東京
 8. Yunbo Zhen, Shiguang Zhao, Qiang Li, Numa Y and Kawamoto K (2007) Flow cytometric and immunohistochemical detection of cyclins in malignant gliomas. 第8回日本分子脳神経外科学会, 兵庫
 9. Asai A, Kawamoto K and Kintomo T (2007) The molecular mechanism of delayed neuronal death following transient brain ischemia. The 3rd Harbin International Neurosurgical Conference, Harbin
 10. Kawamoto K, Oshige H, Qiang Li, Yunbo Zhen, Asai A and Shiguang Zhao (2007) Flow cytometric analysis of cell cycle for the mechanism of antineoplastic agents in glioma cells. The 3rd Harbin International Neurosurgical Conference, Harbin
 11. Yunbo Zhen, Zhao Shiguang and Kawamoto K (2007) Therapeutic evaluation of combination with As2O3 and ACNU in glioma. The 3rd Harbin International Neurosurgical Conference, Harbin
 12. Inagaki T (2007) Child abuse in Japan. Abusive Head Trauma Scientific Conference, Chicago
 13. Inagaki T (2007) The endoscopic third ventriculostomy. Malaysia Neurosurgical Conference, Malaysia
 14. Inagaki T, Kyutoku S, Yamanouchi Y and Kawamoto K (2007) The surgical management of craniosynostosis with distractor osteogenesis. Malaysia Neurosurgical Conference, Malaysia
 15. Inagaki T, Yamanouchi Y and Kawamoto K (2007) The endoscopic treatment of the intra or para ventricular cystic lesion. Malaysia Neurosurgical Conference, Malaysia
 16. Fujioka M, Nishio K, Ueda S, Kubo A, Minamino N, Kangawa K, Kitamura K, Mishima K, Mori T, Asano T, Sakaki T, Asai A, Kawamoto K, Otani N, Yonekawa Y and Bo K Siesjö (2007) A vaso-relaxant peptide in the brain and delayed cerebral vasospasm after aneurysmal subarachnoid hemorrhage. Brain 07 and Brain PET 07 The 23rd International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism & The 8th International Conference on Quantification of Brain Function with PET, Osaka
 17. Fujioka M, Taoka T, Matsuo Y, Mishima K, Ogoshi K, Kondo Y, Tsuda M, Fujiwara M, Asano T, Sakaki T, Miyasaki A, Darren P, Asai A, Kawamoto K, Otani N, Yonekawa Y and Bo K. Siesjö (2007) Selective neuronal death and para-

- magnetic effect after ischemic stress. Brain 07 and Brain PET 07 The 23rd International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism & The 8th International Conference on Quantification of Brain Function with PET, Osaka
18. Inagaki T, Kawaguchi T, Yamahara T, Ryu T, Yamanouchi Y and Kawamoto K (2007) The management and the outcome of Intraventricular hemorrhage in babies with low birth weight. Joint Conference on the 9th Biannual Meeting of Japan Academy of Hydrocephalus and 4th World Conference of the International Study Group of Neuroendoscopy (ISGNE) and Second World Congress for Endoscopic Surgery of the Brain, Skull Base and Spine, Versailles
 19. Inagaki T, Yamanouchi Y and Kawamoto K (2007) The endoscopic surgery: the third ventriculostomy and treatment of intra- and para-ventricular cystic lesions. The workshop for endoscopic surgery in Argentina, Buenos Aires
 20. 沼 義博, 瀬野敏孝, 山原崇弘, 山内康雄, 河本圭司 (2007) 小脳橋角部充実性血管芽腫の手術. 第12回関西脳神経外科手術研究会, 大阪
 21. 浅井昭雄, 木下 学, 上坂達郎, 武田純一, 吉村晋一, 河本圭司 (2007) 脳腫瘍高齢患者手術の留意点. 第25回日本脳腫瘍学会, 東京
 22. 久松洋司, 石原美由希, 伊藤亜希子, 都築朋子, 笠松 敦, 依岡寛和, 岡田英孝, 榎木晋, 神崎秀陽, 中島純一, 稲垣隆介 (2007) 妊娠28週で出生前診断し得た開放性二分脊椎(脊椎裂)の1症例. 第117回近畿産科婦人科学会学術集会, 大阪
 23. 川口琢也, 稲垣隆介, 龍 堯志, 山原崇弘, 大重英行, 大石哲也, 上坂達郎, 武田純一, 瀬野敏孝, 塚崎裕司, 吉村晋一, 浅井昭雄, 山内康雄, 河本圭司 (2007) 当院における小児VPシャント手術について. 第25回日本こども病院神経外科医会, 東京
 24. 久徳茂雄, 大谷一弘, 笠井千尋, 吉野健史, 瀬野敏孝, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2007) 頭蓋縫合早期癒合症における拡大縫合切除例の検討. 第25回日本頭蓋顎顔面外科学会総会・学術集会, 東京
 25. 三宅良平, 松島貴志, 吉村晋一, 武田純一, 浅井昭雄, 楠本健司 (2007) 眼窩上壁より眼窩内および前頭洞内に進展した骨腫の1例. 第25回日本頭蓋顎顔面外科学会総会・学術集会, 東京
 26. 岩瀬正顕, 齊藤福樹, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 脊髄自動反射を生じた臨床的脳死患者における正中神経刺激体性感覚誘発電位. 第37回日本臨床神経生理学会, 宇都宮
 27. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 平川昭彦, 武田俊彦, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 自転車用傘スタンドによる頭蓋顔面外傷の1例. 第55回日本職業・災害医学会, 名古屋
 28. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 武田俊彦, 平川昭彦, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 経眼窩の穿通性頭部外傷の診断と治療. 第35回日本救急医学会, 大阪
 29. 山原崇弘, 龍 堯志, 大重英行, 瀬野敏孝, 大石哲也, 川口琢也, 櫻井靖夫, 沼 義博, 山内康雄, 河本圭司 (2007) Glioblastomaの剖検脳における腫瘍周辺部の形態と画像との比較. 第65回社団法人日本脳神経外科学会総会, 東京
 30. 沼 義博, 山原崇弘, 櫻井靖夫, 瀬野敏孝, 山内康雄, 河本圭司 (2007) 悪性神経膠腫に対するテモゾロミド (TMZ) 治療—早期壊死の画像所見を中心に—. 第65回社団法人日本脳神経外科学会総会, 東京
 31. 沼 義博, 櫻井靖夫, 山原崇弘, 大石哲也, 山内康雄, 河本圭司 (2007) 近位部後交通動脈瘤の手術. 第65回社団法人日本脳神経外科学会総会, 東京
 32. 大重英行, 山原崇弘, 大石哲也, 李 強, 甄云波, 沼 義博, 河本圭司 (2007) 新薬抗癌剤 temozolomide のFCMによる作用機序の解析. 第65回社団法人日本脳神経外科学会総会, 東京
 33. 藤岡政行, 西尾健治, 植田史朗, 前田裕仁, 奥地一夫, 寒川賢治, 榎 寿右, 浅井昭雄, 河本圭司, 三島健一, 米川泰弘, Siesjo Bö (2007) 脳血管攣縮遅発性脳虚血により反応性星状膠細胞に発現するアドレノメジュリン. 第65回社団法人日本脳神経外科学会総会, 東京
 34. 李 強, 大重英行, 山原崇弘, 龍 堯志, 大

- 石哲也, 瀬野敏孝, 川口琢也, Zhen Yunbo, 沼義博, 村上知之, 河本圭司 (2007) Cytometric beads array 法を用いた脳腫瘍シスト液におけるサイトカインの解析. 第65回社団法人日本脳神経外科学会総会, 東京
35. 國澤亜以, 藤岡政行, 鈴木聡史, 龍 堯志, 岸本真房, 富野敦稔, 藤井弘史, 浅井昭雄, 河本圭司, 山本 透, 北澤康秀 (2007) 特発性脊髄硬膜外血腫が症状発現の契機となる不顕性頸椎椎間板ヘルニア. 第65回社団法人日本脳神経外科学会総会, 東京
36. 浅井昭雄, 藤岡政行, 吉村晋一, 上坂達郎, 武田純一, 木下 学, 河本圭司 (2007) 高齢者に対する脳神経外科領域手術の留意点. 第65回社団法人日本脳神経外科学会総会, 東京
37. 岩瀬正顕, 齊藤福樹, 前田裕仁, 中谷壽男, 栗本匡久, 河本圭司 (2007) 急性脳幹障害患者の SSEP を用いた予後判定の有用性について. 第66回日本脳神経外科学会, 東京
38. 鈴木聡史, 藤岡政行, 國澤亜以, 岸本正房, 富野敦稔, 浅井昭雄, 河本圭司, 山本 透, 北澤康秀 (2007) 低血糖ストレス抵抗性であるヒト視床における低血糖昏睡後経時 MRI 上の遅発性変化. 第66回日本脳神経外科学会, 東京
39. 河本圭司 (2007) シャレコーベの文化. 第9回埼玉脳神経集談会, 所沢
40. 河本圭司 (2007) 頭蓋骨腫瘍の臨床病理. 北陸脳腫瘍フォーラム, 福井
41. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 頭蓋内出血を発症した慢性維持透析患者治療の背景因子. 第26回 The Mt. Fuji Workshop on CVD, 大阪
42. 李 強, 大重英行, 山原崇弘, 龍 堯志, 大石哲也, 瀬野敏孝, 川口琢也, 甄 云波, 河本圭司 (2007) 巨細胞性脳腫瘍における巨細胞についての多角的解析. 第48回日本組織細胞化学会総会/第39回日本臨床分子形態学会総会・合同学術集会, 甲府
43. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 第5および第7頸椎重複損傷例の治療経験. 第54回日本脳神経外科学会 近畿支部学術集会, 大阪
44. 大重英行, 大石哲也, 櫻井靖夫, 沼 義博, 河本圭司, 田中一穂, 横山明嗣 (2007) 硬膜下血腫で発症した, 頭蓋内硬膜動脈瘤 (dAVF) の一例. 第54回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 千里
45. 津田 快, 櫻井靖夫, 山原崇弘, 沼 義博, 山内康雄, 河本圭司 (2007) 術前診断が困難であった石灰化慢性硬膜下血腫の1例. 第54回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 千里
46. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 齊藤福樹, 平川昭彦, 中谷壽男, 栗本匡久, 河本圭司 (2007) 強直性脊椎炎に合併した脊椎・脊髄損傷の手術. 第56回近畿脊髄外科研究会, 大阪
47. 山原崇弘, 櫻井靖夫, 津田 快, 沼 義博, 山内康雄, 河本圭司 (2007) 転移性眼窩内カルチノイド腫瘍の1例. 第66回近畿脳腫瘍研究会, 千里
48. 大重英行, 沼 義博, 山原崇弘, 大石哲也, 瀬野敏孝, 川口琢也, 李 強, 甄 云波, 河本圭司 (2007) フローサイトメトリーを用いたグリオーマに対する抗腫瘍剤の作用機序の解析. 第66回近畿脳腫瘍研究会, 千里
49. 李 強, 大重英行, 山原崇弘, 龍 堯志, 大石哲也, 瀬野敏孝, 川口琢也, 甄 云波, 村上知之, 河本圭司 (2007) Cytometric beads array 法を用いた脳腫瘍シスト液におけるサイトカインの解析. 第25回日本ヒト細胞学会, 東京
50. 河本圭司 (2007) シャレコウベの文化. 第10回道北脳神経懇話会, 旭川
51. 大重英行, 山原崇弘, 大石哲也, 李 強, 甄 云波, 沼 義博, 河本圭司 (2007) 新薬抗癌剤 temozolomide の FCM による作用機序の解析. 第17回日本サイトメトリー学会, 東京
52. 大重英行, 山原崇弘, 龍 堯志, 大石哲也, 李 強, 甄 云波, 瀬野敏孝, 川口琢也, 沼 義博, 河本圭司 (2007) 悪性グリオーマにおける術中迅速病理診断及びFCMによる腫瘍摘出評価. 第17回日本サイトメトリー学会, 東京
53. 李 強, 大重英行, 山原崇弘, 龍 堯志, 大石哲也, 瀬野敏孝, 川口琢也, Zhen Yunbo, 河本圭司 (2007) 巨細胞性脳腫瘍の巨細胞についての多角的解析. 第17回日本サイトメトリー学会, 東京
54. 下戸 学, 岩瀬正顕, 前田裕仁, 藤原弘佳, 村尾佳則, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 慢性維持透析中に特発性急性硬膜下血腫を発症した

- 1例. 第96回近畿救急医学研究会, 大阪
55. 櫛田哲史, 竹本剛司, 上坂達郎, 浅井昭雄, 楠本健司 (2007) 眼球突出と骨吸収を呈した眼窩内血腫の1例. 第88回日本形成外科学会関西支部学術集会, 岸和田
56. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 齋藤福樹, 梶本心太郎, 波柴尉充, 平川昭彦, 浅井 悌, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 強直性脊椎炎に合併した脊椎・脊髓損傷. 第10回日本臨床救急医学会, 神戸
57. 前田裕二, 岩瀬正顕, 齋藤福樹, 波柴尉充, 藤原弘佳, 梶本心太郎, 平川昭彦, 村尾佳則, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 環軸椎後方固定術と環軸関節固定術及び後頭頸椎固定術を行った逸脱型外傷性環軸椎脱臼の1例. 第10回日本臨床救急医学会, 神戸
58. 波柴尉充, 齋藤福樹, 杉本達哉, 前田裕仁, 平川昭彦, 岩瀬正顕, 村尾佳則, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 頭部外傷にBrown-Sequard型神経障害を伴った頸髄損傷の1例. 第10回日本臨床救急医学会, 神戸
59. 河本圭司 (2007) 脳腫瘍病理の歴史と鑑別診断. 第18回新お茶の水脳神経外科セミナー, 東京
60. 岩瀬正顕, 齋藤福樹, 前田裕仁, 平川昭彦, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 骨損傷のない脊髓損傷の現状と問題点. 第21回日本外傷学会, 千葉
61. 鈴木義久, 岩瀬正顕, 中谷壽男, 井出千束 (2007) 骨髄細胞を用いた脊髓損傷治療. 第27回日本脳神経外科コンgres, 仙台
62. 稲垣隆介 (2007) 新しいタイプの電気メスの使用経験: ヒトでの臨床経験と動物実験から. 第35回日本小児神経外科学会, 木更津
63. 稲垣隆介 (2007) 臨床に必要な神経発生学. 第35回日本小児神経外科学会, 木更津
64. 山原崇弘, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2007) まれな基底核の石灰化病変の1例. 第35回日本小児神経外科学会, 千葉
65. 瀬野敏孝, 稲垣隆介, 久徳茂雄, 川口琢也, 大石哲也, 山原崇弘, 龍 堯志, 上坂達郎, 山内康雄, 河本圭司 (2007) 軽度狭頭症の治療適応に関する検討. 第35回日本小児神経外科学会, 千葉
66. 瀬野敏孝, 山原崇弘, 沼 義博, 山内康雄, 浅井昭雄, 河本圭司 (2007) 類もやもや病を合併した神経線維腫症型の例. 第35回日本小児神経外科学会, 千葉
67. 川口琢也, 稲垣隆介, 龍 堯志, 山原崇弘, 山内康雄, 河本圭司 (2007) 低体重出生児脳室内出血の治療方針. 第35回日本小児神経外科学会, 千葉
68. 沖井 裕, 赤根 敦, 河本圭司, 岩瀬正顕, 吉村澄孝, 時安太久磨, 吉田 学 (2007) 脊髓自動反射を認めた脳死症例の脳波解析. 第91次日本法医学会総会, 秋田
69. 河本圭司 (2007) シャレコーベの文化. 弘前脳神経外科セミナー, 弘前
70. 瀬野敏孝, 山原崇弘, 龍 堯志, 稲垣隆介, 山内康雄, 浅井昭雄, 河本圭司 (2007) AT/RTの免疫組織学的, 電子顕微鏡学的検討. 第25回日本脳腫瘍病理学会, 熊本
71. 久徳茂雄, 畔 熱行, 稲垣隆介, 山内康雄 (2007) 頭蓋拡大のための骨延長法と従来法の適応について. 第50回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京
72. 山原崇弘, 瀬野敏孝, 沼 義博, 山内康雄, 河本圭司 (2007) 交通外傷後に頭皮 AVF が認められた1例. 第53回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 千里
73. 山原崇弘, 瀬野敏孝, 沼 義博, 山内康雄, 河本圭司 (2007) Multicentric glioma の1例. 第65回近畿脳腫瘍研究会, 千里
74. 辻 雅之, 大重英行, 清水俊樹, 沼 義博, 河本圭司 (2007) Chordoid meningioma の1例. 第65回近畿脳腫瘍研究会, 千里
75. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 吉岡正太郎, 武田俊彦, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 頭部外傷後に視野障害と回旋症眼振をきたした1例. 第30回日本神経外傷学会, 仙台
76. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 吉岡正太郎, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 外傷を契機に発症した奇異性脳梗塞の2例. 第32回日本脳卒中学会, 福岡
77. 浅井昭雄, 藤岡政行, 塚崎裕司, 龍 堯志, 上坂達郎, 稲垣隆介, 河本圭司, 松居 徹 (2007) 前交通動脈瘤に対する fronto orbito subfrontal approach の有用性. 第32回日本脳卒中学会, 福岡
78. 国澤亜以, 北澤康秀, 鈴木聡史, 岸本真房, 富

- 野敦稔, 藤井弘史, 山本 透, 龍 堯志, 浅井昭雄 (2007) 進行性の両下肢脱力を主訴に救急外来を受診し特発性硬膜外血腫の診断で手術的に治療しえた1例. 第95回近畿救急医学研究会, 京都
79. 沼 義博, 山原崇弘, 瀬野敏孝, 山内康雄, 浅井昭雄, 河本圭司 (2007) 前頭蓋底腫瘍に対するBIHアプローチの応用. 第14回日本間脳下垂体腫瘍学会, 山形
80. 山原崇弘, 沼 義博, 大石哲也, 吉村晋一, 山内康雄, 浅井昭雄, 河本圭司 (2007) 下垂体卒中の画像と病理学的検討. 第30回日本脳神経CI学会, 大阪
81. 瀬野敏孝, 山原崇弘, 龍 堯志, 稲垣隆介, 山内康雄, 浅井昭雄, 河本圭司 (2007) AT/RTの画像と組織学的検討. 第30回日本脳神経CI学会, 大阪
82. 川口琢也, 上坂達郎, 吉村晋一, 龍 堯志, 稲垣隆介, 浅井昭雄, 河本圭司 (2007) 慢性硬膜下血腫を合併した低髄圧症候群の1例. 第30回日本脳神経CI学会, 大阪
83. 岩瀬正顕, 齋藤福樹, 前田裕仁, 吉岡正太郎, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 自家骨髄間質細胞移植による脊髄再生の開始. 第12回日本脳神経外科救急学会, 東京
84. 前田裕仁, 岩瀬正顕, 齋藤福樹, 平川昭彦, 村尾佳則, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 経腸栄養を契機に autonomic dysreflexia をきたした脊髄損傷の1例. 第12回日本脳神経外科救急学会, 東京
85. 藤岡政行, 田岡俊昭, 松尾嘉之, 三島健一, 榊寿右, 宮崎章宏, 河本圭司, 浅野孝雄, 御興久美子, Siesjo Bö (2007) 虚血性ストレス後の選択的神経細胞死と常磁性効果. 第12回日本脳神経外科救急学会, 東京
86. 藤岡政行, 西尾健治, 奥地一夫, 榊 寿右, 河本圭司, 浅井昭雄, 浅野孝雄, 森 隆, 三島健一, Siesjo Bö (2007) 脳動脈瘤破裂後の遅発性脳血管攣縮と中枢性血管拡張因子. 第12回日本脳神経外科救急学会, 東京
87. 稲垣隆介, 山原崇弘, 山内康雄, 河本圭司 (2007) 生理的石灰化, 胚細胞腫などとの鑑別が困難であった, 基底核のmeningoangiomatosisの1例. 第6回臨床小児脳外科症例検討会, 東京
88. 大石哲也, 川口琢也, 山原崇弘, 大重英行, 吉村晋一, 藤岡政行, 浅井昭雄, 河本圭司 (2007) 脳動静脈奇形の成因に関する免疫組織学的検討. 第65回社団法人日本脳神経外科学会総会, 東京

整形外科科学講座

〈研究概要〉

〈基礎研究〉

1. 自己免疫疾患

我々はアロ全骨髄細胞移植を骨髄内に直接投与する「骨髄内骨髄移植法」により, 様々な難治性自己免疫疾患モデルマウスの治療を行ってきた. SKG/JclマウスはT細胞シグナル伝達分子の点突然変異を持つマウスであり, 滑膜炎や, 骨・軟骨破壊がみられる関節リウマチのモデルマウスである. 発症前のSKGマウスにアロ全骨髄細胞を骨髄内骨髄移植し, 自己免疫疾患のより効果的な治療方法について検討した. 生後2ヶ月齢の発症前のSKGマウスに, 5 Gy × 2回の放射線分割照射を行い, 翌日にB6マウスの全骨髄細胞を脛骨内に直接投与した. 未治療群では生後3ヶ月ごろより足関節の腫脹, 発赤が認められたが, 骨髄移植群では6ヶ月経過時においても関節炎症状は認められなかった. 6ヶ月経過時の骨髄移植群の骨髄内, 脾臓内, リンパ節内のリンパ球はドナー由来に置換され, すべての血球系の割合は正常マウスと同程度に回復していた. 骨髄移植群の骨を3週間培養し, 回収した接着細胞 (ストローマ細胞) もすべてドナー由来に置換されていた. MLRを行った結果, 骨髄移植群は自己であるB6およびSKGマウスにはトランスを示し, また, サードパーティであるC3Hマウスには正常な反応を示した. SKGマウスに対し, 正常な骨髄細胞を移植することにより, 免疫抑制剤などを用いずに治療が可能であった. 骨髄内骨髄移植

はドナー由来の造血系幹細胞と間葉系幹細胞を同時に置換することが可能であり、その結果、骨免疫系を正常に回復することが可能であると考えられた。以上国内の学会に発表し、海外論文に投稿中である。

2. 骨壊死疾患

ステロイドは様々な治療に必要な薬剤であるが、その合併症も多数報告されている。合併症のうち大腿骨頭壊死は大きな問題であるが、今回、ステロイド誘発家兔骨壊死に対する骨髄細胞移植を用いた新しい治療法を開発した。

①ステロイド投与前の骨髄細胞を採取し、methylprednisolone (MPSL: 20 mg/kg) を筋注により作成したステロイド誘発家兔骨壊死モデルの大腿骨に注入した。結果、大腿骨壊死発生率は約70%から0%へ減少していた。骨髄移植群の大腿骨内の骨髄細胞は活性化しており、VEGF 染色陽性細胞や Tunnel 染色陽性細胞は非骨髄移植群に比べ有意に低下していた。

骨髄細胞を直接骨髄内に投与することにより骨髄内局所の活性化、骨髄細胞の脂肪変性抑制、さらに髄内圧の抑制が得られた結果、骨壊死を抑制することが可能と考えられた。さらに血中止血・凝固系も改善しており、ステロイドに暴露されていない骨髄細胞が血管内皮細胞に作用した可能性も考えられた。骨髄内骨髄移植はあらたな治療方法になりうると考えられた。以上国内の学会に発表し、Rheumatology に accept された。

②ステロイド投与後骨髄細胞は変性し、骨壊死となる可能性がある。今回ステロイド投与後の骨髄細胞を1週間 *in vitro* で培養し、methylprednisolone (MPSL: 20 mg/kg) を筋注により作成したステロイド誘発家兔骨壊死モデルの大腿骨に注入した。ステロイドを加えた骨髄細胞の BAP (骨型アルカリホスファターゼ) の活性化は1週間の培養によりほぼ正常値に回復していた。この回復した骨髄細胞をステロイド投与後家兔に投与したところ実験①と同様の結果を得た。

ステロイド投与後においてもリフレッシュした骨髄細胞にすることにより骨壊死発症の治療が可能であった。

以上国内の学会に発表し、Modern Rheumatology に accept された。

3. 脊椎疾患

変性椎間板に対する治療として、動物モデルで椎間板内への遺伝導入やサイトカイン治療が報告され、良好な結果を示している。しかし、長期的な安全性については不明な点が多い。自己椎間板髄核細胞や間葉系幹細胞を用いた椎間板細胞も報告が散見されるが効果が不十分である。従来の方である吸引法で採取した新鮮全骨髄細胞の使用は、末梢リンパ球や赤血球が混入するため、特に椎間板内への使用を考えると、自己免疫反応を引き起こす可能性もあり、その使用は困難であった。今回我々は、末梢血の混入を防ぐことが可能な灌流式骨髄細胞採取法により採取した新鮮全骨髄細胞と椎間板髄核細胞を共培養し、椎間板髄核細胞への影響を検討した。Fisher344/slc ラット雄を使用し、灌流法もしくは吸引法で採取した骨髄細胞と椎間板細胞を共培養した。新鮮全骨髄細胞は、培養された間葉系幹細胞に比べ、椎間板髄核細胞の細胞増殖能力と細胞外器質の合成能力を亢進させることが可能であった。また、椎間板細胞の増殖能力と細胞外器質の両方を活性化する因子の1つである TGF- β の産生量が全骨髄細胞群で、有意に亢進していた。培養された間葉系幹細胞に比べ、新鮮全骨髄細胞を用いることにより椎間板髄核細胞の高い活性化が得られた。さらに灌流法より採取した骨髄細胞は、自己免疫反応を引き起こす末梢血の混入が減少するため、直接椎間板内への注入が可能であると考えられた。以上国内の学会に発表し、海外の論文に投稿中である。

4. 関節疾患

前十字靭帯 (ACL) 損傷は高頻度に起こる外傷の一つであるが、自然治癒能力に乏しく再建術が一般に行われている。ACL 不全断裂モデルラットを用いて膝関節内骨髄移植を行い、ACL 損傷に対する骨髄

移植の有効性の確立と靱帯再生のメカニズムを解析し、将来外科的手術の補助的手段の一翼を担う方法を開発する。

Fischer ラットを用いてACL不全断裂モデルを作成。このラットに骨髄細胞、間葉系細胞を関節内に投与した。関節内投与後2週後にオートグラフ (SHIMADZU) による力学的評価と組織学的評価を行い、関節内サイトカインを測定した。ACL不全断裂モデルラットに対する膝関節内骨髄細胞移植は有効であり、間葉系細胞移植に比して力学的強度は高かった。将来、骨髄細胞移植は外科的手術の簡便かつ安全な補助的手段となる可能性がある。以上国内の学会に発表した。

〈臨床研究〉

1. 手の外科

リウマチ手の変形や腱損傷、外傷による手の障害に対し外科的治療を行うと共に種々の手関節疾患に対し、手関節鏡等を用いその病態の解明を行っている。手だけでなく上肢全般に外傷等での手術の工夫や手指の短縮に対する仮骨延長を用いた手指の延長も行い良好な成績を得ている。また、腱移行や腱を用いた手の再建手術に対しハンドセラピストと密接に連携を保ち、術後早期よりの運動療法を行いこれらの臨床成績について報告した。

2. 電気生理診断学

電気生理学的手法を用いて、中枢・末梢神経を対象とした基礎的・臨床的研究を行ってきた。臨床面では術中脊髄モニタリングの臨床応用、脊髄症術中診断に用い、その成果を上げた。基礎的研究では、末梢神経有連続性損傷に対する端側吻合の原理を引用した bypass 移植術の有用性、末梢神経端側吻合後の再生軸索の起源をウサギ腓骨神経損傷モデルを用いて証明し、国内外の末梢神経関連学会、雑誌に発表した。

3. 関節疾患

関節炎、関節症に対して、人工関節置換術、主にその術後成績を検討し学会発表、論文投稿を行ってきた。特に人工股関節では新しいインプラントの開発を行い、広く市場で使用されるようになった。またセメントテクニックの指導、抗菌剤入りセメントの物性について研究、発表を行っている。膝関節においては、各種人工膝関節、単関節置換について症例を重ね学会発表を行っている。また、人工関節術後の緩みや感染に広範囲に骨欠損を認める場合、同種骨を併用し様々な角度からの再建を行っている。膝関節、股関節鏡視下手術も行い学会発表を行っている。

4. 脊椎外科

脊椎外科全般に関して、臨床的研究を行っている。主たる内容は、脊椎外科における低侵襲手術、頸髄症に対する後方支持組織温存術式の開発、頸椎椎間板ヘルニアに対する後方からの摘出術、術後C5麻痺の発生メカニズム、脊椎感染症の外科的治療、骨粗鬆症性の脊椎骨折後の遅発性神経障害の病態、胸腰椎に対する脊椎インスツルメンテーションの合併症、脊椎固定術後の隣接椎障害等であり、手術成績の向上に努めている。特に顕微鏡下の脊椎手術を積極的に行ない、侵襲の少ない術式の開発に取り組んでいる。研究面では、引き続き新しい腰椎前方固定術式のバイオメカニカルな検討を行なっている。

〈研究業績〉

原 著

1. Shima Y, Okamoto T, Aoyama T, Yasura K, Ishibe T, Nishijo K, Shibata KR, Kohno Y, Fukiage K, Otsuka S, Uejima D, Nakayama T,

Nakamura T, Kiyono T and Toguchida J (2007)

In vitro transformation of mesenchymal stem cells by oncogenic H-rasVal12. *Biochem Biophys Res Commun* 353: 60–66

2. Tsuda M, Inaba M, Sakaguchi Y, Fukui J, Ueda Y,

- Omae M, Ando Y, Mukaide H, Guo K, Yabuki T, Nakatani T and Ikehara S (2007) Activation of granulocytes by direct interaction with dendritic cells. *Clin Exp Immunol* 150: 322-331
3. Oe K, Sasai K, Yoshida Y, Ohnari H, Iida H, Sakaida N and Uemura Y (2007) Pigmented villonodular synovitis originating from the lumbar facet joint: a case report. *Eur Spine J* 16: 301-305
 4. Liang B, Kawanabe K, Ise K, Iida H and Nakamura T (2007) Polyethylene wear against alumina and zirconia heads in cemented total hip arthroplasty. *J Arthroplasty* 22: 251-257
 5. Inaba M, Adachi Y, Hisha H, Hosaka N, Maki M, Ueda Y, Koike Y, Miyake T, Fukui J, Cui Y, Mukaide H, Koike N, Omae M, Mizokami T, Shigematsu A, Sakaguchi Y, Tsuda M, Okazaki S, Wang X, Li Q, Nishida A, Ando Y, Guo K, Song C, Cui W, Feng W, Katou J, Sado K, Nakamura S and Ikehara S (2007) Extensive studies on perfusion method plus intra-bone marrow-bone marrow transplantation using cynomolgus monkeys. *Stem Cells* 25: 2098-2103
 6. Fukui J, Inaba M, Ueda Y, Miyake T, Hosaka N, Kwon AH, Sakaguchi Y, Tsuda M, Omae M, Kamiyama Y and Ikehara S (2007) Prevention of graft-versus-host disease by intra-bone marrow injection of donor T cells. *Stem Cells* 25: 1595-1601
 7. Ueda Y, Inaba M, Takada K, Fukui J, Sakaguchi Y, Tsuda M, Omae M, Kushida T, Iida H and Ikehara S (2007) Induction of senile osteoporosis in normal mice by intra-bone marrow-bone marrow transplantation from osteoporosis-prone mice. *Stem Cells* 25: 1356-1363
 8. 菅 俊光 (2007) 【呼吸リハビリテーション実践マニュアル 基礎から臨床まで】急性呼吸不全に対する呼吸リハビリテーション. *Med Rehabil* (78): 61-66
 9. 柴田斉子 (2007) 【呼吸リハビリテーション実践マニュアル 基礎から臨床まで】摂食・嚥下障害と呼吸リハビリテーション. *Med Rehabil* (78): 112-119
 10. 齋藤貴徳, 橋谷 実, 松矢浩暉, 足立 崇, 石原昌幸, 梶野弘毅, 飯田寛和 (2007) 【胸郭出口症候群 (TOS) の診断と治療】体性感覚誘発電位を用いたTOSの診断. *関節外科* 26: 891-896
 11. 中村知寿, 飯田寛和, 和田孝彦 (2007) 【変形性股関節症に対する骨切り術 有効性と限界】棚形成術の適応と限界. *関節外科* 26: 85-91
 12. 中村誠也, 赤木繁夫, 宮島茂夫, 坂根正則, 福田 登 (2007) 外傷性膝関節拘縮に対するquadricepsplastyの検討. *骨折* 29: 828-831
 13. 浅田 卓, 和田孝彦, 串田剛俊, 松矢浩暉, 徳永裕彦, 飯田寛和 (2007) 人工股関節置換術 (THA) 時の経食道心エコーの検討 セメントとセメントレスの比較. *整・災外* 50: 1039-1044
 14. 飯田寛和 (2007) 整形外科手術私のポイント Surgical dislocation Dall's approachによる変法. *整・災外* 50: 1018-1019
 15. 赤木繁夫 (2007) 【骨・関節結核の現況】結核性脊椎炎の動向と化膿性脊椎炎との鑑別. *整・災外* 50: 137-144
 16. 笹井邦彦 (2007) 頸椎症性脊髄神経根症に対する椎弓形成術を併用した顕微鏡下椎間孔拡大術. *整外最小侵襲術誌* (45): 37-42
 17. 笹井邦彦, 大成浩征, 梅田真志, 若林 英, 丸山東勲, 飯田寛和 (2007) 胸腰椎部に発生した硬膜外くも膜嚢腫の低侵襲な切除方法. *脊椎脊髄神手術手技* 9: 102-105
 18. 赤木繁夫 (2007) 【高齢者の脊椎脊髄疾患】高齢者の脊椎脊髄疾患に対する治療ポイント 感染性疾患 脊椎感染症の病態生理. *脊椎脊髄ジャーナル* 20: 634-637
 19. 小室 元, 飯田寛和, 見寺貞子, 藤村明輝, 大貫正秀 (2007) 高齢者大腿骨頸部骨折の予防的治療の研究 次世代ヒッププロテクターの開発. *大和証券ヘルス財団研業* 30: 128-133
 20. 鎗谷敏夫, 児島 新, 森 裕之, 飯田寛和, 坂井田紀子 (2007) 外傷を契機に発生した下腿線維索により足関節尖足を来した1例. *中部整災誌* 50: 647-648
 21. 森 裕之, 和田孝彦, おおえ賢一, 飯田寛和 (2007) 感染 感染人工股関節置換術に対して行った再置換術の経験. *日人工関節会誌* 37:

114-115

22. 中村誠也 (2007) 【整形外科 office-based surgery-1人でできるテクニック】手 近位指節間関節脱臼骨折に対する注射針外套を用いた簡易創外固定法. 別冊整形外 51: 128-133
 23. 飯田寛和 (2007) 人工股関節手術における骨セメント使用時の工夫と問題点 大腿骨側 Triple tapered ステム. 臨整外 42: 633-637
 24. おおえ賢一, 和田孝彦, 飯田寛和, 坂井田紀子, 植村芳子 (2007) 股関節に発生した色素性絨毛結節性滑膜炎に対する術式検討. 中部整災誌 50: 1135-1136
 25. 福田 登, 串田剛俊, 宮島茂夫, 赤木繁夫, 泉川雅彦 (2007) 両側口蓋扁桃摘出術が有効であった反応性関節炎の1例. 中部整災誌 50: 741-742
 26. 齋藤貴徳, 市岡直也, 小川浩司, 松矢浩暉, 足立 崇, 石原昌幸 (2007) 体性感覚誘発電位における N16 の記録法と臨床応用 N16 遠隔電場電位を用いた梨状筋症候群の診断. 脊髄機能診断学 28(1): 95-100
- 学会発表
1. Suga T, Okii A, Sasaki M, Shibata S, Yoshida K, Imai Y, Kim K and Iwata N (2007) Acoustic analysis of lung sounds before and after chest physical therapy. 第32回国際肺音学会 (ILSA), 東京
 2. Maruyama T, Sasai K, Wakabayashi E and Iida H (2007) Microsurgical bilateral decompression via unilateral approach for lumbar degenerative spondylolisthesis: more than 2 years follow-up. 9th Annual Meeting of the Spine Society of Europe, Brussels
 3. Sasai K, Wakabayashi E, Maruyama T and Iida H (2007) Less invasive cervical laminoplasty preserving semispinalis cervicis muscles and nuchal ligament for spondylotic myelopathy. 9th Annual Meeting of the Spine Society of Europe, Brussels
 4. Komuro H (2007) Reconstruction of falling movements resulting in hip fractures on the elderly by examining those in infants. 第9回日仏整形外科学会合同会議, Nice
 5. 齋藤貴徳, 松矢浩暉, 足立 崇, 石原昌幸, 谷陽一, 飯田寛和 (2007) 脊髄症を呈した胸椎椎間板ヘルニアの手術療法—後方アプローチ bによる顕微鏡下椎間板摘出術—. 第13回日本最小侵襲整形外科学会, 高松
 6. 小室 元, 清水由紀子, 宮崎浩彰, 中島せい子 (2007) 虚弱高齢者の転倒骨折予防の対策 新しいヒッププロテクタの装着感の検討. 医療の質・安全学会, 東京
 7. 飯田寛和 (2007) 人工股関節—手術手技のエッセンス—. 第113回備後整形外科医会学術講演会, 福山
 8. 小室 元, 植田勝彦, 中島聖子, 見寺貞子 (2007) 高齢者大腿骨頸部骨折を予防する新しいヒッププロテクターの開発. 第2回医療の質・安全学会学術集会, 東京
 9. 市川宜弘, 宮島茂夫, 串田剛俊, 齋藤貴徳, 濱田 彰 (2007) 関節リウマチに対する逆行性髄内釘を用いた足関節固定術の術後成績. 第35回日本リウマチ関節外科学会, 東京
 10. 飯田寛和, 和田孝彦, 中村知寿 (2007) Polished taper cemented stemの開発コンセプトと成績. 第35回日本リウマチ関節外科学会, 東京
 11. 正岡利紀, 山本謙吾, 石井良章, 飯田寛和, 松野丈夫, 里見和彦, 豊島良太, 鳥巢岳彦, 宮岡英世, 勝呂 徹 (2007) 人工関節置換術後感染症の疫学と予防 (日整会学術研究プロジェクト調査より). 第35回日本リウマチ関節外科学会, 東京
 12. 齋藤貴徳, 松矢浩暉, 足立 崇, 石原昌幸 (2007) 体性感覚誘発電位と経頭蓋刺激筋記録運動誘発電位による術中脊髄機能モニタリング—当科の症例からみたアラーム基準—. 第37回日本臨床神経生理学会, 宇都宮
 13. 岡本尚史, 飯田寛和, 和田孝彦, 加藤充孝, おおえ賢一, 中村知寿, 植村芳子, 鷹巢晃昌, 大江知里 (2007) 皮下吸収系 (VICRYL Johnson & Johnson) が原因と考えられる両側THA後に発症した縫合糸膿瘍2症例. 第417整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
 14. 飯田寛和 (2007) 人工股関節置換術の合併症—その予防と治療—. 沖縄人工関節研究会, 沖縄
 15. 串田剛俊, 上田祐輔, 梅田眞志, 浅田 卓, おおえ賢一, 飯田寛和 (2007) 骨髄内骨髄移植

- を用いた SKG/Jc1 マウスの新しい治療法. 第109回中部日本整形外科災害外科学会, 奈良
16. 石原昌幸, 齋藤貴徳, 橋谷 実, 松矢浩暉, 足立 崇, 梅野弘毅 (2007) 手根管症候群にたいする motor point 刺激による伝導速度測定. 第109回中部日本整形外科災害外科学会, 奈良
17. 石田 響, 串田剛俊, 赤木繁夫, 笹井邦彦, 飯田寛和 (2007) 頸椎椎弓形成術, 周術期合併症の検討. 第109回中部日本整形外科災害外科学会, 奈良
18. 浅田 卓, 串田剛俊, おおえ賢一, 梅田眞志, 上田祐輔, 飯田寛和 (2007) ステロイド誘発家兎骨壊死に対する骨髓内骨髓肝細胞移植の効果. 第109回中部日本整形外科災害外科学会, 奈良
19. 足立 崇, 齋藤貴徳, 橋谷 実, 松矢浩暉, 梅野弘毅, 石原昌幸 (2007) 大胸筋により生じた胸郭出口症候群の診断と術後成績. 第109回中部日本整形外科災害外科学会, 奈良
20. 梅田眞志, 串田剛俊, 笹井邦彦, 上田祐輔, 浅田 卓, 飯田寛和 (2007) 全骨髓細胞を用いたラット椎間板髄核細胞の活性化の検討. 第109回中部日本整形外科災害外科学会, 奈良
21. 齋藤貴徳, 橋谷 実, 松矢浩暉, 足立 崇, 石原昌幸, 梅野弘毅 (2007) X-tube を用いた腰椎除圧・固定術. 第109回中部日本整形外科災害外科学会, 奈良
22. 飯田寛和 (2007) 人工股関節置換術の合併症—その予防と治療—. 第109回中部日本整形外科災害外科学会, 奈良
23. 齋藤貴徳, 市岡直也, 藤澤礼子, 森 良樹, 笹井邦彦, 飯田寛和 (2007) 全型腕神経叢損傷に対する対側 C7 神経根移行術の有用性と問題点. 第34回日本マイクロサージェリー学会, 福島
24. おおえ賢一, 和田孝彦, 中村知寿, 加藤充孝, 飯田寛和, 徳永裕彦 (2007) 股関節強直に対する人工股関節置換術の経験. 第34回日本股関節学会, 金沢
25. 加藤充孝, 飯田寛和, 和田孝彦, おおえ賢一, 中村知寿 (2007) 髄外ガイドを用いたステム設置の評価. 第34回日本股関節学会, 金沢
26. 中村知寿, 和田孝彦, 藤原正富, 飯田寛和 (2007) 精神疾患を合併した大腿骨頸部骨折の転帰. 第34回日本股関節学会, 金沢
27. 和田孝彦, 加藤充孝, おおえ賢一, 中村知寿, 飯田寛和 (2007) 成人化膿性股関節炎に対して行った THA の治療成績. 第34回日本股関節学会, 金沢
28. 飯田寛和 (2007) 殿筋内脱臼股に対する短縮骨切り THA—機能改善を最大にする工夫—. JMM HIP フォーラム2007, 小樽
29. 飯田寛和 (2007) 股関節疾患の診断と治療. 関西医大若手医師の会, 大阪
30. 柴田斉子, 前田葉子, 金谷節子, 吉田清和, 菅俊光, 佐々木万弓 (2007) 急性期病院における摂食・嚥下リハビリテーションの効果 (1) 脳血管障害に伴う摂食・嚥下障害の検討. 第13回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会, 大宮
31. 丸山東勲, 笹井邦彦, 梅田眞志, 若林 英, 飯田寛和 (2007) 腰椎変性すべり症に対する顕微鏡下片側進入両側除圧術の手術成績. 第14回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 (JPSTSS), 名古屋
32. 笹井邦彦, 若林 英, 丸山東勲, 飯田寛和 (2007) 頸髄症に対する頸半棘筋と C7 棘突起を温存した en-bloc 椎弓形成術—. 第14回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 (JPSTSS), 名古屋
33. 若林 英, 笹井邦彦, 丸山東勲, 飯田寛和 (2007) 転移性馬尾腫瘍の外科的治療. 第14回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 (JPSTSS), 名古屋
34. 飯田寛和 (2007) 人工股関節 (再) 置換術における手技のエッセンス. 第28回帝京大学整形外科同門会セミナー, 東京
35. 市川宜弘, 串田剛俊, 梅田眞志, 松矢浩暉, 齋藤貴徳 (2007) 慢性化膿性骨髓炎に合併した扁平上皮癌の治療経験. 第416回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
36. 齋藤貴徳, 足立 崇, 松矢浩暉, 市岡直也, 石原昌幸, 小川浩司 (2007) Sextant を用いた TLIF の経験. 第16回日本インストゥルメンテーション学会, 弘前
37. 丸山東勲, 笹井邦彦, 若林 英, 飯田寛和 (2007) 同一椎間板ヘルニアによる2根障害に対する TLIF. 第40回日本脊椎外科同好会, 奈良
38. 若林 英, 笹井邦彦, 丸山東勲, 飯田寛和

- (2007) 手術を行った転移性馬尾腫瘍の2例. 第40回日本脊椎外科同好会, 奈良
39. 飯田寛和 (2007) 股関節手術のサルベージ. 第4回和歌山骨関節靱帯フォーラム, 和歌山
 40. おおえ賢一, 和田孝彦, 飯田寛和 (2007) 股関節強直に対する人工股関節置換術の経験. 第15回Hip Forum 2007, 立山
 41. 宮島茂夫 (2007) 単顆型人工膝関節置換術(UKA)の適応と手術手技(後療法を含めて). 第3回枚方手術セミナー, 枚方
 42. 齊藤福樹, 中村誠也, 中谷健治, 平川昭彦, 村尾佳則, 中谷壽男 (2007) 骨盤輪骨折に対するM-shaped transiliac plateの使用経験. 第17回近畿外傷診療フォーラム, 神戸
 43. 小室 元, 大野博史, 飯田寛和 (2007) 孤立した膝蓋上嚢による膝関節障害の2例. 第32回日本膝関節学会 (JOSCAS), 札幌
 44. 大野博史, 小室 元, 飯田寛和 (2007) 膝関節後外側支持機構 (PLS) 損傷に対する膝窩筋角再建術の治療成績. 第32回日本膝関節学会 (JOSCAS), 札幌
 45. 足立 崇, 齋藤貴徳, 橋谷 実, 松矢浩暉, 榎野弘毅, 石原昌幸 (2007) 陸上競技のハードル走時に発生した脛骨粗面剥離骨折の1例. 第415回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
 46. 菅 俊光, 沖井 明, 吉田清和, 佐々木万弓, 柴田斉子, 木村智子, 南部 円, 日野恵美 (2007) 排痰補助装置の使用経験とその効果について. 第44回日本リハビリテーション医学会, 神戸
 47. 吉田清和 (2007) DPC 導入と(急性期)リハビリテーション医療 1. アメリカの現状, 将来の日本. 第44回日本リハビリテーション医学会学術集会, 神戸
 48. 柴田斉子, 吉田清和, 菅 俊光, 佐々木万弓, 沖井 明, 前田葉子, 金谷節子 (2007) 当院における嚥下回診の現状と効果. 第44回日本リハビリテーション医学会学術集会, 神戸
 49. 福田 登, 中村誠也, 赤木繁夫, 飯田寛和 (2007) 飛び込み選手に発生した舟状骨疲労骨折の1例. 日本整形外科スポーツ医学会, 札幌
 50. 飯田寛和 (2007) 股関節症治療における心と技. のぞみ会 医療講演会, 大阪
 51. 和田孝彦 (2007) 整形外科・リウマチ科における術後感染とその予防. 関西医科大学整形外科春期セミナー, 守口
 52. 笹井邦彦 (2007) 顕微鏡下胸椎片側進入法. 神戸脊椎外科カンファレンス, 兵庫
 53. 齊藤福樹, 中谷健治, 中村誠也, 平川昭彦, 岩瀬正顕, 村尾佳則, 中谷壽男 (2007) 不安定骨盤輪骨折に対するM-shaped pelvis plateの使用経験. 第21回日本外傷学会, 千葉
 54. 笹井邦彦, 丸山東勲, 若林 英, 飯田寛和, 齋藤貴徳 (2007) 頸椎症性脊髄神経根症(筋萎縮症を含む)に対する顕微鏡下後方椎間孔拡大術を併用した椎弓形成術. 第80回日本整形外科学会学術総会, 神戸
 55. 小室 元, 飯田寛和, 大貫正秀, 植田勝彦, 中島聖子 (2007) 大腿骨頸部骨折予防のヒッププロテクターの衝撃緩和パッド装着位置の検討. 第80回日本整形外科学会学術総会, 神戸
 56. 齋藤貴徳, 小川浩司, 橋谷 実, 松矢浩暉, 足立 崇, 石原昌幸 (2007) 頸椎・胸椎部手術における脊髄上行路・下行路のモニター. 第80回日本整形外科学会学術総会, 神戸
 57. 飯田寛和 (2007) 人工股関節置換術の心と技. 第80回日本整形外科学会学術総会, 神戸
 58. おおえ賢一, 和田孝彦, 飯田寛和 (2007) 股関節に発生した色素性絨毛結節性滑膜炎に対する術式検討. 第108回中部日本整形外科災害外科学会, 広島
 59. 丸山東勲, 笹井邦彦, 梅田眞志, 若林 英, 飯田寛和 (2007) 腰椎変性すべり症に対する顕微鏡下片側進入両側除圧術一変形性脊椎症との後ろ向き比較検討. 第108回中部日本整形外科災害外科学会, 広島
 60. 坂井田稔, 橋口淳一, 大窪 博, 榎野弘毅 (2007) 坐骨神経痛を呈した透析患者に発生した巨大股関節部tumoral calcinosisの1例. 第108回中部日本整形外科災害外科学会, 広島
 61. 若林 英, 笹井邦彦, 丸山東勲, 飯田寛和 (2007) 頸髄症に対する低侵襲後方除圧術一C3,7部分椎弓切除術とC4-6椎弓形成術. 第108回中部日本整形外科災害外科学会, 広島
 62. 小室 元, 飯田寛和, 大貫正秀, 植田勝彦, 中島聖子 (2007) 大腿骨頸部骨折予防のヒッププロテクターの衝撃緩和パッド装着位置の検討. 第108回中部日本整形外科災害外科学会,

広島

63. 大野博史, 今田直紀, 宮島茂夫, 飯田寛和 (2007) 強い内反変形で線維性強直に到った両膝シャルコー関節に対しTKAを行った1例. 第108回中部日本整形外科災害外科学会, 広島
64. 中谷晃之, 前川 徹, 石井啓介, 池浦 淳, 武富雅則 (2007) 当科におけるタクロリムスの治療経験. 第108回中部日本整形外科災害外科学会, 広島
65. 銚谷敏夫, 児島 新, 森 裕之, 飯田寛和 (2007) 外傷を契機に発生した下腿線維索により足関節尖足を来した1例. 第108回中部日本整形外科災害外科学会, 広島
66. 梅田眞志, 笹井邦彦, 丸山東勲, 若林 英, 飯田寛和, 赤木繁夫 (2007) HAスぺーサーを用いた頸椎椎弓形成術後の骨癒合一術式間の後ろ向き比較検討一. 第108回中部日本整形外科災害外科学会, 広島
67. 福田 登, 木下有紀子, 串田剛俊, 宮島茂夫, 赤木繁夫, 泉川雅彦 (2007) 両側扁桃摘出術が有効であった反応性関節炎の1例. 第108回中部日本整形外科災害外科学会, 広島
68. 笹井邦彦, 梅田眞志, 若林 英, 丸山東勲, 飯田寛和, 赤木繁夫 (2007) HAスぺーサーを用いた棘突起縦割式椎弓形成術とen-bloc椎弓形成術との骨癒合の比較: 最低2年以上経過例. 第36回日本脊椎脊髄病学会, 金沢
69. 松矢浩暉, 齋藤貴徳, 小川浩司, 足立 崇, 石原昌幸 (2007) 肘部管症候群に対するエアトームを用いた上腕骨内上顆切除術. 第50回日本手の外科学会, 山形
70. 齋藤貴徳, 小川浩司, 松矢浩暉, 足立 崇, 石原昌幸 (2007) 大胸筋により生じた胸郭出口症候群の診断と術後成績. 第50回日本手の外科学会, 山形
71. 宮島茂夫, 澤井宏和, 串田剛俊, 赤木繁夫, 濱田 彰 (2007) RA疾患活動性の指標としての抗CCP抗体測定の意義. 第51回日本リウマチ学会総会, 横浜
72. 飯田寛和 (2007) 人工股関節置換術の進歩と課題. 第51回日本リウマチ学会総会, 横浜
73. 飯田寛和 (2007) THAの進歩と課題. 第51回日本リウマチ学会総会, 横浜
74. 嶋元佳子, 尾崎吉郎, 小室 元, 和田孝彦, 宮島茂夫 (2007) ステロイド増量で改善した縦隔気腫を伴った amyopathic dermatomyositis. 第51回日本リウマチ学会総会・学術集会, 横浜
75. 徳永裕彦, 大西修司, 大谷哲司, 市邊明美, 山岡 学 (2007) 人工股関節全置換術に対する自己血輸血. 第20回日本自己血輸血学会学術総会, 新潟
76. 梅田眞志, 串田剛俊, 笹井邦彦, 浅田 卓, 飯田寛和 (2007) Analyses of the viability of nucleus pulposus cells co-cultured by bone marrow cells using perfusion method. 第20回日本軟骨代謝学会, 岡山
77. 飯田寛和 (2007) 股関節手術のサルベージ. 第23回柏整会総会, 東京
78. 銚谷敏夫, 津田 匠, 森 裕之, 村田 実, 児島 新, 飯田寛和 (2007) チタンプレート骨接合に伴いインプラントの部分破損を生じた2例. 第414回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
79. 飯田寛和 (2007) 人工股関節(再)置換術における手技のエッセンス. 北陸整形外科集談会, 金沢
80. 赤木繁夫 (2007) 感染性脊椎炎の診断と治療. 第13回天の川整形外科懇話会, 枚方
81. 若林 英, 笹井邦彦, 丸山東勲, 飯田寛和 (2007) 治療に難渋している再発胸壁血管腫による脊髄不全麻痺の1例. 第27回脊椎外科を学ぶ会, 大阪
82. 児島 新 (2007) バネ指・手根管症候群の手術・手の装具. 第2回枚方手術セミナー, 枚方
83. おおえ賢一, 和田孝彦, 飯田寛和 (2007) 大腿骨転子下短縮骨切り術併用人工股関節置換術の成績. 第37回日本人工関節学会, 東京
84. 森 裕之, 和田孝彦, おおえ賢一, 中村知寿, 飯田寛和 (2007) 感染人工関節置換術に対して行った再置換術の経験. 第37回日本人工関節学会, 東京
85. 中村知寿, 和田孝彦, 飯田寛和 (2007) 精神障害患者の大腿骨頸部骨折の転帰. 第37回日本人工関節学会, 東京
86. 和田孝彦, おおえ賢一, 飯田寛和 (2007) Triple Taper Polished Stem (C-Stem) の短期成績. 第37回日本人工関節学会, 東京
87. 飯田寛和 (2007) セメント人工股関節置換術

について―手技のポイント―. 第37回日本人工関節学会, 東京

88. 笹井邦彦 (2007) 腰部脊柱管狭窄症に対する顕微鏡下低侵襲手術. 第12回京都市北部整形外科勉強会, 京都
89. 飯田寛和 (2007) 股関節手術のサルベージ. 第19回骨・関節疾患シンポジウム, 福岡
90. 木下有紀子, 徳永裕彦, 坂根正則, 赤木繁夫, 濱田 彰 (2007) 両側大腿骨頸部疲労骨折の一例. 第413回整形外科集談会京阪神地方会,

大阪

91. 吉田清和 (2007) 日米リハ比較―祖国日本よ, これでいいのか, 日本のリハビリテーション. 第22回日本リハビリテーション医学会近畿地方会学術集会, 大阪

著 書

1. 笹井邦彦 (2007) 頸部神経根症 (椎間板ヘルニアを含む). 今日の治療指針2007 私はこう治療している 741-742頁, 医学書院, 東京

形成外科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Kakudo N, Shimotsuma A and Kusumoto K (2007) Fibroblast growth factor-2 stimulates adipogenic differentiation of human adipose-derived stem cells. *Biochem Biophys Res Commun* 359: 239-244
2. Inagaki T, Kyutoku S, Seno T, Kawaguchi T, Yamahara T, Oshige H, Yamanouchi Y and Kawamoto K (2007) The intracranial pressure of the patients with mild form of craniosynostosis. *Childs Nerv Syst* 23: 1455-1459
3. Okubo Y, Kusumoto K and Bessho K (2007) Accelerators of osteogenesis by recombinant human bone morphogenetic protein-2. *Drug Target Insights* 2: 55-60
4. Wang YB, Ogawa Y, Kakudo N and Kusumoto K (2007) Survival and wound contraction of full-thickness skin grafts are associated with the degree of tissue edema of the graft bed in immediate excision and early wound excision and grafting in a rabbit model. *J Burn Care Res* 28: 182-186
5. Kakudo N, Wang YB, Miyake S, Kushida S and Kusumoto K (2007) Analysis of osteochondro-induction using growth and differentiation factor-5 in rat muscle. *Life Sci* 81: 137-143
6. 楠本健司 (2007) 顔面骨折治療のコツとpitfall 下顎骨骨折の診断と治療. *Pepars* 18: 43-50
7. 楠本健司 (2007) 【骨欠損への対応 骨・人工

骨移植, 骨延長・再生】骨再生の実際と展望. *Pepars* 15: 84-89

8. 楠本健司 (2007) 【熱傷治療ガイド2007】熱傷の局所療法 外来における外用薬の使い方. *救急医* 31: 814-815
9. 楠本健司, 松島貴志 (2007) 【形成外科手術スタンダード30】多指 (趾) 症・合指 (趾) 症の標準的手術法. *形成外科* 50: S101-S110
10. 田辺敦子, 小川 豊, 楠本健司, 竹本剛司, Wang YB, 佐々木富美子 (2007) 毛髪再生メカニズムの新展開 毛包におけるインターロイキン-6の成長因子としての役割. *形成外科* 50: 149-156
11. 櫛田哲史, 下間亜由子, 三宅省吾, 覚道奈津子, 楠本健司 (2007) デグロービング損傷に対する植皮術後に発症したアナフィラクトイド紫斑の1例. *日形会誌* 27: 649-653
12. 菅 豊明, 伊藤文人, 小川 豊, 楠本健司 (2007) 前額部に生じたMasson腫瘍 (血管内乳頭状上皮過形成) の1例. *日形会誌* 27: 26-28
13. 國吉京子, 下間亜由子, 山本一郎, 楠本健司 (2007) 口蓋裂術後の鼻咽腔閉鎖機能不全例への軟口蓋挙上装置 (PLP) の活用. *日頭顔会誌* 23: 279-286
14. 伊藤文人, 田中義人, 藤井ゆず子 (2007) 当院形成外科における暖房器具による熱傷の検討. *熱傷* 33: 261-266
15. 櫛田哲史, 三宅省吾, 井口有子, 堀尾 修, 安井浩司, 覚道奈津子, 久徳茂雄 (2007) 精神

疾患を背景とし、外科的治療を要した熱傷患者についての検討. 熱傷 33: 94-98

16. 井上唯史, 久徳茂雄 (2007) 高齢者熱傷の治療—当院における高齢者熱傷の3例から—, 熱傷 33: 74-81

症例報告

1. 田中義人, 伊藤文人, 覚道奈津子, 菅 豊明, 小川 豊 (2007) 乳房部に巨大なびまん性神経線維腫を認めた2例. 形成外科 50: 943-948
2. 下間亜由子, 覚道奈津子, 楠本健司, 山本純, 後藤研三, 嶋田俊秀 (2007) 下腿難治性皮膚潰瘍を伴った先天性アンチトロンビン III 欠損症の1例. 形成外科 50: 221-226
3. 鈴木聡史, 岩井愛子, 富野敦稔, 山本 透, 北澤康秀, 岸本真房, 藤井弘史, 久徳美樹 (2007) 敗血症性 DIC に対し antithrombin/danaparoid sodium併用療法が奏功した小児熱傷の1例. 新薬と臨 56: 498-503

学会発表

1. Inagaki T, Kyutoku S, Seno T, Ryu T, Uesaka T, Kawaguchi T, Yamanouchi Y and Kawamoto K (2007) The surgical outcomes of mild form of craniosynostosis based on the intracranial pressure. 35th Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery, Liverpool
2. Kakudo N, Shimotsuma A and Kusumoto K (2007) Osteogenic potential of adipose-derived stem cells in vitro and in vivo. British Association of Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgeons 2007 Summer Scientific Meeting, Deauville
3. Kushida S, Shimotsuma A, Miyake S, Horio O, Kakudo N and Kusumoto K (2007) A patient with anaphylactoid purpura developing after skin grafting for degloving injury. British Association of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgeons summer meeting, Deauville
4. Inagaki T, Kyutoku S, Yamanouchi Y and Kawamoto K (2007) The surgical management of craniosynostosis with distractor osteogenesis. Malaysia Neurosurgical Conference, Malaysia
5. 覚道奈津子, 下間亜由子, 楠本健司 (2007) ヒ

ト脂肪組織由来幹細胞における FGF-2 の脂肪分化に与える影響. 第37回日本創傷治療学会, 横浜

6. 三宅ヨシカズ, 福田 智, 井口有子, 楠本健司 (2007) PRP (多血小板血漿) を使用した皮膚潰瘍治療についての検討. 第37回日本創傷治療学会, 横浜
7. 福田 智, 井口有子, 三宅ヨシカズ, 大久保修和, 加藤雅明, 楠本健司 (2007) 当科における抹消血管虚血性下腿潰瘍に対する治療方針: 外来でよく遭遇する2例を供覧して. 第37回日本創傷治療学会, 横浜
8. 笠井千尋, 久徳茂雄, 大谷一弘, 吉野健史, 水野諭良 (2007) Distally based sural island flap による足部再建13例の検討と意見. 第89回日本形成外科学会関西支部学術集会, 高槻
9. 笹尾卓史, 田辺敦子, 櫛田哲史, 加川隆三郎, 野村英明, 安井 寛 (2007) 稀な肛門腺癌症例の治療経験. 第89回日本形成外科学会関西支部学術集会, 高槻
10. 三宅ヨシカズ, 福田 智, 井口有子, 楠本健司 (2007) 重症虚血肢 (critical limb ischemia; CLI) に対する治療戦略. 第89回日本形成外科学会関西支部学術集会, 高槻
11. 三宅良平, 竹本剛司, 菅 豊明, 井上唯史, 中邨智之, 楠本健司 (2007) 背部弾性線維腫の2症例. 第89回日本形成外科学会関西支部学術集会, 高槻
12. 菅 豊明, 松島貴志, 久徳美樹, 楠本健司 (2007) ペクタスバー感染によりバー抜去せざるを得なかった成人漏斗胸の1例. 第89回日本形成外科学会関西支部学術集会, 高槻
13. 田中伸子, 森 雄大, 大島 茂, 楠本健司 (2007) 悪性黒子が左頬部と脛粘膜部に併発した1例. 第89回日本形成外科学会関西支部学術集会, 高槻
14. 田中保子, 三宅省吾, 南方竜也, 堀尾 修, 下間亜由子, 久徳茂雄, 楠本健司 (2007) 当科における頭蓋骨全層欠損症例の検討. 第89回日本形成外科学会関西支部学術集会, 高槻
15. 日野沙衣子, 三宅省吾, 堀尾 修, 下間亜由子 (2007) 肘部重症ケロイドの1治療法～遊離植皮術と放射線療法の併用～. 第89回日本形成外科学会関西支部学術集会, 高槻

16. 富野祐里, 小川 豊, 笹尾卓史 (2007) 強度の眼瞼内反に対し前葉を反転皮下茎皮弁として後葉に移動する方法. 第89回日本形成外科学会関西支部学術集会, 高槻
17. 伊藤文人, 田中義人, 藤井ゆず子 (2007) 眼窩・眼瞼部粉碎異物2例の治療経験. 第25回日本頭蓋顎顔面外科学会総会・学術集会, 東京
18. 井上唯史, 楠本健司, フレデリック ノトディハルジョ (2007) 眼窩内腫瘍を呈したLymphoepithelial dacryocystitisの1例. 第25回日本頭蓋顎顔面外科学会総会・学術集会, 東京
19. 久徳茂雄, 大谷一弘, 笠井千尋, 吉野健史, 瀬野敏孝, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2007) 頭蓋縫合早期癒合症における拡大縫合切除例の検討. 第25回日本頭蓋顎顔面外科学会総会・学術集会, 東京
20. 光井俊人, 楠本健司, 下間亜由子, 堀尾 修, 南方竜也, 三宅省吾 (2007) 当科における過去10年間の眼窩腫瘍27例の臨床検討. 第25回日本頭蓋顎顔面外科学会総会・学術集会, 東京
21. 黒岡定浩, 渡邊奈津子, 村上克行, 加藤敦子, 楠本健司 (2007) 側頭筋下から頭蓋内におよんだ皮様嚢腫の1例. 第25回日本頭蓋顎顔面外科学会総会・学術集会, 東京
22. 三宅良平, 松島貴志, 吉村晋一, 武田純一, 淺井昭雄, 楠本健司 (2007) 眼窩上壁より眼窩内および前頭洞内に進展した骨腫の1例. 第25回日本頭蓋顎顔面外科学会総会・学術集会, 東京
23. 大西早百合, 久徳美樹, 菅 豊明, 田中保子, 楠本健司 (2007) 無歯顎患者に生じた上顎外歯瘻の1例. 第25回日本頭蓋顎顔面外科学会総会・学術集会, 東京
24. 大谷一弘, 久徳茂雄, 笠井千尋, 山田裕史 (2007) 頬骨骨折治療のための新しい分類と統計. 第25回日本頭蓋顎顔面外科学会総会・学術集会, 東京
25. 竹本剛司, 三宅良平, 楠本健司 (2007) 頸部に発生した気管支原性嚢胞の1例. 第25回日本頭蓋顎顔面外科学会総会・学術集会, 東京
26. 福田 智, 井口有子, 三宅ヨシカズ, 久島潔, 楠本健司 (2007) 長期透析患者の歯科治療中に顔面・頸部の広範囲組織壊死を認めた1例. 第25回日本頭蓋顎顔面外科学会総会・学術集会, 東京
27. 覚道奈津子, 下間亜由子, 楠本健司 (2007) ヒト脂肪由来幹細胞におけるFGF-2の脂肪分化に与える影響. 第16回日本形成外科学会基礎学術集会, 神戸
28. 覚道奈津子, 大西早百合, 南方竜也, 楠本健司 (2007) PRP (多血小板血漿) とPRS (血小板放出上清) がヒト脂肪由来幹細胞の増殖に及ぼす影響. 第16回日本形成外科学会基礎学術集会, 神戸
29. 山下理絵, 蔦 幸子, 矢沢慶史, 一氏俊世, 松末武雄, 近藤謙司 (2007) 眉毛ケアによるアンチエイジング効果. 第30回日本美容外科学会総会・第100回学術集会, 札幌
30. 土井秀明 (2007) Fillerによるトラブル; 素材が悪い? 医師が悪い? 何が悪い? 第30回日本美容外科学会総会・第100回学術集会, 札幌
31. 大谷一弘, 久徳茂雄, 笠井千尋 (2007) 過去10年間の顎口腔底再建と腭骨皮弁合併症例について. 第34回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 福島
32. 畔 熱行, 松島貴志, 菅 豊明, 楠本健司, 日原正勝 (2007) 再接着術後14年目に断端指抹消の血流不全をきたした症例. 第34回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 福島
33. 國吉京子, 楠本健司, 城本 修, 一色信彦 (2007) チューブ発声法による鼻咽腔閉鎖機能改善の試み. 第52回日本音声言語医学会総会・学術集会, 埼玉
34. 國吉京子, 楠本健司, 城本 修, 一色信彦 (2007) 音声治療で用いられているチューブ発声法による鼻咽腔閉鎖機能改善の試み. 第52回日本音声言語医学会総会・学術集会, 所沢
35. 櫛田哲史, 田辺敦子, 笹尾卓史 (2007) 当院形成外科における悪性腫瘍と再建術. 第33回京都医学会, 京都
36. 三宅ヨシカズ, 福田 智, 井口有子, 楠本健司 (2007) 褥瘡ポケットに対するPRP (platelet-rich-plasma) を使用した治療. 第9回日本褥瘡学会, 前橋
37. 小野由美, 山本卓也, 西村紀子, 北川智美, 田中義人, 伊藤文人 (2007) 褥瘡ケアに対するチームアプローチの効果. 難治性褥瘡患者に対する栄養管理の一例. 第9回日本褥瘡学会,

前橋

38. 西村紀子, 北川智美, 小野由美, 田中義人, 伊藤文人 (2007) 褥瘡ケアに対するチームアプローチの効果 OWT中の治癒遷延症例を通して. 第9回日本褥瘡学会, 前橋
39. 久徳茂雄, 畔 熱行, 大谷一弘, 笠井千尋, 西川智文 (2007) 眼球運動制限を残した頭蓋底眼窩部骨折の3例. 第19回日本頭蓋底外科学会, 東京
40. 菅 豊明, 松島貴志, 楠本健司, 王 毅彪, 日原正勝 (2007) bFGF含有人工真皮, ポリウレタンフィルムドレッシングを用いた指尖部の治療の工夫. 第25回大阪マイクロサージャリー研究会, 大阪
41. 山下理絵, 蔦 幸子, 安斎浩子 (2007) 美容医学的皮膚老化の診断 (2) しわ・たるみの評価: 48スコア (しわスコア) の考案. 第7回日本抗加齢医学会総会, 京都
42. 蔦 幸子, 山下理絵, 安斎浩子 (2007) 美容医学的皮膚老化の診断 (1) 機器を用いた美容皮膚ドックの現状. 第7回日本抗加齢医学会総会, 京都
43. 三宅ヨシカズ, 福田 智, 井口有子, 楠本健司 (2007) PRP (platelet-rich plasma: 多血小板血漿) 瘻孔内挿入療法にて治癒した症例. 第25回日本臨床皮膚外科学会, 東京
44. 久徳茂雄, 畔 熱行, 笠井千尋, 浅井 悌, 松浪勝俊, 松尾吉郎 (2007) 当院における過去5年間高齢者熱傷症例の検討. 第33回日本熱傷学会総会・学術集会, 金沢
45. 福田 智, 三宅ヨシカズ, 井口有子, 大西早百合, 下間亜由子, 楠本健司 (2007) 多/小血小板血漿 (PRP/PPP) 療法による創傷治療. 第33回日本熱傷学会総会・学術集会, 金沢
46. 久徳美樹, 井上唯史, 楠本健司, 南方竜也, 井口有子 (2007) 大学病院における形成外科医の使命—3例の難治例を通して. 第88回日本形成外科学会関西支部学術集会, 岸和田
47. 櫛田哲史, 竹本剛司, 上坂達郎, 浅井昭雄, 楠本健司 (2007) 眼球突出と骨吸収を呈した眼窩内血腫の1例. 第88回日本形成外科学会関西支部学術集会, 岸和田
48. 光井俊人, 下間亜由子, 堀尾 修, 南方竜也, 三宅省吾, 覚道奈津子 (2007) 両足趾重度凍傷の1例. 第88回日本形成外科学会関西支部学術集会, 岸和田
49. 三宅ヨシカズ, 井口有子, 福田 智, 楠本健司 (2007) PRP (多血小板血漿) 瘻孔内挿入療法にて治癒した座骨部褥創の1例. 第88回日本形成外科学会関西支部学術集会, 岸和田
50. 山本 純, 鈴木健司, 下間亜由子 (2007) 出産を契機に発生した腹壁デスマイド腫瘍の1例. 第88回日本形成外科学会関西支部学術集会, 岸和田
51. 田辺敦子, 櫛田哲史, 笹尾卓史 (2007) 術後性口腔鼻腔瘻の再建2症例の経験. 第88回日本形成外科学会関西支部学術集会, 岸和田
52. 藤井ゆず子, 田中義人, 伊藤文人 (2007) 多発転移を認めた乳房外Paget癌の一例. 第88回日本形成外科学会関西支部学術集会, 岸和田
53. 瀬野敏孝, 稲垣隆介, 久徳茂雄, 川口琢也, 大石哲也, 山原崇弘, 龍 堯志, 上坂達郎, 山内康雄, 河本圭司 (2007) 軽度狭頭症の治療適応に関する検討. 第35回日本小児神経外科学会, 千葉
54. 福田 智, 井口有子, 三宅ヨシカズ, 大西早百合, 下間亜由子, 楠本健司 (2007) 多血小板血漿 (PRP) を用いた種々の創傷治療. 第5回OWH (Osaka Wound Healing) 研究会, 大阪
55. 萩尾藤江, タミー木村, 楠本健司, 山本一郎, 國吉京子, 日比野英子 (2007) 成人唇裂・口蓋裂患者に対する化粧の心理的効果 (第2報). 第31回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 草津
56. 伊藤文人, 田中義人, 藤井ゆず子 (2007) 頭髮部手術時における頭髮処理の工夫. 第50回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京
57. 井口有子, 福田 智, 三宅ヨシカズ, 大西早百合, 楠本健司 (2007) 当院における難治性潰瘍に対する治療戦略. 第50回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京
58. 下間亜由子, 楠本健司, 山本一郎, 堀尾 修 (2007) 非接触光学式動作解析システムによるsmile時の口唇運動の記録と解析. 第50回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京
59. 覚道奈津子, 小川 豊, 下間亜由子, 楠本健司 (2007) 過去19年間に経験した基底細胞癌の統計学的検討. 第50回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京

60. 久徳茂雄, 畔 熱行, 稲垣隆介, 山内康雄 (2007) 頭蓋拡大のための骨延長法と従来法の適応について. 第50回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京
61. 三宅省吾, 覚道奈津子, 櫛田哲史, 下間亜由子, 楠本健司 (2007) 多発性基底細胞癌2例の検討. 第50回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京
62. 山下理絵, 葛 幸子, 一氏俊世, 酒井 規, 松末武雄, 近藤謙司, 内沼栄樹 (2007) しわ・たるみの評価方法: 40 スコア (しわスコア) の考案. 第50回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京
63. 山下理絵, 葛 幸子, 一氏俊世, 酒井 規, 松末武雄, 近藤謙司, 内沼栄樹 (2007) レーザー・IPLによる脱毛治療効果の比較検討 (第1報). 第50回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京
64. 菅 豊明, 松島貴志, 王 毅彪, 日原正勝, 楠本健司 (2007) bFGF含有人工真皮, ナイロンフィルムドレッシングを用いた指尖部切断損傷の治療についての検討. 第50回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京
65. 竹本剛司, 櫛田哲史, 楠本健司 (2007) 当科における母状血管腫の臨床的検討. 第50回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京
66. 鈴木健司, 山本 純, 下間亜由子, 楠本健司 (2007) 眼瞼下垂症に対する前頭筋吊り上げ術の比較検討. 第50回日本形成外科学会総会・学術集会, 東京
67. 福田 智, 井口有子, 三宅ヨシカズ, 大西早百合, 下間亜由子, 楠本健司 (2007) 多血小板血漿 (PRP) 療法による創傷治療. 第13回ケロイド・肥厚性瘢痕研究会, 東京
68. 井上唯史, Frederik Z-N, 楠本健司 (2007) 眼窩内腫瘍を呈した LESA (lymphoepithelial sialoadenitis) の1例. 第18回眼瞼・義眼床手術研究会, 京都
69. 久徳茂雄, 畔 熱行, 笠井千尋, 藤里香利 (2007) 顔面血管腫皮弁術後眼瞼非対称例のその後, と眼窩内腫瘍に対する眼窩骨切りによる手術5例について. 第18回眼瞼・義眼床手術研究会, 京都
70. 笹尾卓史, 田辺敦子 (2007) 外傷性上眼瞼組織欠損症例の再建方法について. 第18回眼瞼・義眼床手術研究会, 京都
71. 光井俊人, 三宅省吾, 覚道奈津子, 南方竜也, 堀尾 修, 下間亜由子, 楠本健司, 中谷壽男 (2007) 当院における過去5年間60歳以上の重症熱傷検討. 第15回日本熱傷学会近畿地方会, 東大阪
72. 畔 熱行, 久徳茂雄, 浅井 梯, 松浪勝俊 (2007) シンナー引火熱傷に対して早期植皮を行った2例. 第15回日本熱傷学会近畿地方会, 東大阪

著 書

1. 楠本健司, 山本一郎, 國吉京子 (2007) 唇裂・口蓋裂例の顎裂に対する骨移植術—手術治療と歯科矯正治療・構音治療の私たちの連携—. ひととことばの臨床41-47頁, 法蔵館, 京都
2. 國吉京子, 楠本健司 (2007) 口蓋形成術後の構音指導におけるば行音 [p] 習得の意味の考察. ひととことばの臨床48-54頁, 法蔵館, 京都
3. 楠本健司 (2007) 顔面骨骨折・頬骨骨折外傷形成外科 (安瀬正紀監, 菅又 章編) 45-53頁, 克誠堂出版, 東京
4. 楠本健司, 久保伸夫 (2007) 顔面骨骨折・眼窩内側壁骨折. 外傷形成外科62-69頁, 克誠堂出版, 東京

皮膚科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Hayami J, Okamoto H, Sugihara A and Horio T (2007) Immunosuppressive effects of photodynamic therapy by topical aminolevulinic acid.

J Dermatol 34: 320-327

2. 泉川美和, 堀尾 武 (2007) ロキソプロフェンナトリウム外用の安全性 光感作性の検討. Prog Med 27: 635-638
3. 岡本祐之 (2007) 【サルコイドーシスの基礎と

臨床Up-to-Date】サルコイドーシスの臓器病変
診断と治療 皮膚病変, 呼吸器科 12: 432-
437

4. 岡本祐之 (2007) 光生物学と皮膚疾患 光免疫学, 日皮会誌 117: 2196-2197
5. 岡本祐之 (2007) 【皮膚科薬剤使用のポイント最近 10 年間の進歩】ジェネリックの問題点 抗生物質, 皮膚臨床 49: 1283-1291
6. 筋師彩子, 水野可魚, 山本典雅, 岡本祐之, 堀尾 武 (2007) 塩酸エペリゾン (ミオナール) による nonpigmenting fixed drug eruption. 臨皮 61: 788-790, HYOSHI

総 説

1. Horio T, Miyauchi-Hashimoto H, Kuwamoto K, Yamazaki F and Okamoto H (2007) Photobiological information obtained from XPA gene-deficient mice. Photochem Photobiol 83: 218-224

症例報告

1. 村江美保, 為政大幾, 堀尾 武 (2007) Infantile digital fibromatosis の4症例. 日小児皮会誌 26: 43-47
2. 松尾智央, 堀尾 武, 堀口裕治 (2007) 内服 PUVA療法が著効した丘疹-紅皮症の1例. 皮膚の科学 6: 595-599
3. 山中滋木, 為政大幾, 堀尾 武, 石崎守彦, 川口雄才, 横井 崇, 中井邦久, 植村芳子 (2007) 皮膚浸潤を来した Burkitt lymphoma の1例. 皮膚の科学 6: 352-356
4. 松尾智央, 堀尾 武 (2007) 緑膿菌性毛包炎の母娘例. 皮膚の科学 6: 284-287
5. 村江美保, 為政大幾, 堀尾 武, (2007) 臀部に生じた Cutaneous Ciliated Cyst. 皮膚の科学 6: 271-274
6. 村江美保, 為政大幾, 堀尾 武, 梅原英人, 岡崎和一 (2007) 腎平滑筋肉腫の多発皮膚転移例. 皮膚の科学 6: 154-158
7. 山中滋木, 堀尾 武, 植村芳子, 石田高明, 西山利正 (2007) マンソン孤虫症の1例. 皮膚の科学 6: 38-43
8. 村江美保, 岡本祐之, 堀尾 武 (2007) ストレプトマイシンによる接触蕁麻疹. 皮膚の科

学 6: 22-25

学会発表

1. 北條友里子, 水野可魚, 加藤典子, 藤川彩香, 岡本祐之 (2007) A case of angiosarcoma following surgery for congenital dislocation of the hip joint. 第15回日韓合同皮膚科学会, 済州島
2. 野田佳織, 大江秀一, 堀尾 武, 岡本祐之 (2007) キャベツと小麦によるアナフィラキシーの1例. 第37回日本皮膚アレルギー学会, 名古屋
3. 大澤 学, 大江秀一, 為政大幾, 岡本祐之 (2007) 黄桃による FDEIA の1例. 第404回日本皮膚科学会大阪地方会, 奈良
4. 加藤典子, 水野可魚, 池田香織, 佐々木浩子, 太田安紀, 杉原 昭, 岡本祐之 (2007) パーマ前処理剤の成分である加水分解小麦による接触性蕁麻疹の1例. 皮膚アレルギー学会, 名古屋
5. 玖 貴司, 山崎文和, 鷹巢晃昌, 四方伸明, 螺良愛郎 (2007) 軀幹部皮膚に多発性丘疹をみた1例. 第39回日本病理学会近畿支部学術集会, 京都
6. 野田佳織, 加藤典子, 水野可魚, 山崎文和, 杉原 昭, 大山文悟, 橋本 隆, 岡本祐之 (2007) 疥癬患者に合併した抗p200類天疱瘡. 第29回水疱症研究会, 岡山
7. 太田 馨, 為政大幾, 岡本祐之, 上津直子 (2007) 右母指爪甲下に生じた superficial acral fibromyxoma. 第58回日本皮膚科学会中部支部学術大会総会, 京都
8. 野田佳織, 山崎文和, 諏訪 梓, 水野可魚, 杉原 昭, 藤井弘史, 岡本祐之 (2007) 右膝部人工血管周囲膿瘍の1例. 第58回日本皮膚科学会中部支部学術大会総会, 京都
9. 加藤典子, 水野可魚, 岡本祐之 (2007) ヒトパルボウイルス (HPV) B19感染症を併発したと考えられた全身性エリテマトーデス. 第71回東部支部学術大会, 札幌
10. 光井千慧, 為政大幾, 岡本祐之, 堀尾 武 (2007) 筋肉内に腫瘤を生じ高Ca血症を呈した成人T細胞白血病リンパ腫. 第100回近畿皮膚科集談会, 大阪
11. 藤川彩香, 上津直子, 岡本祐之 (2007) 広範

- 囲作用波長と増強波長を認めた日光蕁麻疹. 第100回近畿皮膚科集談会, 大阪
12. 為政大幾, 梅原真紀子, 野田佳織, 岡本祐之 (2007) Fibrous hamartoma of infancy の一例. 第31回日本小児皮膚科学会, 福岡
 13. 太田安紀, 水野可魚, 岡本祐之 (2007) Erosive pustular dermatosis of the scalp following cryotherapy for solar keratosis. 第15回日韓合同皮膚科学会, 済州島
 14. 岩阪浩志, 為政大幾, 足立由香, 大江秀一, 山中滋木, 堀尾 武, 池田大助 (2007) 臀部慢性膿皮症に生じた高Ca血症を伴った有棘細胞癌. 第23回日本皮膚悪性腫瘍学会, 新潟
 15. 為政大幾, 山崎文和, 梅原真紀子, 岡本祐之, 遠藤由紀子 (2007) 頭部に生じた巨大な隆起性皮膚線維肉腫の1例. 第401回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪
 16. 岩阪浩志, 足立由香, 堀尾 武 (2007) Tufted hair を形成した禿髪性毛包炎の2例. 第106回日本皮膚科学会総会, 横浜
 17. 加藤典子, 水野可魚, 岡本祐之, 石井文人, 橋本 隆, 堀尾 武 (2007) 尋常性乾癬に合併した抗p200類天疱瘡. 第106回日本皮膚科学会総会, 横浜
 18. 松尾智央, 足立由香, 堀尾 武 (2007) 内服PUVA療法が著効したリンパ腫様丘疹症の2例. 第106回日本皮膚科学会総会, 横浜
 19. 村江美保, 為政大幾, 堀尾 武 (2007) 臀部に生じたcutaneous ciliated cyst. 第106回日本皮膚科学会総会, 横浜
 20. 太田安紀, 水野可魚, 大江秀一, 為政大幾, 岡本祐之, 堀尾 武 (2007) Persistent serpentine supravenuous hyperpigmented eruption の3例. 第106回日本皮膚科学会総会, 横浜
 21. 大澤 学, 為政大幾, 岡本祐之 (2007) 副乳に発生した乳腺線維腺腫. 第58回日本皮膚科学会中部支部学術大会総会, 京都
 22. 足立由香, 堀尾 武 (2007) ATLL患者に発症したchronic actinic dermatitis. 第400回大阪地方会, 大阪

著 書

1. 岡本祐之 (2007) 光免疫抑制 (紫外線がもたらす免疫抑制). 皮膚科診療プラクティス20: Environmental Dermatology; 環境・職業からみた皮膚疾患 (戸倉新樹, 宮地良樹, 瀧川雅浩編) 1: 48-56頁, 文光堂, 東京

泌尿器科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Shimizu Y, Segawa T, Inoue T, Shiraishi T, Yoshida T, Toda Y, Yamada T, Kinukawa N, Terada N, Kobayashi T, Kinoshita H, Kamoto T, Nakamura E and Ogawa O (2007) Increased Akt and phosphorylated Akt expression are associated with malignant biological features of prostate cancer in Japanese men. BJU Int 100: 685-690
2. Howles C-M, Tanaka T and Matsuda T (2007) Management of male hypogonadotrophic hypogonadism. Endocr J 54: 177-190
3. Kinoshita H, Kamoto T, Nishiyama H, Nakamura E, Matsuda T and Ogawa O (2007) Prostate specific antigen nadir determined using ultra-sensitive prostate specific antigen as a predictor of biochemical progression after radical prostatectomy in Japanese males. Int J Urol 14: 930-934
4. Shimada O, Wu X, Jin X, Nouh MA, Fiscella M, Albert V, Matsuda T and Kakehi Y (2007) Human agonistic antibody to tumor necrosis factor-related apoptosis-inducing ligand receptor 2 induces cytotoxicity and apoptosis in prostate cancer and bladder cancer cells. Urology 69: 395-401
5. 木下秀文, 河 源, 松田公志 (2007) 【膀胱腫瘍に対する新しい手術戦略】腹腔鏡下膀胱部分切除術. Jpn J Endourol ESWL 20: 32-37
6. 松田公志 (2007) 【男性不妊症 不妊症夫婦の願いを達成するために今なにをすべきか】男性不妊症の疫学と診療方針. Mod Physician

27: 1583-1585

7. 松田公志 (2007) 【泌尿器科疼痛対策】疼痛軽減を考慮した術式の工夫 腹腔鏡手術における疼痛対策. Urol View 5: 52-55
8. 木下秀文, 松田公志 (2007) 【尿路再建術を検証する】腸管利用代用膀胱における逆流防止機構. Urol View 5: 24-29
9. 松田公志, 日浦義仁, 森本義晴 (2007) 【不妊症 臨床と研究の最前線】男性不妊症 非閉塞性無精子症の治療. 医のあゆみ 223: 74-77
10. 日浦義仁, 松田公志 (2007) 【男性不妊症の原因となる思春期からの問題点】閉塞性無精子症. 思春期学 25: 310-314
11. 松田公志 (2007) 【腎疾患診療におけるセーフティマネージメント】泌尿器内視鏡手術における危機安全管理. 腎と透析 63: 347-352
12. 松田公志 (2007) 男性不妊症診療の現状と課題. 医事新報 4329: 66-70
13. 日浦義仁, 六車光英, 地崎竜介, 木下秀文, 松田公志 (2007) 小児期鼠径ヘルニア手術後の精管閉塞に対する精路再建術の検討. 日産婦内視鏡会誌 23: 67-69
14. 木下秀文, 松田公志 (2007) 【前立腺癌 基礎・臨床研究のアップデート】臨床研究 治療外科治療 術後再発の諸問題 前立腺癌の生化学的再発 (PSA再発) と高感度PSA測定法. 日臨 65: 361-365
15. 大口尚基, 吉田健志, 井上貴昭, 河 源, 木下秀文, 嘉村康邦, 山口 脩, 松田公志 (2007) 子宮全摘術後の腔断端脱に対する腹腔鏡下腔仙骨固定術の初期9例の経験. 泌紀 53: 467-471
16. 松田公志 (2007) 【Editorial Comment】男性更年期障害の重症度分類による男性ホルモン軟膏の治療効果の検討. 泌紀 53: 29
17. 木下秀文, 増田朋子, 大口尚基, 日浦義仁, 河 源, 松田公志 (2007) 前立腺生検の陽性本数と全摘除術標本における前立腺腫瘍容積の関係. 泌外 20: 995-997
18. 渡邊仁人, 松田公志 (2007) 【腎細胞癌診療の新しい展開】腎癌における腹腔鏡手術の役割. 臨泌 61: 291-295

総 説

1. Oguchi N, Yoshida K, Kinoshita H and Matsuda T (2007) Laparoscopic sacrocolpopexy for vaginal vault prolapse. EASE 10: 188-190
2. Matsuda T (2007) Training and certification of urologic laparoscopic surgery in Japan. EASE 10: 128-135
3. 河 源, 松田公志 (2007) 【ホルモン補充療法 Up-to-date】男性ホルモン補充療法の実際. Clin Calcium 17: 1414-1418
4. 松田公志, 日浦義仁 (2007) 【男性不妊症 不妊症夫婦の願いを達成するために今なにをすべきか】精管精管吻合術. Mod Physician 27: 1640-1643
5. 日浦義仁 (2007) 【男性不妊症 不妊症夫婦の願いを達成するために今なにをすべきか】無精子症の診断. Mod Physician 27: 1637-1639

症例報告

1. 坂口雄沢, 榎 政彦, 足立 靖, 山本奈恵, 植村芳子, 川喜多繁誠, 鷹巣晃昌, 岡崎和一, 松田公志, 池原 進 (2007) 前立腺原発小細胞癌の1剖検例. 診断病理 24: 93-96
2. 山本奈恵, 木下秀文, 井上貴昭, 川喜多繁誠, 大口尚基, 六車光英, 河 源, 坂口雄沢, 足立 靖, 坂井田紀子, 植村芳子, 松田公志 (2007) 内分泌療法中に小細胞癌に脱分化した前立腺癌の1例. 泌紀 53: 665-669
3. 谷口久哲, 三島崇生, 内田潤二, 木下秀文 (2007) 神経線維腫症I型患者に合併した後腹膜悪性神経鞘腫瘍の1例. 泌紀 53: 619-621
4. 吉田健志, 木下秀文, 谷口久哲, 地崎竜介, 西田晃久, 川喜多繁誠, 日浦義仁, 大口尚基, 河 源, 六車光英, 松田公志 (2007) 慢性骨髄性白血病に併発した持続勃起症の1例. 泌紀 53: 323-325
5. 吉田健志, 木下秀文, 谷口久哲, 地崎竜介, 西田晃久, 日浦義仁, 大口尚基, 河 源, 六車光英, 松田公志, 坂井田紀子, 植村芳子 (2007) Low grade, low stage であったペリニ管癌の1例. 泌紀 53: 121-124

学会発表

1. Mishima T, Matsuda T, Watanabe M, Kawa G,

- Kinoshita H and Sekino N (2007) Development of multifunction footswitch controller. The East Asian Society Endourology 2007 Meeting in conjunction with Hong Kong Urological Association Annual Scientific Meeting, Hong Kong
2. Matsuda T, Ono Y, Baba S, Iwamura M, Terachi T, Naito S, Hattori R and McDougall E (2007) Construct validity of Lap-Mentor, a virtual reality simulator: positive correlation between the motion analysis data and video tape assessment of real laparoscopic surgeries. The 19th International Conference of Society for Medical Innovation and Technology, 仙台
3. Matsuda T, Taniguchi H and Kawa G (2007) QOL of Patients with LOH: Effects of ART. 第7回日本Men's Health医学会, 加賀
4. Taniguchi H, Kawa G, Kinoshita H and Matsuda T (2007) Analysis of changes in QOL of patients with late-onset hypogonadism patients receiving androgen replacement therapy. 第7回日本Men's Health医学会, 加賀
5. Matsuda T (2007) Laparoscopic training and certification system in Japan. 25th World Congress of Endourology • SWL, Cancún
6. Matsuda T, Watanabe M and Sekino N (2007) Development of multifunction footswitch controller. 25th World Congress of Endourology • SWL, Cancún
7. Watanabe M and Matsuda T (2007) Early experience and learning curve associated with retroperitoneal laparoscopic upper pole heminephrectomy. 25th World Congress of Endourology • SWL, Cancún
8. Matsuda T (2007) Endoscopic surgical skill qualification system. Taiwan Urological Association, Taipei
9. Elspeth M McDougall and Matsuda T (2007) The current state-of-the-art in the use of simulators. Aua Annual Meeting, Anaheim
10. Eric R Sargent, Geoffrey N Box, Peter D Vlaovic, Tadashi Matsuda, Federico Corica, John R Boker, James F Borin, Yoshinari Ono, Ralph V Clayman and Elspeth M McDougall (2007) Construct and predictive validity testing of the lapmentor(tm) laparoscopic surgical simulator. Aua Annual Meeting, Anaheim
11. Matsuda T (2007) Laparoscopic training in Japan. Korean Urological Association (KUA) 2007 Spring Meeting, Daegu
12. Matsuda T (2007) Laparoscopic partial nephrectomy: Bleeding control on the parenchymal defect by suturing. The East Asian Society Endourology 2007 Meeting in conjunction with Hong Kong Urological Association Annual Scientific Meeting, 香港
13. 井上貴昭, 佐藤仁彦, 森井英一 (2007) 陰茎に発生した神経鞘腫の1例. 第201回日本泌尿器科学会関西地方会, 大阪
14. 原田二郎, 山本奈恵, 渡邊仁人, 日浦義仁, 木下秀文, 松田公志 (2007) 両側副腎褐色細胞腫に対して一期的腹腔鏡下左副腎全摘右副腎部分切除を行った1例. 第201回日本泌尿器科学会関西地方会, 大阪
15. 佐藤 尚, 山本奈恵, 六車光英, 平塚拓也, 三島崇生, 松田公志 (2007) 副腎血管肉腫の1例. 第201回日本泌尿器科学会関西地方会, 大阪
16. 木下秀文, 原田二郎, 小寺知揮, 大口尚基, 河源, 松田公志 (2007) 再燃前立腺癌に対するタキソテル療法の初期経験. 第23回前立腺シンポジウム, 東京
17. 松田公志 (2007) 泌尿器腹腔鏡手術: 技術認定取得をめざして. 第32回福岡佐賀泌尿器科手術手技研究会, 大阪
18. 大口尚基 (2007) 女性尿失禁の薬物療法. 第3回北大阪排尿障害フォーラム, 大阪
19. 河 源, 原田二郎, 渡邊仁人, 日浦義仁, 大口尚基, 木下秀文, 松田公志 (2007) 開放手術への転換を要した後腹膜のアプローチ下腎尿管手術の3例. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 仙台
20. 三島崇生, 木下秀文, 河 源, 松田公志 (2007) 腹腔鏡下手術にて治療を行った尿膜管疾患の3例. 第20回日本内視鏡外科学会総会, 仙台
21. 松田公志 (2007) 泌尿器科腹腔鏡下技術認定. 第21回日本Endourology・ESWL学会総会, 東京
22. 増田朋子, 木下秀文, 谷口久哲, 渡邊仁人, 河源, 松田公志 (2007) HoLEP初期20例の検討.

- 第21回日本Endourology・ESWL学会総会, 東京
23. 大口尚基, 吉田健志, 三島崇生, 谷口久哲, 河源, 木下秀文, 松田公志 (2007) 子宮全摘術後の腔脱に対する腹腔鏡下膣仙骨固定術の検討. 第21回日本Endourology・ESWL学会総会, 東京
24. 渡邊仁人, 増田朋子, 地崎竜介, 吉田健志, 日浦義仁, 大口尚基, 六車光英, 室田卓之, 木下秀文, 松田公志 (2007) 前立腺全摘術における術後成績の検討. 第21回日本Endourology・ESWL学会総会, 東京
25. 木下秀文, 河源, 大口尚基, 松田公志 (2007) 腹腔鏡下腎部分切除術における腎実質の連続縫合の意義. 第21回日本Endourology・ESWL学会総会, 東京
26. 徳本隆博, 増田朋子, 河源, 六車光英, 室田卓之, 木下秀文, 松田公志 (2007) 腹腔鏡下両側副腎摘除術を施行した Carney Complex の1例. 第57回日本泌尿器科学会中部総会, 奈良
27. 河源, 谷口久哲, 松田公志 (2007) 男性更年期外来受診患者における性機能とホルモン補充療法による変化. 第57回日本泌尿器科学会中部総会, 奈良
28. 原田二郎, 木下秀文, 増田朋子, 日浦義仁, 大口尚基, 河源, 松田公志 (2007) 再燃前立腺癌に対するタキソテル療法の治療効果. 第57回日本泌尿器科学会中部総会, 奈良
29. 三島崇生, 大口尚基, 吉田健志, 河源, 木下秀文, 松田公志 (2007) 当科における TVM (Tension-free vaginal mesh) 手術の成績. 第57回日本泌尿器科学会中部総会, 奈良
30. 松田公志 (2007) 腎癌の外科手術: 腹腔鏡手術. 第57回日本泌尿器科学会中部総会, 奈良
31. 川喜多繁誠, 杉素彦, 島田治, 矢西正明, 福井勝也, 室田卓之, 志賀淑子, 播磨洋子, 木下秀文, 松田公志 (2007) 関西医科大学滝井病院における限局性前立腺癌に対する I-125 密封小腺源永久挿入治療の初期経験. 第57回日本泌尿器科学会中部総会, 奈良
32. 渡邊仁人, 増田朋子, 河源, 六車光英, 室田卓之, 木下秀文, 松田公志 (2007) 前立腺全摘除術における術後成績の臨床的検討. 第57回日本泌尿器科学会中部総会, 奈良
33. 松田公志 (2007) 泌尿器腹腔鏡手術: 技術認定と基本手技. 東京女子医科大学腎泌尿器癌研究会, 東京
34. 松田公志 (2007) 腎癌に対する腹腔鏡手術—手術手技とエビデンス—. 第10回奈良県医師会泌尿器科部会分科会奈良県腎腫瘍研究会, 奈良
35. 馬場真有美, 岡田英孝, 川畑仁美, 下井華代, 宮城博恵, 小野淑子, 松岡進, 安田勝彦, 日浦義仁, 松田公志, 神崎秀陽 (2007) 不妊症検査や治療を受けている女性の意識調査. 第52回日本生殖医学会, 秋田
36. 日浦義仁, 六車光英, 松田公志, 辻陽子, 赤松芳恵, 森本義晴 (2007) 無精子症に対する TESE-ICSI の検討. 第52回日本生殖医学会総会・学術講演会, 秋田
37. 馬場真有美, 岡田英孝, 川畑仁美, 下井華代, 宮城博恵, 小野淑子, 松岡進, 安田勝彦, 日浦義仁, 松田公志, 神崎秀陽 (2007) 不妊症検査や治療を受けている女性の意識調査. 第52回日本生殖医学会総会・学術講演会, 秋田
38. 六車光英, 地崎竜介, 佐藤仁彦, 日浦義仁, 松田公志 (2007) 精巣固定術により射出精子が出現した両側停留精巣による無精子症の1例. 第52回日本生殖医学会総会・学術講演会, 秋田
39. 松田公志 (2007) 男性の更年期障害. 神戸薬科大学 第33回卒後教育講座 (CEP), 神戸
40. 松田公志 (2007) 男性更年期障害患者の QOL: ART の効果. 第4回泌尿器疾患フォーラム, 札幌
41. 檀野祥三, 日浦義仁, 松田公志 (2007) Sildenafil 使用患者に対する新規 Vardenafil 投薬の有効性の検討. 日本性機能学会 第18回学術総会/第18回西部学術総会, 岡山
42. 松田公志 (2007) 泌尿器腹腔鏡手術: 開発から技術認定まで. 11th Kongoh Urology Conference, 堺
43. 松田公志 (2007) 女性尿失禁・性器脱に対する手術療法. 第4回茨城県排尿障害セミナー, つくば
44. 松田公志 (2007) 【早期腎癌の治療】腹腔鏡手術. 第34回尿路悪性腫瘍研究会, 東京
45. 河源, 西川隆介, 谷口久哲, 日浦義仁, 木下秀文, 松田公志 (2007) 健康中年男性にお

- けるテストステロンとメタボリックシンドローム関連因子に関する検討. 日本アンドロロジー学会第26回学術大会/第12回精子形成・精巣毒性研究会, 千葉
46. 日浦義仁, 六車光英, 松田公志, 井上貴昭, 佐藤仁彦 (2007) ICSIの現在・過去・未来. 日本アンドロロジー学会第26回学術大会/第12回精子形成・精巣毒性研究会, 千葉
 47. 松田公志 (2007) 泌尿器腹腔鏡手術: 技術認定で求められる基本手技を中心に. Organon Framingham Forum, 東京
 48. 河 源, 谷口久哲, 日浦義仁, 木下秀文, 松田公志 (2007) 男性更年期障害評価用質問紙からみた健康中年男性の性機能についての検討. 第17回日本性機能学会中部総会, 福井
 49. 松田公志 (2007) 男性更年期障害とED. 第17回日本性機能学会中部総会, 福井
 50. 三島崇生, 大口尚基, 河 源, 木下秀文, 松田公志 (2007) 根治手術施行後に傍大動脈リンパ節の腫脹と消退をくり返した膀胱癌N2症例の1例. 第199回日本泌尿器科学会関西地方会, 兵庫
 51. 中川雅之, 吉田浩志, 田上英毅, 岡村基弘, 上田朋宏 (2007) 若年成人の膀胱腫瘍の1例. 第199回日本泌尿器科学会関西地方会, 兵庫
 52. 松田公志 (2007) 腹腔鏡下左副腎摘除術 (経腹膜到達法). 第2回泌尿器腹腔鏡ビデオ講習会, 大阪
 53. 松田公志 (2007) 泌尿器腹腔鏡手術: 基本手技と技術認定. 第3回徳島泌尿器腹腔鏡手術フォーラム, 徳島
 54. 松田公志 (2007) 男性更年期障害～何がどこまでわかったのか. 男性更年期障害セミナー, 青森
 55. 井上肇一, 中橋佳嗣, 松本隆之, 池田広記, 宮崎浩彰, 廣原淳子, 関 寿人, 岡崎和一, 山本奈恵, 植村芳子 (2007) 施術4年後に肝・骨転移を来した悪性副腎外褐色細胞腫の1例. 第182回日本内科学会近畿地方会, 大阪
 56. 山本奈恵, 井上貴昭, 吉田健志, 増田朋子, 地崎竜介, 渡邊仁人, 川喜多繁誠, 日浦義仁, 大口尚基, 河 源, 木下秀文, 松田公志 (2007) 再発に対しCVD療法が有効であった副腎外悪性褐色細胞腫の1例. 第19回日本内分泌外科学会総会, 名古屋
 57. 津田 望, 宮田由紀子, 石村由香, 居内広美, 佐藤紀子, 中須税子, 室田卓之, 大口尚基, 松田公志 (2007) 膀胱全摘術患者の手術および術後せん妄に関する検討. 第20回日本老年泌尿器科学会, 長崎
 58. 大口尚基 (2007) 過活動膀胱の診断と治療. 布施産婦人科医会学術講演会, 大阪
 59. 松田公志 (2007) 男性不妊症: 自然妊娠をめざした治療指針. 第27回日本医学会総会, 大阪
 60. 伊藤将彰, 福井勝一, 小倉啓司, 長船 崇 (2007) ウロマチック粘膜下注入+ロッジ電極によるen bloc TUR-Bt. 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
 61. 井上貴昭, 佐藤仁彦, 大口尚基, 河 源, 地崎竜介, 室田卓之, 木下秀文, 松田公志 (2007) 腹腔鏡手術における合併症の臨床的評価. 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
 62. 河 源, 巽 一啓, 松田公志 (2007) 男性更年期障害の治療選択とその問題点. 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
 63. 河 源, 巽 一啓, 木下秀文, 松田公志 (2007) 関西医科大学男性更年期外来における臨床統計. 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
 64. 河 源, 木下秀文, 松田公志 (2007) 腹腔鏡下腎盂形成術 (後腹膜アプローチ). 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
 65. 乾 秀和, 山本奈恵, 吉田健志, 増田朋子, 地崎竜介, 渡邊仁人, 日浦義仁, 大口尚基, 河 源, 木下秀文, 松田公志 (2007) 重複腎盂尿管に対する後腹膜鏡下手術の工夫. 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
 66. 岩本晃明, 吉池美紀, 中目真理子, 野澤資重利, 並木幹夫, 松田公志 (2007) 精索静脈瘤手術療法の有効性評価のための臨床研究—参加施設の精液検査—Quality controlの成績—. 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
 67. 吉田健志, 大口尚基, 河 源, 木下秀文, 松田公志 (2007) 下部尿路症状に対する干渉低周波刺激療法のQOL調査. 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
 68. 駒井資弘, 藤元博行, 込山元清, 西山直隆, 小泉文人, 根岸孝仁 (2007) 間歇的ホルモン療法の成績. 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸

69. 込山元清, 藤元博行, 前田哲雄, 根岸孝仁, 小泉文人, 駒井資弘, 西山直隆 (2007) Carbon-11-cholin PET/MRI を用いた前立腺癌の局在診断の検討. 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
70. 根岸孝仁, 藤元博行, 岡島英二郎, 込山元清, 西山直隆, 駒井資弘, 小泉文人 (2007) 局所前立腺癌に対する広汎前立腺全摘単独療法の短期成績. 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
71. 小泉文人, 根岸孝仁, 駒井資弘, 西山直隆, 込山元清, 岡島英二郎, 松岡直樹, 藤元博行 (2007) High risk膀胱癌における膀胱温存療法後の再発時期の検討. 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
72. 小倉啓司, 伊藤将彰, 福井勝一, 西沢恒二, 小林 恭, 雑賀興慶 (2007) 腎癌組織におけるPyNPase (pyrimidine nucleoside phosphorylase) およびDPD (dihydropyrimidine dehydrogenase) 活性の検討. 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
73. 松田公志 (2007) 腹腔鏡下前立腺全摘除術: 後腹膜到達法における膀胱頸部剥離と膀胱尿道吻合を中心に. 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
74. 上田朋宏, 吉田浩士, 中川雅之, 田上英毅, 岡村基弘, 齋藤亮一, 西川信之 (2007) 後腹膜繊維化症に伴う上部尿路通過障害に対するIPD-1151T (Suplatast Tosilate) の治療効果. 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
75. 増田朋子, 木下秀文, 山本奈恵, 吉田健志, 地崎竜介, 乾 秀和, 渡邊仁人, 日浦義仁, 大口尚基, 河 源, 松田公志 (2007) 前立腺多数カ所生検の成績. 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
76. 大口尚基, 吉田健志, 井上貴昭, 河 源, 木下秀文, 松田公志 (2007) 女性性器脱に対する腹腔鏡手術. 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
77. 地崎竜介, 河 源, 六車光英, 木下秀文, 松田公志 (2007) 性同一性障害患者に対するQOL調査. 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
78. 田上英毅, 岡村基弘, 中川雅之, 中田浩士, 上田朋宏, 飛田収一 (2007) 性感染症治療に関する泌尿器科医を対象としたアンケート調査. 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
79. 田中正利, 小野佳成, 松田公志, 寺地敏郎, 鈴木和雄, 馬場志郎, 原 勲, 平尾佳彦 (2007) 診療ガイドライン: 泌尿器腹腔鏡手術. 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
80. 渡邊仁人, 乾 秀和, 福井勝一, 巽 一啓, 増田朋子, 山本奈恵, 地崎竜介, 日浦義仁, 大口尚基, 河 源, 木下秀文, 松田公志 (2007) 重複腎盂尿管に対する後腹膜鏡下半腎摘除術: 当科における3例の経験. 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
81. 木下秀文, 河 源, 松田公志 (2007) 腹腔鏡下膀胱部分切除術. 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
82. 鈴木啓悦, 井上隆朗, 藤澤正人, 三好 進, 松本哲朗, 藤井元廣, 武田正之, 大園誠一郎, 碓井 亜, 公文裕巳, 松田公志, 三木恒治 (2007) 再燃前立腺癌に対するアンチアンドロゲン交替療法の機序と効果. 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
83. 鈴木啓悦, 井上隆朗, 藤澤正人, 三好 進, 松本哲朗, 藤井元廣, 武田正之, 大園誠一郎, 碓井 亜, 公文裕巳, 松田公志, 市川智彦, 三木恒治 (2007) 非ステロイド性アンチアンドロゲン交替療法の臨床的意義—AWSおよび近接効果 (NASA-PC研究会データ第1報). 第95回日本泌尿器科学会総会, 神戸
84. 吉田健志, 地崎竜介, 日浦義仁, 河 源, 木下秀文, 松田公志 (2007) 後天性低ゴナドトロピン性性腺機能低下症の1例. 第132回日本生殖医学会関西支部集談会 第34回関西アンドロロジーカンファレンス, 大阪
85. 木下秀文 (2007) 限局性前立腺癌の治療成績. 第14回近畿前立腺腫瘍研究会, 大阪
86. 山本奈恵 (2007) 再発に対しCVD療法が有効であった副腎外悪性褐色細胞の1例. 第6回KKUC, 大阪
87. 地崎竜介 (2007) 性腺外胚細胞種の1例. 第6回KKUC, 大阪
88. 渡邊仁人, 乾 秀和, 河 源, 木下秀文, 松田公志 (2007) 嚢胞状変化を伴った副腎 adenomatoid tumor の1例. 第198回日本泌尿器科学会関西地方会, 兵庫
89. 福井勝也, 川喜多繁誠, 杉 素彦, 島田 治, 矢西正明, 室田卓之, 松田公志 (2007) 結核

性精巣上体炎の1例. 第198回日本泌尿器科学会関西地方会, 兵庫

90. 山本奈恵 (2007) 術前クォンティフェロン検査が有用であった肺結核合併膀胱癌患者の1例. 第7回北河内泌尿器科懇話会, 大阪
91. 室田卓之 (2007) マイクロターゼを用いた無阻血腎部分切除後の尿漏の1例. 第7回北河内泌尿器科懇話会, 大阪
92. 川端和史 (2007) 治療に難渋した後腹膜腫瘍の1例. 第7回北河内泌尿器科懇話会, 大阪
93. 渡邊仁人 (2007) 腹腔鏡下腎盂形成術: エンドパイエロトミー後の3例. 第26回泌尿器科手術研究会, 大阪
94. 木下秀文 (2007) 腹腔鏡下腎摘出術中両手に持つもの. ユニバーサルデザインはあるか? 第26回泌尿器科手術研究会, 大阪

著書

1. 松田公志 (2007) IV. 副腎/5. 内視鏡下副腎摘除手術のKnack & Pitfalls 3) 経腹膜前方アプローチ. Knack & Pitfalls 内分泌外科の要点と盲点 330-331頁, 文光堂, 東京
2. 松田公志 (2007) 第2章 症候と医療面接. NEW泌尿器科学15-30頁, 南江堂, 東京
3. 松田公志 (2007) 男性不妊症. NEW泌尿器科学 295-298頁, 南江堂, 東京
4. 山本奈恵, 松田公志 (2007) 腹腔鏡手術i外科治療の現状. 原発性アルドステロン症診療マニュアル 135-139頁, 診断と治療社, 東京
5. 松田公志 (2007) 男性不妊症の診断と治療. 産婦人科 専門医にきく最新の臨床 146-149頁, 中外医学社, 東京
6. 松田公志, 日浦義仁 (2007) 男性不妊. 図説よくわかる臨床不妊症学 一般不妊治療編 164-176頁, 中外医学社, 東京
7. 松田公志 (2007) E-4精路再建術. 生殖医療ガイドライン2007 258-261頁, 金原出版株式会社, 東京
8. 岩本晃明, 松田公志 (2007) 男性不妊症の臨床 (岩本晃明, 松田公志編) 1-240頁, メジカルビュー社, 東京
9. 日浦義仁, 松田公志 (2007) V. 男性不妊症の腫瘍疾患と治療/閉塞性無精子症 精管閉塞. 男性不妊症の臨床 131-137頁, メジカルビュー社, 東京
10. 六車光英 (2007) V. 男性不妊症の腫瘍疾患と治療/精索静脈瘤 手術適応と治療効果. 男性不妊症の臨床 155-159頁, メジカルビュー社, 東京
11. 松田公志 (2007) III. 男性不妊症診療のアウトライン. 男性不妊症の臨床 33-39頁, メジカルビュー社, 東京
12. 吉田 修, 塚本泰司, 並木幹夫, 荒井陽一, 松田公志 (2007) 泌尿器腹腔鏡手術 ベーシックテクニック (吉田 修, 塚本泰司, 並木幹夫, 荒井陽一, 松田公志編) 1-336頁, メジカルビュー社, 東京
13. 木下秀文, 河 源, 松田公志 (2007) 小さな腎癌の治療 腎部分切除術: 阻血法. 泌尿器腹腔鏡手術 ベーシックテクニック 219-231頁, メジカルビュー社, 東京
14. 河 源, 松田公志 (2007) 腎盂形成術: 後腹膜到達法. 泌尿器腹腔鏡手術 ベーシックテクニック 278-288頁, メジカルビュー社, 東京

眼科学講座

〈研究業績〉

原著

1. Koike-Kiriyama N, Adachi Y, Minamino K, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Yamada H, Mukaide H, Shigematsu A, Mizokami T, Matsumura M and Ikehara S (2007) Human cord blood cells can differentiate into retinal nerve cells. Acta Neurobiol Exp 67: 359-365
2. Kaneko S, Okuda-Ashitaka E, Ando A, Nishimura K, Igarashi K, Maeda M, Furuta K, Suzuki M, Matsumura M and Ito S (2007) Polyamines upregulate the mRNA expression of cationic amino acid transporter-1 in human retinal pigment epithelial cells. Am J Physiol Cell Physiol

293: C729–C737

3. Yamazaki Y, Matsunaga H, Nishikawa M, Ando A, Kaneko S, Okuda K, Wada M, Ito S and Matsumura M (2007) Senescence in cultured trabecular meshwork cells. *Br J Ophthalmol* 91: 808–811
4. Miki K, Uehara N, Shikata N, Matsumura M and Tsubura A (2007) Poly (ADP-ribose) polymerase inhibitor 3-aminobenzamide rescues N-methyl-N-nitrosourea-induced photoreceptor cell apoptosis in Sprague-Dawley rats through preservation of nuclear factor-kappaB activity. *Exp Eye Res* 84: 285–292
5. Miki K, Yoshizawa K, Uehara N, Yuri T, Matsuoka Y and Tsubura A (2007) PARP inhibitors accelerate N-methyl-N-nitrosourea-induced cataractogenesis in Sprague-Dawley rats. *In Vivo* 21: 739–744
6. Mukaide H, Adachi Y, Koike-Kiriyama N, Suzuki Y, Minamino K, Iwasaki M, Tsuda M, Nakano K, Koike Y, Shigematsu A, Kamiyama Y and Ikehara S (2007) Immunotherapy for malignant tumors using combination of allogeneic intra-bone marrow-bone marrow transplantation, donor lymphocyte infusion and dendritic cells. *Int J Oncol* 30: 1309–1315
7. Kaneko S, Ando A, Okuda-Ashitaka E, Maeda M, Furuta K, Suzuki M, Matsumura M and Ito S (2007) Ornithine transport via cationic amino acid transporter-1 is involved in ornithine cytotoxicity in retinal pigment epithelial cells. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 48: 464–471
8. Kaneko S, Ueda-Yamada M, Ando A, Matsumura S, Okuda-Ashitaka E, Matsumura M, Uyama M and Ito S (2007) Cytotoxic effect of spermine on retinal pigment epithelial cells. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 48: 455–463
9. Koriyama M, Nishimura T, Matsubara T, Taomoto M, Takahashi K and Matsumura M (2007) Prospective study comparing the effectiveness of scleral buckling to vitreous surgery for rhegmatogenous retinal detachment. *Jpn J Ophthalmol* 51: 360–367
10. Ogata N, Matsuoka M, Matsuyama K, Shima C, Tajika A, Nishiyama T, Wada M, Jo N, Higuchi A, Minamino K, Matsunaga H, Takeda T and Matsumura M (2007) Plasma concentration of pigment epithelium-derived factor in patients with diabetic retinopathy. *J Clin Endocrinol Metab* 92: 1176–1179
11. Koike-Kiriyama N, Koike Y, Adachi Y, Mukaide H, Minamino K, Shigematsu A, Kamiyama Y, Matsumura M and Ikehara S (2007) Intra-bone marrow injection of dendritic cells for treatment of malignant tumor in mice. *J Exp Clin Cancer Res* 26: 337–342
12. Shigematsu A, Adachi Y, Koike-Kiriyama N, Suzuki Y, Iwasaki M, Koike Y, Nakano K, Mukaide H, Imamura M and Ikehara S (2007) Effects of low-dose irradiation on enhancement of immunity by dendritic cells. *J Radiat Res* 48: 51–55
13. Matsuoka M, Ogata N, Minamino K and Matsumura M (2007) Leukostasis and pigment epithelium-derived factor in rat models of diabetic retinopathy. *Mol Vis* 13: 1058–1065
14. Tsukamoto R, Mikami T, Miki K, Uehara N, Yuri T, Matsuoka Y, Okazaki K and Tsubura A (2007) N-methyl-N-nitrosourea-induced mammary carcinogenesis is promoted by short-term treatment with estrogen and progesterone mimicking pregnancy in aged female Lewis rats. *Oncol Rep* 18: 337–342
15. Inaba M, Adachi Y, Hisha H, Hosaka N, Maki M, Ueda Y, Koike Y, Miyake T, Fukui J, Cui Y, Mukaide H, Koike N, Omae M, Mizokami T, Shigematsu A, Sakaguchi Y, Tsuda M, Okazaki S, Wang X, Li Q, Nishida A, Ando Y, Guo K, Song C, Cui W, Feng W, Katou J, Sado K, Nakamura S and Ikehara S (2007) Extensive studies on perfusion method plus intra-bone marrow-bone marrow transplantation using cynomolgus monkeys. *Stem Cells* 25: 2098–2103
16. Koike Y, Adachi Y, Suzuki Y, Iwasaki M, Koike-Kiriyama N, Minamino K, Nakano K, Mukaide H, Shigematsu A, Kiyozuka Y, Tsubura A, Kamiyama Y and Ikehara S (2007) Allogeneic intrabone marrow-bone marrow transplantation plus donor

lymphocyte infusion suppresses growth of colon cancer cells implanted in skin and liver of rats. *Stem Cells* 25: 385-391

17. 長央由里子, 大音壮太郎, 勝田英人, 久保木香織, 服部昌子, 西口文, 宮本紀子, 高木均, 長央由里子, 久保木香織, 金森章泰, 栗山晶治 (2007) 加齢黄斑変性に対する光線力学的療法の光干渉断層計の検討. *あたらしい眼科* 24: 1245-1249
18. 保倉 透, 嶋田倫子, 松嶋紀子, 宮浦 徹, 服部吉幸, (2007) 大阪府眼科医会所属医師に対する心因性視覚障害についてのアンケート調査. *眼臨医報* 101: 165-170
19. 長央由里子, 高橋寛二, 永井由巳, 正健一郎, 有澤章子, 津村晶子, 松村美代 (2007) 加齢黄斑変性の視力不良例に行った光線力学的療法の治療成績. *臨眼* 61: 1649-1652

総 説

1. 高橋寛二 (2007) 巻頭言一加齢黄斑変性治療の行く末一. *眼科手術* 20: 453-454
2. 高木 均, 吉村長久, 大谷篤史, 鈴間 潔, 王英泰, 鈴間 泉, 剣持誠司, 大橋啓一, 渡辺大介, 尾嶋智成, 菅波絵里, 栗本雅史, 木村徹志, 喜多美穂里, 高木史子, 本田孔士, King George L Aiello Lloyd P 西川伸一, 植村明嘉, 小林利寛, 永尾雅哉, 鈴木茂之, 深水昭吉, 下村伊一郎, 船橋 徹, 佐藤靖史, 小川佳宏, 菅波孝祥, 小椋祐一郎, 松村美代, 桐生純一, 小山真治, 清家寿之, 西村和夫, 横山富久, 菅谷 健, Ferrara Napoleone Kolodkin Alex L (2007) 眼と加齢加齢と網膜血管障害. *日眼会誌* 111: 207-231
3. 城 信雄, 松村美代 (2007) 緑内障の治療非薬物療法 術後管理 (薬物療法の必要性や術後合併症への対処, その際の処方薬について). *Fronti Glaucoma* 8: 246-247
4. 松原敬忠, 松村美代 (2007) 緑内障の治療非薬物療法 手術療法. *Fronti Glaucoma* 8: 244-245
5. 嶋千絵子, 松村美代 (2007) 緑内障の治療非薬物療法 レーザー療法. *Fronti Glaucoma* 8: 242-243
6. 南部裕之 (2007) 極小切開白内障手術の同時

手術 緑内障. *IOL&RS* 21: 348-353

7. 高橋寛二 (2007) 【網膜硝子体診療の進歩】治療手技の進歩 加齢黄斑変性 光線力学的療法. *あたらしい眼科* 24: 91-100
8. 埤本 慎 (2007) 【手術手順がビジュアルでわかる 眼科手術看護マニュアル】網膜剥離の手術 網膜剥離の基礎知識. *オペナーシング* 2007秋季増刊: 90-108
9. 埤本 慎 (2007) 【手術手順がビジュアルでわかる 眼科手術看護マニュアル】網膜剥離の手術 手術操作と器械出しのポイント. *オペナーシング* 2007秋季増刊: 109-115
10. 西村哲哉 (2007) 穿孔性眼外傷. *眼科* 49: 813-820
11. 緒方奈保子 (2007) 眼底血管障害. *眼科* 49: 707-720
12. 飯島裕幸, 佐藤 拓, 永井由巳 (2007) 光線力学的療法の実際. *眼科* 49: 315-322
13. 木本高志, 正健一郎, 新井英子, 安藤 彰, 緒方奈保子, 三間由美子, 松永裕史, 西村哲哉 (2007) 【眼科救急診療】I 眼痛・視力低下. *眼科* 49: 273-295
14. 木本高志 (2007) 【BRVO の治療指針】硝子体手術. *眼科* 49: 1781-1784
15. 城 信雄, 松村美代 (2007) 【みんなの硝子体手術】眼科診療における硝子体 緑内障と硝子体 aqueous misdirection による悪性緑内障の病態と治療. *眼ブラクティス* 17: 152-155
16. 今泉正仁, 緒方奈保子 (2007) 【視野】One Point Advice 血管圧迫性視神経症. *眼ブラクティス* 15: 212-213
17. 高橋寛二 (2007) 眼科診療におけるべからず集 ハイバックリングするべからず. *眼科手術* 20: 232
18. 永井由巳 (2007) ワンポイントアドバイス PDTの術後管理 (再治療の要否判定). *眼科手術* 20: 76-77
19. 松村美代 (2007) 糖尿病網膜症による血管新生緑内障に取り組んで. *日眼紀* 58: 459-464

症例報告

1. 大津弥生, 西村哲哉, 伊東滋雄 (2007) 30 年間無症状で経過した前房内石異物の1例. *眼科手術* 20: 443-445

2. 三木克朗, 三木弘彦 (2007) 重症春季カタルの治療2症例 トリアムシロン眼板下注射とシクロスポリン点眼薬による. 眼臨医報 101: 762-766
 3. 武田俊彦, 緒方奈保子, 松村美代, 辻比呂志, 溝田 淳 (2007) 重粒子線治療後に黄斑浮腫を認めた脈絡膜悪性黒色腫の1例. 眼臨医報 101: 496-499
 4. 重松明男, 足立 靖, 小柳津治樹, 松本憲明, 桐山直子, 向出裕美, 今村雅寛, 福原資郎, 池原 進 (2007) 同種骨髄移植後に, 水痘带状疱疹ウイルス感染症から血栓性微小血管障害を発症したと考えられた1剖検例. 診断病理 24: 348-354
 5. 木内克治, 木本高志, 高橋寛二, 嶋千絵子, 西村哲哉, 松村美代 (2007) 前房蓄膿様所見を示した食道原発の転移性虹彩腫瘍の1例. 日眼会誌 111: 735-740
 6. 松山加耶子, 西村哲哉, 高橋寛二, 南部裕之, 和田光正, 松村美代 (2007) 虹彩生検で診断が確定した悪性リンパ腫の1例. 臨眼 61: 1083-1086
 7. 木内克治, 山田眞美, 桑原留美子, 松井淑江 (2007) 一過性に網膜の滲出斑を呈したAZOORの1例. 臨眼 61: 2131-2136
 8. 山田英里, 山田晴彦 (2007) 中心性漿液性脈絡網膜症を発症した高血圧網脈絡膜症の1例. 臨眼 61: 1867-1872
- 学会発表
1. Matsuyama K, Ogata N, Kimoto T, Takahashi K, Matsumura M and Nishimura T (2007) A case of toxocara retinochoroiditis associated with the porcine ascarids diagnosed by antibodies in the subretinal fluid. International Ocular Inflammation Society, Paris
 2. Ogata N, Matsuoka M, Matsuyama K, Shima C, Tajika A, Nishimura T, Wada M, Jo N, Matsunaga H and Matsumura M (2007) High levels of Pigment Epithelium-Derived Factor in Blood of Patients with Diabetic Retinopathy. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2007 Annual Meeting, Fort Lauderdale
 3. Yamada H, Higuchi A, Jo N, Wada M, Matsumura M, Kosaki A and Iwasaka T (2007) Protective effect against retinal neovascularization in diabetic retinopathy by angiotensin converting enzyme inhibitors. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2007 Annual Meeting, Fort Lauderdale
 4. 津田メイ, 木村元貴, 上田義朗, 坪本 慎, 西村哲哉 (2007) 裂孔原性網膜剥離に対する25Gシステム経結膜硝子体手術の成績. 第361回大阪眼科集談会, 大阪
 5. 木村元貴, 緒方奈保子, 高橋寛二, 嶋千絵子, 西村哲哉 (2007) 強膜外浸潤をきたした脈絡膜悪性黒色腫の1例. 第361回大阪眼科集談会, 大阪
 6. 高橋寛二 (2007) 治療部位の確定. 第11回眼科PDT講習会, 青森
 7. 松村美代 (2007) 糖尿病網膜症による血管新生緑内障の治療. 第14回糖尿病眼合併症を考える会, 東京
 8. 松村美代 (2007) 糖尿病網膜症による血管新生緑内障の治療. 第24回天理眼科臨床懇話会, 天理
 9. 高橋寛二 (2007) PDT ケーススタディー病態別対処法一. 第2回お茶の水PDT研究会, 東京
 10. 松村美代 (2007) 得たもの, 失ったもの. 第30回眼科スタッフ懇話会, 大阪
 11. 久保木香織, 高橋寛二, 有澤章子, 正健一郎, 尾辻 剛, 永井由巳 (2007) ポリープ状脈絡膜血管症 (PCV) と網膜血管腫状増殖 (RAP) が合併した一例. 第46回日本網膜硝子体学会, 青森
 12. 高橋寛二 (2007) ランチョンセミナー PDT—安全性の現状—. 第46回日本網膜硝子体学会, 青森
 13. 松山加耶子, 緒方奈保子, 和田光正, 嶋千絵子, 松岡雅人, 西村哲哉, 城 信雄, 松村美代 (2007) 糖尿病網膜症患者における bevacizumab 投与前後の前房水中の血管内皮細胞増殖因子 (VEGF) と Pigment Epithelium-Derived Factor (PEDF). 第46回日本網膜硝子体学会, 青森
 14. 上田義朗, 星野 健, 坪本 慎, 和田光正, 西村哲哉, 松村美代 (2007) Optic pit の見つからない Pit-macular 症候群類似の1例. 第46回日

本網膜硝子体学会, 青森

15. 和田光正, 高橋寛二, 埴本 慎, 西村哲哉, 松村美代 (2007) 硝子体出血にて発見されたretinal astrocytic hamartomaの一例. 第46回日本網膜硝子体学会, 青森
16. 埴本 慎, 松山加耶子, 西村哲哉, 松村美代 (2007) 強度近視眼の黄斑部網膜分離・剥離に対する術式別術後成績の検討. 第46回日本網膜硝子体学会, 青森
17. 埴本 慎 (2007) 重症アレルギー性結膜疾患の治療マネジメント. Evening Seminar in Osaka, 大阪
18. 高橋寛二 (2007) わが国における加齢黄斑変性に対する光線力学的療法の現状. 黄斑疾患勉強会, 大阪
19. 安藤 彰, 尾辻 剛, 福井智恵子, 桑原敦子, 嶋千絵子, 松山加耶子, 松原敬忠, 城 信雄, 南部裕之, 松村美代 (2007) ラタノプロスト投与中の正常眼圧緑内障に追加したニブラジロールの眼圧と視野への効果. 第61回日本臨床眼科学会, 京都
20. 永井由巳, 高橋寛二, 沢 美喜, 五味 文, 張野正誉, 佐藤孝樹 (2007) インストラクションコース 上方黄斑塾 第4講. 第61回日本臨床眼科学会, 京都
21. 城 信雄, 南部裕之, 松原敬忠, 松村美代, 安藤 彰 (2007) 続発性が疑われる開放隅角緑内障に対するサイヌソトミー併用トラベクトロミー. 第61回日本臨床眼科学会, 京都
22. 正健一郎, 永井由巳, 有澤章子, 長央由里子, 久保木香織, 武田丹音, 津村晶子, 尾辻 剛, 高橋寛二 (2007) 長期経過観察後に再治療を要した加齢黄斑変性に対する光線力学療法症例. 第61回日本臨床眼科学会, 京都
23. 武田俊彦, 寺内博夫, 西村哲哉, 松村美代, 中谷壽男 (2007) 関西医科大学滝井病院救命救急センター眼科救急の統計学的考察. 第61回日本臨床眼科学会, 京都
24. 木内克治, 山田眞未, 植村芳子, 正健一郎, 大津弥生, 三木克朗, 西村哲哉, 松村美代 (2007) 眼症状を契機に明らかとなった胸腺原発の転移性脈絡膜腫瘍の1例. 第61回日本臨床眼科学会, 京都
25. 埴本 慎, 松山加耶子, 和田光正, 西村哲哉, 松村美代 (2007) 白内障硝子体手術後における新しい2種のアクリル製IOLの安定性についての検討. 第61回日本臨床眼科学会, 京都
26. 安藤 彰 (2007) 緑内障. 目の愛護デー, 大阪
27. 松村美代 (2007) 糖尿病網膜症による血管新生緑内障の治療. 和歌山眼科フォーラム, 和歌山
28. 南部裕之 (2007) 極小切開白内障手術と緑内障手術. 京阪地区眼科勉強会, 守口
29. 埴本 慎 (2007) 白内障硝子体同時手術後における新しい2種のアクリル製IOLの安定性についての検討. 第12回大阪眼科手術シンポジウム, 大阪
30. 安藤 彰, 嶋千絵子, 松山加耶子, 福井智恵子, 桑原敦子, 松原敬忠, 城 信雄, 南部裕之, 松村美代 (2007) 関西医大で行った入院眼圧日内変動測定とその評価. 第18回日本緑内障学会, 岐阜
31. 松原敬忠, 南部裕之, 城 信雄, 松村美代, 安藤 彰 (2007) ICE症候群に対するマイトマイシンCトラベクトロミーの術後成績. 第18回日本緑内障学会, 岐阜
32. 松村美代 (2007) 緑内障オールスターズ 2007 糖尿病網膜症による血管新生緑内障治療の進歩. 第18回日本緑内障学会, 岐阜
33. 南部裕之, 城 信雄, 松原敬忠, 松村美代, 安藤 彰 (2007) 極小切開白内障とサイヌソトミー併用トラベクトロミー同時手術の成績. 第18回日本緑内障学会, 岐阜
34. 緒方奈保子 (2007) 加齢黄斑変性の診断と治療. 第1回和歌山黄斑研究会, 和歌山
35. 安藤 彰, 尾辻 剛, 福井智恵子, 桑原敦子, 嶋千絵子, 松山加耶子, 松原敬忠, 城 信雄, 南部裕之, 松村美代 (2007) ラタノプロスト投与中の正常眼圧緑内障に追加したニブラジロールの眼圧と視野への効果. 第360回大阪眼科集談会, 大阪
36. 高橋寛二 (2007) ミニレクチャー 加齢黄斑変性—診断のポイント—. 第360回大阪眼科集談会, 大阪
37. 上田義朗, 星野 健, 埴本 慎, 和田光正, 西村哲哉, 松村美代 (2007) Pit の見つからない Pit-Macular 症候群 (視神経乳頭小窩症候群) の1例. 第360回大阪眼科集談会, 大阪

38. 埤本 慎, 松山加耶子, 西村哲哉, 松村美代 (2007) 強度近視眼の黄斑部網膜分離・剥離に対する術式別術後成績の検討. 第360回大阪眼科集談会, 大阪
39. 高橋寛二 (2007) PDTケーススタディーパターン別対処法一. 長崎県眼科集談会, 長崎
40. 松村美代 (2007) 開放隅角緑内障治療の現況. 北陸オフサルミックセミナー, 金沢
41. 松村美代 (2007) 糖尿病網膜症の硝子体手術—成果と合併症をふまえた適応の変遷. 山形眼科先進医療研究会, 山形
42. 舘野寛子, 星野 健, 高橋寛二, 松村美代 (2007) 肝細胞癌からの転移性脈絡膜腫瘍の1例. 第359回大阪眼科集談会, 大阪
43. 松村美代 (2007) ミニレクチャー 視神経乳頭の見かた. 第359回大阪眼科集談会, 大阪
44. 城 信雄, 南部裕之, 松原敬忠, 松村美代 (2007) 続発性が疑われる開放隅角緑内障に対するサイヌソトミー併用トラベクトミー. 第359回大阪眼科集談会, 大阪
45. 南部裕之, 松原敬忠, 城 信雄, 松村美代 (2007) ICE 症候群に対するマイトマイシンC併用トラベクトミーの術後成績. 第359回大阪眼科集談会, 大阪
46. 高橋寛二 (2007) 近視眼, 傾斜乳頭症候群におけるポリープ状脈絡膜血管症. 第9回Japan Macula Club, 蒲郡
47. 松村美代 (2007) PitのないPit-macular 症候群. 第9回Japan Macula Club, 蒲郡
48. 松山加耶子, 緒方奈保子, 木本高志, 高橋寛二, 松村美代, 西村哲哉 (2007) 網膜下液生検で診断が確定したブタ回虫の一例. スリーサムイン東京 (第41回日本眼炎症学会), 東京
49. 木村元貴, 木本高志, 西村哲哉, 中内正志, 大津弥生, 松村美代 (2007) 急性網膜壊死に対する硝子体手術の検討. スリーサムイン東京 (第41回日本眼炎症学会), 東京
50. 金 熙乾, 星野 健, 山田晴彦, 高橋寛二, 松村美代 (2007) 結核治療後にみつかった網膜静脈周囲炎の1症例. スリーサムイン東京 (第44回日本眼感染症学会), 東京
51. 西村哲哉 (2007) 網膜・硝子体手術, 最近の話題. 大阪市大眼科同窓会, 大阪
52. 永井由巳, 正健一郎, 有澤章子, 長央由里子, 津村晶子, 尾辻 剛, 高橋寛二 (2007) 自費治療にて光線力学的療法を行った特発性脈絡膜新生血管の長期経過. 第24回日本眼循環学会, 香川
53. 高橋寛二, 湯沢美都子 (2007) 加齢黄斑変性とその近縁疾患. 第24回日本眼循環学会, 香川
54. 難波奈々, 有澤章子, 永井由巳, 長央由里子, 高橋寛二, 松村美代 (2007) 傾斜乳頭症候群にポリープ状脈絡血管症を合併した2症例. 第24回日本眼循環学会, 香川
55. 松村美代 (2007) 糖尿病網膜症の硝子体手術—ほんとの手術時期は? 第6回大阪オフサルミックセミナー, 大阪
56. 山田晴彦 (2007) 糖尿病網膜症について. 平成19年度コミュニティカレッジ前期講座, 枚方
57. 松村美代 (2007) 本学の OSCE, Advanced OSCE. 関西医大新任教員ワークショップ, 枚方
58. 高橋寛二 (2007) 加齢黄斑変性の内科的治療. 第1回甲子園眼科オープンカンファレンス, 西宮
59. 松山加耶子, 緒方奈保子, 木本高志, 高橋寛二, 松村美代, 西村哲哉 (2007) 網膜下液生検で診断が確定したブタ回虫の一例. 第358回大阪眼科集談会, 大阪
60. 有澤章子, 高橋寛二, 正健一郎, 永井由巳, 松村美代 (2007) 眼底血管病変を伴った加齢黄斑変性症に対する光線力学的療法. 第358回大阪眼科集談会, 大阪
61. 安藤 彰, 小池直子, 新井英子, 河合江実, 秋岡真砂子, 松井淑江, 高橋寛二, 松村美代 (2007) 視神経炎の経過中に眼球突出を呈して診断がついた視神経の髄膜腫の一例. 第113回京都眼科学会, 京都
62. 西川真生, 山田晴彦, 城 信雄, 大津弥生, 緒方奈保子, 松永裕史, 和田光正, 嶋千絵子, 松山加耶子, 松村美代 (2007) 糖尿病網膜症による血管新生緑内障の初診時所見と予後. 第113回京都眼科学会, 京都
63. 城 信雄, 南部裕之, 松原敬忠, 松村美代, 安藤 彰 (2007) 続発性が疑われる開放隅角緑内障に対するサイヌソトミー併用トラベクトミー. 第113回京都眼科学会, 京都

64. 難波奈々, 有澤章子, 永井由巳, 長央由里子, 高橋寛二, 松村美代 (2007) 傾斜乳頭症候群にポリープ状脈絡膜血管症を合併した2症例. 第113回京都眼科学会, 京都
65. 武田俊彦, 岩瀬正顕, 平川昭彦, 村尾佳則, 中谷壽男, 松村美代, 西村哲哉 (2007) 関西医科大学滝井病院高度救命救急センターにおける眼科救急の統計学的考案. 第21回日本外傷学会, 千葉
66. 高橋寛二 (2007) 滲出型加齢黄斑変性の病態と診断. 三重県眼科医会集談会, 津
67. 松村美代 (2007) 眼科学教育. 第111回日本眼科学会総会, 大阪
68. 有澤章子, 高橋寛二, 永井由巳, 正健一郎, 有馬由里子, 津村晶子, 松村美代 (2007) 視力良好例に対する光線力学的療法. 第111回日本眼科学会総会, 大阪
69. 高橋寛二 (2007) 教育セミナー 加齢黄斑変性アップデート: 加齢黄斑変性の診断基準. 第111回日本眼科学会総会, 大阪
70. 高橋寛二 (2007) ランチョンセミナー わが国における加齢黄斑変性治療の趨勢と今後の展望. 第111回日本眼科学会総会, 大阪
71. 山田晴彦, 樋口暁子, 城 信雄, 和田光正, 松村美代, 小崎篤志, 岩坂寿二 (2007) ACE阻害薬による増殖糖尿病網膜症への進行阻害効果. 第111回日本眼科学会総会, 大阪
72. 松山加耶子, 緒方奈保子, 嶋千絵子, 松永裕史, 和田光正, 城 信雄, 松村美代 (2007) 2型糖尿病の血中 Pigment Epithelium-Derived Factor (PEDF). 第111回日本眼科学会総会, 大阪
73. 正健一郎, 永井由巳, 有澤章子, 長央由里子, 武田丹音, 津村晶子, 尾辻 剛, 高橋寛二 (2007) 偽Classic病巣を有するポリープ状脈絡膜血管症に対する光線力学療法の治療成績. 第111回日本眼科学会総会, 大阪
74. 三木克朗, 高橋寛二, 北川チエミ, 埴本 慎, 木本高志, 西村哲哉, 松村美代, 坂井田紀子, 四方伸明, 上村芳子, 螺良愛郎 (2007) マイラゲル使用強膜内陥術後に発症した眼内炎の症例. 第111回日本眼科学会総会 (第42回臨床眼病理組織研究会), 大阪
75. 木村元貴, 木本高志, 中内正志, 大津弥生, 西村哲哉, 松村美代 (2007) 急性網膜壊死に対する硝子体手術の検討. 第357回大阪眼科集談会, 大阪
76. 高橋寛二 (2007) 脈絡膜新生血管の臨床病理相関. 第5回ICG勉強会, 京都
77. 高橋寛二 (2007) AMD治療の評価と展望. 大阪府眼科医会教育ゼミナール, 大阪
78. 緒方奈保子, 松山加耶子, 松岡雅人, 嶋千絵子, 和田光正, 城 信雄, 松村美代 (2007) 糖尿病網膜症と血中 Pigment Epithelium-Derived Factor (PEDF). 第11回眼科分子生物研究会, 宮城
79. 松村美代 (2007) 糖尿病網膜症による血管新生緑内障にとりくんで. 第13回日本糖尿病眼学会総会, 京都
80. 城 信雄, 緒方奈保子, 松山加耶子, 嶋千絵子, 松永裕史, 西川真生, 和田光正, 山田晴彦, 西村哲哉, 松村美代 (2007) 新生血管緑内障を伴う増殖糖尿病網膜症に対する bevacizumab の有効性. 第13回日本糖尿病眼学会総会, 京都
81. 嶋千絵子, 緒方奈保子, 松永裕史, 松山加耶子, 和田光正, 城 信雄, 松村美代 (2007) 糖尿病黄斑浮腫に対するトリアムシノロン併用毛細血管瘤凝固の治療成績. 第13回日本糖尿病眼学会総会, 京都
82. 和田光正 (2007) 血管新生緑内障症例と硝子体手術. 第13回日本糖尿病眼学会総会, 京都
83. 高橋寛二 (2007) PDT ケーススタディーパターン別対処法一. 第2回奈良県黄斑疾患研究会, 奈良
84. 高橋寛二 (2007) PDT ケーススタディー加齢黄斑変性, こんなときどうする?一. 第4回東北黄斑研究会, 仙台
85. 桐山直子, 足立 靖, 向出裕美, 重松明男, 池原 進 (2007) (NZWxBXSB) F1 マウス (W/BF1) は LPS に感受性である. 第96回日本病理学会総会, 大阪
86. 向出裕美, 足立 靖, 重松明男, 桐山直子, 上山泰男, 池原 進 (2007) ヒト大腸癌細胞における FKBP51 の発現. 第96回日本病理学会総会, 大阪
87. 重松明男, 足立 靖, 竹谷 茂, 桐山直子, 向出裕美, 池原 進 (2007) ヒト正常細胞にお

- けるサイトグロビンの発現の検討. 第96回日本病理学会総会, 大阪
88. 和田光正 (2007) 糖尿病網膜症に伴う血管新生緑内障と硝子体手術. 第9回ボーダーレス眼科臨床研究会, 大阪
89. 金 熙乾, 星野 健, 山田晴彦, 高橋寛二, 松村美代 (2007) 結核治療後に発症した網膜静脈周囲炎の1症例. 第356回大阪眼科集談会, 大阪
90. 城 信雄, 緒方奈保子, 松山加耶子, 嶋千恵子, 松永裕史, 西川真生, 和田光正, 山田晴彦, 西村哲哉, 松村美代 (2007) 血管新生緑内障を伴う増殖糖尿病網膜症に対する bevacizumab の有効性. 第356回大阪眼科集談会, 大阪
91. 松村美代 (2007) 緑内障の診断. 第3回滋賀県眼科診療フォーラム, 滋賀
92. 松村美代 (2007) 糖尿病網膜症～経過観察から手術まで～. 枚方眼疾患フォーラム, 大阪
93. 城 信雄 (2007) 緑内障診断のポイント～早期発見は視神経乳頭で～. 枚方眼疾患フォーラム, 大阪
94. 南部裕之 (2007) 原発性閉塞隅角緑内障の治療方針. 枚方眼疾患フォーラム, 大阪
95. 坪本 慎 (2007) 裂孔原性網膜剥離の手術～バックリングと硝子体手術～. 枚方眼疾患フォーラム, 大阪
96. 永井由巳, 高橋寛二, 正健一郎, 津村晶子, 宇山昌延 (2007) 放射状配列を示す家族性ドルーゼン Malattia leventinese の臨床像. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班, 福岡
97. 高橋寛二, 小椋祐一郎, 湯沢美都子, 石橋達朗 (2007) 加齢黄斑変性の新しい診断基準. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班, 福岡
98. 正健一郎, 永井由巳, 有澤章子, 長央由里子, 武田丹音, 津村晶子, 尾辻 剛, 高橋寛二 (2007) 偽Classic所見を有するポリープ状脈絡膜血管症に対する光線力学療法の治療成績. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班, 福岡
99. 長央由里子, 高橋寛二, 永井由巳, 正健一郎, 有澤章子, 津村晶子, 松村美代 (2007) 視力不良例に行った光線力学療法 (PDT) の成績. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業 網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班, 福岡
100. 高橋寛二 (2007) 治療部位の確定, フォローアップ, 患者指導. 第10回眼科 PDT 講習会, 東京
101. 松村美代 (2007) 周術期の全身管理—眼科医に知って欲しいこんな点, あんな点—. 第30回日本眼科手術学会, 京都
102. 大津弥生, 西村哲哉, 伊東滋雄 (2007) 30年間無症状で経過した前房内異物の1例. 第30回日本眼科手術学会, 京都
103. 北川チエミ, 緒方奈保子, 西村哲哉, 有澤章子, 和田光正, 松村美代 (2007) 最近経験した駆逐性出血症例の検討. 第30回日本眼科手術学会, 京都
104. 坪本 慎, 和田光正, 松山加耶子, 寺内博夫, 西村哲哉, 松村美代 (2007) 特発性黄斑上膜に対する 25G システム経結膜硝子体手術の成績. 第30回日本眼科手術学会, 京都
105. 安藤 彰 (2007) 教育セミナー 原発閉塞隅角緑内障の治療戦略: 隅角癒着解離術のノウハウ. 第30回日本眼科手術学会, 京都
106. 市岡 博, 荻野誠周, 木村英也, 寺内博夫, 松村美代, 山川良治 (2007) スキルトランスファー 切開・縫合. 第30回日本眼科手術学会, 京都
107. 尾辻 剛 (2007) 教育セミナー 原発閉塞隅角緑内障の治療戦略: 隅角癒着解離術の術後管理と術後成績. 第30回日本眼科手術学会, 京都
108. 安藤 彰, 河合江実, 秋岡真砂子, 新井英子, 松井淑江, 松村美代 (2007) 眼痛と複視で来院した眼筋麻痺性片頭痛の小児の一例. 第361回大阪眼科集談会, 大阪
109. 有澤章子, 高橋寛二, 正健一郎, 永井由巳, 松村美代 (2007) 網膜血管病変を伴った加齢黄斑変性に対する光線力学療法. 第61回日本臨床眼科学会, 京都
110. 和田光正, 城 信雄, 松山加耶子, 嶋千恵子, 西川真生, 山田晴彦, 緒方奈保子, 西村哲哉, 松村美代 (2007) 血管新生緑内障に対する bevacizumab 投与後経過. 第61回日本臨床眼科学会, 京都
111. Kimura M, Kimoto T, Nakauchi T, Otsu Y,

Nishimura T and Matsumura M (2007) Analysis of vitrectomy for acute retinal necrosis. International Ocular Inflammation Society, Paris

- 112.高橋寛二 (2007) ポリープ状脈絡膜血管症の病理と病態: ポリープ状脈絡膜血管症の本態は脈絡膜新生血管か? 第24回日本眼循環学会, 香川
- 113.畑埜浩子, 山岸和矢, 城 信雄, 南部裕之, 松村美代 (2007) Viscoanalostomyと傍シュレム管組織除去と白内障同時手術の長期成績. 第30回日本眼科手術学会, 京都
- 114.寺内博夫 (2007) 教育セミナー 眼科手術の基本1手術顕微鏡とその取り扱い. 第30回日本眼科手術学会, 京都
- 115.緒方奈保子 (2007) 教育セミナー 網膜光凝固の適応と限界: 糖尿病網膜症に対する光凝固. 第30回日本眼科手術学会, 京都
- 116.南部裕之 (2007) 教育セミナー 原発閉塞隅角緑内障の治療戦略: 原発閉塞隅角緑内障治療の進め方. 第30回日本眼科手術学会, 京都
- 117.高橋寛二 (2007) 教育セミナー 加齢黄斑変性のレーザー治療: FA-guided PDT:PDT ガイドライン. 第30回日本眼科手術学会総会, 京都
- 118.松村美代 (2007) 教育セミナー 緑内障手術—トラブルシューティング: トラベクトミー—手技上のトラブルシューティング. 第30回日本眼科手術学会総会, 京都

著 書

1. Ando A, Kaneko S, Kiriya N, Unezaki S, Okuda-Ashitaka E, Okumura T, Nishimura T, Matsumura M and Ito S (2007) Prevention of Apoptosis by Down-Regulation of Apoptosis Related Gene Expression Obtained by Nipradilol Via Nitric Oxide Donative Action. New Developments in Eye Research pp. 55–69, Nova Science Publishers, New York
2. 永井由巳, 高橋寛二, 正 健一郎, 津村晶子, 宇山昌延 (2007) 放射状配列を示す家族性ドルーゼン Malattia leventinese の臨床像. 厚生労働省網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班 平成18年度 研究報告書 194–197 頁, 厚生労働省定疾患網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班, 東京
3. 正 健一郎, 永井由巳, 有澤章子, 長央由里子, 武田丹音, 津村晶子, 尾辻 剛, 高橋寛二 (2007) 偽 Classic 所見を有するポリープ状脈絡膜血管症に対する光線力学療法の治療成績. 厚生労働省網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班 平成18年度 研究報告書 140–143 頁, 厚生労働省定疾患網膜脈絡膜・視神経萎縮症 調査研究班, 東京
4. 長央由里子, 高橋寛二, 永井由巳, 正 健一郎, 有澤章子, 津村晶子, 松村美代 (2007) 視力不良例に行った光線力学的療法 (PDT) の成績. 厚生労働省網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班 平成18年度 研究報告書 215–217 頁, 厚生労働省定疾患網膜脈絡膜・視神経萎縮症 調査研究班, 東京
5. 高橋寛二, 小椋祐一郎, 湯沢美都子, 石橋達朗 (2007) 断基準作成ワーキンググループ 加齢黄斑変性の新しい診断基準. 厚生労働省網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班 平成18年度 研究報告書 235–237 頁, 厚生労働省定疾患網膜脈絡膜・視神経萎縮症 調査研究班, 東京
6. 高橋寛二 (2007) 脈絡膜ひだ. 今日の眼疾患治療指針 (田野保雄, 樋田哲夫編) 234–235 頁, 医学書院, 東京
7. 松村美代 (2007) 黄斑円孔網膜剥離. 今日の眼疾患治療指針 (田野保雄, 樋田哲夫編) 242–243 頁, 医学書院, 東京
8. 高橋寛二 (2007) 網膜色素上皮裂孔. 今日の眼疾患治療指針 (田野保雄, 樋田哲夫編) 279–280 頁, 医学書院, 東京
9. 松村美代 (2007) 図説 硝子体手術 (松村美代監修・木村英也著) 1–120 頁, 銀海舎, 東京
10. 高橋寛二 (2007) 急性後部多発性斑状網膜色素上皮症 (APMPPE). 今日の眼疾患治療指針 (田野保雄, 樋田哲夫編) 215–216 頁, 医学書院, 東京
11. 高橋寛二 (2007) 多発性後極部網膜色素上皮症 (MPPE). 今日の眼疾患治療指針 (田野保雄, 樋田哲夫編) 217–218 頁, 医学書院, 東京
12. 高橋寛二 (2007) 網膜色素上皮剥離. 今日の眼疾患治療指針 (田野保雄, 樋田哲夫編) 280–281 頁, 医学書院, 東京

耳鼻咽喉科学講座

〈研究業績〉

原著

1. Shibata S, B, Osumi Y, Yagi M, Kanda S, Kawamoto K, Kuriyama H, Nishiyama T and Yamashita T (2007) Administration of amitriptyline attenuates noise-induced hearing loss via glial cell line-derived neurotrophic factor (GDNF) induction. *Brain Res* 1144: 74–81
2. Kubo N and Yoshinaga K (2007) Physiological and pathological significance of nitric oxide and carbon monoxide in exhalation and their origin. *Clin Exp Allergy Rev* 7: 27–31
3. Tsuda M, Inaba M, Sakaguchi Y, Fukui J, Ueda Y, Omae M, Ando Y, Mukaide H, Guo K, Yabuki T, Nakatani T and Ikehara S. (2007) Activation of granulocytes by direct interaction with dendritic cells. *Clin Exp Immunol* 150: 322–331
4. Minoda R, Izumikawa M, Kawamoto K, Zhang H and Raphael Y (2007) Manipulating cell cycle regulation in the mature cochlea. *Hear Res* 232: 44–51
5. Takeda-Nakazawa H, Harada N, Shen J, Kubo N, Zenner H-P and Yamashita T (2007) Hyposmotic stimulation-induced nitric oxide production in outer hair cells of the guinea pig cochlea. *Hear Res* 230: 93–104
6. Kase M, Houtani T, Sakuma S, Tsutsumi T and Sugimoto T (2007) Laser microdissection combined with immunohistochemistry on serial thin tissue sections: a method allowing efficient mRNA analysis. *Histochem Cell Biol* 127: 215–219
7. Raphael Yehosh, Kim Young-Ho, Osumi Yasunori and Izumikawa Masahiko (2007) Non-sensory cells in the deafened organ of Corti: approaches for repair. *Int J Dev Biol* 51: 649–654
8. Mustapha M, Beyer L, Izumikawa M, Swiderski D, Dolan D, Raphael Y and Camper S (2007) Whirler mutant hair cells have less severe pathology than shaker 2 or double mutants. *J Assoc Res Otolaryngol* 8: 329–337
9. Tsutsumi T, Houtani T, Toida K, Kase M, Yamashita T, Ishimura K and Sugimoto T (2007) Vesicular acetylcholine transporter-immuno-reactive axon terminals enriched in the pontine nuclei of the mouse. *Neuroscience* 146: 1869–1878
10. Tsuji H, Kiba T, Nagata M, Inoue T, Yukawa H, Yamashita T, Shimode Y, Murata H, Nagata K and Tomoda K (2007) A phase I study of concurrent chemoradiotherapy with S-1 for T2N0 glottic carcinoma. *Oncology* 71: 369–373
11. Iwai H, Nakae K, Ikeda K, Ogura M, Miyamoto M, Omae M, Kaneko T and Yamashita T. (2007) Kimura disease: diagnosis and prognostic factors. *Otolaryngol Head Neck Surg* 137: 306–311
12. Doi T, Hosoda Y, Kaneko T, Munemoto Y, Kaneko A, Komeda M, Furukawa M, Kuriyama H, Kitajiri M, Tomoda K and Yamashita T (2007) Hearing results for ossicular reconstruction using a cartilage-connecting hydroxyapatite prosthesis with a spearhead. *Otol Neurotol* 28: 1041–1044
13. Inaba M, Adachi Y, Hisha H, Hosaka N, Maki M, Ueda Y, Koike Y, Miyake T, Fukui J, Cui Y, Mukaide H, Koike N, Omae M, Mizokami T, Shigematsu A, Sakaguchi Y, Tsuda M, Okazaki S, Wang X, Li Q, Nishida A, Ando Y, Guo K, Song C, Cui W, Feng W, Katou J, Sado K, Nakamura S and Ikehara S (2007) Extensive studies on perfusion method plus intra-bone marrow-bone marrow transplantation using cynomolgus monkeys. *Stem Cells* 25: 2098–2103
14. Fukui J, Inaba M, Ueda Y, Miyake T, Hosaka N, Kwon AH, Sakaguchi Y, Tsuda M, Omae M, Kamiyama Y and Ikehara S (2007) Prevention of graft-versus-host disease by intra-bone marrow injection of donor T cells. *Stem Cells* 25: 1595–1601
15. Ueda Y, Inaba M, Takada K, Fukui J, Sakaguchi Y, Tsuda M, Omae M, Kushida T, Iida H and Ikehara S (2007) Induction of senile osteoporosis in normal mice by intra-bone marrow-bone marrow transplantation from osteoporosis-prone

mice. Stem Cells 25: 1356–1363

16. 久保伸夫 (2007) 【好酸球性病変の診断と治療】好酸球性炎症の wondering について. JOHNS 23: 823–828
17. 沖津尚弘, 小林俊光, 川瀬哲明, 高橋 姿, 森山 寛, 山口展正, 山下敏夫, 暁 清文, 高橋晴雄, 守田雅弘 (2007) 耳管開放症・耳管閉鎖不全の診療の実態ならびに耳鼻咽喉科医の意識に関するアンケート調査. Otol Jpn 17: 185–193
18. 久保伸夫 (2007) 花粉症治療とコミュニケーション. Prog Med 27: 2931–2936
19. 植田秀雄, 久保伸夫 (2007) 呼吸から全身の健康を見つめる No. 17 からだを巡る毒ガスの話 (4) 気道におけるNOと鼻呼吸について. アポロニア 21: 130–133
20. 久保伸夫 (2007) 【NSAIDs過敏症】NSAIDs過敏喘息における副鼻腔中耳病変. アレルギーの臨 27: 199–202
21. 久保伸夫 (2007) 【アレルギー性鼻炎の新しい治療法 (花粉症を中心に)】アレルギー性鼻炎に対する新しい手術療法. アレルギーの臨 27: 54–58
22. 岩井 大 (2007) 【耳鼻咽喉科・頭頸部外科のリハビリテーション 症例を中心に】頭頸部腫瘍術後の機能回復 喉頭摘出後の音声獲得シャント. 耳鼻・頭頸外科 79: 211–220
23. 岩井 大 (2007) 全身免疫能操作による進行性感音難聴の予防と治療. 耳鼻・頭頸外科 79: 899–905
24. 池田浩己, 榎本雅夫, 池田浩己, 竹田浩子, 山下敏夫, 富岡公子 (2007) アレルギー外来におけるシックハウス症候群・化学物質過敏症の経験. 耳鼻免疫アレルギー 25: 103
25. 河本光平, 小西将矢, 栗山博道 (2007) 【平成17年度 高度医療研究】アデノ随伴ウィルスベクターを用いた内耳への遺伝子導入. 通信医 59: 185–189
26. 井上俊哉 (2007) 【中咽頭癌の手術 術後QOLを考慮したアプローチ法と再建法を考える】上側壁型中咽頭癌に対する術式と機能評価. 頭頸部外 17: 3–9
27. 岩井 大 (2007) 耳下腺癌の治療方針と手術手技. 頭頸部癌 33: 248–253

28. 泉川雅彦, 河本光平, 八木正夫, 栗山博道, Yehoash R, 山下敏夫 (2007) 高度難聴動物への Atoh1 遺伝子導入による蝸牛有毛細胞の再生と聴力閾値の改善. 頭頸自律神 21: 34–37
29. 柴田清児ブルース, 八木正夫, 大隅泰則, 神田靖士, 西山利正, 河本光平, 朝子幹也, 栗山博道, 山下敏夫 (2007) アミトリプチリンの音響外傷に対する内耳保護作用. 頭頸自律神 21: 19–21
30. 久保伸夫 (2007) 花粉症アレルギー性鼻炎に対するレーザー治療. 日レーザー治療会誌 6: 63–66
31. 足立真理, 岩井 大, 八木正夫, 南野雅之, 大前麻理子, 李 進隆, 山下敏夫 (2007) 耳下腺腺様嚢胞癌の診断法と治療法の検討. 日耳鼻会報 110: 410–415

症例報告

1. 矢野純也, 岩井 大, 小西将矢, 大谷真喜子, 大前麻理子, 福武知重, 山下敏夫 (2007) 喉頭に扁平上皮癌と平滑筋肉腫との異時性発生を示した2例. 耳鼻と臨 53: 90–95
2. 中出多子, 岩井 大, 河本光平, 中江 香, 泉川雅彦, 八木正夫, 小西将矢, 大前麻理子, 四方伸明, 山下敏夫 (2007) 3次性が疑われた副甲状腺機能亢進症の1例. 頭頸部外 17: 147–152

学会発表

1. Suzuki K, Nagata M, Tsuji H, Inoue T, Yukawa H, Ogura M, Yagi M, Fujisawa T, Miyamoto M, Chikano S and Yamashita T (2007) A New Incision for Maxillary Cancer—extended lateral rhinotomy+hemicoronal flap—. 24th Congress Pan-Pacific Surgical Association Japan, Honolulu
2. Okazaki H, Asako M, Furukawa M and Yamashita T (2007) Vascular leiomyoma of the middle turbinate : a case report. 24th Congress Pan-Pacific Surgical Association Japan, Honolulu
3. Baba S, Iwai H, Lee S, Omae M, Ikehara S and Yamashita T (2007) Interaction between cochlear cells and bone marrow cells. 44th Inner Ear Biology Workshop, London
4. Iwai H, Baba S, Omae M, Lee S, Ikehara S and

- Yamashita T (2007) Prevention of accelerated presbycusis by maintenance of systemic immune functions. 44th Inner Ear Biology Workshop, London
5. Lee S, Iwai H, Baba S, Omae M, Ikehara S and Yamashita T (2007) Relationship between accelerated presbycusis and immunosenescence. 44th Inner Ear Biology Workshop, London
 6. Houtani T, Toida K, Tsutsumi T, Kase M, Yamashita T, Ishimura K and Sugimoto T (2007) Characterization of cholinergic terminal-like structures in the mouse pontine nuclei. 7th IBRO World Congress of Neuroscience, Melbourne
 7. N. Kubo (2007) Inside turbinectomy. 5th ASAN rhinoplasty Symposium, Seoul
 8. Konishi M, Kawamoto K, Izumikawa M, Kuriyama H and Yamashita T (2007) Gene Transfer into Guinea Pig Cochlea Via Several Types of AAV Vectors. The Japan Society of Gene Therapy, 名古屋
 9. Konishi M, Kawamoto K, Izumikawa M, Yagi M, Asako M, Kuriyama H and Yamashita T (2007) Gene Transfer Into Guinea Pig Cochlea Via Several Serotypes of AAV Vectors. 第30回 ARO Midwinter Meeting, Denver
 10. Maeyama N, Uno A, Okubo M, Takai Y, Baba K, Shibata S, Kawamoto K, Kuriyama H, Doi K and Nishimura M (2007) Effectiveness of Unilateral Usage of the Sound Generator for Tinnitus Retraining Therapy. 第30回 ARO Midwinter Meeting, Denver
 11. Shibata S, Osumi Y, Yagi M, Kanda S, Kawamoto K, Kuriyama H, Nishiyama T and Yamashita T (2007) Administration of Amitriptyline Attenuates Noise-Induced Hearing Loss Via Glial Cell Line-Derived neurotrophic Factor (GDNF) Induction. 第30回 ARO Midwinter Meeting, Denver
 12. 大岡久司, 神田靖士, 鈴木裕子, 美島健二, 斉藤一郎, 西山利正 (2007) 聴覚伝導路における組織幹細胞の同定. 第30回日本分子生物学会年会・第80回日本生物学会大会, 横浜
 13. 池田浩己, 畠田猛真, 榎本雅夫 (2007) 鼻アレルギーの最近の話題. 第83回和歌山県地方部会臨床セミナー, 和歌山
 14. 高田洋平, 小椋 学, 永田基樹, 山下敏夫 (2007) 舌根部に発生した多形腺腫の1例. 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第303回例会, 大阪
 15. 中出多子, 金子敏彦, 岩井 大, 河本光平, 泉川敏彦, 栗山博道, 北尻雅則, 山下敏夫 (2007) 喉頭原発の混合型小細胞癌の1例. 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第303回例会, 大阪
 16. 小椋 学, 古川昌幸, 多田直樹, 池田浩己, 山下敏夫 (2007) 滲出性中耳炎における血小板活性因子 (PAF) の関与について—ラット中耳粘膜上皮細胞を用いた検討—. 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第303回例会, 大阪
 17. 朝子幹也, 鈴木健介, 山下敏夫 (2007) 後部篩骨洞に進展した髄膜腫の1例. 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第303回例会, 大阪
 18. 久保伸夫, 五十嵐利一, 石神 信 (2007) 立体形状マスクのインフルエンザ予防効果の検討. 第39回日本小児感染症学会総会, 横浜
 19. 八木正夫 (2007) いびきの外科的治療. 第44回日本臨床生理学会, 大阪
 20. 池田浩己, 富岡公子, 竹田浩子, 圓藤陽子, 榎本雅夫, 山下敏夫 (2007) シックハウス症候群・化学物質過敏症患者のアンケート調査(第2報). 第57回日本アレルギー学会, 横浜
 21. 久保伸夫 (2007) 教育セミナー 抗ヒスタミン薬の中樞移行性. 第57回日本アレルギー学会秋季学術大会, 横浜
 22. 久保伸夫 (2007) 上下気道の差同. 第57回日本アレルギー学会秋季学術大会, 横浜
 23. 八木正夫, 中川浩伸 (2007) 当科における耳下腺腫瘍症例の検討. 第62回伏見医師学術集談会, 京都
 24. 大前麻理子, 岩井 大, 山下敏夫 (2007) 蝸牛機能に対する全身免疫機能の作用の検討. 第17回日本耳科学会総会・学術講演会, 福岡
 25. 金子敏彦, 土井 直, 栗山博道, 古川昌幸, 細田泰男, 北尻雅則, 山下敏夫 (2007) 真珠腫性中耳炎手術における骨パテによる外耳道再建の検討. 第17回日本耳科学会総会, 福岡
 26. 小西将矢, 河本光平, 泉川雅彦, 栗山博道, 山下敏夫 (2007) アデノ随伴ウイルスベクターによる内耳への遺伝子導入の検討. 第17回日

本耳科学会総会, 福岡

27. 原田成信, 久保伸夫, 泉川雅彦, 河本光平, 山下敏夫, 鈴木 誠 (2007) 浸透圧が聴覚機能に与える影響について. 第17回日本耳科学会総会, 福岡
28. 岩井 大 (2007) 唾液腺疾患. 口腔咽頭領域の診療: 他科との境界と連携. 第20回日本口腔・咽頭科学会, 名古屋
29. 永田基樹 (2007) 耳下腺腫瘍手術; 困ったときの対応—腫瘍の局在が浅葉か深葉か術前に判定できない場合—. 第20回日本口腔・咽頭科学会, 名古屋
30. 藤澤琢郎, 八木正夫, 永田基樹, 岩井 大, 井上俊哉, 湯川尚哉, 宮本 真, 近野哲史, 清水順一, 山下敏夫 (2007) 当科における耳下腺腫瘍の統計 特に穿刺吸引細胞診と術中迅速病理組織診断について. 第20回日本口腔・咽頭科学会総会, 名古屋
31. 宝谷剛志, 濱田聡子, トリフォノフ ステファン, 加瀬政彦, 杉本哲夫 (2007) 蝸牛除去マウス脳幹ニューロンのGAD2発現の増強. 第30回日本神経科学大会, 横浜
32. 岡崎はるか, 朝子幹也, 古川昌幸, 山下敏夫 (2007) 中鼻甲介より発生した鼻腔血管平滑筋腫の一例. 第46回日本鼻科学会, 宇都宮
33. 池田浩己, 福辻賢治, 中原 啓, 山西美映, 谿田猛真, 芝埜 彰, 榎本雅夫 (2007) 術前に血管塞栓術を施行した鼻副鼻腔良性腫瘍の2例. 第46回日本鼻科学会, 宇都宮
34. 久保伸夫 (2007) 教育セミナー ボクたちのseptorhinoplasty. 第46回日本鼻科学会, 宇都宮
35. 高田洋平, 井上俊哉, 永田基樹, 朝子幹也, 山下敏夫, 山本 透 (2007) 顔面を貫通した頸部刺創の1例. 日本耳鼻咽喉科学会 大阪地方連合会 第299回例会, 大阪
36. 小西将矢, 河本光平, 泉川雅彦, 栗山博道, 山下敏夫 (2007) AAVによる内耳遺伝子導入の試み. 第25回頭頸部自律神経研究会, 大阪
37. 藤澤琢郎, 永田基樹, 辻 裕之, 井上俊哉, 湯川尚哉, 小椋 学, 山下敏夫 (2007) 嗅神経芽細胞腫6症例の検討. 第19回日本頭蓋底外科学会, 東京
38. 池田浩己, 福辻賢治, 中原 啓, 山西美映, 谿田猛真, 芝埜 彰, 榎本雅夫 (2007) 眼窩吹き抜け骨折の治療経験. 第75回和歌山医学会総会, 和歌山
39. 北尻雅則 (2007) 関西医科大学附属滝井病院補聴器外来. 第7回茨木市耳鼻咽喉科臨床研究会, 茨木市
40. 岩井 大 (2007) 難聴の予防と治療: 骨髄移植によるアプローチ AVC (Audio Visual Disability) に対する抗加齢医学のサイエンス. 第7回日本抗加齢医学会, 京都
41. 泉川雅彦 (2007) 遺伝子導入による機能的再生アプローチ シンポジウム 13 avd (Audio Visual Disability) に対する抗加齢医学のサイエンス. 第7回日本抗加齢医学会総会, 京都
42. 池田浩己, 竹田浩子, 圓藤陽子, 榎本雅夫, 山下敏夫 (2007) シックハウス症候群・化学物質過敏症患者のアンケート調査. 第19回日本アレルギー学会春季臨床大会, 横浜
43. 竹村博一, 林 隆一, 桜庭 実, 山崎光男, 宮崎真和, 鶴久森徹, 大幸宏幸, 矢野智之, 全田貞幹, 斎川雅久, 海老原敏 (2007) 放射線・放射線化学療法後の下咽頭喉頭全摘術の治療成績. 第31回頭頸部癌学会・第28回手術手技研究会, 横浜
44. 岩井 大 (2007) 大唾液腺の治療. 扁平上皮癌以外の頭頸部癌の治療. 第31回日本頭頸部癌学会, 横浜
45. 泉川雅彦, 岩井 大, 中出多子, 清水順一, 中江 香, 河本光平, 八木正夫, 永田基樹, 山下敏夫 (2007) 当科で経験した顎下腺 salivary duct carcinoma の2例. 第31回日本頭頸部癌学会, 横浜
46. 永田基樹, 辻 裕之, 井上俊哉, 藤澤琢郎, 湯川尚哉, 八木正夫, 小椋 学, 宮本 真, 近野哲史, 中江 香, 岩井 大, 山下敏夫 (2007) Extended lateral rhinotomy+hemicoronal flap法による上顎全摘術—術後整容面において—. 第31回日本頭頸部癌学会, 横浜
47. 八木正夫, 永田基樹, 南野雅之, 岩井 大, 中出多子, 中江 香, 井上俊哉, 宮本 真, 山下敏夫 (2007) 唾液腺 Salivary duct carcinoma 症例の検討. 第31回日本頭頸部癌学会, 横浜
48. 岩井 大 (2007) 外耳道真菌症. 同門会研修会, 大阪
49. 高田洋平, 井上俊哉, 永田基樹, 朝子幹也, 山

- 下敏夫, 山本 透 (2007) 顔面を貫通した頸部刺創の1例. 日耳鼻大阪地方会第301回例会, 大阪
50. 宮本 真, 井上俊哉, 永田基樹, 湯川尚哉, 小椋 学, 藤澤琢郎, 山下敏夫 (2007) 下咽頭癌術後に, 頸部の感染から空気塞栓をきたした1症例. 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方会連合会第301回例会, 大阪
51. 池田浩己 (2007) 医療現場におけるシックハウス症候群. 関西自然住宅推進ネットワーク勉強会, 大阪
52. 中江 香, 岩井 大, 尼川龍一, 泉川雅彦, 河本光平, 大隅泰則, 中出多子, 栗山博道, 北尻雅則, 山下敏夫 (2007) H.pyloriの除菌にて改善した耳下腺MALTリンパ腫再発の1例. 第108回日本耳鼻咽喉科学会, 金沢
53. 八木正夫, 永田基樹, 南野雅之, 岩井 大, 中出多子, 中江 香, 井上俊哉, 宮本 真, 山下敏夫 (2007) 唾液腺 Salivary duct carcinoma 症例の検討. 第108回日本耳鼻咽喉科学会, 金沢
54. 竹村博一, 林 隆一, 山崎光男, 宮崎真和, 鵜久森徹, 大幸宏幸, 林智 誠, 佐野 塁, 斎川雅久, 海老原敏 (2007) Polymorphous low-grade adenocarcinomaの3例. 第108回日本耳鼻咽喉科学会, 金沢
55. 久保伸夫, 宗本由美, 清水順一, 濱田聡子, 朝子幹也, 山下敏夫 (2007) AMA-PTA (134 周波数自動化ランダム自記聴力検査) における聴力検査と耳鳴検査. 第108回日本耳鼻咽喉科学会総会, 金沢
56. 朝子幹也, 古川昌幸, 河本光平, 久保伸夫, 山下敏夫 (2007) 当科における Allergic fungal sinusitis 症例の検討. 第108回日本耳鼻咽喉科学会総会, 金沢
57. 土井 直, 朝子幹也, 岡崎はるか, 金田直子, 大前麻理子, 山下敏夫 (2007) 拍動性耳鳴により診断に至った原発性血小板血症の1例. 第108回日本耳鼻咽喉科学会総会, 金沢
58. 堤 俊之, 宝谷剛志, 加瀬政彦, 樋田一徳, 石村和敬, 杉本哲夫, 山下敏夫 (2007) 橋核へのコリン作動性ニューロンについて. 第108回日本耳鼻咽喉科学会総会 学術講演会, 金沢
59. 宗本由美, 久保伸夫, 新井昇治, 清水順一, 濱田聡子, 朝子幹也, 栗山博道 (2007) 顔面神経麻痺症例における高感度CRPの検討. 第30回顔面神経研究会, 名古屋
60. 泉川雅彦, 岩井 大, 八木正夫, 永田基樹, 中出多子, 清水順一, 中江 香, 河本光平, 山下敏夫 (2007) 当科で経験した顎下腺 salivary duct carcinoma (SDC) の2例. 第31回頭頸部癌学会, 横浜
61. 池田浩己 (2007) ちくのう症 (慢性副鼻腔炎) のお話. 平成19年度赤十字県民大学, 和歌山
62. 福田 登, 木下有紀子, 串田剛俊, 宮島茂夫, 赤木繁夫, 泉川雅彦 (2007) 両側扁桃摘出術が有効であった反応性関節炎の1例. 第108回中部日本整形外科災害外科学会, 広島
63. 北尻雅則 (2007) 後鼻漏と咳. 高槻咳疾患座談会, 高槻
64. 堤 俊之, 宝谷剛志, 加瀬政彦, 樋田一徳, 石村和敬, 杉本哲夫 (2007) 橋核へのコリン作動性入力: 皮質-橋-小脳路に対する抑制系としての役割. 第112回日本解剖学会総会 全国学術集会, 大阪
65. 岩井 大 (2007) 喉頭全摘出術後の発声. 第13回関西耳鼻咽喉科臨床懇話会, 大阪
66. 稲田満夫, 岩崎啓子, 今井千尋, 田中英夫, 橋本恵, 林田孝平, 古賀まり, 中川浩伸 (2007) PET/CT 検査で発見された甲状腺乳頭状腺癌の一症例. 第19回西集談会, 京都
67. 久保伸夫 (2007) 抗ヒスタミン薬に求められるもの. 第80回日本薬理学会, 名古屋
68. 大前麻理子, 稲葉宗夫, 上田祐輔, 坂口雄沢, 津田雅庸, 福井淳一, 安藤祐吾, 郭 可泉, 岩井 大, 山下敏夫, 池原 進 (2007) Serial BMT による異系骨髓内骨髓移植法と経静脈的骨髓移植法の造血維持能の比較. 第96回日本病理学会総会, 大阪
69. 永田基樹, 井上俊哉, 藤澤琢郎, 湯川尚哉, 小椋 学, 八木正夫, 宮本 真, 近野哲史, 山下敏夫, 辻 裕之 (2007) 上顎全摘後の顔貌. 日耳鼻大阪地方会第300回例会, 大阪
70. 井上俊哉 (2007) 上側壁型中咽頭癌に対する術式と機能評価. 第17回日本頭頸部外科学会, 島根
71. 中出多子, 岩井 大, 河本光平, 泉川雅彦, 中江 香, 小西将矢, 山下敏夫 (2007) 透析患

- 者に合併した副甲状腺多発腺腫症例. 第17回日本頭頸部外科学会, 島根
72. 岩井 大, 泉川雅彦, 河本光平, 中江 香, 中出多子, 島野卓史, 湯川尚哉, 山下敏夫 (2007) 無喉頭発声の検討: 気管食道シャント発声による食道発声の早期獲得. 第17回日本頭頸部外科学会総会, 松江
73. 中出多子, 岩井 大, 河本光平, 泉川雅彦, 中江 香, 小西将矢, 山下敏夫 (2007) 腎透析患者に合併した副甲状腺多発症例. 第17回日本頭頸部外科学会総会, 松江
74. 池上智子, 岡崎はるか, 朝子幹也, 古川昌幸, 山下敏夫 (2007) 鼻出血症例に対する蝶口蓋動脈クリッピングの検討. 日本耳鼻咽喉科学会 大阪地方連合会 第303回例会, 大阪
75. 池田浩己, 富岡公子, 竹田浩子, 圓藤陽子 (2007) 当科におけるシックハウス外来の状況. 第80回日本産業衛生学会, 大阪
76. 池田浩己 (2007) 花粉症講座 — 予防と対策一. 1000年の森事業, 紀の川

著 書

1. 楠本健司, 久保伸夫 (2007) 顔面骨骨折・眼窩内側壁骨折. 外傷形成外科 62-69頁, 克誠堂出版, 東京
2. 久保伸夫 (2007) 手術治療が必要なとき. 小児アレルギーシリーズ 花粉症と周辺アレルギー疾患 (斎藤博久編) 82-85頁, 診断と治療社, 東京

放射線科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Tanigawa N, Komemushi A, Kariya S, Kojima H, Shomura Y, Omura N and Sawada S (2007) Relationship between cement distribution pattern and new compression fracture after percutaneous vertebroplasty. *AJR Am J Roentgenol* 189: W348-352
2. Yoshida T, Ha-Kawa S, Yoshimura M, Nobuhara K, Kinoshita T and Sawada S (2007) Effectiveness of treatment with donepezil hydrochloride and changes in regional cerebral blood flow in patients with Alzheimer's disease. *Ann Nucl Med* 21: 257-265
3. Tanigawa N, Kariya S, Kojima H, Komemushi A, Fujii H and Sawada S (2007) Lower limb ischaemia caused by fractured osteochondroma of the femur. *Br J Radiol* 80: e78-80
4. Yamakado K, Hase S, Matsuoka T, Tanigawa N, Nakatsuka A, Takaki H, Takao M, Inoue Y, Kanazawa S, Inoue Y, Sawada S, Kusunoki M and Takeda K (2007) Radiofrequency ablation for the treatment of unresectable lung metastases in patients with colorectal cancer: a multicenter study in Japan. *J Vasc Interv Radiol* 18: 393-398
5. Iwai H, Nakae K, Ikeda K, Ogura M, Miyamoto M, Omae M, Kaneko T and Yamashita T (2007) Kimura disease: diagnosis and prognostic factors. *Otolaryngol Head Neck Surg* 137: 306-311
6. Satoi S, Yamamoto H, Takai S, Tanigawa N, Komemushi A, Yanagimoto H, Toyokawa H, Matsui Y, Mergental H and Kamiyama Y (2007) Clinical impact of multidetector row computed tomography on patients with pancreatic cancer. *Pancreas* 34: 175-179
7. Ikeda K, Koseki T, Maehara M, Ohmura N, Kurokawa H, Shimizutani K and Sawada S (2007) Hourglass-shaped sublingual dermoid cyst: MRI features. *Radiat Med* 25: 306-308
8. Kariya S, Tanigawa N, Kojima H, Komemushi A, Shomura Y, Shiraishi T, Kawanaka T and Sawada S (2007) Primary patency with cutting and conventional balloon angioplasty for different types of hemodialysis access stenosis. *Radiology* 243: 578-587
9. 清水 洋, 宇田光伸, 澤田 敏 (2007) 次世代の画像解析ソフトウェア 前立腺がん描出に有用なMRI 拡散強調画像とT2強調画像のフュージョンイメージ. *INNERVISION* 22: 82-83

10. 播磨洋子, 寺嶋廣美, 今田 肇, 平木嘉幸 (2007) 子宮頸癌におけるオーダーメイド医療を目指した放射線治療効果予測システムの構築. *INNERVISION* 22: 43
 11. 小島博之 (2007) 【マイクロガイドワイヤーの最先端に迫る!】マイクロガイドワイヤー Carry の製品について. *Rad Fan* 5: 78-80
 12. 米虫 敦 (2007) マイクロガイドワイヤーの最先端に迫る Part 2. *Rad Fan* 5: 66-93
 13. 米虫 敦 (2007) マイクロガイドワイヤーの最先端に迫る. *Rad Fan* 5: 119-141
 14. 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 徳田貴則, 藤田あすか, 澤田 敏, 米虫 敦, 山本浩詞 (2007) 【緩和医療で活用すべき Interventional Radiology (IVR)】気道狭窄に対する IVR. *緩和医療学* 9: 331-335
 15. 谷川 昇, 狩谷秀治, 米虫 敦, 庄村裕三, 徳田貴則, 澤田 敏, 小島博之, 山本浩詞 (2007) 【骨軟部腫瘍における画像診断の進歩】骨病変に対する画像ガイド下低侵襲性治療. *骨・関節・靱帯* 20: 177-185
 16. 里井壯平, 柳本泰明, 豊川秀吉, 谷川 昇, 米虫 敦, 山本智久, 山尾順, 荒木 浩, 松井陽一, 高井惣一郎, 上山泰男 (2007) 【画像診断による膵癌術前進行度診断 正診率の向上をめざして】MD-CTによる進展度診断と外科的予後. *胆と膵* 28: 103-107
 17. 黒川弘晶, 野村基雄, 前原 稔, 大村直人, 池田茂樹, 池田耕士, 澤田 敏, 坂井田紀子, 植村芳子 (2007) 画像診断ライブラリー 前立腺肥大と前立腺癌のMRIにおける鑑別. *医事新報* 4345: 69-72
 18. 吉田博昭, 坂田岳一, 辻 要, 中川誠仁, 福地和秀, 浦 栄吾, 青柳信好, 森田章介, 藤田あすか, 四井資隆 (2007) 強直性脊椎炎ならびに顎関節症の関与によると思われる開口障害の1例. *日口腔診断会誌* 20: 325-329
 19. 是枝ちづ, 武田聖子, 關 壽人, 岡崎和一, 河相吉 (2007) 核医学的検査によるNASHの経過観察. *薬理と治療* 35: S-271-S-276
 20. 里井壯平, 山本榮和, 高井惣一郎, 谷川 昇, 米虫 敦, 柳本泰明, 豊川秀吉, 松井陽一, Hynek Mergental, 上山泰男 (2007) 膵癌患者における multi-detector row CT の臨床的影響. *膵臓* 22: 516-518
 21. 河 相吉 (2007) FDG-PET のピットフォール: Hondaサインとの対比. *核医学症例検討会症例集* 28(1): 9-10
 22. 河 相吉, 上埜泰寛, 澤田 敏 (2007) GSA, スズコロイドシンチにてアルコール性肝障害の改善を見た1例. *核医学症例検討会症例集* 27(2): 40-41
- 総 説
1. 池田耕士, 前原 稔, 大村直人, 池田茂樹, 黒川弘晶, 播磨洋子, 澤田 敏 (2007) 腺から見た頭頸部画像診断—耳下腺疾患のCT, MRI—, 画像診断 27: 1433-1452
 2. 米虫 敦, 大村直人, 澤田 敏 (2007) 【動画像ネットワーク, その有用性を検証する】循環器診断での効率化を探索 本格的動画像ネットワーク構築前の擬似ネットワーク運用の有用性. *新医療* 34: 112-114
 3. 米虫 敦, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 上埜泰寛, 宮田美好, 宮内清秀, 澤田 敏 (2007) 骨粗鬆症性圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術の医療経済学的検討. *未病と抗老化* 16: 98-102
- 学会発表
1. Kariya S, Tanigawa N, Kojima H, Komemushi A, Shomura Y, Yamamoto H, Shiraiishi K and Sawada S (2007) Fistulography using carbon dioxide in percutaneous transluminal angioplasty for hemodialysis access failure: A prospective evaluation. RSNA (93th scientific assembly and annual meeting of Radiological Society of North America), Chicago
 2. Shomura Y, Tokuda T, Tanigawa N, Kojima H, Kariya S, Komemushi A and Sawada S (2007) An arterial stent graft covered with an electro-spun nanofiber sleeve: Structural characteristics and in vivo behavior in pig model. RSNA (93th scientific assembly and annual meeting of Radiological Society of North America), Chicago
 3. Tanigawa N, Kariya S, Kojima H, Komemushi A, Shomura Y and Sawada S (2007) Prospective analysis of respiratory function following percu-

- taneous vertebroplasty. RSNA (93th scientific assembly and annual meeting of Radiological Society of North America), Chicago
4. Ikeda K, Maehara M, Ohmura N, Kurokawa H, Komemushi A, Harima Y and Sawada S (2007) The location of parotid gland tumors: Evaluation with parotid tractography using 3-tesla MRI. Radiological Society of North America (RSNA), Chicago
 5. Harima Y, Kamata M, Komemushi A, Ikeda K and Sawada S (2007) Prediction of Progression and Metastasis of Advanced Cervical Cancers after Radiotherapy According to Expression Profiles of 69 Genes selected by Microarray Analysis. Radiological Society of North America 93rd Scientific Assembly and Annual Meeting, Chicago
 6. Tokuda T (2007) Artificial blood vessel of composite material knitted core and electrospun nanofiber sleeve: evaluation of structural characteristics and biocompatibility in pig model. CIRSE (22th the annual scientific and postgraduate educational meeting of Cardiovascular and interventional radiological society), Athens
 7. Tanigawa N (2007) Cement leakage in percutaneous vertebroplasty for osteoporotic compression fracture with or without intravertebral clefts. CIRSE (22th the annual scientific and postgraduate educational meeting of Cardiovascular and interventional radiological society), Athens
 8. Komemushi A, Tanigawa N, Kariya S, Kojima H, Shomura Y, Tokuda T, Yamamoto H and Sawada S (2007) Multivariate study of predictors of new fracture of vertebral body in percutaneous vertebroplasty for Osteoporotic Compression Fractures. 第66回日本医学放射線学会学術発表会, 横浜
 9. Komemushi A, Tanigawa N, Kariya S, Kojima H, Shomura Y, Tokuda T, Yamamoto H and Sawada S (2007) Biochemical markers of bone turnover in percutaneous vertebroplasty for osteoporotic compression fracture. SIR 2007 : 32nd Annual Scientific Meeting, Washington
 10. Aota Y, Morimoto S, Sakuma T, Takahashi N, Ikeda K, Sawada S and Iwasaka T (2007) Blood Pressure Variation in Essential Hypertension with Neurovascular Contact of the Rostral Ventrolateral Medulla. The Japanese Circulation Society, 神戸
 11. Sakuma T, Morimoto S, Aota Y, Takahashi N, Ikeda K, Sawada S and Iwasaka T (2007) Hypertensive Organ Damages in Essential Hypertension with Neurovascular Contact of the Rostral Ventrolateral Medulla. The Japanese Circulation Society, 神戸
 12. Saito Y, Nobuhara K, Okugawa G, Takase K, Sugimoto T, Ikeda K, Sawada S and Kinoshita T (2007) White Matter Abnormalities in Obsessive-compulsive Disorder; A Magnetic Resonance Diffusion Tensor Imaging Study. 第15回欧州精神科医学会, Spain
 13. Okazaki K, Ito T, Nishimori I, Kawa S, Koizumi M, Kamisawa T, Otsuki M (2007) Other Organ Involvement in Autoimmune Pancreatitis. Korea-Japan Symposium for Autoimmune Pancreatitis, Korea
 14. 播磨洋子, 鎌田 実, 米虫 敦, 池田耕士, 澤田 敏 (2007) 進行期子宮頸癌の放射線治療抵抗性に関する遺伝子. 第20回日本放射線腫瘍学会, 福岡
 15. 是枝ちづ, 武田聖子, 関 寿人, 池田耕造, 梅原秀人, 岡崎和一, 河 相吉 (2007) 肝シンチグラフィによるNASHの経過観察 —BMI経過による検討—. 第37回日本肝臓学会西部会, 長崎
 16. 武田聖子, 是枝ちづ, 横江有佳, 梅原秀人, 池田耕造, 関 寿人, 岡崎和一, 河 相吉, 池田茂樹, 北出浩章, 権 雅憲, 四方伸明 (2007) 肝腫瘍との鑑別が困難であった肝異肉肉芽腫の一切除例. 第37回日本肝臓学会西部会, 長崎
 17. 河 相吉 (2007) 顎口腔領域のFDG-PETの有用性. 日本歯科放射線学会 第50回関西・第46回九州合同地方会, 大阪
 18. 藤田あすか, 大村直人, 前原 稔, 黒川弘晶, 池田茂樹, 池田耕士, 澤田 敏 (2007) 成人後に発見されたPulmonary artery slingの1例. 第287回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪

19. 海堀昌樹, 斉藤隆道, 松井康輔, 石崎守彦, 内田洋一朗, 河 相吉, 上山泰男 (2007) アシアロシンチによる生体肝移植ドナー残肝の肝再生の検討. 第43回日本移植学会総会, 仙台
20. 川喜多繁誠, 杉 素彦, 島田 治, 矢西正明, 福井勝也, 室田卓之, 志賀淑子, 播磨洋子, 木下秀文, 松田公志 (2007) 関西医科大学滝井病院における限局性前立腺癌に対するI-125密封小腺源永久挿入治療の初期経験. 第57回日本泌尿器科学会中部総会, 奈良
21. 是枝ちづ, 武田聖子, 関 寿人, 岡崎和一, 河相吉 (2007) NASHにおける肝シンチグラフィによる経過観察 —BMI変化による検討—. 日本臨床生理解学会第44回総会, 大阪
22. 佐久間孝雄, 森本 聡, 青田泰子, 高橋延行, 池田耕士, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2007) 本態性高血圧における頭側延髄腹外側野への動脈性接触の罹患率および臓器障害に及ぼす影響に関する検討. 第30回日本高血圧学会総会, 沖縄
23. 青田泰子, 森本 聡, 佐久間孝雄, 高橋延行, 池田耕士, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2007) 頭側延髄腹外側野への動脈による接触を認める本態性高血圧患者における交感神経抑制薬の有効性に関する検討. 第30回日本高血圧学会総会, 沖縄
24. 池田耕士 (2007) Film Interpretation I —頭頸部—. 第39回兵庫県画像診断研究会学術講演会, 神戸
25. 清水 洋, 宇田光伸, 奥田康登, 山本 豊, 梶川博司, 澤田 敏 (2007) 嚢胞形成を伴った前立腺癌の1例. 第43回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 名古屋
26. 池田耕士 (2007) リフレッシュコース8「症状からアプローチする頭頸部画像診断」③顔面神経麻痺. 第43回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 名古屋
27. 播磨洋子, 鎌田 実, 米虫 敦, 池田耕士, 澤田 敏 (2007) 放射線治療後進行期子宮頸癌の遠隔転移に関するマイクロアレイ解析. 第45回日本癌治療学会学術総会学会, 京都
28. 河 相吉 (2007) PETの基礎と臨床的有用性. 日本医師会生涯教育講座, 大阪
29. 播磨洋子 (2007) 切らずに治せる放射線治療—子宮頸がん—. 関西 Cancer Therapist の会「第100回大会」記念 市民公開講, 大阪
30. 播磨洋子 (2007) 進行期子宮頸癌の温熱放射線治療抵抗性に関与する遺伝子. 第24回日本ハイパーサーミア学会学術大会, 前橋
31. 米虫 敦 (2007) IVR医の明るい未来. 第2回IVRリサーチミーティング, 東京
32. 桑田さおり, 大村直人, 前原 稔, 黒川弘晶, 池田耕士, 池田茂樹, 澤田 敏 (2007) 低血糖脳症の1例 —ADC値の変化を中心として—. 第35回日本磁気共鳴医学会大会, 神戸
33. 黒川弘晶, 野村基雄, 桑田さおり, 前原 稔, 大村直人, 池田茂樹, 池田耕士, 澤田 敏, 坂井田紀子 (2007) 内腺域に発生した前立腺癌のMR画像の特徴について —病理組織との比較—. 第35回日本磁気共鳴医学会大会, 神戸
34. 池田耕士, 森本 聡, 前原 稔, 大村直人, 池田茂樹, 黒川弘晶, 米虫 敦, 播磨洋子, 岩坂壽二, 澤田 敏 (2007) 延髄への動脈圧迫を認める本態性高血圧患者における交感神経抑制薬の有効性. 第35回日本磁気共鳴医学会大会, 神戸
35. 住本貴美, 田橋賢也, 豊永貴彦, 鈴木 亮, 若松隆宏, 島谷昌明, 森 茂生, 高岡 亮, 竹内幸俊, 河島祥彦, 岡崎和一, 米虫 敦 (2007) 腎静脈狭窄により卵巣・子宮静脈を介する門脈一体循環シャントを認めた胃静脈瘤の1例. 第79回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
36. 播磨洋子, 志賀淑子, 米虫 敦, 池田耕士, 鎌田 実, 澤田 敏 (2007) 子宮頸癌ⅢB期に対する温熱抗癌剤併用放射線治療. 日本ハイパーサーミア学会第24回大会, 群馬
37. 河 相吉, 上埜泰寛, 澤田 敏 (2007) 18F-FDG-PET が, 初期診断と効果判定に有用であった脾原発悪性リンパ腫の1例. 第107回核医学症例検討会, 大阪
38. 池田耕士, 片上和敏, 前原 稔, 大村直人, 池田茂樹, 黒川弘晶, 米虫 敦, 播磨洋子, 澤田 敏 (2007) 耳下腺腫瘍と顔面神経との位置関係—3T MRI による耳下腺トラクトグラフィ—. 第4回3T MRI研究会, 東京
39. 森本 聡, 青田泰子, 佐久間孝雄, 池田耕士, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2007) 頭側延髄外側野

- への動脈による接触を認める本態性高血圧患者における交感神経抑制薬の有効性に関する検討. 第5回交感神経とアンジオテンシンII研究会, 福岡
40. 播磨洋子 (2007) Real-time PCR法を用いた進行期子宮頸癌の放射線治療予後予測因子の検討. 第11回がん分子標的研究会, 大阪
 41. 青田泰子, 森本 聡, 佐久間孝雄, 高橋延行, 池田耕士, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2007) 頭側延髄外側野への動脈による接触を認める本態性高血圧患者における交感神経抑制薬の有効性に関する検討. 第15回大阪臨床高血圧研究会, 大阪
 42. 池田耕士 (2007) 症例検討 No. 50 真菌性脳膿瘍. 第27回神経放射線ワークショップ, 神戸
 43. 斉藤幸子, 延原健二, 奥川 学, 高瀬勝教, 杉本達哉, 池田耕士, 澤田 敏, 木下利彦 (2007) 強迫性障害の拡散テンソル画像研究. 第29回日本生物学的精神医学会, 札幌
 44. 佐久間孝雄, 森本 聡, 青田泰子, 池田耕士, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2007) 本態性高血圧における頭側延髄腹外側野への動脈性接触の罹患率および臓器障害に及ぼす影響に関する検討. 第30回日本高血圧学会総会, 沖縄
 45. 播磨洋子, 池田耕士, 米虫 敦, 志賀淑子, 鎌田 実, 澤田 敏 (2007) Real-time PCR法による進行期子宮頸癌の放射線治療予後予測因子の検討. 第46回生物部会学術大会, つくば
 46. 米虫 敦, 小島博之 (2007) 椎体形成術の講習と動物を使用したの実演. 第5回日本IVR学会夏期学術セミナー, 神奈川
 47. 是枝ちづ, 武田聖子, 関 寿人, 岡崎和一, 河相吉 (2007) 肝シンチグラフィによる経過観察. 第7回関西肝血流動態イメージ研究会, 大阪
 48. 河 相吉 (2007) 耳鼻科領域における FDG-PETの有用性. 第14回北東大阪耳鼻咽喉科臨床懇話会, 大阪
 49. 桑田さおり, 大村直人, 前原 稔, 黒川弘晶, 池田茂樹, 池田耕士, 澤田 敏 (2007) 子宮広間膜に発生したCellular angiofibromaの1例. 第286回日本医学放射線学会関西西地方会, 大阪
 50. 河 相吉, 上埜泰寛, 澤田 敏 (2007) 18F-FDGの脾集積 —悪性リンパ腫における検討—, 第40回日本核医学会近畿地方会, 大阪
 51. 寺田次郎, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 徳田貴則, 藤田あすか, 澤田 敏 (2007) 起始破格を伴った脾動脈瘤に対するコイル塞栓術の1例. 日本Interventional Radiology学会第22回関西西地方会, 大阪
 52. 小島博之, 谷川 昇, 狩谷秀治, 米虫 敦, 庄村裕三, 徳田貴則, 藤田あすか, 寺田次郎, 澤田 敏 (2007) 動脈塞栓術により治療を行ったhigh flow priapismの1例. 日本Interventional Radiology学会第22回関西西地方会, 大阪
 53. 池田耕士 (2007) MR診断の進め方 —検査申し込みをするときに—, 守口医師会学術講演会, 守口
 54. 是枝ちづ, 武田聖子, 関 寿人, 岡崎和一, 河相吉 (2007) 核医学的検査によるNASHの経過観察. 第15回肝病態生理研究会, 東京
 55. 池田耕士, 河 相吉, 鎌田 実, 前原 稔, 坂井田紀子, 大村直人, 黒川弘晶, 米虫 敦, 播磨洋子, 澤田 敏 (2007) FDG-PET/CTが有用であった鼻腔NK/T細胞リンパ腫の1例. 第36回頭頸部・胸部画像研究会, 東京
 56. 庄村裕三, 徳田貴則, 谷川 昇, 狩谷秀治, 米虫 敦, 小島博之, 澤田 敏, 小滝雅也, 圓井 良, Xiwen Zhang, 仲井朝美, 坂井貴行, 濱田泰似 (2007) 再生医療・新技術のIVRへの応用:エレクトロスピンニング法によるナノファイバーステントカバーの構造特性. 第36回日本IVR学会総会, 石川
 57. 谷川 昇, 米虫 敦, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 上埜寛泰, 桑田さおり, 藤田あすか, 山本浩詞, 澤田 敏 (2007) 経皮的椎体形成術後の新規圧迫骨折:セメント分布パターンによる出現頻度の違い. 第36回日本IVR学会総会, 石川
 58. 徳田貴則, 庄村裕三, 上埜泰寛, 米虫 敦, 小島博之, 狩谷秀治, 谷川 昇, 澤田 敏, 小滝雅也, 圓井 良, 仲井朝美, Xiwen Zhang, 濱田泰似, 山本浩詞 (2007) 高分子ナノファイバー被膜を有する人工血管の生体内挙動. 第36回日本IVR学会総会, 石川
 59. 米虫 敦 (2007) 技術教育セミナー:肺AVMに対するIVR:Onyx. 第36回日本IVR学会総会, 石川

60. 米虫 敦, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 山本浩詞, 徳田貴則, 寺田次郎, 香田 渉, 安竹秀俊, 小林 健, 下山恵司, 滝沢謙治, 田中法瑞, 内藤 晃, 沼口雄治, 小林信雄, 澤田 敏 (2007) 日本における骨粗鬆症における経皮的椎体形成術の現状. 第36回日本IVR学会総会, 石川
61. 米虫 敦, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 山本浩詞, 徳田貴則, 寺田次郎, 香田 渉, 安竹秀俊, 小林 健, 下山恵司, 滝澤謙治, 田中法瑞, 内藤 晃, 沼口雄治, 小林信雄, 澤田 敏 (2007) 日本における経皮的椎体形成術の現状と将来: 日本における骨粗鬆症における経皮的椎体形成術の現状. 第36回日本IVR学会総会, 石川
62. 米虫 敦, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 徳田貴則, 上埜寛泰, 藤田あすか, 桑田さおり, 山本浩詞, 澤田 敏 (2007) 経皮的椎体形成術後の新規圧迫骨折: 骨代謝マーカーの有用. 第36回日本IVR学会総会, 石川
63. 大村直人 (2007) 尿路系でのMDCT. 第5回マルチスライスCT学術講演会, 大阪
64. 谷川 昇 (2007) 外科医が知るべき非手術治療(2)「呼吸器領域におけるステント治療」. 第107回日本外科学会, 大阪
65. 里井壯平, 高井惣一郎, 谷川 昇, 柳本泰明, 豊川秀吉, 米虫 敦, 松井陽一, 山尾 順, 山本智久, 上山泰男 (2007) 肺癌症例におけるMDCTによる進展度評価と短期予後. 第107回日本外科学会定期学術集会, 大阪
66. 河 相吉, 上埜寛泰, 澤田 敏 (2007) 大腸が癌術後の腫瘍マーカー異常・CT陰性例におけるFDG PET/CTの有用性. 第66回日本医学放射線学会総会, 横浜
67. 黒川弘晶, 野村基雄, 前原 稔, 大村直人, 池田耕土, 澤田 敏, 坂井田紀子 (2007) 内臓域に発生した前立腺癌のMR画像~病理組織との比較~. 第66回日本医学放射線学会総会, 横浜
68. 小島博之, 谷川 昇, 狩谷秀治, 米虫 敦, 庄村裕三, 澤田 敏, 山本浩詞, 池田茂樹, 志賀淑子, 播磨洋子 (2007) 有痛性転移性骨腫瘍に対する経皮的ラジオ波凝固療法. 第66回日本医学放射線学会総会, 横浜
69. 庄村裕三, 谷川 昇, 徳田貴則, 狩谷秀治, 米虫 敦, 山本浩詞, 澤田 敏, 圓井 良, 小滝雅也, 中井朝美 (2007) 単一繊維配向性高分子ナノファイバーによるステントカバーの開発. 第66回日本医学放射線学会総会, 横浜
70. 大村直人, 前原 稔, 池田耕土, 黒川弘晶, 澤田 敏 (2007) 他施設から持ち込まれたフィルムのデジタイズによるデータ量. 第66回日本医学放射線学会総会, 横浜
71. 谷川 昇, 米虫 敦, 狩谷秀治, 庄村裕三, 徳田貴則, 藤田あすか, 桑田さおり, 澤田 敏, 小島博之, 山本浩詞 (2007) 経皮的椎体形成術後の新規圧迫骨折: セメント分布パターンによる出現頻度の違い. 第66回日本医学放射線学会総会, 横浜
72. 池田耕土, 森本 聡, 前原 稔, 大村直人, 黒川弘晶, 片山和敏, 河 相吉, 岩坂壽二, 澤田 敏 (2007) 延髄への血管圧迫一本態性高血圧患者と正常血圧者のgrade比較-. 第66回日本医学放射線学会総会, 横浜
73. 藤田あすか, 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 桑田さおり, 上埜寛泰, 山本浩詞, 澤田 敏 (2007) 炭酸ガス注入併用ラジオ波凝固療法. 第66回日本医学放射線学会総会, 横浜
74. 徳田貴則, 庄村裕三, 谷川 昇, 狩谷秀治, 米虫 敦, 藤田あすか, 桑田さおり, 小島博之, 山本浩詞, 澤田 敏 (2007) 単一配向性高分子カバーと異種材料複合縫製コアからなる人工血管の生体内挙動. 第66回日本医学放射線学会総会, 横浜
75. 播磨洋子, 志賀淑子, 小島博之, 池田茂樹, 鎌田 実, 池田耕土, 米虫 敦, 澤田 敏 (2007) Real-time RCR法による進行期子宮頸癌の放射線治療予後予測因子の検討. 第66回日本医学放射線学会総会, 横浜
76. 米虫 敦, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 上埜寛泰, 桑田さおり, 藤田あすか, 山本浩詞, 澤田 敏 (2007) 炭酸ガスによる椎体静脈造影: 造影後の腎門部ガス貯留. 第66回日本医学放射線学会総会, 横浜
77. 米虫 敦, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 上埜寛泰, 藤田あすか, 桑田さおり, 山本浩詞, 澤田 敏 (2007) 経皮的椎体形成

- 術後の新規圧迫骨折：骨代謝マーカーの有用性. 第66回日本医学放射線学会総会, 横浜
78. 河 相吉 (2007) 小児におけるFDG-PETの有用性. 第29回近畿小児がん研究会, 大阪
 79. 米虫 敦, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 徳田貴則, 上埜泰寛, 藤田あすか, 桑田さおり, 山本浩詞, 澤田 敏 (2007) 炭酸ガスによる椎体静脈造影：造影後の腎門部ガス貯留日本Interventional Radiology学会. 日本Interventional Radiology学会第21回関西地方会, 大阪
 80. 河 相吉 (2007) 画像診断の進歩 :PET/CTを用いた癌診療の実例. 枚方市医師会くらわんか医療研究会 学術講演会, 大阪
 81. 河 相吉, 池田茂樹, 上埜泰寛, 小島博之, 澤田 敏 (2007) 99mTc-HSAD 肝ブールシンチにて肝血管腫の所見を呈した肝異物肉芽腫の1例. 第106回核医学症例検討会, 大阪
 82. 河 相吉, 上埜泰寛, 澤田 敏 (2007) CTで指摘されずFDG-PETで異常を認めた大腸癌腹部再発例の検討. 第26回日本画像医学会, 東京
 83. 黒川弘晶, 野村基雄, 池田耕士, 澤田 敏 (2007) 内腺域に発生した前立腺癌のMR画像前立腺肥大との鑑別. 第26回日本画像医学会, 東京
 84. 池田耕士, 河 相吉, 澤田 敏 (2007) 息ごらえを習癖とする耳下腺気腫症例の画像診断. 第26回日本画像医学会, 東京
 85. 池田茂樹, 小島博之, 谷川 昇, 池田耕士, 河相吉, 澤田 敏, 山本浩詞 (2007) 診断が困難であった肝臓内ガーゼオーマの1例. 第26回日本画像医学会, 東京
 86. 桑田さおり, 池田耕士, 黒川弘晶, 大村直人, 前原 稔, 澤田 敏 (2007) MR所見が特徴的であった低血糖脳症の1例. 第285回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪
 87. 播磨洋子 (2007) 進行期子宮頸癌に対する放射線治療と温熱, 抗癌剤併用療法の臨床試験. 第9回癌治療増感研究シンポジウム, 奈良
 88. 徳田貴則, 庄村裕三, 谷川 昇, 狩谷秀治, 米虫 敦, 小島博之, 山本浩詞, 澤田 敏 (2007) 単一配向性高分子カバーと異種材料複合縫製コアを有する人工血管の構造特性のブタ大動脈置換における生体内挙動の評価. 日本Interventional Radiology学会第21回関西地方会, 大阪
 89. 米虫 敦, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 徳田貴則, 上埜泰寛, 藤田あすか, 桑田さおり, 山本浩詞, 澤田 敏 (2007) 経皮的椎体形成術後の新規圧迫骨折：骨代謝マーカーの有用性. 日本Interventional Radiology学会第21回関西地方会, 大阪
 90. Harima Y (2007) A potential biomarker correlated with radiosensitivity of advanced cervical carcinoma: A pilot study. 第66回日本癌学会学術総会学会, 横浜

産科学・婦人科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Koike-Kiriyama N, Adachi Y, Minamino K, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Yamada H, Mukaide H, Shigematsu A, Mizokami T, Matsumura M and Ikehara S (2007) Human cord blood cells can differentiate into retinal nerve cells. *Acta Neurobiol Exp* 67: 359-365
2. Sugiura K, Taketani S, Yoshimura T, Nishino T, Nishino N, Fujisawa J, Hisha H, Inaba T and Ikehara S (2007) Effect of hepatocyte growth factor on long term hematopoiesis of human progenitor cells in transgenic-severe combined immunodeficiency mice. *Cytokine* 37: 218-226
3. Wang X, Hisha H, Cui W, Song C, Mizokami T, Okazaki S, Li Q, Feng W, Kato J, Jiang S, Fan H and Ikehara S (2007) The characteristics of hematopoietic stem cells from autoimmune-prone mice and the role of neural cell adhesion molecules in abnormal proliferation of these cells in MRL/lpr mice. *Haematologica* 92: 300-307
4. Miyake Y, Sasaki S, Tanaka K, Ohya Y, Miyamoto S, Matsunaga I, Yoshida T, Hirota Y, Oda H, Kanzaki H, Kitada M, Horikoshi Y, Ishiko O,

- Nakai Y, Nishio J, Yamamasu S, Yasuda J, Kawai S, Yanagihara K, Wakuda K, Kawashima T, Narimoto K, Iwasa Y, Orino K, Tsunetoh I, Yoshida J, Iito J, Kaneko T, Kamiya T, Kuriyayashi H, Taniguchi T, Takemura H and Morimoto Y (2007) Fish and fat intake and prevalence of allergic rhinitis in Japanese females: the Osaka Maternal and Child Health Study. *J Am Coll Nutr* 26: 279-287
5. Tokumura A, Kume T, Fukuzawa K, Tahara M, Tasaka K, Aoki J, Arai H, Yasuda K and Kanzaki H (2007) Peritoneal fluids from patients with certain gynecologic tumor contain elevated levels of bioactive lysophospholipase D activity. *Life Sci* 80: 1641-1649
 6. Yasuda K, Nakamoto T, Yasuhara M, Okada H, Nakajima T, Kanzaki H, Hori M and Ozaki H (2007) Role of protein kinase C β in rhythmic contractions of human pregnant myometrium. *Reproduction* 133: 797-806
 7. Inaba M, Adachi Y, Hisha H, Hosaka N, Maki M, Ueda Y, Koike Y, Miyake T, Fukui J, Cui Y, Mukaide H, Koike N, Omae M, Mizokami T, Shigematsu A, Sakaguchi Y, Tsuda M, Okazaki S, Wang X, Li Q, Nishida A, Ando Y, Guo K, Song C, Cui W, Feng W, Katou J, Sado K, Nakamura S and Ikehara S (2007) Extensive studies on perfusion method plus intra-bone marrow-bone marrow transplantation using cynomolgus monkeys. *Stem Cells* 25: 2098-2103
 8. Li Q, Hisha H, Yasumizu R, Fan TX, Yang GX, Li Q, Cui YZ, Wang XL, Song CY, Okazaki S, Mizokami T, Cui WH, Guo K, Li M, Feng W, Katou J and Ikehara S (2007) Analyses of very early hemopoietic regeneration after bone marrow transplantation: comparison of intra-venous and intrabone marrow routes. *Stem Cells* 25: 1186-1194
 9. 神崎秀陽 (2007) ホルモン Q&A 数年前から体外受精・胚移植治療での卵巣刺激法には遺伝子組み換えのFSH製剤も自費扱いで使われており、最近同じ薬剤が保険適用されて一般不妊診療にも使えるようになりましたが、従来の閉経後女性尿由来のもの (hMG製剤やpureFSH製剤)と比べてどのような利点があるのでしょうか? *Horm Front Gynecol* 14: 172-173
 10. 神崎秀陽 (2007) ホルモン Q&A “排卵誘発と卵巣癌の発症には関連がある”という報告が話題となったことがありましたが、これについて現時点でのコンセンサスはどうなっていますか? *Horm Front Gynecol* 14: 171-172
 11. 岡田英孝, 神崎秀陽 (2007) 【女性外来診療マニュアル】女性外来診療と検査 頸管粘液検査・精液検査・フーナーテスト. 産婦治療 94: 657-661
 12. 生田明子, 堀越順彦 (2007) 【子どもを蝕む大人の病気】性器出血. 小児科 48: 620-626
- 総 説
1. 榎木 晋 (2007) 子宮頸部円錐切除術後妊娠の産科的問題. 産婦の進歩 59: 249-251
 2. 山口昌美, 斉藤淳子, 神崎秀陽, 生田明子, 中元 剛 (2007) 当科における若年者子宮頸癌の現況とHPV感染. 産婦の進歩 59: 100-101
 3. 中井祐一郎, 亀谷英輝, 荻田和秀, 依岡寛和, 堂國日子, 松尾重樹 (2007) 今, 改めて“母子救急”を考える 緊急帝王切開術に要する時間の実態—大阪府下病院調査より—. 産婦治療 94: 197-200
 4. 依岡寛和, 神崎秀陽 (2007) 【周産期の症候・診断・治療ナビ】産科編 症候ナビゲーション 呼吸器症状 多呼吸 過換気症候群. 周産期医 37: 75-76
 5. 安田勝彦 (2007) 【産婦人科外来ベストナビゲーション—ここが聞きたい105例の対処と処方】内分泌 機能性子宮出血. 臨婦産 61: 434-435
 6. 安田勝彦 (2007) 【産婦人科外来ベストナビゲーション—ここが聞きたい105例の対処と処方】内分泌 機能性子宮出血. 臨婦産 61: 431-433
 7. 安田勝彦 (2007) 【産婦人科外来ベストナビゲーション—ここが聞きたい105例の対処と処方】内分泌 機能性子宮出血. 臨婦産 61: 427-429

症例報告

1. Nagai Y, Kamoi S, Matsuoka T, Hata A, Jobo T, Ogasawara T, Aoki Y, Ohira S, Okamoto T, Nakamoto T, Kanda K and Matsui H (2007) Impact of p53 immunostaining in predicting advanced or recurrent placental site trophoblastic tumors: A study of 12 cases. *Gynecol Oncol* 106: 446-452
2. Yorioka H, Kasamatsu A, Okuno S, Yoshida M, Komeda S, Murata H, Sawaragi S, Kanzaki H, Ohashi A, Kawataki M and Yoo SJ (2007) P45.15: Prenatal diagnosis of fetal left pulmonary arterial sling. *Ultrasound Obstet Gynecol* 30: 628
3. 奥野茜子, 中嶋達也, 吉田桃子, 岡田英孝, 安田勝彦, 神崎秀陽, 吉岡和彦 (2007) 急性虫垂炎との鑑別を要した卵巣および虫垂の子宮内膜症の1例. *エンドメトリオーシス研究会誌* 28: 122-125
4. 米田祥子, 斉藤淳子, 村田紘未, 奥野茜子, 岡田英孝, 松岡 進, 中嶋達也, 神崎秀陽 (2007) 子宮温存療法を行った子宮体部腫瘍2症例の経験について. *産婦の進歩* 59: 274-277
5. 角玄一郎, 中元 剛, 中元章恵, 安田勝彦, 堀越順彦, 神崎秀陽 (2007) 高悪性度子宮内膜間質肉腫の1症例. *産婦の進歩* 59: 231-236
6. 中元 剛, 角玄一郎, 安田勝彦, 堀越順彦, 神崎秀陽 (2007) 診断に苦慮した巨大筋腫分娩の1例. *産婦の進歩* 59: 82-86

学会発表

1. Saito J, Ikuta A and Kanzaki H (2007) Type of human papillomavirus and expression of p53 in young women with cervical cancer. The 24th International Papillomavirus Conference and Clinical Workshop, China
2. Yorioka H, Kasamatsu A, Okuno S, Yoshida M, Komeda S, Murata H, Sawaragi S, Kanzaki H, Ohashi A, Kawataki M and Yoo SJ (2007) Placental diagnosis of fetal left pulmonary arterial sling. 17th World Congress on Ultrasound in Obstetrics and Gynecology, Italia
3. Kanzaki H (2007) Progesterone induced molecules in human endometrial stromal cells affect the local immune environment. 17th Lake

Shirakaba Conference, Copenhagen

4. Yasuda K, Nakamoto T, Okada H, Nakajima T, Kanzaki H, Hori M and Ozaki H (2007) Role of protein kinase beta and rho kinase in human myometrial contractions during pregnancy. The 20th Asia and Oceanic Congress of Obstetrics and Gynecology, Tokyo
5. 岡田英孝, 堤 明裕, 中嶋達也, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2007) ヒト子宮内膜間質細胞での性ステロイドホルモンによる VEGF 分泌動態の制御. 第22回日本生殖免疫学会学術集会, 東京
6. 足立 靖, 坂 貴司, 松波光代, 田中喜壽, 中元 剛, 溝上友美, 鷹巢晃昌 (2007) 細胞診とセルブロックを用いた免疫染色で診断を確定した形質細胞腫の一例. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会, 仙台
7. 久松洋司, 石原美由希, 伊藤亜希子, 都築朋子, 笠松 敦, 依岡寛和, 岡田英孝, 榎木 晋, 神崎秀陽, 中島純一, 稲垣隆介 (2007) 妊娠28週で出生前診断し得た開放性二分脊椎(脊椎裂)の1症例. 第117回近畿産科婦人科学会学術集会, 大阪
8. 伊藤亜希子, 笠松 敦, 依岡寛和, 石原美由希, 都築朋子, 久松洋司, 米田祥子, 村田紘未, 角玄一郎, 小野淑子, 榎木 晋, 神崎秀陽 (2007) IUGR, 羊水過少症を契機に入院となったHELLP症候群を急速に発症した1症例. 第117回近畿産科婦人科学会学術集会, 大阪
9. 石原美由希, 吉田桃子, 中嶋達也, 伊藤亜希子, 都築朋子, 久松洋司, 米田祥子, 村田紘未, 笠松 敦, 角玄一郎, 小野淑子, 依岡寛和, 岡田英孝, 松尾 泉, 斉藤淳子, 松岡進, 榎木 晋, 神崎秀陽 (2007) 有茎性漿膜下子宮筋腫茎捻転の1例. 第117回近畿産科婦人科学会学術集会, 大阪
10. 都築朋子, 奥野茜子, 中嶋達也, 石原美由希, 伊藤亜希子, 久松洋司, 米田祥子, 村田紘未, 笠松 敦, 角玄一郎, 小野淑子, 依岡寛和, 岡田英孝, 松尾 泉, 斉藤淳子, 松岡進, 榎木 晋, 神崎秀陽 (2007) 大網・横行結腸・S状結腸浸潤を伴う巨大卵黄嚢腫瘍の1例. 第117回近畿産科婦人科学会学術集会, 大阪
11. 北脇 城, 岡田英孝, 本庄英雄, 神崎秀陽, 星

- 合 昊 (2007) 10代の月経周期・経血量の異常とその診断・治療. 第117回近畿産科婦人科学会学術集会, 大阪
12. 末原規幸, 朝倉寛之, 池田智明, 中村博昭, 西川吉伸, 森本義晴, 今井史郎, 中後 聡, 松尾重樹, 光田信明, 棕棒正昌, 依岡寛和, 斎田幸次 (2007) 多胎妊娠に関する大阪府医師会の取り組み. 第117回近畿産科婦人科学会学術集会, 大阪
13. Mizokami T, Hisha H, Okazaki S, Wang X, Song C, Li Q, Takaki T, Kato J, Kanzaki H and Ikehara S (2007) ヒト羊膜由来間葉系細胞の性状の検討 / Phenotypic and functional characterization of amnion-derived mesenchymal stem cells. 第37回日本免疫学会総会・学術集会, 東京
14. 加藤順子, 中澤孝夫, 村田健司, 藤本真由美, 倉 和美, 溝上友美, 保坂直樹, 早瀬ヨネ子, 桜井孝規, 足立 靖 (2007) 転移巣の細胞診断と組織診断の組み合わせで確定された肺癌の1症例. 日本臨床細胞学会秋期大会, 仙台
15. 伊藤亜希子 (2007) IUGR, 羊水過少症を契機として入院となったがHELLP症候群を急速に発症した1症例. 第24回大阪産婦人科医会河北地区研修会, 守口
16. 奥野茜子 (2007) 難治性子宮内膜炎 (子宮留膿腫) に対するイソジン灌流療法. 第24回大阪産婦人科医会河北地区研修会, 守口
17. 笠松 敦 (2007) 腹膜偽粘液腫状態を呈し虫垂由来と推定された腺癌合併妊娠の1例. 第24回大阪産婦人科医会河北地区研修会, 守口
18. 吉村智雄 (2007) IVF-ET後の非典型的OHSS症例. 第24回大阪産婦人科医会河北地区研修会, 守口
19. 久松洋司 (2007) 妊娠28週で出生前診断し得た開放性二分脊椎 (脊髓破裂) の1症例. 第24回大阪産婦人科医会河北地区研修会, 守口
20. 中嶋達也 (2007) 有茎性漿膜下子宮筋腫茎捻転の1例. 第24回大阪産婦人科医会河北地区研修会, 守口
21. 都築朋子 (2007) 大網・横行結腸・S状結腸浸潤を伴う巨大卵黄嚢腫瘍の例. 第24回大阪産婦人科医会河北地区研修会, 守口
22. 米田祥子 (2007) 妊娠終了により軽快した母体脊髄動静脈瘤の1症例. 第24回大阪産婦人科医会河北地区研修会, 守口
23. 西垣明実, 岡田英孝, 富仲正丈, 山口賢一, 杉山修成, 宮崎和典, 神崎秀陽 (2007) 卵胞サイズと胚発育. 第52回日本生殖医学会, 秋田
24. 西垣明実, 富仲正丈, 山口賢一, 杉山修成, 宮崎和典, 岡田英孝, 神崎秀陽 (2007) HTFとHFF99培養液の前培養使用における胚発育の比較検討. 第52回日本生殖医学会, 秋田
25. 馬場真有美, 岡田英孝, 川畑仁美, 下井華代, 宮城博恵, 小野淑子, 松岡 進, 安田勝彦, 日浦義仁, 松田公志, 神崎秀陽 (2007) 不妊症検査や治療を受けている女性の意識調査. 第52回日本生殖医学会, 秋田
26. 依岡寛和, 神崎秀陽 (2007) 日常診療で遭遇しやすい胎児異常の診断についてー画像診断 (超音波検査, MRIを中心にー. 平成19年度第1回大阪産婦人科医会研修会, 大阪
27. 奥野茜子 (2007) 子宮腺筋症術後に妊娠し癒着胎盤となった一例. 第18回近畿エンドメトリオーシス・GnRH研究会, 大阪
28. 小野淑子, 岡田英孝, 下井華代, 宮城博恵, 神崎秀陽 (2007) SMASと一般精液検査との比較検討. 第25回日本受精着床学会学術講演会, 仙台
29. 吉村智雄, 安田勝彦, 岡田英孝, 堀越順彦, 杉本久秀, 生田明子, 中元 剛, 分野由佳里, 角玄一郎, 神崎秀陽 (2007) IVF-ET後に重症OHSSを発症した症例. 第25回日本受精着床学会総会学術講演会, 仙台
30. 安田勝彦, 神崎秀陽, 岡田英孝, 中嶋達也, 中元 剛 (2007) 妊娠時の子宮筋収縮調節機構とそれに及ぼす喫煙の影響. 財団法人喫煙科学研究財団平成18年度助成研究発表会, 東京
31. 依岡寛和, 笠松 敦, 奥野茜子, 米田祥子, 村田紘未, 山口昌美, 榎木 晋, 神崎秀陽, 大橋 敦, 金子一成, 川滝元良 (2007) STICを用いて出生前診断を行ったleft pulmonary arterial slingの1症例. 第43回日本周産期・新生児学会学術集会, 東京
32. 笠松 敦, 依岡寛和, 榎木 晋, 神崎秀陽, 大橋 敦, 竹安晶子 (2007) 臍帯静脈途絶をきたした1症例. 第43回日本周産期・新生児学会学術集会, 東京
33. 奥野茜子, 中嶋達也, 斉藤淳子, 米田祥子, 村

- 田紘未, 笠松 敦, 山口昌美, 小野淑子, 堤明裕, 依岡寛和, 岡田英孝, 松尾 泉, 松岡進, 榎木 晋, 神崎秀陽 (2007) 直腸腔中隔腫瘍の1症例. 第116回近畿産科婦人科学会学会学術集会, 大津
34. 笠松 敦, 奥野茜子, 小野淑子, 米田祥子, 村田紘未, 山口昌美, 堤 明裕, 依岡寛和, 岡田英孝, 榎木 晋, 神崎秀陽 (2007) 出生前診断し得た胎児完全大血管転位の1症例. 第116回近畿産科婦人科学会学会学術集会, 大津
35. 村田紘未, 中嶋達也, 奥野茜子, 笠松 敦, 米田祥子, 山口昌美, 小野淑子, 堤 明裕, 依岡寛和, 岡田英孝, 松尾 泉, 松岡 進, 斉藤淳子, 榎木 晋, 神崎秀陽 (2007) 緊急入院・手術となった筋腫分娩の2症例. 第116回近畿産科婦人科学会学会学術集会, 大津
36. 堤 明裕, 岡田英孝, 小野淑子, 松尾 泉, 松岡 進, 神崎秀陽 (2007) 当院で経験した早発卵巣不全6症例の検討. 第116回近畿産科婦人科学会学会学術集会, 大津
37. 米田祥子, 村田紘未, 奥野茜子, 岡田英孝, 松岡 進, 中嶋達也, 斉藤淳子, 神崎秀陽 (2007) 子宮温存療法を行った子宮体部腫瘍2症例の経験について. 第116回近畿産科婦人科学会学会学術集会, 大津
38. 依岡寛和, 神崎秀陽 (2007) シンポジウム「勃興しつつある新たな画像診断」—胎児MRIによる出生前診断—. 第43回日本小児放射線学会, 東京
39. 神崎秀陽 (2007) 子宮内膜症薬物治療のトピックス. 第5回北海道生殖医療カンファレンス, 札幌
40. 生田明子, 溝上友美, 中元 剛, 吉村智雄, 杉本久秀, 安田勝彦, 堀越順彦 (2007) 術後非Hodgkin リンパ腫と診断された腔血腫の1例. 日本超音波医学会第80回学術集会, 鹿児島
41. 安田勝彦 (2007) 産婦人科領域におけるセブラフィルムの使用方法. 科研製薬大阪支店全体会議「特別講演」, 大阪
42. 安田勝彦, 角玄一郎, 金森千春, 中元 剛, 中嶋達也, 岡田英孝, 神崎秀陽 (2007) $\beta 2$ アドレナリン刺激薬の筋収縮作用は何故ヒト子宮筋で弱いのか. 第59回日本産科婦人科学会学会学術集会, 京都
43. 奥野茜子, 吉田桃子, 笠松 敦, 山口昌美, 小野淑子, 堤 明裕, 中嶋達也, 岡田英孝, 斉藤淳子, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2007) 虫垂の子宮内膜症の1例. 第59回日本産科婦人科学会学会学術集会, 京都
44. 岡田英孝, 中元 剛, 中嶋達也, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2007) propotein convertase 6は, ヒト子宮内膜の脱落膜化に必要である. 第59回日本産科婦人科学会学会学術集会, 京都
45. 生田明子, 斉藤淳子, 溝上友美, 内田陽子, 中元 剛, 松尾 泉, 杉本久秀, 安田勝彦, 堀越順彦, 神崎秀陽 (2007) 早期子宮頸癌におけるp53発現およびHPV DNAと予後についての検討. 第59回日本産科婦人科学会学会学術集会, 京都
46. 溝上友美, 比舎弘子, 岡崎 智, 王 曉麗, 宋昌華, 李 清, 加藤順子, 神崎秀陽, 池原進 (2007) SCID マウスへのヒト羊膜由来ストローマ細胞移植併用による臍帯血由来造血幹細胞生着促進作用. 第96回日本病理学会総会, 大阪
47. 神崎秀陽 (2007) 女性のQOL(よりよい生活向上のために)と産婦人科医療. 国際ソロプチミスト大阪(北東)チャリティ講演会, 守口
48. 依岡寛和, 神崎秀陽 (2007) 当院における電子カルテ運用の実践. 第45回大阪母性衛生学会学術集会, 大阪
49. 神崎秀陽 (2007) 子宮内膜症薬物治療のストラテジー. 堺産婦人科医学会学術講演会, 堺
50. 奥野茜子, 吉田桃子, 中嶋達也, 岡田英孝, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2007) 急性虫垂炎との鑑別が困難であった虫垂の子宮内膜症の1例. 第28回エンドメトリオーシス研究会学術講演会, 和歌山

著 書

1. 中嶋達也, 神崎秀陽 (2007) 症例25機能性(子宮)出血. プライマリケア産婦人科—ベッドサイドで役立つ30症例—(佐川典正他編) 206–212頁, 金芳堂, 京都
2. 神崎秀陽 (2007) 喫煙と妊婦・胎児—研究領域の概要—. 喫煙科学研究の歩み: 1996年から2005年(三須良實他編) 212–215頁, 喫煙科学研究財団, 東京

麻酔科学講座

〈研究業績〉

原著

1. Inada T, Kushida A, Sakamoto S, Taguchi H and Shingu K (2007) Intrathecal betamethasone pain relief in cancer patients with vertebral metastasis: a pilot study. *Acta Anaesthesiol Scand* 51: 490–494
2. Yoshitani K, Kawaguchi M, Okuno T, Kanoda T, Ohnishi Y, Kuro M and Nishizawa M (2007) Measurements of optical pathlength using Phase-Resolved spectroscopy in patients undergoing cardiopulmonary bypass. *Anesth Analg* 104: 341–346
3. Yoshitani K, Kawaguchi M, Miura N, Okuno T, Kanoda T, Ohnishi Y and Kuro M (2007) Effects of hemoglobin concentration, skull thickness, and the area of the cerebrospinal fluid layer on near-infrared spectroscopy measurements. *Anesthesiology* 106: 458–462
4. Asai T, Goy R-W and Liu E-H (2007) Cricoid pressure prevents placement of the laryngeal tube and laryngeal tube-suction II. *Br J Anaesth* 99: 282–285
5. Hamano N, Inada T, Iwata R, Asai T and Shingu K (2007) The alpha2-adrenergic receptor antagonist yohimbine improves endotoxin-induced inhibition of gastrointestinal motility in mice. *Br J Anaesth* 98: 484–490
6. Taguchi H, Oishi K, Sakamoto S and Shingu K (2007) Intrathecal betamethasone for cancer pain in the lower half of the body: a study of its analgesic efficacy and safety. *Br J Anaesth* 98: 385–389
7. Kushida A, Inada T and Shingu K (2007) Enhancement of antitumor immunity after propofol treatment in mice. *Immunopharmacol Immunotoxicol* 29: 477–486
8. Umegaki T, Murao K, Asai T and Shingu K (2007) The Laryngeal Mask Airway for exchange of a nasal for an orotracheal tube in a patient with Treacher Collins syndrome. *J Clin Anesth* 19: 467–469
9. Asai T, Enomoto Y and Okuda Y (2007) Air way scope, a portable video-laryngoscope, for confirmation of tracheal intubation. *Resuscitation* 72: 335–336
10. 森山尚治, 上山精二, 堀江 剛, 西田吉治, 浅井 隆 (2007) ラリngeアルチューブの有用性とカフ空気量について. *プレホスピタル・ケア* 20: 39–42

総説

1. 松本早苗, 浅井 隆, 新宮 興 (2007) トゥルービュー EVO2 ビデオ喉頭鏡の紹介. *麻酔* 56: 213–217
2. 浅井 隆 (2007) 【意識下挿管】私の意識下挿管 LMA を用いた意識下挿管. *LiSA* 14: 150–154
3. 西憲一郎, 新宮 興 (2007) 【呼吸リハビリテーション実践マニュアル 基礎から臨床まで】周術期の呼吸障害について. *Med Rehabil* 78: 51–54
4. 中尾慎一, 新宮 興 (2007) 【臨床医学の展望 2007】麻酔科学. *医事新報* 4319: 28–32
5. 浅井 隆, 榎本善朗, 新宮 興, 奥田泰久 (2007) エアウェイスコープ喉頭鏡の紹介. *麻酔* 56: 862–865

症例報告

1. 梅垣岳志, 西憲一郎, 村尾浩平, 高平一代, 新宮 興 (2007) 後腹膜鏡手術において生体組織接着剤 (フィブリノゲン加第XIII因子) のスプレー噴霧直後に空気塞栓を来した1症例. *麻酔* 56: 1203–1205

学会発表

1. Nakao S (2007) The effect of propofol on the sigma1 receptor. First World Congress of Total Intravenous Anaesthesia-TCI, Venice
2. Asai T (2007) Anaesthetic strategies for known difficult airways. The Association of Anaesthetists of Great Britain & Ireland Annual, Dublin
3. Asai T (2007) Video Laryngoscope-our future? The Association of Anaesthetists of Great Britain

& Ireland Annual, Dublin

4. Liu E-H, Goy R-W and Asai T (2007) Effect of cricoid pressure on placement of the laryngeal tube. 81st Clinical and Scientific Congress of the International Anesthesia Research Society, Orlando
5. 宮崎秀行, 神原知子, 永田 厚, 浅井 隆, 新宮 興 (2007) ラリンジアルマスクを用いて気管チューブ周囲からのガス漏れを防げた腹臥位症例. 第27回日本臨床麻酔学会, 東京
6. 浅井 隆 (2007) 気道確保困難が予測された症例の麻酔計画. 第3回日本医学シュミレーション学会総会, 東京
7. 浅井 隆 (2007) シナリオコンテスト: 巨大縦隔腫瘍症例の気道確保. 第3回日本医学シュミレーション学会総会, 東京
8. 藤本久美子, 廣瀬卓治, 永田 厚, 大石敬子, 浅井 隆, 田口仁士 (2007) 拡張型心筋症と低酸素性脳症を合併した福山型先天性筋ジストロフィー患者の麻酔経験. 日本麻酔科学会第54回学術集会, 北海道
9. 加藤奈穂子, 永田 厚, 廣瀬卓治, 浅井 隆, 新宮 興 (2007) Ehlers-Danlos 症候群とネマリン筋症を合併した患者の麻酔経験. 日本臨床麻酔学会第27回大会, 東京
10. 松本早苗, 浅井 隆, 呉本善聡, 阪本幸世, 新宮 興 (2007) エアウェイスコープが有用であった巨大声帯腫瘍の1例. 日本臨床麻酔学会第27回大会, 東京
11. 松本早苗, 浅井 隆, 呉本善聡, 新宮 興 (2007) TruviewEVO2喉頭鏡が有用であった気道確保困難症例の経験. 日本臨床麻酔学会第27回大会, 東京
12. 上嶋浩順, 浅井 隆, 新宮 興 (2007) 発光ダイオード光源 (LED) を使用した気管挿管ファイバースコープの輝度と見えやすさ. 日本臨床麻酔学会第27回大会, 東京
13. 上嶋浩順, 浅井 隆, 新宮 興, 井上 久, 橋本雄一, 榎本善朗, 奥田泰久 (2007) 挿管困難症例に対しエアウェイスコープにブジーを併用し気管挿管が可能であった4症例. 日本臨床麻酔学会第27回大会, 東京
14. 浅井 隆 (2007) ワークショップ (5) 新しい気道確保: 気道確保における進歩—喉頭鏡と気管チューブ不要時代は来るか: ラリンジアルマスク. 日本臨床麻酔学会第27回大会, 東京
15. 浅井 隆 (2007) ランチョンセミナー: 新しい気管挿管補助器具エアウェイスコープの展望. 日本臨床麻酔学会第27回大会, 東京
16. 藤本久美子, 浅井 隆, 加藤奈穂子, 神原知子, 永田 厚, 新宮 興 (2007) 車内に閉じ込められた患者の想定下におけるエアウェイスコープを用いた気管挿管. 日本臨床麻酔学会第27回大会, 東京
17. 波多野貴彦, 浅井 隆, 廣瀬卓治, 永田 厚, 新宮 興 (2007) サリドマイド内服により肺閉塞のリスクが高いと考えられた麻酔経験. 日本臨床麻酔学会第27回大会, 東京
18. 浅井 隆 (2007) 気管挿管以外の気道確保法—ラインジアルマスクと中心として—. 大阪府医師会医学会 医学の進歩シリーズ (平成19年度第3回), 大阪
19. 加藤奈穂子, 浅井 隆, 松本早苗, 藤瀬久美子, 新宮 興, 榎本善朗, 奥田泰久 (2007) 挿管困難症例におけるエアウェイスコープ喉頭鏡の有用性. 第53回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 大阪
20. 角 千里, 浅井 隆, 河嶋 朗, 名和照晃, 新宮 興 (2007) 麻酔器のカニスタの取り違えからエアリークを生じた1症例. 第53回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 大阪
21. 松井博義, 松本早苗, 浅井 隆, 呉本善聡, 谷陽一, 新宮 興 (2007) TruViewEVO2喉頭鏡が有用であった巨大甲状腺腫瘍の1例. 第53回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 大阪
22. 波多野貴彦 (2007) エアウェイスコープと喉頭鏡の比較. 第53回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 大阪
23. 高橋朋子, 廣瀬卓治, 加藤奈穂子, 浅井 隆, 新宮 興 (2007) 喉頭展開前に動揺歯が気管支内異物となった1症例. 第53回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 大阪
24. 増澤宗洋, 田口仁士, 大石敬子, 松本英夫, 中尾みどり, 永田 厚 (2007) 心療内科的治療が疼痛の急性増悪に有効であったアレルギー性肉芽腫性血管炎の症例. 第6回難治性疼痛研究会, 大阪
25. 叶多知子 (2007) パネルディスカッション: あ

- あなたが拓く、血栓・止血の制御—心臓血管麻酔における展望—、日本心臓血管麻酔学会第12回学術大会、福岡
26. 浅井 隆 (2007) 学会企画「新しい気道確保法」: ビデオ喉頭鏡の特徴と展望、日本麻酔科学会第54回学術集会、北海道
27. 榎本善朗, 吉田伸司, 佐藤博臣, 浅井 隆, 奥田泰久 (2007) 喉頭蓋嚢胞患者1例でのエアウェイスコープの使用経験、日本麻酔科学会東京・関東甲信越支部第47回合同学術集会、栃木
28. 岩井鉄平, 小島研太郎, 濱野宣行, 山崎悦子, 福井淳一, 西憲一郎, 中尾慎一, 新宮 興 (2007) 空気塞栓症により広範囲脳梗塞・急性心筋梗塞をきたした一例、第52回日本集中治療医学会近畿地方会、大阪
29. 田口仁士 (2007) シンポジウム: 医療事故情報をどのように収集し、どのように役立たせるのか、日本ペインクリニック学会第41回大会、神奈川
30. 稲田武文, 神原知子, 新宮 興 (2007) 低酸素下においてプロポフォルがマクロファージのシクロオキシゲナーゼ2発現に及ぼす影響、日本麻酔科学会第54回学術集会、北海道
31. 榎本善朗, 浅井 隆, 新井丈郎, 加瀬幸子, 土田実砂, 奥田泰久 (2007) ビデオ硬性挿管用喉頭鏡 (Air Way Scope) とビデオ喉頭鏡との比較50例、日本麻酔科学会第54回学術集会、北海道
32. 遠井健司, 安本和正, 瀬尾憲正, 新宮 興, 平林由広 (2007) 学会企画「新しい気道確保法」: AIRTRAQR とマッキントッシュ喉頭鏡による気管挿管: 挿管人形における比較、日本麻酔科学会第54回学術集会、北海道
33. 宮本悦子, 阪本幸世, 叶多知子, 上村幸子, 中尾慎一, 新宮 興 (2007) 高血圧自然発症ラットにおける低二酸化炭素血症の脳白質への影響、日本麻酔科学会第54回学術集会、北海道
34. 松本早苗, 浅井 隆, 呉本善聡, 新宮 興 (2007) 予想外の気道確保困難症例に対するTruViewEVO2喉頭鏡の使用経験22症例、日本麻酔科学会第54回学術集会、北海道
35. 上嶋浩順, 浅井 隆, 阪本幸世, 神原知子, 新宮 興 (2007) 挿管困難症例におけるエアウェイスコープ喉頭鏡の有用性の検討、日本麻酔科学会第54回学術集会、北海道
36. 新宮 興 (2007) シンポジウム 04: ロクロニウム Rocuronium の Vecurouium との比較、日本麻酔科学会第54回学術集会、北海道
37. 清水恵子, 橋本雄一, 榎本善朗, 奥田泰久, 浅井 隆, 新宮 興 (2007) 新しい気管挿管補助器具エアウェイスコープによる100例の使用経験、日本麻酔科学会第54回学術集会、北海道
38. 浅井 隆 (2007) ランチョンセミナー: ラリンジアルマスクの現状と未来、日本麻酔科学会第54回学術集会、北海道
39. 藤本久美子, 廣瀬卓治, 永田 厚, 浅井 隆, 田口仁士 (2007) Kennedy-Alter-Sung 症候群患者の麻酔経験、日本麻酔科学会第54回学術集会、北海道
40. 梅垣岳志, 西憲一郎, 村尾浩平, 高平一代, 新宮 興 (2007) 後腹膜鏡手術において生体組織接着剤—フィブリノゲン加第XIII因子—スプレー噴霧直後に致死的空気塞栓をきたした一症例、日本麻酔科学会第54回学術集会、北海道
41. 西憲一郎, 梅垣岳志, 小島研太郎, 濱野宣行, 山崎悦子, 神原達也, 中尾慎一, 新宮 興 (2007) 人工呼吸管理せずに救命し得た高齢者の重症急性肺炎の一例、第34回日本集中治療医学会学術集会、兵庫
42. 濱野宣行 (2007) アイデンティティ向上にむけて、第34回日本集中治療医学会学術集会、兵庫
43. 岩井鉄平, 岡本明久, 高平一代, 中尾慎一, 新宮 興 (2007) フェンタニルが意識消失に要するプロポフォル濃度に与える影響、第19回近畿麻酔シンポジウム、大阪
44. 岩井鉄平, 岡本明久, 高平一代, 中尾慎一, 新宮 興 (2007) フェンタニルが意識消失に要するプロポフォル濃度に与える影響、日本麻酔科学会第54回学術集会、大阪
45. 田口仁士 (2007) ペインクリニックについて、関西医科大学第9回市民公開講座、大阪
46. 森山尚治, 西田吉治, 上山精二, 堀江 剛, 浅井 隆 (2007) 救急救命士の使用できる気道確保器具の有用性の比較について、第15回全

国救急隊員シンポジウム, 埼玉

47. 上嶋浩順, 浅井 隆, 新宮 興 (2007) エアウェイスコープとガム・エラスティック・ブジーを用いて気管チューブの交換を行った1例. 第53回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 大阪

著 書

1. 安本和正, 浅井 隆 (2007) 第1章: どこまで気管挿管にとって代われるか? 第2章: 適切な麻酔が必要 第3章: 挿入のコツ 第6章: どんな手術時に使えるか? 〈一般篇〉第8章: 最新情報. どこまでできるかラリンジアルマ

スク 120頁, 克誠堂出版, 東京

2. 新宮 興, 山崎悦子 (2007) ミラー麻酔科学 Miller's Anesthesia Sixth Edition (Ronald D. Miller編), メディカル・サイエンス・インターナショナル, 東京
3. 久保古寿江, 新宮 興 (2007) 第3章 投与法 1. 1回投与法. ロクロニウムの基礎と臨床 (武田純三編) 52-65頁, 真興交易 (株) 医書出版部, 東京
4. 浅井 隆 (2007) 第13章 Difficult airway の気道確保時の鎮静法としての TIVA. 今日から実践できる TIVA (木山秀也編) 219頁, 真興交易 (株) 出版部, 日本

臨床検査医学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Nishimura M, Takahashi H and Yoshimura M (2007) Upregulation of the brain renin-angiotensin system in rats with chronic renal failure. *Acta Physiol* 189: 369-377
2. Kaibori M, Morita M, Tagami S, Uchida Y, Tanaka H, Yoshioka K, Takahashi Y, Sakaida N, Uemura Y, Seki T, Okazaki K and Kamiyama Y (2007) Cutaneous and colonic metastases after resection of hepatocellular carcinoma. *Dig Dis Sci* 52: 1114-1117
3. Kaibori M, Uchida Y, Ishizaki M, Saito T, Hirohara J, Kishimoto Y, Uemura Y, Tanaka K and Kamiyama Y (2007) Living donor liver transplantation for primary biliary cirrhosis with autoimmune hemolytic anemia: a case report. *Dig Dis Sci* 52: 3237-3239
4. Miki K, Uehara N, Shikata N, Matsumura M and Tsubura A (2007) Poly (ADP-ribose) polymerase inhibitor 3-aminobenzamide rescues N-methyl-N-nitrosourea-induced photoreceptor cell apoptosis in Sprague-Dawley rats through preservation of nuclear factor-kappa B activity. *Exp Eye Res* 84: 285-292
5. Matsuzaki K, Murata M, Yoshida K, Sekimoto G, Uemura Y, Sakaida N, Kaibori M, Kamiyama Y,

Nishizawa M, Fujisawa J, Okazaki K and Seki T (2007) Chronic inflammation associated with hepatitis C virus infection perturbs hepatic transforming growth factor beta signaling, promoting cirrhosis and hepatocellular carcinoma. *Hepatology* 46: 48-57

6. Yoshika M, Komiyama Y, Konishi M, Akizawa T, Kobayashi T, Date M, Kobatake S, Masuda M, Masaki H and Takahashi H (2007) Novel digitalis-like factor, marinobufotoxin, isolated from cultured Y-1 cells, and its hypertensive effect in rats. *Hypertension* 49: 209-214
7. Shimano N, Uehara N, Kiyozuka Y, Shikata N and Tsubura A (2007) Effects of prepubertal indole-3-carbinol treatment on development of N-methyl-N-nitrosourea-induced mammary carcinomas in female Sprague-Dawley rats. *In Vivo* 21: 983-986
8. Ikeda K, Seki T, Umehara H, Inokuchi R, Tamai T, Sakaida N, Uemura Y, Kamiyama Y and Okazaki K (2007) Clinicopathologic study of small hepatocellular carcinoma with microscopic satellite nodules to determine the extent of tumor ablation by local therapy. *Int J Oncol* 31: 485-491
9. Nakamura T, Shimizu C, Kasahara M, Nakata C, Munakata M and Takahashi H (2007) Differences

in antimicrobial susceptibility breakpoints for *Pseudomonas aeruginosa*, isolated from blood cultures, set by the Clinical and Laboratory Standards Institute (CLSI) and the Japanese Society of Chemotherapy. *J Infect Chemother* 13: 24-29

10. Takagi K, Matsumura S, Okuda-Ashitaka E, Okuda K, Watanabe J, Takahashi H, Iwakura Y and Ito S (2007) Interleukin-1 is not essential for expression of inducible NOS in hepatocytes induced by lipopolysaccharide in vivo. *Nitric Oxide* 16: 433-441
11. 笠原麻友美, 中村竜也, 清水千裕, 奥田和之, 中田千代, 藤本弘子, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2007) 各種ブレイクポイントを用いた薬剤感受性試験報告システムの構築について. *医学検査* 56: 19-23
12. 伊藤浩一, 日高典子, 宗像眞智子, 正木浩哉 (2007) パスファーストを用いたBNPの基礎的検討と保存安定性について (第2報). *医療と検機器・試薬* 30: 287-292

総説

1. Takahashi H (2007) New insights into the therapeutic management of morning hypertension with alpha(1)-adrenergic receptor blockers. *Hypertens Res* 30: 1011-1013
2. 小宮山豊 (2007) 医療の最前線 採血トラブル みんなで知ろう. 採血トラブルとその周辺 採血関連事故を防ぐには. *医療と検機器・試薬* 30: 467-479
3. 小宮山豊, 吉賀正亨, 高橋伯夫 (2007) 【血小板 その形態と計測】血小板マイクロパーティクル. *生物試料分析* 30: 195-202
4. 小宮山豊 (2007) 【血栓・止血検査の最前線 (2)】血小板減少症に関する検査の最前線と応用 TTPおよびHITの検査診断. *日血栓止血会誌* 18: 241-246
5. 高橋伯夫 (2007) スタチンの多面的な作用とそのメカニズム. *臨化* 36: 140-145
6. 小宮山豊 (2007) 採血トラブルとその周辺序にかえて. *臨病理* 55: 237-240
7. 高橋伯夫 (2007) 「心不全の病態と臨床検査」新ガイドラインが認める最も優れた検体検

査: 脳性ナトリウム利尿ホルモン, BNP. *臨病理* 55: 1088-1096

8. 原 克子, 朴 幸男, 高橋伯夫 (2007) 技術講座 生化学 small dense LDLの測定. *検と技* 35: 117-125
9. 高橋伯夫 (2007) C-反応性蛋白(CRP)の新たな機能. *検と技* 35: 983-987
10. 高橋伯夫 (2007) 診断の指針 治療の指針 危ない高血圧早朝高血圧. *総合臨* 56: 1961-1962
11. 黒川弘晶, 野村基雄, 前原 稔, 大村直人, 池田茂樹, 池田耕土, 澤田 敏, 坂井田紀子, 植村芳子 (2007) 画像診断ライブラリー 前立腺肥大と前立腺癌のMRIにおける鑑別. *医事新報* 4345: 69-72
12. 高橋伯夫 (2007) メタボリックシンドローム健診での注意点 血圧測定. *臨検* 51: 1203-1207
13. 高橋伯夫 (2007) 健診・保健指導による健康増進 生活習慣病対策への挑戦 臨床検査の活用. *臨病理* 55: 824-831

症例報告

1. Kwon AH, Tsuji K, Yamada H, Okazaki K and Sakaida N (2007) Amyloidosis of the gallbladder mimicking gallbladder cancer. *J Gastroenterol* 42: 261-264
2. 島谷昌明, 松下光伸, 内田一茂, 福井由理, 田橋賢也, 関 寿人, 岡崎和一, 植村芳子, 坂井田紀子, 河南智晴 (2007) ダブルバルーン小腸内視鏡検査が切除範囲決定の一助となった回腸カルチノイド肝転移の1例. *Gastroenterol Endosc* 49: 1152-1158
3. 波柴尉充, 梶本心太郎, 前田裕仁, 平川昭彦, 村尾佳則, 中谷壽男, 小宮山豊 (2007) 抗凝固薬・症例 持続的血液濾過透析 (CHDF) 施行時, 播種性血管内凝固 (DIC) にヘパリン起因性血小板減少症(HIT)を合併し診断に苦慮した2例. *ICUとCCU* 31: S192-S194
4. 坂口雄沢, 榎 政彦, 足立 靖, 山本奈恵, 植村芳子, 川喜多繁誠, 鷹巣晃昌, 岡崎和一, 松田公志, 池原 進 (2007) 前立腺原発小細胞癌の1剖検例. *診断病理* 24: 93-96
5. おおえ賢一, 和田孝彦, 飯田寛和, 坂井田紀

- 子, 植村芳子 (2007) 股関節に発生した色素性絨毛結節性滑膜炎に対する術式検討. 中部整災誌 50: 1135-1136
6. 中出多子, 岩井 大, 河本光平, 中江 香, 泉川雅彦, 八木正夫, 小西将矢, 大前麻理子, 四方伸明, 山下敏夫 (2007) 3次性が疑われた副甲状腺機能亢進症の1例. 頭頸部外 17: 147-152
 7. 吉賀正亨, 小宮山豊, 寺岡安津子, 寺内里恵, 大倉ひろ枝, 宗像真智子, 為政大幾, 正木浩哉, 堀尾 武, 高橋伯夫 (2007) D-ダイマーの異常高値を認めた悪性黒色腫の1例. 日検血会誌 8: 307-311
 8. 海堀昌樹, 石崎守彦, 内田洋一朗, 齊藤隆道, 植村芳子, 関 寿人, 上山泰男 (2007) 若年者に発症した非B非C型肝炎細胞癌の1例. 日消器外誌 40: 617-622
 9. 森 栄作, 木村 崇, 都留常央, 萩原英恵, 田上哲也, 臼井 健, 島津 章, 成瀬光栄, 中野為夫, 奥野 博, 南口早智子, 笹野公伸, 高橋伯夫 (2007) 長期経過に伴う病理所見を呈したアルドステロン産生腺腫の一例. 日内分泌会誌 83: 180-181
 10. 吉田健志, 木下秀文, 谷口久哲, 地崎竜介, 西田晃久, 日浦義仁, 大口尚基, 河 源, 六車光英, 松田公志, 坂井田紀子, 植村芳子 (2007) Low grade, low stageであったペリニ管癌の1例. 泌紀 53: 121-124
 11. 山中滋木, 為政大幾, 堀尾 武, 石崎守彦, 川口雄才, 横井 崇, 中井邦久, 植村芳子 (2007) 皮膚浸潤を来したBurkitt lymphomaの1例. 皮膚の科 6: 352-356
 12. 尾崎 岳, 海堀昌樹, 小池保志, 植村芳子, 関寿人, 上山泰男 (2007) 肝原発内分泌細胞癌の1切除例. 臨外 62: 553-557
 13. 銚谷敏夫, 児島 新, 森 裕之, 飯田寛和, 坂井田紀子 (2007) 外傷を契機に発生した下腿線維索により足関節尖足を来した1例. 中部整災誌 50: 647-648
 14. 谷岡理恵, 森真一郎, 中西孝尚, 藤田真也, 中道尚人, 田嶋健一郎, 植村芳子, 尼川龍一, 岸本裕司, 福原資郎 (2007) 末梢血中のEpstein-Barr virus(EBV)-DNA増加を伴った加齢性EBV関連B細胞増殖異常症. 臨血 48: 1492-1497
- 学会発表
1. Masuda M and Takahashi H (2007) Expression of FcγRIIIa on NKT cell from RA patients. 日本免疫学会, Tokyo
 2. Masuda M, Miyashima S, Shi Y-H, Nishimura N, Yoshika M, Komiyama Y, Iida H and Takahashi H (2007) Soluble Fcγ receptor type IIIa derived from NK cells in plasma as a novel marker for the inflammatory activity in rheumatoid arthritis. International Congress of Immunology, Rio de Janeiro
 3. Toyokawa H, Satoi S, Yanagimoto H, Matsui Y, Takai S, Kamiyama Y, Fukata N, Takaoka M, Uchiyama S, Uemura Y, Sakaida N and Okazaki K (2007) A Case Report of Small Solid Pseudopapillary Tumor in a Young Man. First Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association, Fukuoka
 4. 池田広記, 井上肇一, 住本貴美, 鈴木 亮, 中橋佳嗣, 廣原淳子, 関 寿人, 岡崎和一, 海堀昌樹, 上山泰男, 坂井田紀子, 植村芳子 (2007) インターフェロン治療で完全著効を得られた慢性C型肝炎に発症したG-CSF産生肝細胞癌の1例. 第37回日本肝臓学会西部会, 長崎
 5. 武田聖子, 是枝ちづ, 横江有佳, 梅原秀人, 池田耕造, 関 寿人, 岡崎和一, 河 相吉, 池田茂樹, 北出浩章, 権 雅憲, 四方伸明 (2007) 肝腫瘍との鑑別が困難であった肝異物肉芽腫の一切除例. 第37回日本肝臓学会西部会, 長崎
 6. 足立 靖, 垓 貴司, 松波光代, 田中喜壽, 中元 剛, 溝上友美, 鷹巢晃昌 (2007) 細胞診とセルブロックを用いた免疫染色で診断を確定した形質細胞腫の一例. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会, 仙台
 7. 宇山 研, 木村祐樹, 二村泰行, 熊谷雄治, 高橋伯夫, 千葉 勉, 眞弓忠範, 宮田久嗣, 吉村 功, 中島光好 (2007) 健康な日本人喫煙者を対象とした紙巻たばこ1本の喫煙によるニコチン及びその主要代謝物ニコチンの pharmacokinetic パラメータの評価. 第28回日本臨床薬理学会年会, 宇都宮
 8. 垓 貴司, 山崎文和, 鷹巢晃昌, 四方伸明, 螺良愛郎 (2007) 軀幹部皮膚に多発性丘疹をみ

- た1例. 第39回日本病理学会近畿支部学術集会, 京都
9. 山東香織, 濱口記久子, 坂井仁美, 田口香利, 岡野公明, 本里智子, 岡本久, 坂井田紀子, 植村芳子, 鷹巣晃昌 (2007) 胆汁細胞診で認めた悪性リンパ腫の2症例. 第46回日本臨床細胞学会秋期大会, 仙台
 10. 高橋伯夫 (2007) メタボ検診を斬る～来年度から始まる特定健診の臨床部門への課題と展望～特定健診を契機に臨床検査の振興を目指せ 臨床検査医の立場から. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
 11. 高橋伯夫 (2007) 医療を活かす臨床検査 水・電解質代謝異常とその周辺疾患の成因に関する研究. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
 12. 笠原麻友美, 清水千裕, 中村竜也, 清水千裕, 奥田和之, 中田千代, 藤本弘子, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2007) 各種臨床分離株に対する経口抗菌薬の薬剤感受性と PK/PD 理論を用いた有効性について. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
 13. 乾佐知子, 井辻泰子, 小森敏彦, 西山弥生, 田中文代, 角坂芳彦, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2007) 白血球特異的エステラーゼ反応を利用した髄液白血球細胞の分類精度向上. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
 14. 吉賀正亨, 小宮山豊, 高橋伯夫 (2007) 下垂体培養細胞 GH3 における内因性ジギタリス様物質 (マリノブフォトキシン) の分泌動態の検討. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
 15. 吉賀正亨, 上農寛子, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2007) 循環器疾患におけるN末端-proBNP測定の臨床的意義 心エコーによる左室駆出率との比較. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
 16. 吉賀正亨, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2007) 動脈硬化における高感度 CRP 測定の検討 高脂血症治療患者での検討を中心に. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
 17. 原 克子, 小宮山豊, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2007) Exhaled breath condensate (EBC) 成分に及ぼす喫煙の影響. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
 18. 原 克子, 小宮山豊, 平川昭彦, 北澤康秀, 中谷壽男, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2007) 敗血症症例における ADAMTS13 活性に関連する臨床検査マーカー 特にLysophosphatidylcholineとの関連. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
 19. 原 克子, 朴 幸男, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2007) 虚血性心疾患 (安定労作性狭心症) におけるレムナントリポ蛋白コレステロール. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
 20. 高田厚照, 杉林幸代, 平山優子, 大西一司, 松島裕美, 林かおり, 仁木素子, 山根景次, 盛本恵美子, 迫村裕子, 箕尾恵子, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2007) 血圧脈波検査が有用であった大動脈縮窄症の1例. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
 21. 山本郁子, 部谷晃子, 野村明代, 平井雅美, 西山弥生, 徳永秀理, 寺内里恵, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2007) CD4(-)CD8(+)のT細胞性前リンパ性白血病の1症例. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
 22. 上農寛子, 大倉ひろ枝, 吉岡秀樹, 鈴木玲子, 吉賀正亨, 高橋伯夫 (2007) N末端-proBNP測定の基礎的検討およびBNPとの比較検討. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
 23. 杉林幸代, 平山優子, 高田厚照, 佐藤裕司, 山根景次, 箕尾恵子, 植村芳子, 坂井田紀子, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2007) 心エコー検査にて発見された胸腺腫瘍の1症例. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
 24. 清水千裕, 中村竜也, 笠原麻友美, 平川 要, 奥田和之, 中田千代, 藤本弘子, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2007) Real time PCRを用いたMycoplasma pneumoniaeの検出および治療に関する検討. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
 25. 西山弥生, 乾佐知子, 井辻泰子, 小森敏彦, 田中文代, 角坂芳彦, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2007) 小児腎臓疾患患者における尿試験紙での尿蛋白/クレアチニン比の有用性の検討. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
 26. 大倉ひろ枝, 笠井香里, 高橋敦子, 高橋伯夫 (2007) 迅速検査に対応可能なKL-6測定試薬の

基礎的検討と有用性について. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪

27. 大倉ひろ枝, 上農寛子, 吉岡秀樹, 鈴木玲子, 吉賀正亨, 高橋伯夫 (2007) 心機能評価におけるN末端-proBNP測定の意義と問題点. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
28. 中村竜也, 清水千裕, 笠原麻友美, 平川 要, 奥田和之, 中田千代, 藤本弘子, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2007) 各種臨床分離株に対するニューキノロン系薬の薬剤感受性とその有効性評価について. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
29. 田中京子, 本田睦子, 山端陸夫, 今福裕司, 吉田 浩, 小宮山豊, 高橋伯夫 (2007) 狭心症治療中にヘパリン起因性血小板減少症が疑われた一症例. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
30. 東 良子, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2007) 全自動マイクロプレートEIA装置Evolisによる抗ENA抗体測定の基礎的検討および3法の比較(DID法・ELISA2法). 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
31. 部谷晃子, 平川 要, 山本郁子, 西山弥生, 野村明代, 平井雅美, 徳永秀理, 寺内里恵, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2007) 空胞内に好酸性顆粒を有する幼若細胞が骨髓標本中に散見されたAML with t(8;21)(q22;q22)の小児の症例. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
32. 平山優子, 宮坂陽子, 拝殿未央, 杉林幸代, 高田厚照, 佐藤裕司, 山根景次, 箕尾恵子, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2007) 経胸壁心臓超音波検査が外科的術式の変更に寄与した一例～肺動脈弁にゆうぜいを認めた症例～. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
33. 平川 要, 中村竜也, 清水千裕, 笠原麻友美, 奥田和之, 中田千代, 藤本弘子, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2007) Light cyclerを使用した百日咳菌の検出と家族内感染の1例. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
34. 榊田 緑, 吉賀正亨, 小宮山豊, 高橋伯夫 (2007) 関節リウマチ患者のNKT細胞におけるFcγRIIIa発現量の変化. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
35. 榊田 緑, 高橋伯夫 (2007) 川崎病患者のFcγRIIB多型. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
36. 鈴木玲子, 高橋敦子, 吉岡秀樹, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2007) AU3000iによるTSHおよび甲状腺ホルモンの基礎的検討と臨床的評価. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
37. 濱田宏輝, 堀之内圭三, 竹下仁, 木村仁美, 山口桂司, 小宮山豊, 高橋伯夫, 秋元 寛 (2007) DIC改善後に予期せぬD-dimerの上昇がみられた1例. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
38. 下智比古, 蓮井正史, 大倉ひろ枝, 森 喜造, 高橋伯夫, 金子一成 (2007) AST結合免疫グロブリンの10歳女児例. 第54回日本臨床検査医学会学術集会 (第54回日本臨床検査医学会学術集会・第47回日本臨床化学会年次学術集会連合大会), 大阪
39. 廣渡祐史, 原 克子, 黒沢秀夫, 吉田 博, 柳内秀勝, 多田紀夫, 高橋伯夫 (2007) 健常者における血漿および全血中セロトニン値とリポ蛋白5分画中コレステロール値. 第54回日本臨床検査医学会学術集会 (第54回日本臨床検査医学会学術集会・第47回日本臨床化学会年次学術集会連合大会), 大阪
40. 吉賀正亨, 小宮山豊, 高橋伯夫 (2007) 食塩負荷ラットにおける新規内因性ジギタリス様物質であるマリノプフォトキシンの動態. 日本高血圧学会, 沖縄
41. 小宮山豊 (2007) 臨床検査学～その基礎と応用～. 平成19年度運動療法機能訓練技能講習会教育講演, 尼崎
42. 吉賀正亨, 小宮山豊, 高橋伯夫 (2007) 内因性ジギタリス様物質であるマリノプフォトキシンの食塩負荷したラットおよび培養細胞における検討. 高血圧関連疾患モデル学会, 大阪
43. 齊藤朋人, 馬庭知弘, 金田浩由紀, 坂井田紀子, 植村芳子, 齊藤幸人 (2007) 月経随伴性気胸の3手術例. 第11回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会, 東京
44. 黒川弘晶, 野村基雄, 桑田さおり, 前原 稔, 大村直人, 池田茂樹, 池田耕士, 澤田 敏, 坂井田紀子 (2007) 内腺域に発生した前立腺癌のMR画像の特徴について～病理組織との比較～. 第35回日本磁気共鳴医学会大会, 神戸

45. 豊永貴彦, 高岡 亮, 深田憲将, 島谷昌明, 小
薮雅紀, 池浦 司, 楠田武生, 住本貴美, 鈴
木 亮, 内田一茂, 関 寿人, 岡崎和一, 柳
本泰明, 里井壮平, 上山泰男, 坂井田紀子
(2007) 脾神経内分泌腫瘍の一症例. 第87回日
本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
46. 高田厚照, 宮坂陽子, 佐藤裕司, 平山優子, 青
田泰子, 拝殿未央, 高橋伯夫, 岩坂壽二 (2007)
Left Atrial Volume by Three Dimensional
Echocardiography; Comparison with Two Dimen-
sional Echocardiography. 日本心不全学会, 千葉
47. 上農寛子, 大倉ひろ枝, 吉岡秀樹, 鈴木玲子,
吉賀正亨, 高橋伯夫 (2007) Eモジュールによ
るN末端-proBNP測定の基礎的検討ならびに臨
床的検討. 日本臨床検査自動化学会, 横浜
48. 東 良子, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2007) 全
自動マイクロプレートEIA装置Evolisを用いた
抗核抗体検査の基礎的検討. 日本臨床検査自
動化学会, 横浜
49. 高橋伯夫 (2007) 低濃度域 CRP を健康診査に
活かす. 日本人間ドック学会学術大会, 東京
50. 吉賀正亨, 小宮山豊, 鈴木聡史, 北澤康秀, 正
木浩哉, 高橋伯夫 (2007) 敗血症性ショック
の治療中に遷延する血小板減少を認め2社の
HIT 抗体の測定結果に乖離を示したヘパリン
起因性血小板減少症. 検査血液学会, 福井
51. 原田佳明, 川崎美榮子, 鶴田一郎, 四方伸明,
麻田真知子, 別所 陽, 埴田和史 (2007) 勤
務医の労働環境実態と意識に関する調査. 第
48回日本社会医学会総会, 名古屋
52. 小宮山豊 (2007) 臨床検査部で遭遇する凝固
異常と検査の進め方 ～臨床現場を活かす凝
固検査をめざして～. 日本検査血液学会第8回
学術集会 教育講演, 福井
53. 小宮山豊 (2007) みんなで知ろう. 採血トラ
ブルと採血関連事故を防ぐには. 平成19年度
山陰地区連絡協議会 (島根県臨床検査技師会,
鳥取県臨床検査技師会) 教育講演, 大田
54. 坂井仁美, 山東香織, 田口香利, 岡野公明, 濱
口記久子, 坂井田紀子, 植村芳子, 鷹巢晃昌
(2007) 診断に苦慮した肺硬化性血管腫の1例.
第48回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 千
葉
55. 垓 貴司, 足立 靖, 鷹巢晃昌, 田中喜寿, 松
波光代, 赤松孝子, 四方伸明, 螺良愛郎 (2007)
原発および再発部より摂取された唾液腺導管
癌の穿刺吸引細胞像. 第48回日本臨床細胞学
会総会 (春期大会), 千葉
56. 青井一憲, 森本 聡, 早川 敬, 所 敏子, 高
橋延行, 小宮山豊, 正木浩哉, 西川光重, 岩
坂壽二 (2007) 血液透析導入時にヘパリン起
因性血小板減少症 (HIT) を発症した一例. 第
52回日本透析医学会学術総会, 大阪
57. 中村竜也, 高橋伯夫 (2007) 血液培養から検
出されたMRSAに対する抗MRSA薬の有効性
評価について. 日本化学療法学会総会, 仙台
58. 平川昭彦, 波柴耐充, 梶本心太郎, 前田裕二,
岩瀬正顕, 小宮山豊, 村尾佳則, 中谷壽男
(2007) DICに合併し診断に苦慮したHIT3例.
第10回日本臨床救急医学会, 神戸
59. 井上肇一, 中橋佳嗣, 松本隆之, 池田広記, 宮
崎浩彰, 廣原淳子, 関 寿人, 岡崎和一, 山
本奈恵, 植村芳子 (2007) 施術4年後に肝・骨
転移を来した悪性副腎外褐色細胞腫の1例.
第182回日本内科学会近畿地方会, 大阪
60. 池田耕士, 河 相吉, 鎌田 実, 前原 稔, 坂
井田紀子, 大村直人, 黒川弘晶, 米虫 敦, 播
磨洋子, 澤田 敏 (2007) FDG-PET/CT が有
用であった鼻腔NK/T細胞リンパ腫の1例. 第
36回頭頸部・胸部画像研究会, 東京
61. 中田千代, 奥田和之, 笠原麻友美, 清水千裕,
中村竜也, 藤本弘子, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫
(2007) TRC法による結核菌群迅速検出試薬の
基礎的検討. 日本医学検査学会, 宮崎
62. 高田厚照, 宮坂陽子, 佐藤裕司, 平山優子, 拝
殿美央, 青田泰子, 高橋伯夫, 岩坂壽二 (2007)
3次元心エコー法による左房容積の測定; 2次
元心エコー法との比較. 心エコー図学会, 長野
63. 黒川弘晶, 野村基雄, 前原 稔, 大村直人, 池
田耕士, 澤田 敏, 坂井田紀子 (2007) 内腺
域に発生した前立腺癌のMR画像～病理組織
との比較～. 第66回日本医学放射線学会総会,
横浜
64. 笠原麻友美, 清水千裕, 中村竜也, 清水千裕,
奥田和之, 中田千代, 藤本弘子, 大倉ひろ枝,
高橋伯夫 (2007) Streptococcus pneumoniae の
同定, 薬剤感受性試験におけるBDフェニックス
の性能評価とその有用性について. 日本感

染症学会総会, 京都

65. 藤山幹子, 橋本公二, 榊田 緑, 高橋伯夫 (2007) FractalkineとCD16陽性細胞 Stevens-Johnson症候群TENにおける新たな表皮障害機構. 日本研究皮膚科学会, 横浜
66. 吉賀正亨, 小宮山豊, 四方伸明, 榊田 緑, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2007) ラットにおける新規内因性ジギタリス様物質の分泌組織の検討. 日本内分泌学会, 東京
67. 小宮山豊, 吉賀正亨, 平川明彦, 村尾佳則, 北澤康秀, 中谷寿男, 原 克子, 榊田 緑, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2007) 予期せぬ血小板減少での検査診断マーカー ～CHDFに伴うHIT症例を経験して～. 第7回TTMフォーラム, 東京
68. 鈴木聡史, 岸本真房, 富野敦稔, 藤井弘史, 山本 透, 小宮山豊, 北澤康秀 (2007) 敗血症性DICの経過中にHITを併発した腎盂腎炎の1例. 第95回近畿救急医学研究会, 京都
69. 岡本三貴, 金田浩由紀, 坂井田紀子, 馬庭知弘, 植村芳子, 岡村明治, 齊藤幸人 (2007) 当科で経験した硬化性血管腫6例. LKカンファレンス, 大阪
70. 清水千裕, 中村竜也, 笠原麻友美, 奥田和之,

中田千代, 藤本弘子, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2007) Real time PCRによる血液培養陽性ボトルからのMRSA迅速同定について. 日本臨床微生物学会総会, 長崎

71. 鈴木聡史, 岸本真房, 富野敦稔, 藤井弘史, 山本 透, 北澤康秀, 小宮山豊 (2007) 敗血症性DICの経過中にHITを併発した腎盂腎炎の1例. 第4回南大阪DIC研究会, 堺

著 書

1. Masuda M, Miyashima S, Shi YH, Nishimura N, Yoshika M, Komiyama Y, Iida H and Takahashi H (2007) Soluble Fcγ receptor type IIIa in plasma as a novel marker for the inflammatory activity in rheumatoid arthritis. 13th International Congress of Immunology (Jorge Kalil, Edecio Cunha-Neto, Luiz Vicente Rizzo eds.) pp. 225–228, Medimond S.r.l., Italy
2. 高橋伯夫 (2007) 知っておきたい臨床検査値 (日本薬学会編) 15–21頁, 東京化学同人, 東京
3. 高橋伯夫 (2007) メタボリックシンドロームのことがよくわかる本—国民みんなの健康教科書 全189頁, 中経出版, 東京

救急医学科

出血性ショックにおける高張食塩液蘇生の臓器障害防御効果とアポトーシス発現に関する実験的研究

1) 出血性ショックにおける高張食塩液の免疫賦活作用に関する研究

—アポトーシスとiNOSの関連について—

出血性ショック後の蘇生に成功しても, その後にARDS (急性呼吸窮迫症候群) やMOF (多臓器不全) が発生し, 死亡する症例がしばしば見られる. これには, 出血性ショック後の免疫抑制状態が深く関与していると考えられ, 高張食塩液の抗アポトーシス作用が免疫抑制状態を回復または回避するメカニズムの解明を行い, 治療に役立てることを目標とする.

高張食塩液蘇生が免疫担当臓器の胸腺および脾臓のCD4⁺CD25⁺制御性T細胞とγδT細胞にどの程度影響を及ぼし, またiNOSとアポトーシスが関与しているかを検討している. wild typeとしてのC57BL6/JマウスとiNOSノックアウトマウス (B6.129P2 (NOS2)) を用いた. 全身麻酔下に左大腿動脈にPE10のカテーテルを挿入し, ヘパリン100U/Kgを投与後脱血し血圧を40±5mmHgに60分保つ. 蘇生液として4ml/Kgの7.5%NaClとSB (Shed blood: 脱血血液); HS群と脱血血液の2倍量のラクテートリンゲル液と脱血血液; 2LR群を作製し, 無処置のControl群とHS群と2LR群の蘇生後2h, 6h, 24h, 48hの時点でのCD4⁺CD25⁺制御性T細胞とγδT細胞の脾臓及び胸腺での蘇生後の変化をフローサイトメトリーを用いて検討している. 出血性ショックはCD4⁺CD25⁺制御性T細胞, γδT細胞を介する免疫抑制に影響を及ぼし, iNOSが関与していると考えている.

2) 出血性ショックにおける高張食塩液蘇生の臓器障害防御効果をアポトーシスと iNOS との関連について、肺障害、小腸障害の程度を判定し、それらがどの程度関与しているかを測定する。

臨床研究

1) 急性期脊髄損傷に対する培養自家骨髄間質細胞移植による脊髄再生治療の検討。第I-II相臨床試験
急性期脊髄損傷患者を対象にした培養自家骨髄間質細胞移植による脊髄再生治療の臨床効果および安全性を評価する。

脊髄損傷重症例では、生涯を対麻痺のために車椅子で、あるいは四肢麻痺のためにベッド上での生活が強いられる。さらに呼吸筋麻痺のために人工呼吸器すら外せない場合もある。平成13年6月1日に厚生労働省が行った調査において、18歳以上の脊髄損傷患者は約10万人で毎年5,000人の患者が発生している。脊髄損傷患者の多くは介護を必要とするため、その治療法の発展は、当事者のQOLや社会参加を大きく向上させるだけでなく、介護の社会的コストを大きく削減することに繋がるものと考えられる。

従来、何らかの外傷により損傷を受けた中枢神経組織は再生せず、その機能回復は不可能とされてきた。急性期にはその損傷の程度をできるだけ小範囲にとどめるためメチルプレドニゾロンが投与されている。また、慢性期にはその残存した神経機能をできるだけ引き出すリハビリテーションが行われている。

新しい治療法の可能性として、最近、骨髄間質細胞を移植することによって中枢神経の損傷部を修復させようとする試みが報告された。共同で研究を行う京都大学の研究グループもラットから採取した骨髄から間質細胞を分離培養し、胸髄 Th 8-9 レベルに挫滅損傷を加えた別のラットへ移植する実験を行ってきた。損傷後急性期に損傷部へ直接移植を行った群で歩行運動の著明な改善を認めた。しかし、ヒトへの応用を考えた場合には、脊髄の実質内に細胞を注入するのは危険性が高く、注入操作そのものにより新たな損傷が発生する可能性がある。一つの解決案として、細胞を脳脊髄液中に投与することが考えられる。ラット骨髄間質細胞を第四脳室内に投与する実験で、移植した群では神経学的な回復が認められており、組織学的にも脊髄損傷の程度が軽く損傷部位の空洞の形成が少ない結果が認められた。この回復は移植細胞からの活性物質によるものと考えられるが、その詳細は未だ不明である。移植された細胞は、初期には損傷部位内部に認められるが、1ヵ月以上生存する細胞はごく少数しか存在せず、移植された細胞が長期間生着することが神経機能の回復にとって必須でないことが示唆される。また、移植された細胞は初期には脊髄の表面に広く分布していたが、それは時間とともに減少傾向にあったので、ES細胞移植時に問題となっているような腫瘍化などの危険性もほとんど考えられない。

骨髄間質細胞移植以外の脊髄損傷治療として諸外国においても細胞治療の開発が行われている。脳由来神経幹細胞を用いた治療法については、動物実験で、移植細胞が神経系の細胞に分化したという報告がある。臨床的な利用を考えると、本人からの中枢神経由来の幹細胞の採取は現実的には難しい。また中絶ヒト胎児由来の幹細胞や胚性幹細胞 (ES cell) を利用する場合には、倫理的な問題や拒絶反応の問題は避けられず、免疫抑制薬が必要となれば二次的な副作用も生じうる。またウィルス、プリオン等の感染の危険性もある。また、患者自身のマクロファージを培養し活性化してから骨髄損傷部へ直接移植する方法や、鼻粘膜より採取し培養した嗅球の神経細胞を取り巻くグリア細胞 (OEG) を骨髄損傷部へ直接移植する方法が、実際にヒトへの臨床応用として行われている。これらの治療法はまだ実験段階であり、有効性および安全性が検証されたものではない。加えて、これらの細胞の移植には、損傷部位の脊椎の椎弓切除を行って損傷部の脊髄実質内に直接、細胞を注入する方法が不可欠である。

一方、今回われわれが提案する骨髄間質細胞の移植は、“脳脊髄液中への培養細胞の投与が有効である”というこれまで京都大学の研究グループで行ってきた研究結果をふまえて、通常の腰椎穿刺の手法を使って脳脊髄液中に細胞を投与するため、諸外国で行われている臨床実験と比較しても、患者への侵襲が少なく、より危険性の少ない優れた方法であると考えている。

臨床応用に向けて、脊損ラットでの効果確認と健常サルでの安全試験は行ったものの、ヒトでの安全試験や当然ながら効果は未確認であることなどの倫理的な問題などを注意深く検討し、患者団体とも接

触して膨大な計画書を作成してきた。倫理委員会の承認が2005年7月1日に得られたことから、患者団体への説明会などを経て、すでに臨床試験を開始している。

本方法による脊髄再生治療の試みは、世界初の方法であるが、これまでに2例に対して実施した。2例とも、同じ程度の脊髄損傷患者が従来の治療方法を受けた場合の経過と比較すると、極めて良好な経過を示している。今後も症例を重ねて医療として定着させることを狙っている。

〈研究業績〉

原 著

1. Tsuda M, Inaba M, Sakaguchi Y, Fukui J, Ueda Y, Omae M, Ando Y, Mukaide H, Guo K, Yabuki T, Nakatani T and Ikehara S. (2007) Activation of granulocytes by direct interaction with dendritic cells. *Clin Exp Immunol* 150: 322-331
2. Mukaide H, Adachi Y, Koike-Kiriyama N, Suzuki Y, Minamino K, Iwasaki M, Tsuda M, Nakano K, Koike Y, Shigematsu A, Kamiyama Y and Ikehara S (2007) Immunotherapy for malignant tumors using combination of allogeneic intra-bone marrow-bone marrow transplantation, donor lymphocyte infusion and dendritic cells. *Int J Oncol* 30: 1309-1315
3. Ishikura H, Nishimura S, Matsunami M, Tsujiuchi T, Ishiki T, Sekiguchi F, Naruse M, Nakatani T, Kamanaka Y and Kawabata A (2007) The proteinase inhibitor camostat mesilate suppresses pancreatic pain in rodents. *Life Sci* 80: 1999-2004
4. Fukui J, Inaba M, Ueda Y, Miyake T, Hosaka N, Kwon AH, Sakaguchi Y, Tsuda M, Omae M, Kamiyama Y and Ikehara S (2007) Prevention of graft-versus-host disease by intra-bone marrow injection of donor T cells. *Stem Cells* 25: 1595-1601
5. 杉本達哉, 織田裕行, 吉田常孝 (2007) Q&A で学ぶ救急現場の精神症状 自殺企図の場合 (2). *EMERGENCY CARE* 20: 236-239
6. 杉本達哉, 織田裕行, 吉田常孝 (2007) Q&A で学ぶ救急現場の精神症状 自殺企図の場合 (1). *EMERGENCY CARE* 20: 199-203
7. 富野敦稔, 北澤康秀 (2007) クリティカルケア 循環動態を連続的に測定「PiCCO (ピコ)」って何ですか? *Expert Nurse* 23: 30-32
8. 村尾佳則, 諫山憲司, 齊藤福樹, 平川昭彦, 中谷壽男 (2007) 出血性ショックにおける臓器

障害とアポトーシス関連蛋白について (高張食塩液とラクテートリンゲル液の比較より). *Shock* 22: 84-89

9. 村尾佳則, 中谷壽男 (2007) 【止血のひけつ】内因性出血に対する止血法 肝臓破裂 (肝細胞癌破裂). *救急医* 31: 953-957
10. 中谷壽男 (2007) 【意識障害の初期治療】意識障害をきたす疾患への対応 薬物中毒の初期治療. *臨と研* 84: 206-210

総 説

1. 吉田常孝, 織田裕行, 杉本達哉 (2007) Q&A で学ぶ救急現場の精神症状 認知症の場合. *EMERGENCY CARE* 20: 939-944
2. 杉本達哉, 織田裕行, 吉田常孝 (2007) Q&A で学ぶ救急現場の精神症状 不眠の場合. *EMERGENCY CARE* 20: 837-840
3. 織田裕行, 吉田常孝, 杉本達哉 (2007) Q&A で学ぶ救急現場の精神症状 精神症状を伴う患者さんの転科・転院の場合. *EMERGENCY CARE* 20: 1231-1235
4. 吉田常孝, 織田裕行, 杉本達哉 (2007) Q&A で学ぶ 救急現場の精神症状11…「暴れる人」の場合. *EMERGENCY CARE* 20: 1159-1163
5. 杉本達哉, 織田裕行, 吉田常孝 (2007) Q&A で学ぶ救急現場の精神症状 抑うつの場合. *EMERGENCY CARE* 20: 1034-1037
6. 織田裕行, 杉本達哉, 吉田常孝 (2007) Q&A で学ぶ救急現場の精神症状 せん妄の場合. *EMERGENCY CARE* 20: 73-77
7. 富野敦稔, 北澤康秀 (2007) 【重症患者と栄養管理Q&A ICUにNSTがやってきた】集中治療における栄養管理体制の構築 集中治療における栄養サポートチーム (NST) の役割とは? *救急集中治療* 18: 1626-1629
8. 北澤康秀 (2007) 【熱傷治療ガイド2007】広範囲熱傷の治療 広範囲熱傷の栄養管理. *救急医* 31: 782-783

9. 中谷壽男 (2007) 【指標と数値算法; 定義と使い方】細胞代謝 AKBR. 救急医 31: 311
10. 中谷壽男 (2007) 【脊椎・脊髄損傷】脊髄損傷の再生医療. 救急医 31: 1785-1789
11. 富野敦稔, 北澤康秀 (2007) 連続心拍出量測定装置「PiCCO」の活用方法と看護への生かし方. 重症集中ケア 6: 64-68
12. 北澤康秀 (2007) 【看護アセスメント・ケア編 重症患者の栄養アセスメントと回復状況に合わせた栄養管理】重症急性期患者に起こる代謝変動. 重症集中ケア 6: 6-11
13. 北澤康秀, 鈴木聡史 (2007) 【看護アセスメント・ケア編 重症患者の栄養アセスメントと回復状況に合わせた栄養管理】重症急性期患者の高血糖対策 Intensive insulin therapy (IIT) を中心に. 重症集中ケア 6: 016-020
14. 北澤康秀, 國澤亜以 (2007) 【看護アセスメント・ケア編 重症患者の栄養アセスメントと回復状況に合わせた栄養管理】重症急性期患者の回復状況に合わせた栄養戦略. 重症集中ケア 6: 012-015
15. 中谷壽男 (2007) 脊髄損傷再生臨床試験について. 脊椎脊髄ジャーナル 20: 1263-1267

症例発表

1. Kitazawa Y, Saito F, Nomura S, Ishii K and Kadota E (2007) A case of hemophagocytic lymphohistiocytosis after the primary Epstein-Barr virus infection. Clin Appl Thromb Hemost 13: 323-328
2. 織田裕行, 吉田常孝, 杉本達哉 (2007) Q&A で学ぶ救急現場の精神症状 “こんめい” の場合. EMERGENCY CARE 20: 725-728
3. 吉田常孝, 織田裕行, 杉本達哉 (2007) Q&A で学ぶ 救急現場の精神症状 心的トラウマの場合 (喪失体験・悲嘆反応など). EMERGENCY CARE 20: 626-630
4. 織田裕行, 吉田常孝, 杉本達哉 (2007) Q&A で学ぶ救急現場の精神症状 アルコール乱用 (物質乱用) に関連した精神症状の場合. EMERGENCY CARE 20: 501-504
5. 吉田常孝, 織田裕行, 杉本達哉 (2007) Q&A で学ぶ救急現場の精神症状 不安症状 (過換気発作やパニック症状など) の場合. EMERGENCY CARE 20: 407-411
6. 波柴尉充, 梶本心太郎, 前田裕仁, 平川昭彦, 村尾佳則, 中谷壽男, 小宮山豊 (2007) 抗凝固薬・症例 持続的血液濾過透析 (CHDF) 施行時, 播種性血管内凝固 (DIC) にヘパリン起因性血小板減少症 (HIT) を合併し診断に苦慮した2例. ICUとCCU 31: S192-S194
7. 鈴木聡史, 岩井愛子, 富野敦稔, 山本 透, 北澤康秀, 岸本真房, 藤井弘史, 久徳美樹 (2007) 敗血症性 DIC に対し antithrombin/danaparoid sodium 併用療法が奏功した小児熱傷の1例. 新薬と臨 56: 498-503
8. 平川昭彦, 波柴尉充, 齊藤福樹, 岩瀬正顕, 村尾佳則, 中谷壽男 (2007) ドライアイスによる急性二酸化炭素中毒の1例. 日職災医誌 55: 229-231
9. 梶本心太郎, 村尾佳則, 平川昭彦, 岩瀬正顕, 中谷壽男 (2007) 特発性食道破裂に対し経腹的Tチューブ留置, 有茎大網弁被覆術が有用であった1例. 日臨外会誌 68: 323-326

学会発表

1. Kitazawa Y, Saito F, Tomino A and Fujii H (2007) A case of interstitial pneumonia suspected to be due to SpirulinaTM. 6th Annual Congress of Asia Pacific Association of Medical Toxicology, Bangkok
2. Kunizawa A, Fujioka M, Kishimoto M and Kitazawa Y (2007) Finasteride-induced Acute Hepatitis. 6th Annual Congress of Asia Pacific Association of Medical Toxicology, Bangkok
3. Suzuki S, Kishimoto M, Tomino A, Fujii H, Yamamoto T and Kitazawa Y (2007) A case of candesartan celecoxetil intoxication. 6th Annual Congress of Asia Pacific Association on Medical Toxicology, Bangkok
4. Nakatani T, Iwase M, Saito F, Maeda Y, Fujiwara H, Hirakawa A, Murao Y, Suzuki Y, Ide C, Fukushima M and Onodera R (2007) Report of the first clinical trial of spinal cord injury treatment with autologous bone marrow stromal cells intrathecal transplantation. 2007 Annual Meeting of Korean Society of Emergency Medicine, Korea-Japan joint session, Seoul

5. Isayama K, Murao Y, Maeda T, Saito F, Hirakawa A and Nakatani T (2007) Effect of hypertonic saline resuscitation on T cells and apoptosis after hemorrhagic shock and resuscitation in mice. 2007 Annual Meeting of Korean Society of Emergency Medicine, Korea-Japan joint session, Seoul
6. Murao Y, Isayama K, Maeda T, Saito F, Hirakawa A and Nakatani T (2007) Effect of hypertonic saline resuscitation on CD4+CD25+ regulatory T cells and apoptosis after hemorrhagic shock and resuscitation in mice. 2007 Annual Meeting of Korean Society of Emergency Medicine, Korea-Japan joint session, Seoul
7. Kato H, Kimura A, Sasaki R, Kaneko N, Takeda M, Hagiwara A, Ogura S, Mizoguchi T, Matsuoka T, Ono H, Matsuura K, Matsushima K, Kishimoto S, Fuse A, Nakatani T, Iwase M, Fudoji J and Kasai T (2007) Cervical spinal cord injury without radiographic abnormality in Japan. American Association for the Surgery of Trauma Sixty-Sixth Meeting, Las Vegas
8. Nakatani T, Saito F, Iwase M, Suzuki Y, Hirakawa A, Murao Y and Ide C (2007) Spinal cord regeneration with bone marrow stromal cell administration in the cerebro-spinal fluid: report of the first case at 6 months. American Association for the Surgery of Trauma Sixty-Sixth Meeting, Las Vegas
9. Murao Y, Isayama K, Saito F, Hirakawa A and Nakatani T (2007) Hypertonic saline resuscitation reduces damage and apoptosis of the liver in the mouse model of hemorrhagic shock. The 30th Annual Conference on Shock, Baltimore
10. Fujii S, Yano K, Sugimoto K, Ninomiya N, Seo N, Nakano K, Shimada Y, Ukai T and Nakatani T (2007) Importance of establishing partnership abroad for efficient disaster relief. 15th World Congress on Disaster and Emergency Medicine, Amsterdam
11. Nakatani T, Suzuki Y, Ide C, Saito F, Iwase M, Maeda Y, Fujiwara H, Hirakawa A, Murao Y, Onodera R and Fukushima M (2007) Clinical trial of spinal cord regeneration with bone marrow stromal cell transplantation by lumbar puncture. Shanghai International Conference on Emergency Medicine and Trauma, Shanghai
12. Saito F, Nakatani T and Iwase M (2007) Report of a half-year post-transplantation course of the first clinical case of spinal cord regeneration trial with a novel method of bone marrow stromal cell administration into cerebrospinal fluid by the lumbar puncture technique. Shanghai International Conference on Emergency Medicine and Trauma, Shanghai
13. Suzuki S, Iwai A, Kishimoto M, Tomino A, Fujii H, Yamamoto T and Kitazawa Y (2007) Case report: combination therapy with anaparoid sodium and antithrombin-III for septic DIC in a pediatric burn patient. The John A. Boswick, M.D. Burn and Wound Care Symposium, Maui
14. 岩瀬正顕, 齊藤福樹, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 脊髄自動反射を生じた臨床的脳死患者における正中神経刺激体性感覚誘発電位. 第37回日本臨床神経生理学学会, 宇都宮
15. 原 克子, 小宮山豊, 平川昭彦, 北澤康秀, 中谷壽男, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2007) 敗血症症例におけるADAMTS13活性に関連する臨床検査マーカー 特にLysophosphatidylcholineとの関連. 第54回日本臨床検査医学会学術集会, 大阪
16. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 平川昭彦, 武田俊彦, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 自転車用傘スタンドによる頭蓋顔面外傷の1例. 第55回日本職業・災害医学会, 名古屋
17. 平川昭彦, 前田敏樹, 岩瀬正顕, 村尾佳則, 中谷壽男 (2007) 脾・胃吻合再建術を施行した外傷性脾損傷2例. 第69回日本臨床外科学会, 横浜
18. 齊藤福樹, 岩瀬正顕, 平川昭彦, 村尾佳則, 前田裕仁, 藤原弘佳, 宮崎秀行, 前田敏樹, 杉本達哉, 下戸 学, 中谷壽男 (2007) 急性期脊髄損傷に対する自家骨髄間質細胞移植. 第16回河内救急医療懇話会, 大阪
19. 宮崎秀行, 神原知子, 永田 厚, 浅井 隆, 新宮 興 (2007) ラリンジアルマスクを用いて気管チューブ周囲からのガス漏れを防げた腹臥位症例. 第27回日本臨床麻酔学会, 東京

20. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 武田俊彦, 平川昭彦, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 経眼窩の穿通性頭部外傷の診断と治療. 第35回日本救急医学会, 大阪
21. 前田裕仁, 岩瀬正顕, 前田敏樹, 下戸 学, 宮崎秀行, 藤原弘佳, 齊藤福樹, 平川昭彦, 村尾佳則, 中谷壽男 (2007) 口腔内ガーゼパッキングで出血を制御した顔面多発性骨折の1例. 第35回日本救急医学会, 大阪
22. 富野敦稔, 岸本真房, 鈴木聡史, 山本 透, 北澤康秀 (2007) Picco モニタリング下での敗血症性ショック症例に対するPMXの検討. 第35回日本救急医学会, 大阪
23. 平川昭彦, 下戸 学, 武田俊彦, 杉本達哉, 岩瀬正顕, 村尾佳則, 中谷壽男 (2007) 本院高度救命救急センターにおける眼科および精神科救急の取り組み. 第35回日本救急医学会, 大阪
24. 齊藤福樹, 岩瀬正顕, 中谷壽男, 前田裕仁, 平川昭彦, 藤原弘佳, 前田敏樹, 宮崎秀行, 下戸 学, 津田雅庸, 村尾佳則 (2007) 急性期脊髄損傷に対する培養自家骨髄間質細胞移植. 第35回日本救急医学会, 大阪
25. 武田俊彦, 寺内博夫, 西村哲哉, 松村美代, 中谷壽男 (2007) 関西医科大学滝井病院救命救急センター眼科救急の統計学的考察. 第61回日本臨床眼科学会, 京都
26. 國澤亜以, 藤岡政行, 鈴木聡史, 龍 堯志, 岸本真房, 富野敦稔, 藤井弘史, 浅井昭雄, 河本圭司, 山本 透, 北澤康秀 (2007) 特発性脊髄硬膜外血腫が症状発現の契機となる不顕性頸椎椎間板ヘルニア. 第65回社団法人日本脳神経外科学会総会, 東京
27. 岩瀬正顕, 齊藤福樹, 前田裕仁, 中谷壽男, 栗本匡久, 河本圭司 (2007) 急性脳幹障害患者のSSEPを用いた予後判定の有用性について. 第66回日本脳神経外科学会, 東京
28. 鈴木聡史, 藤岡政行, 國澤亜以, 岸本正房, 富野敦稔, 浅井昭雄, 河本圭司, 山本 透, 北澤康秀 (2007) 低血糖ストレス抵抗性であるヒト視床における低血糖昏睡後経時MRI上の遅発性変化. 第66回日本脳神経外科学会, 東京
29. 中谷壽男 (2007) 救急司令室裏話. 救急フェア OSAKA2007, 大阪
30. 中谷壽男 (2007) 救急車を呼ばなくても良いように. 救急フェア OSAKA2007, 大阪
31. 岩瀬正顕, 平川昭彦, 齊藤福樹, 前田裕仁, 中谷壽男 (2007) ガイドライン2005における蘇生後のサポートと予後予測因子の検討. 第22回日本救命医療学会, 大阪
32. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 頭蓋内出血を発症した慢性維持透析患者治療の背景因子. 第26回The Mt. Fuji Workshop on CVD, 大阪
33. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 第5および第7頸椎重複損傷例の治療経験. 第54回日本脳神経外科学会 近畿支部学術集会, 大阪
34. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 齊藤福樹, 平川昭彦, 中谷壽男, 栗本匡久, 河本圭司 (2007) 強直性脊椎炎に合併した脊椎・脊髄損傷の手術. 第56回近畿脊髄外科研究会, 大阪
35. 中谷壽男 (2007) Toxicologyの治療の進歩: 中毒初期治療の現状について毒ガス余談 ～地下鉄サリン事件とイラン・イラク戦争被曝兵士の治療体験～. 第6回北部福岡臨床救急セミナー, 福岡
36. 高田洋平, 井上俊哉, 永田基樹, 朝子幹也, 山下敏夫, 山本 透 (2007) 顔面を貫通した頸部刺創の1例. 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第299回例会, 大阪
37. 吉賀正亨, 小宮山豊, 鈴木聡史, 北澤康秀, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2007) 敗血症性ショックの治療中に遷延する血小板減少を認め2社のHIT抗体の測定結果に乖離を示したヘパリン起因性血小板減少症. 検査血液学会, 福井
38. 杉本達哉, 宮崎秀行, 岩瀬正顕, 木下利彦, 中谷壽男 (2007) 一酸化炭素中毒集団発生事例の2ヶ月間フォローアップ結果の報告. 第29回日本中毒学会, 東京
39. 川嶋隆久, 陸城成浩, 吉田 剛, 渡邊友紀子, 小野大輔, 李 俊容, 安藤維洋, 遠山一成, 高橋 晃, 中尾博之, 石井 昇, 平川昭彦, 中谷壽男, 田淵実治郎 (2007) 一酸化炭素 (CO) 中毒遅発性脳症 (DE) 発症予測に早期頭部MRIは有用である. 第29回日本中毒学会, 東京
40. 鈴木聡史, 國澤亜以, 岸本正房, 富野敦稔, 山本 透, 北澤康秀 (2007) アンギオテンシンII

受容体拮抗薬candesartan（商品名プロプレス）中毒の1例. 第29回日本中毒学会, 東京

41. 下戸 学, 岩瀬正顕, 前田裕仁, 藤原弘佳, 村尾佳則, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 慢性維持透析中に特発性急性硬膜下血腫を発症した1例. 第96回近畿救急医学研究会, 大阪
42. 村田喜久世, 高森由起, 徳山博美, 辻佐世里, 村山里香, 岸本真房, 富野敦稔, 北澤康秀 (2007) PEG栄養管理中に鼓腸を来した患者に対してにんにく注入を試みて. 第13回関西PEG・栄養研究会, 大阪
43. 齊藤福樹, 中村誠也, 中谷健治, 平川昭彦, 村尾佳則, 中谷壽男 (2007) 骨盤輪骨折に対するM-shaped transiliac plateの使用経験. 第17回近畿外傷診療フォーラム, 神戸
44. 齊藤福樹, 岩瀬正顕, 中谷壽男, 沖井 明, 管俊光, 吉田清和, 柴田斉子, 佐々木万弓 (2007) 急性期脊髄損傷に対する培養自家骨髄間質細胞移植. 第44回日本リハビリテーション医学会, 神戸
45. 三木博和, 山道啓吾, 道浦 拓, 井上健太郎, 岸本真房, 鈴木聡史, 富野敦稔, 松本隆之, 森茂生, 北澤康秀, 中根恭司 (2007) 義歯誤飲による食道異物の一例. 第61回日本食道学会学術集会, 横浜
46. 中谷壽男 (2007) 北河内・中河内ブロックにおける災害医療協力体制. 平成19年度北河内・中河内ブロック合同救急医療研修会, 大阪
47. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 齊藤福樹, 梶本心太郎, 波柴尉充, 平川昭彦, 浅井 悌, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 強直性脊椎炎に合併した脊椎・脊髄損傷. 第10回日本臨床救急医学会, 神戸
48. 魚谷 瞳, 村尾佳則, 平川昭彦, 前田裕二, 梶本心太郎, 岩瀬正顕, 中谷壽男 (2007) 開腹手術とTAEを併用することにより救命し得た腹部多臓器損傷の1例. 第10回日本臨床救急医学会, 神戸
49. 前田裕二, 岩瀬正顕, 齊藤福樹, 波柴尉充, 藤原弘佳, 梶本心太郎, 平川昭彦, 村尾佳則, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 環軸椎後方固定術と環軸関節固定術及び後頭頸椎固定術を行った逸脱型外傷性環軸椎脱臼の1例. 第10回日本臨床救急医学会, 神戸
50. 藤原弘佳, 村尾佳則, 波柴尉充, 杉本達哉, 梶本心太郎, 前田裕二, 岩瀬正顕, 中谷壽男 (2007) 神経性食思不振症加療中にタコツボ型心筋症, 心室性不整脈を合併し失った一例. 第10回日本臨床救急医学会, 神戸
51. 波柴尉充, 齊藤福樹, 杉本達哉, 前田裕仁, 平川昭彦, 岩瀬正顕, 村尾佳則, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 頭部外傷にBrown-Sequard型神経障害を伴った頸髄損傷の1例. 第10回日本臨床救急医学会, 神戸
52. 平川昭彦, 波柴尉充, 梶本心太郎, 前田裕二, 岩瀬正顕, 小宮山豊, 村尾佳則, 中谷壽男 (2007) DICに合併し診断に苦慮したHIT3例. 第10回日本臨床救急医学会, 神戸
53. 鈴木聡史, 岸本真房, 富野敦稔, 藤井弘史, 山本 透, 北澤康秀 (2007) 重篤な水溶性下痢と腎前性腎不全にて救急外来を受診し診断された腓VIP産生腫瘍の1例. 第10回日本臨床救急医学会, 神戸
54. 岩瀬正顕, 齊藤福樹, 前田裕仁, 平川昭彦, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 骨損傷のない脊髄損傷の現状と問題点. 第21回日本外傷学会, 千葉
55. 中谷壽男 (2007) 急性期脊髄損傷に対する培養自家骨髄間質細胞移植による脊髄再生臨床経験. 第21回日本外傷学会, 千葉
56. 藤原弘佳, 村尾佳則, 宮崎秀行, 前田裕仁, 岩瀬正顕, 中谷壽男 (2007) 土砂の生き埋めによる心肺停止より完全社会復帰しえた一治験例. 第21回日本外傷学会, 千葉
57. 武田俊彦, 岩瀬正顕, 平川昭彦, 村尾佳則, 中谷壽男, 松村美代, 西村哲哉 (2007) 関西医科大学滝井病院高度救命救急センターにおける眼科救急の統計学的考案. 第21回日本外傷学会, 千葉
58. 平川昭彦, 齊藤福樹, 梶本心太郎, 前田裕二, 岩瀬正顕, 村尾佳則, 中谷壽男 (2007) 外傷性脾損傷の診断と治療戦略. 第21回日本外傷学会, 千葉
59. 齊藤福樹, 中谷健治, 中村誠也, 平川昭彦, 岩瀬正顕, 村尾佳則, 中谷壽男 (2007) 不安定骨盤輪骨折に対するM-shaped pelvis plateの使用経験. 第21回日本外傷学会, 千葉
60. 村尾佳則, 平川昭彦, 中谷壽男 (2007) 出血性ショックにおける臓器障害とアポートシス

関連蛋白について. 第22回日本ショック学会, 大津

61. 鈴木義久, 岩瀬正顕, 中谷壽男, 井出千束 (2007) 骨髄細胞を用いた脊髄損傷治療. 第27回日本脳神経外科コンgres, 仙台
62. 富野敦稔, 山本 透, 北澤康秀 (2007) Piccoモニターを用いた集中治療管理症例の検討. 第18回日本臨床モニター学会, 名古屋
63. 藤井弘史, 北澤康秀, 山本 透, 富野敦稔, 鈴木聡史, 岸本真房, 大久保遊平, 中野誠人 (2007) 急性大動脈解離術後早期自宅退院. 日本外科学会定期学術集会, 大阪
64. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 吉岡正太郎, 武田俊彦, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 頭部外傷後に視野障害と回旋症眼振をきたした1例. 第30回日本神経外傷学会, 仙台
65. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 吉岡正太郎, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 外傷を契機に発症した奇異性脳梗塞の2例. 第32回日本脳卒中学会, 福岡
66. 梶本心太郎, 波柴尉充, 平川昭彦, 村尾佳則, 中谷壽男 (2007) 腐食性食道炎・胃炎に対する早期内視鏡検査の有用性について. 第43回日本腹部救急医学会, 東京
67. 村尾佳則, 平川昭彦, 梶本心太郎, 波柴尉充, 中谷壽男 (2007) エホバ証人の肝損傷例の経験. 第43回日本腹部救急医学会, 東京
68. 平川昭彦, 波柴尉充, 梶本心太郎, 村尾佳則, 中谷壽男 (2007) 外傷性脾損傷の検討. 第43回日本腹部救急医学会, 東京
69. 国澤亜以, 北澤康秀, 鈴木聡史, 岸本真房, 富野敦稔, 藤井弘史, 山本 透, 龍 堯志, 浅井昭雄 (2007) 進行性の両下肢脱力を主訴に救急外来を受診し特発性硬膜外血腫の診断で手術的に治療しえた1例. 第95回近畿救急医学研究会, 京都
70. 富野敦稔, 藤井弘史, 岸本真房, 鈴木聡史, 廣岡 智, 山本 透, 北澤康秀 (2007) 当施設における血管疾患救急の実績. 第95回近畿救急医学研究会, 京都
71. 鈴木聡史, 岸本真房, 富野敦稔, 藤井弘史, 山本 透, 小宮山豊, 北澤康秀 (2007) 敗血症性DICの経過中にHITを併発した腎盂腎炎の1例. 第95回近畿救急医学研究会, 京都
72. 岩瀬正顕, 齋藤福樹, 前田裕仁, 吉岡正太郎, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 自家骨髄間質細胞移植による脊髄再生の開始. 第12回日本脳神経外科救急学会, 東京
73. 前田裕仁, 岩瀬正顕, 齋藤福樹, 平川昭彦, 村尾佳則, 中谷壽男, 河本圭司 (2007) 経腸栄養を契機に autonomic dysreflexia をきたした脊髄損傷の1例. 第12回日本脳神経外科救急学会, 東京
74. 梶本心太郎, 波柴尉充, 宮崎秀行, 藤原弘佳, 平川昭彦, 村尾佳則, 中谷壽男 (2007) フッ化水素による顔面化学熱傷の一例. 第15回日本熱傷学会近畿地方会, 東大阪
75. 鈴木聡史, 岩井愛子, 岸本真房, 富野敦稔, 藤井弘史, 山本 透, 北澤康秀 (2007) 熱傷後の経過中敗血症性DICに至り, Anthithrombin III/Danaparoid Sodium併用投与が奏功した小児の一例. 第15回日本熱傷学会近畿地方会, 東大阪
76. 鈴木聡史, 岸本真房, 富野敦稔, 藤井弘史, 山本 透, 北澤康秀, 小宮山豊 (2007) 敗血症性DICの経過中にHITを併発した腎盂腎炎の1例. 第4回南大阪DIC研究会, 堺
77. 村尾佳則, 諫山憲司, 平川昭彦, 中谷壽男 (2007) 出血性ショックにおける臓器障害とアポトーシス関連蛋白について. 第7回大阪侵襲と主体反応研究会, 大阪
78. 岸本真房, 鈴木聡史, 富野敦稔, 藤井弘史, 山本 透, 北澤康秀 (2007) 関西医科大学附属枚方病院救急センターの開院後1年間のまとめ. 第95回近畿救急医学研究会, 京都

著 書

1. 中谷壽男 (2007) 自動車損害賠償保障法. 医療文書の正しい書き方と医療保障の実際 (日野原重明, 加我君孝編) 234-235頁, 金原出版, 東京
2. 中谷壽男 (2007) 看護のための最新医学講座 第25巻救急「第2版」. 看護のための最新医学講座 (中谷壽男編) 2, 25, 1-436頁, 中山書店, 東京
3. 中谷壽男 (2007) 代謝・内分泌系救急病態. 看護のための最新医学講座 (中谷壽男編) 2, 25, 220-228頁, 中山書店, 東京
4. 中谷壽男 (2007) 下部尿路・生殖器外傷. 看

- 護のための最新医学講座（中谷壽男編）2, 25, 309-314頁, 中山書店, 東京
5. 中谷壽男（2007）救急処置. 看護のための最新医学講座（中谷壽男編）2, 25, 85-107頁, 中山書店, 東京
 6. 中谷壽男（2007）免疫系. 救急救命士標準テキスト（標準テキスト編集委員会編）上, 103-105頁, へるす出版, 東京
 7. 中谷壽男（2007）内分泌系. 救急救命士標準テキスト（標準テキスト編集委員会編）上, 99-102頁, へるす出版, 東京
 8. 北澤康秀（2007）まむし咬症（agkistrodon blomhoffi bites）. 今日の治療指針（山口徹, 北原光夫, 福井次矢編）2007 49, 127-128頁, 医学書院, 東京
 9. 中谷壽男（2007）中毒性疾患の治療の動向. 今日の治療指針 2007 49, 107頁, 医学書院, 東京
 10. 山本保博, 中谷壽男（2007）急性中毒. 今日の治療指針 2007（山口徹, 北原光夫, 福井次矢編）49, 1185-1215頁, 医学書院, 東京
 11. 中谷壽男（2007）塩素ガス中毒. 今日の治療指針 2007（山口徹, 北原光夫, 福井次矢編）49, 124頁, 医学書院, 東京
 12. 平川昭彦（2007）DNAR（Do Not Attempt Resuscitation）. 写真と動画でわかる一次救命処置（大阪ライフサポート協会編）125-126頁, 学習研究社, 東京
 13. 北澤康秀（2007）ショック離脱後の輸液治療. 熱傷治療マニュアル（木所昭夫編）103-109頁, 中外医学社, 東京

滝井輸血部

〈研究業績〉

原 著

1. 野村昌作, 石井一慶, 松崎龍典, 山岡 学, 阿部 操, 細川美香, 福原資郎（2007）特発性血小板減少性紫斑病におけるヘリコバクター・ピロリ菌除菌療法とHLAクラスIIアレルとの関係. MHC 14(2): 201-207

学会発表

1. 市邊明美, 山岡 学, 有元美代子, 大西修司, 徳永裕彦（2007）低力価のHLA及びHPA抗体保有症例に対する適合血小板輸血の有効性. 第51回日本輸血・細胞治療学会近畿支部総会, 和歌山
2. 岸本裕司, 細川美香, 山本茉美, 寺嶋由香利, 有元美代子, 阿部 操, 岡前文子, 寺西節子, 福原資郎, 山岡 学, 市邊明美, 大谷哲司, 大

西修司, 森眞一郎（2007）自己血輸血における保存前白血球除去の効果. 第55回日本輸血・細胞治療学会, 名古屋

3. 山岡 学, 大西修司, 大谷哲司, 市邊明美, 森眞一郎, 阿部 操, 細川美香, 福原資郎, 海堀昌樹（2007）HLA抗体保有患者の生体肝移植症例. 第55回日本輸血・細胞治療学会総会, 名古屋
4. 山岡 学, 大西修司, 大谷哲司, 市邊明美, 森眞一郎, 阿部 操, 中矢桂子, 福原資郎（2007）抗てんかん剤による薬剤性再生不良性貧血と同時に温式自己抗体が認められた症例. 第56回日本医学検査学会, 宮崎
5. 徳永裕彦, 大西修司, 大谷哲司, 市邊明美, 山岡 学（2007）人工股関節全置換術に対する自己血輸血. 第20回日本自己血輸血学会学術総会, 新潟

滝井医療情報部

〈研究業績〉

原 著

1. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西村泰典, 北口 宏, 田

中裕子, 高橋伯夫（2007）診療ネットワークの業務継続基盤の整備 —地域基幹3病院における検証と対策—. 医療情報学 27: 1251-

1254

2. 北村 臣, 西村泰典, 北口 宏, 馬庭知弘, 里井壯平, 宮崎浩彰, 湯浅文雄 (2007) 病院開院に伴う電子クリニカルパス導入とその後の経過について—診療情報管理士の取り組みを中心に. 日本クリニカルパス学会誌 9: 655-660

学会発表

1. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西村泰典, 北口 宏, 田中裕子, 高橋伯夫 (2007) 診療ネットワークの業務継続基盤の整備 —地域基幹3病院における検証と対策—. 第27回医療情報学連合大会 (第8回日本医療情報学会学術大会), 神戸

大学情報センター医療情報部

〈研究業績〉

原 著

1. 西山徳人, 田中雅幸, 打谷和記, 鶴見由美子, 廣田育彦, 仲野俊成, 今村洋二 (2007) 特別企画 医療安全1 薬剤マスタ管理1元化で実現した高次の処方支援システム —医療安全確保の視点から—. 医療情報学 27: 983-984
2. 西野典宏, 仲野俊成, 北村 臣, 夜野敏明, 西村泰典, 今村洋二 (2007) 電子カルテシステムと物品管理システムの連携によるコスト分析へのアプローチ. 医療情報学 27: 768-771
3. 種村直美, 安田照美, 谷田由紀子, 湯浅文雄, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 今村洋二 (2007) 電子カルテシステムと重症部門システムとの処置連携の構築と課題. 医療情報学 27: 434-436
4. 廣田美喜子, 安田照美, 夜野敏明, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 今村洋二 (2007) 新任看護師に対する電子カルテ教育体系の構築とその評価. 医療情報学 27: 334-336
5. 谷田由紀子, 安田照美, 種村直美, 宮崎浩彰, 仲野俊成, 今村洋二 (2007) 指示簿実施からの医事課へのコスト連携および薬剤部への消費情報連携の構築. 医療情報学 27: 313-315
6. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西村泰典, 北口 宏, 田中裕子, 高橋伯夫 (2007) 診療ネットワークの業務継続基盤の整備 —地域基幹3病院における検証と対策—. 医療情報学 27: 1251-1254
7. 渡辺 淳, 新貝欣久, 松本掲典, 宮田康央, 仲野俊成 (2007) SMTPセッション情報を用いたspam フィルターの構築. 医療情報学 27: 1118-1121
8. 渡辺 淳, 仲野俊成, 松本掲典, 新貝欣久

(2007) 医療機関におけるSMTPセッション情報を用いた迷惑メール対策. 医療情報学 27: 1114-1117

9. 北村 臣, 西村泰典, 北口 宏, 馬庭知弘, 里井壯平, 宮崎浩彰, 湯浅文雄 (2007) 病院開院に伴う電子クリニカルパス導入とその後の経過について—診療情報管理士の取り組みを中心に. 日本クリニカルパス学会誌 9: 655-660

総 説

1. 廣原淳子, 仲野俊成, 關 壽人, 岡崎和一, 大西三朗 (2007) 原発性胆汁性肝硬変の全国調査からみた他臓器疾患との関連. 消化器科 45: 652-657

学会発表

1. 廣田美喜子, 安田照美, 仲野俊成 (2007) 新病院開院後における電子カルテ操作の習熟度調査. 第19回大阪府看護研究学会, 大阪
2. 種村直美, 安田照美, 谷田由紀子, 湯浅文雄, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 今村洋二 (2007) 電子カルテシステムと重症部門システムとの処置連携の構築と課題. 第27回医療情報学連合大会 (第8回日本医療情報学会学術大会), 神戸
3. 西山徳人, 田中雅幸, 打谷和記, 鶴見由美子, 廣田育彦, 仲野俊成, 今村洋二 (2007) 特別企画ポスター 医療安全1 薬剤マスタ管理1元化で実現した高次の処方支援システム —医療安全確保の視点から—. 第27回医療情報学連合大会 (第8回日本医療情報学会学術大会), 神戸
4. 西野典宏, 仲野俊成, 北村 臣, 夜野敏明, 西村泰典, 今村洋二 (2007) 電子カルテシステ

- ムと物品管理システムの連携によるコスト分析へのアプローチ. 第27回医療情報学連合大会(第8回日本医療情報学会学術大会), 神戸
5. 谷田由紀子, 安田照美, 種村直美, 宮崎浩彰, 仲野俊成, 今村洋二(2007) 指示簿実施からの医事課へのコスト連携および薬剤部への消費情報連携の構築. 第27回医療情報学連合大会(第8回日本医療情報学会学術大会), 神戸
 6. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西村泰典, 北口 宏, 田中裕子, 高橋伯夫(2007) 診療ネットワークの業務継続基盤の整備 ―地域基幹3病院における検証と対策―. 第27回医療情報学連合大会(第8回日本医療情報学会学術大会), 神戸
 7. 渡辺 淳, 新貝欣久, 松本掲典, 宮田康史, 仲野俊成(2007) SMTPセッション情報を用いたspamフィルターの構築. 第27回医療情報学連合大会(第8回日本医療情報学会学術大会), 神戸
 8. 渡辺 淳, 仲野俊成, 松本掲典, 新貝欣久(2007) 医療機関におけるSMTPセッション情報を用いた迷惑メール対策. 第27回医療情報学連合大会(第8回日本医療情報学会学術大会), 神戸
 9. 廣田美喜子, 安田照美, 夜野敏明, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 今村洋二(2007) 新任看護師に対する電子カルテ教育体系の構築とその評価. 第27回医療情報学連合大会(第8回日本医療情報学会学術大会), 神戸
 10. 松岡悦子, 川江寛信, 東田亜希子, 西野典宏, 栢田知妃呂, 太田雅恵, 奥川 学(2007) 電子カルテシステムを利用した治験の質向上の検討1 ～医事課を中心とした円滑な被験者対応の取り組み～. 第28回日本臨床薬理学会年会, 宇都宮
 11. 松岡悦子, 川江寛信, 東田亜希子, 西野典宏, 栢田知妃呂, 太田雅恵, 奥川 学(2007) 電子カルテシステムを利用した治験の質向上の検討2 ～治験薬処方オーダーと併用禁止薬チェック～. 第28回日本臨床薬理学会年会, 宇都宮
 12. 松岡悦子, 西野典宏, 栢田知妃呂, 太田雅恵, 奥川 学(2007) 電子カルテシステムを利用した治験の質向上の検討3 ～テンプレートを用いた電子カルテシールの利用～. 第28回日本臨床薬理学会年会, 宇都宮
 13. 宮崎浩彰, 清水由紀子, 西本英充, 前田利治, 鶴見由美子, 廣田育彦, 西村泰典, 仲野俊成, 岡崎和一(2007) 電子カルテシステムにおける・アレルギーチェックの改善. 第8回日本クリニカルパス学会学術集会, 札幌
 14. 仲野俊成(2007) 医療情報システム3. 病院情報システム(設計開発・仕様書契約・運用・問題点の対応・運用管理規程)その他システム. 2007年度医療情報技術師育成講習会, 西宮(関西地区)
 15. 種村直美, 谷田由紀子, 安田照美, 仲野俊成, 今村洋二(2007) 電子カルテシステムにおける看護業務支援システム連携. 第8回日本医療情報学会看護学術大会, 福岡
 16. 谷田由紀子, 種村直美, 廣田美喜子, 安田照美, 仲野俊成, 宮崎浩彰, 今村洋二(2007) 点滴・輸血の認証と実施. 第8回日本医療情報学会看護学術大会, 福岡

著 書

1. 廣原淳子, 仲野俊成, 関 寿人, 岡崎和一(2007) 原発性胆汁性肝硬変全国調査(第27報). 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業(難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究)平成18年度総括・分担研究報告書 39-41頁, 難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究班, 東京

大学情報センター学術部

〈研究業績〉

原 著

1. Takagi K, Matsumura S, Okuda-Ashitaka E, Okuda K, Watanabe J, Takahashi H, Iwakura Y

and Ito S (2007) Interleukin-1 is not essential for expression of inducible NOS in hepatocytes induced by lipopolysaccharide in vivo. Nitric Oxide 16: 433-441

2. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西村泰典, 北口 宏, 田中裕子, 高橋伯夫 (2007) 診療ネットワークの業務継続基盤の整備 ―地域基幹3病院における検証と対策―. 医療情報学 27: 1251-1254
3. 渡辺 淳, 新貝欣久, 松本掲典, 宮田康央, 仲野俊成 (2007) SMTPセッション情報を用いたspam フィルターの構築. 医療情報学 27: 1118-1121
4. 渡辺 淳, 仲野俊成, 松本掲典, 新貝欣久 (2007) 医療機関におけるSMTPセッション情報を用いた迷惑メール対策. 医療情報学 27: 1114-1117

学会発表

1. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西村泰典, 北口 宏, 田中裕子, 高橋伯夫 (2007) 診療ネットワークの業務継続基盤の整備 ―地域基幹3病院における検証と対策―. 第27回医療情報学連合大会 (第8回日本医療情報学会学術大会), 神戸
2. 渡辺 淳, 新貝欣久, 松本掲典, 宮田康央, 仲

野俊成 (2007) SMTPセッション情報を用いたspam フィルターの構築. 第27回医療情報学連合大会 (第8回日本医療情報学会学術大会), 神戸

3. 渡辺 淳, 仲野俊成, 松本掲典, 新貝欣久 (2007) 医療機関におけるSMTPセッション情報を用いた迷惑メール対策. 第27回医療情報学連合大会 (第8回日本医療情報学会学術大会), 神戸
4. 仁平美果, 渡辺 淳, 山田久夫 (2007) 粗面小胞体の増生を観る一形態計測法を用いた小胞体膜とリボソームの動態解析. 第48回日本組織細胞化学会総会, 甲府
5. 仁平美果, 渡辺 淳, 山田久夫 (2007) Phenobarbital 投与ラット肝細胞における粗面小胞体の増生. 第112回日本解剖学会総会・全国学術集会, 大阪
6. 渡辺 淳, 山田久夫 (2007) デジタル組織画像の利点と欠点. 第112回日本解剖学会総会・全国学術集会, 大阪

医療安全管理センター

〈研究業績〉

原 著

1. 谷田由紀子, 安田照美, 種村直美, 宮崎浩彰, 仲野俊成, 今村洋二 (2007) 指示簿実施からの医事課へのコスト連携および薬剤部への消費情報連携の構築. 医療情報学 27: 313-315
2. 北村 臣, 西村泰典, 北口 宏, 馬庭知弘, 里井壯平, 宮崎浩彰, 湯浅文雄 (2007) 病院開院に伴う電子クリニカルパス導入とその後の経過について―診療情報管理士の取り組みを中心に. 日クリニカルパス会誌 9: 655-660

学会発表

1. 小室 元, 清水由紀子, 宮崎浩彰, 中島せい子 (2007) 虚弱高齢者の転倒骨折予防の対策 新しいヒッププロテクタの装着感の検討. 医療の質・安全学会, 東京

2. 谷田由紀子, 安田照美, 種村直美, 宮崎浩彰, 仲野俊成, 今村洋二 (2007) 指示簿実施からの医事課へのコスト連携および薬剤部への消費情報連携の構築. 第27回医療情報学連合大会 (第8回日本医療情報学会学術大会), 神戸
3. 宮崎浩彰, 清水由紀子, 西本英充, 前田利治, 鶴見由美子, 廣田育彦, 西村泰典, 仲野俊成, 岡崎和一 (2007) 電子カルテシステムにおけるアレルギーチェックの改善. 第8回日本クリニカルパス学会学術集会, 札幌
4. 宮崎浩彰, 並木みどり, 新宮 興 (2007) 新旧3病院でのインシデントレポートの比較. 日本医療マネジメント学会, 東京
5. 谷田由紀子, 種村直美, 廣田美喜子, 安田照美, 仲野俊成, 宮崎浩彰, 今村洋二 (2007) 点滴・輸血の認証と実施. 第8回日本医療情報学会看護学術大会, 福岡

総合診療科

〈研究業績〉

原 著

1. 高田厚照, 西上尚志 (2007) 【病棟必携! カラーで診る循環器病の救急診療マニュアル】画像で解説 検査と診断 心エコー検査. CIRC Up-to-Date 2: 66-83
2. 田中夏貴, マイク・D・フェターズ, マイク・チュー, 神保真人, 西上尚志 (2007) 家庭医療学におけるチームアプローチの重要性と日本における可能性 ミシガン大学家庭医療学科における実例. 家庭医療 13: 22-28
3. 西上尚志 (2007) 大学病院における総合診療部の役割. 大阪歯医師会誌 16: 229-236

学会発表

1. 成田基良, 豊永貴彦, 塩見圭佑, 鈴木 亮, 住本貴美, 井上肇一, 池田広記, 中橋佳嗣, 廣原淳子, 関 寿人, 岡崎和一, 海堀昌樹, 上山泰男, 植村芳子 (2007) 肝臓と鑑別が困難

であった限局性結節性過形成 (FNH) の1例.

- 第87回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
2. 山田晴彦, 樋口暁子, 城 信雄, 和田光正, 松村美代, 小崎篤志, 岩坂寿二 (2007) ACE阻害薬による増殖糖尿病網膜症への進行阻害効果. 第111回日本眼科学会総会, 大阪
3. 深田憲将, 森 茂生, 井上肇一, 岡崎 敬, 光山俊行, 田橋賢也, 松下光伸, 関 寿人, 岡崎和一, 尾崎吉郎, 坂井田紀子 (2007) 好酸球性胃腸炎により発症した Churg-Strauss 症候群の1例. 第78回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
4. 鈴木 亮, 住本貴美, 中橋佳嗣, 武尾真宏, 光山俊行, 岡崎 敬, 井上肇一, 若松隆宏, 松本隆之, 池田広記, 宮崎浩彰, 廣原淳子, 関寿人, 岡崎和一, 植村芳子 (2007) 興味深い臨床経過を辿ったB型急性肝炎の2例. 第86回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪

枚方輸血部

〈研究業績〉

原 著

1. Kaibori M, Uchida Y, Ishizaki M, Saito T, Hirohara J, Kishimoto Y, Uemura Y, Tanaka K and Kamiyama Y (2007) Living donor liver transplantation for primary biliary cirrhosis with autoimmune hemolytic anemia: a case report. Dig Dis Sci 52: 3237-3239
2. Yanada M, Matsushita T, Asou N, Kishimoto Y, Tsuzuki M, Maeda Y, Horikawa K, Okada M, Ohtake S, Yagasaki F, Matsumoto T, Kimura Y, Shinagawa K, Iwanaga M, Miyazaki Y, Ohno R, Naoe T (2007) Severe hemorrhagic complications during remission induction therapy for acute promyelocytic leukemia: incidence, risk factors, and influence on outcome. Eur J Haematol 78: 213-219
3. Asou N, Kishimoto Y, Kiyoi H, Okada M, Kawai Y, Tsuzuki M, Horikawa K, Matsuda M, Shina-

gawa K, Kobayashi T, Ohtake S, Nishimura M, Takahashi M, Yagasaki F, Takeshita A, Kimura Y, Iwanaga M, Naoe T, Ohno R; Japan Adult Leukemia Study Group (2007) A randomized study with or without intensified maintenance chemotherapy in patients with acute promyelocytic leukemia who have become negative for PML-PARalpha transcript after consolidation therapy: the Japan Adult Leukemia Study Group (JALSG) APL97 study. Blood 110: 59-66

4. 野村昌作, 石井一慶, 松崎龍典, 山岡 学, 阿部 操, 細川美香, 福原資郎 (2007) 特発性血小板減少性紫斑病におけるヘリコバクター・ピロリ菌除菌療法とHLAクラスIIアリルとの関係. MHC 14: 201-207

学会発表

1. 岸本裕司, 細川美香, 山本茉美, 寺嶋由香利, 有元美代子, 阿部 操, 岡前文子, 寺西節子,

福原資郎, 山岡 学, 市邊明美, 大谷哲司, 大西修司, 森眞一郎 (2007) 自己血輸血における保存前白血球除去の効果. 第55回日本輸血・細胞治療学会, 名古屋

2. 寺嶋由香利, 寺西節子, 山本茉美, 有元美代子, 細川美香, 阿部 操, 岡前文子, 市邊明美, 岸本裕司, 福原資郎 (2007) 輸血前後の感染症検査に対する取り組み. 第55回日本輸血・細胞治療学会, 名古屋
3. 山岡 学, 大西修司, 大谷哲司, 市邊明美, 森

眞一郎, 阿部 操, 細川美香, 福原資郎, 海堀昌樹 (2007) HLA 抗体保有患者の生体肝移植症例. 第55回日本輸血・細胞治療学会総会, 名古屋

4. 山岡 学, 大西修司, 大谷哲司, 市邊明美, 森眞一郎, 阿部 操, 中矢桂子, 福原資郎 (2007) 抗てんかん剤による薬剤性再生不良性貧血と同時に温式自己抗体が認められた症例. 第56回日本医学検査学会, 宮崎

枚方医療情報部

〈研究業績〉

原 著

1. 西山徳人, 田中雅幸, 打谷和記, 鶴見由美子, 廣田育彦, 仲野俊成, 今村洋二 (2007) 特別企画 医療安全1 薬剤マスタ管理1元化で実現した高次の処方支援システム —医療安全確保の視点から—. 医療情報学 27: 983-984
2. 西野典宏, 仲野俊成, 北村 臣, 夜野敏明, 西村泰典, 今村洋二 (2007) 電子カルテシステムと物品管理システムの連携によるコスト分析へのアプローチ. 医療情報学 27: 768-771
3. 種村直美, 安田照美, 谷田由紀子, 湯浅文雄, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 今村洋二 (2007) 電子カルテシステムと重症部門システムとの処置連携の構築と課題. 医療情報学 27: 434-436
4. 廣田美喜子, 安田照美, 夜野敏明, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 今村洋二 (2007) 新任看護師に対する電子カルテ教育体系の構築とその評価. 医療情報学 27: 334-336
5. 谷田由紀子, 安田照美, 種村直美, 宮崎浩彰, 仲野俊成, 今村洋二 (2007) 指示簿実施からの医事課へのコスト連携および薬剤部への消費情報連携の構築. 医療情報学 27: 313-315
6. 北村 臣, 西村泰典, 北口 宏, 馬庭知弘, 里井壯平, 宮崎浩彰, 湯浅文雄 (2007) 病院開院に伴う電子クリニカルパス導入とその後の経過について—診療情報管理士の取り組みを中心に—. 日本クリニカルパス学会誌 9: 655-660

学会発表

1. 廣田美喜子, 安田照美, 仲野俊成 (2007) 新病院開院後における電子カルテ操作の習熟度調査. 第19回大阪府看護研究学会, 大阪
2. 種村直美, 安田照美, 谷田由紀子, 湯浅文雄, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 今村洋二 (2007) 電子カルテシステムと重症部門システムとの処置連携の構築と課題. 第27回医療情報学連合大会 (第8回日本医療情報学会学術大会), 神戸
3. 西山徳人, 田中雅幸, 打谷和記, 鶴見由美子, 廣田育彦, 仲野俊成, 今村洋二 (2007) 特別企画ポスター 医療安全1 薬剤マスタ管理1元化で実現した高次の処方支援システム —医療安全確保の視点から—. 第27回医療情報学連合大会 (第8回日本医療情報学会学術大会), 神戸
4. 西野典宏, 仲野俊成, 北村 臣, 夜野敏明, 西村泰典, 今村洋二 (2007) 電子カルテシステムと物品管理システムの連携によるコスト分析へのアプローチ. 第27回医療情報学連合大会 (第8回日本医療情報学会学術大会), 神戸
5. 谷田由紀子, 安田照美, 種村直美, 宮崎浩彰, 仲野俊成, 今村洋二 (2007) 指示簿実施からの医事課へのコスト連携および薬剤部への消費情報連携の構築. 第27回医療情報学連合大会 (第8回日本医療情報学会学術大会), 神戸
6. 廣田美喜子, 安田照美, 夜野敏明, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 今村洋二 (2007) 新任看護師に対する電子カルテ教育体系の構築と

その評価. 第27回医療情報学連合大会(第8回日本医療情報学会学術大会), 神戸

7. 松岡悦子, 川江寛信, 東田亜希子, 西野典宏, 栢田知妃呂, 太田雅恵, 奥川 学(2007) 電子カルテシステムを利用した治験の質向上の検討1 ~医事課を中心とした円滑な被験者対応の取り組み~, 第28回日本臨床薬理学会年会, 宇都宮
8. 松岡悦子, 川江寛信, 東田亜希子, 西野典宏, 栢田知妃呂, 太田雅恵, 奥川 学(2007) 電子カルテシステムを利用した治験の質向上の検討2 ~治験薬処方オーダーと併用禁止薬チェック~, 第28回日本臨床薬理学会年会, 宇都宮
9. 松岡悦子, 西野典宏, 栢田知妃呂, 太田雅恵, 奥川 学(2007) 電子カルテシステムを利用した治験の質向上の検討3 ~テンプレートを用いた電子カルテシールの利用~, 第28回日本臨床薬理学会年会, 宇都宮
10. 種村直美, 谷田由紀子, 安田照美, 仲野俊成, 今村洋二(2007) 電子カルテシステムにおける看護業務支援システム連携, 第8回日本医療情報学会看護学術大会, 福岡
11. 谷田由紀子, 種村直美, 廣田美喜子, 安田照美, 仲野俊成, 宮崎浩彰, 今村洋二(2007) 点滴・輸血の認証と実施, 第8回日本医療情報学会看護学術大会, 福岡

枚方健康科学センター

〈研究業績〉

原 著

1. Yanagida Y, Kimura Y, Shichino Y and Sasaki H (2007) The responses of lymphocyte and glutamine levels during a 7-day period after endurance running at various intensities. Adv Exer Sport Physiol 13: 13-17
2. 木村 稔(2007) AI, PWV/ABI の診療応用 私のやり方 運動療法効果判定における脈波伝播測定(PWV)評価の有用性. Arte Stiff 12: 118-119
3. 木村 稔(2007)【内科臨床に役立つ心療内科的アプローチ】生活習慣病の認知行動療法的介入 一般内科医にもできる介入法 メタボリックシンドロームに対する具体的介入方法. Medicina 44: 2033-2035
4. 木村 稔(2007)【呼吸・循環障害のリハビリテーション Update 生命予後・生活機能予後改善をもたらす「攻めの医療」】循環リハビリテーションの最新の動向 医療経済からみた心臓リハビリテーション. Mod Physician 27: 249-252
5. 木村 稔(2007)【IT でどこまでわかるか?】

在宅での自己管理支援システムとは? 肥満と糖尿 6: 529-531

6. 高橋美智子, 齋藤 瞳, 中川明仁, 松島典子, 木村 稔, 馬場天信, 佐藤 豪(2007) 肥満外来における減量効果からみた心理特性の差異についての検討 ヒューマンサイエンス(西宮) 10: 39-42
7. 滝川瑠美, 南出奈津子, 田中ひとみ, 春日靖洋, 津田信幸, 木村 稔(2007) CT画像による内臓脂肪評価による運動効果の検討. 心臓リハ 12: 122-124

総 説

1. 木村 稔(2007) QOL 向上のための身体活動—生理学的立場から. 臨スポーツ医 24: 11-14

学会発表

1. 廣原淳子, 海堀昌樹, 木村 稔(2007) シンポジウム肝移植におけるチーム医療: 生体部分肝移植における脂肪肝ドナーに対するチーム医療としての取り組み, 第37回日本肝臓学会西部会, 長崎

男山小児科

〈研究業績〉

原著

1. 萩野廣太郎 (2007) 【川崎病40年 研究の最新動向】診断と治療 川崎病の診断の“コツ”と免疫グロブリン療法のエビデンス, 医のあゆみ 222: 859-865

症例報告

1. 端 里香, 中村彰利, 杉本健郎, 金子一成 (2007) 乳児期に発症した若年性歯状核赤核淡蒼球レイ体萎縮症 (DRPLA) の姉妹例—経時的脳波変化の検討, 脳と発達 39: 445-449

男山外科

〈研究業績〉

原著

1. 権 雅憲, 小倉徳裕, 辻 勝成, 北出浩章 (2007) 胆道造影CTを用いたMirizzi症候群に対する腹腔鏡下手術適応の検討, 手術 61: 1167-1171

2. 佐藤正人, 浜田吉則, 高田晃平, 棚野晃秀, 徳原克治, 畑埜武彦 (2007) 良性腸疾患における腹腔鏡下手術の適応と限界 小児腸重積に対する腹腔鏡下手術の適応と限界, 臨外 62: 59-64

男山整形外科

〈研究業績〉

原著

1. 齋藤貴徳, 橋谷 実, 松矢浩暉, 足立 崇, 石原昌幸, 梶野弘毅, 飯田寛和 (2007) 【胸郭出

口症候群 (TOS) の診断と治療】体性感覚誘発電位を用いたTOSの診断, 関節外科 26: 891-896

男山眼科

〈研究業績〉

原著

1. 今泉正仁, 緒方奈保子 (2007) 【視野】One Point

Advice 血管圧迫性視神経症, 眼ブラクティス 15: 212-213

男山耳鼻科

〈研究業績〉

原著

1. 久保伸夫 (2007) 【好酸球性病変の診断と治療】好酸球性炎症の wondering について, JOHNS 23: 823-828
2. 久保伸夫 (2007) 花粉症治療とコミュニケーション, Prog Med 27: 2931-2936

3. 久保伸夫 (2007) 【アレルギーの病気で気になること】薬局で買える花粉症の薬の使い方は? アレルギー疾患 3: 289-292
4. 植田秀雄, 久保伸夫 (2007) 呼気から全身の健康を見つめる No. 17 からだを巡る毒ガスの話 (4) 気道におけるNOと鼻呼吸について, アポロニア21 167: 130-133

5. 久保伸夫 (2007) 【NSAIDs過敏症】NSAIDs過敏喘息における副鼻腔中耳病変. アレルギーの臨 27: 199-202
6. 久保伸夫 (2007) 【アレルギー性鼻炎の新しい治療法 (花粉症を中心に)】アレルギー性鼻炎に対する新しい手術療法. アレルギーの臨 27: 54-58
7. 久保伸夫 (2007) 花粉症 アレルギー性鼻炎に

対するレーザー治療. 日レーザー治療会誌 6: 63-66

著書

1. 楠本健司, 久保伸夫 (2007) 顔面骨骨折・眼窩内側壁骨折. 外傷形成外科 62-69頁, 克誠堂出版, 東京

男山麻酔科

〈研究業績〉

総説

1. 松本早苗, 浅井 隆, 新宮 興 (2007) トゥルービュー EVO2 ビデオ喉頭鏡の紹介. 麻酔 56: 213-217

学会発表

1. 松本早苗, 浅井 隆, 呉本善聡, 阪本幸世, 新宮 興 (2007) エアウェイスコープが有用であった巨大声帯腫瘍の1例. 日本臨床麻酔学会第27回大会, 東京
2. 松本早苗, 浅井 隆, 呉本善聡, 新宮 興 (2007) TruviewEVO2喉頭鏡が有用であった気道確保困難症例の経験. 日本臨床麻酔学会第

27回大会, 東京

3. 加藤奈穂子, 浅井 隆, 松本早苗, 藤瀬久美子, 新宮 興, 榎本善朗, 奥田泰久 (2007) 挿管困難症例におけるエアウェイスコープ喉頭鏡の有用性. 第53回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 大阪
4. 松井博義, 松本早苗, 浅井 隆, 呉本善聡, 谷陽一, 新宮 興 (2007) TruViewEVO2喉頭鏡が有用であった巨大甲状腺腫瘍の1例. 第53回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 大阪
5. 松本早苗, 浅井 隆, 呉本善聡, 新宮 興 (2007) 予想外の気道確保困難症例に対するTruViewEVO2喉頭鏡の使用経験22症例. 日本麻酔科学会第54回学術集会, 北海道

男山医療情報室

〈研究業績〉

原著

1. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西村泰典, 北口 宏, 田中裕子, 高橋伯夫 (2007) 診療ネットワークの業務継続基盤の整備 —地域基幹3病院における検証と対策—. 医療情報学 27: 1251-1254

学会発表

1. 仲野俊成, 渡辺 淳, 西村泰典, 北口 宏, 田中裕子, 高橋伯夫 (2007) 診療ネットワークの業務継続基盤の整備 —地域基幹3病院における検証と対策—. 第27回医療情報学連合大会 (第8回日本医療情報学会学術大会), 神戸

関西医科大学雑誌業績目録集記載要領

1. 最初に研究概要（4000 字以内）、続いて、原著・総説・学会発表・著書に分け、これらを英文、邦文の順に記載する。
2. 学会発表は全国規模の学会、または国際学会に限る。
3. 雑誌名の省略は、欧文誌は Index Medicus に、和文誌は医学中央雑誌による。その他、下記の例に従う。
4. 用紙は A4 を使用し、見やすいように行間をあける。

例

原 著

1. Nakagawa H, Kiyozuka Y, Uemura Y, Senzaki H, Shikata N, Hioki K and Tsubura A (2001) Resveratrol inhibits human breast cancer cell growth and may mitigate the effect of linoleic acid, a potent breast cancer cell stimulator. J Cancer Res Clin Oncol 127: 258–264
2. 楊 継紅, 義澤克彦, 中川宏之, 四方伸明, 螺良愛郎 (2001) 周生期 genistein 暴露による ICR マウス乳腺病変への影響. 乳癌基礎研 10: 7–11

総 説

1. 螺良愛郎, 四方伸明, 仙崎英人, 植村芳子 (2001) 乳腺脂質分泌癌. 病理と臨 19: 496–499

学会発表

1. Nambu H, Yamada H, Kiuchi K, Matsumura M, Yoshizawa K and Tsubura A (2001) Light inhibition reduces MNU—induced photoreceptor apoptosis. ARVO, Fort Lauderdale, Florida
2. 仙崎英人, 四方伸明, 植村芳子, 清塚康彦, 上田 恵, 螺良愛郎 (2001) 悪性抹消神経鞘腫を多発した神経線維腫症 1 型の一例. 第 90 回日本病理学会, 東京

著 書

1. Mori K, Shingu K, Nakao S (2000) Brain Death. In Anesthesia 5th ed (Miller, RD ed) Chapter 76: pp 2560–2573, Churchill Livingstone, Philadelphia
2. 安田勝彦, 神崎秀陽 (2001) 子宮内膜の組織学と生理的变化. 新女性医学大系 第 1 巻 (藤井信吾編) 103–121 頁, 中山書店, 東京

平成 19 年 (2007) 年 1 月 1 日より、同年 12 月 31 日迄の間に印刷に附せられた業績とするが、それ以前のもので先に刊行された業績目録集 (関西医科大学雑誌第 59 巻第 1 号) に記載もれのものも含む。

投 稿 規 定

1. 投稿者は原則として会員に限る。ただし原稿の採否および会員以外の投稿については編集委員に委任する。
2. 原稿の内容は綜説・原著・臨床・症例・経験・速報・業績抄録・寄稿・その他とし特に紙数を制限しない。
3. 原稿は他の雑誌などに未掲載のものに限る。
4. 投稿論文の採否・掲載順位・印刷方法・体裁は編集委員会において決定する。
5. 原著・臨床・症例・経験については必ず欧文抄録を添付する。その他の原稿についても編集委員が必要と認めた場合は欧文抄録の提出を依頼することがある。
6. 原稿の執筆はつぎの要領に従う。
 - a. 原稿は青または黒で楷書、横書きとし、常用漢字、新かなづかいを用いる。欧語はすべて活字体とし、日本語で書く場合にはかたかなを用いる。
 - b. ワードプロセッサを使用する場合は、B5またはA4の大きさの用紙に字間および行間をあけて20字×20行で記すこと。
 - c. 論文の記載順序は①表題②著者名③所属④内容要旨(600字以内)⑤Key Words(5語以内)⑥本文(原著の場合は原則として緒言・材料と方法・成績・考察・結論の順)⑦文献⑧図表およびその説明⑨英文抄録とする。
 - d. 学術用語、諸単位は各学会所定のものに従い、数字は算用数字、数量の単位は下記による。
m, cm, mm, l, ml, kg, g, °C, %など。
 - e. 表・図・写真などは鮮明なものでなければならない。その種類別の一連番号を記入する。
表・図・写真は別紙に記入もしくは貼付し、説明をつけて本文原稿の最後にまとめる。アート紙希望のものはその旨記入する。本文の欄外にそれらの挿入箇所を指定する。
 - f. 引用文献は最後に一括し、下の順序に従って書く。
雑誌については、
著者名(共著者の場合は全名を記載する)：

表題、雑誌名(正規の略名)巻数：初頁—終頁、西暦年次、とする。

例 藤田達士：細胞外液をめぐる諸問題。麻酔, 17: 1108-1119, 1968.

例 Magoun, H. W.: The ascending reticular activating system. Res Ass Nerv ment Dis, 30: 480-492, 1951.

単行本については、

著者名：表題、書名(編者名)、版数、巻数、発行社名、発行地名、初頁—終頁、西暦年次、とする。

例 木村 淳：神経刺激法と誘発電位。誘発電位と筋電図—理論と応用、医学書院、東京、pp 115-219, 1990.

例 Marty, A. and Neher, E.: Tight-seal whole—cell recording. Single—Channel Recording (Sakmann, B. and Neher, E. eds.), Plenum Press, New York, pp 107-122, 1983.

g. 英文抄録の記載順序は、表題、氏名、所属、内容要旨(500語以内)とする。英文は専門的知識のある人の校正を経たものでなければならない。

7. 原稿の提出は編集委員宛とし、受付順に掲載するのを原則とする。

8. 原稿は原著3部、その他の論文は2部を提出する。

9. 著者による校正は原則として2回とする。校正に際して組版面積に影響を与える改変や極端な組替えは許されない。

10. 原稿の届け先は下記とする。

〒570-8506 大阪府守口市文園町10番15号

関西医科大学内

関西医科大学医学会編集委員会宛

電話(06)6992-1001(大代表)

掲載料について

原著及び症例報告等の投稿については、投稿料が必要であるが、その他のものについては原則として無料とする。

1. 和文普通組、欧文、文献組、組表、トレース、凸版、写真版(カラーを含む)等はすべて時価(実費負担)とする。

2. 別刷は30部まで贈呈、それ以上は実費負担。

3. 学内会員については、各頁につき、和文500円、欧文800円の割引を行う。

編 集 委 員 (ABC 順)

足立 靖, 藤澤 順一, 稲葉 宗夫, 稲垣 隆介,
木下 利彦, 中井 吉英, 緒方奈保子, 岡崎 和一,
高屋 淳二, 螺良 愛郎, 山田 久夫, 山内 康雄
会費 年間 3,000 円

関 西 医 科 大 学 雑 誌

第 60 卷 第 1 号

平成 20 年 3 月 14 日印刷

平成 20 年 3 月 21 日発行

編 集 発 行 所

〒570-8506 大阪府守口市文園町 10 番 15 号

関西医科大学医学会

TEL 06-6992-1001 内 2216

FAX 06-6992-1409

igakkai@takii.kmu.ac.jp

<http://www3.kmu.ac.jp/igakukai/>

印刷：中西印刷株式会社

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

TEL 075-441-3155 (代)

FAX 075-417-2050

<http://www.nacos.com>